明治三十七年十月五日發行 毎月一回五日發行
明治三十三年十二 第三種郵便物認可

女學世界

第四巻第十三號



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

十月一日より
仝卅一日まで

光琳作品展覧會

第八回
新柄陳列會

よせぎれ
見切反物大賣出

三井呉服店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界 第四巻 第拾參號 目次

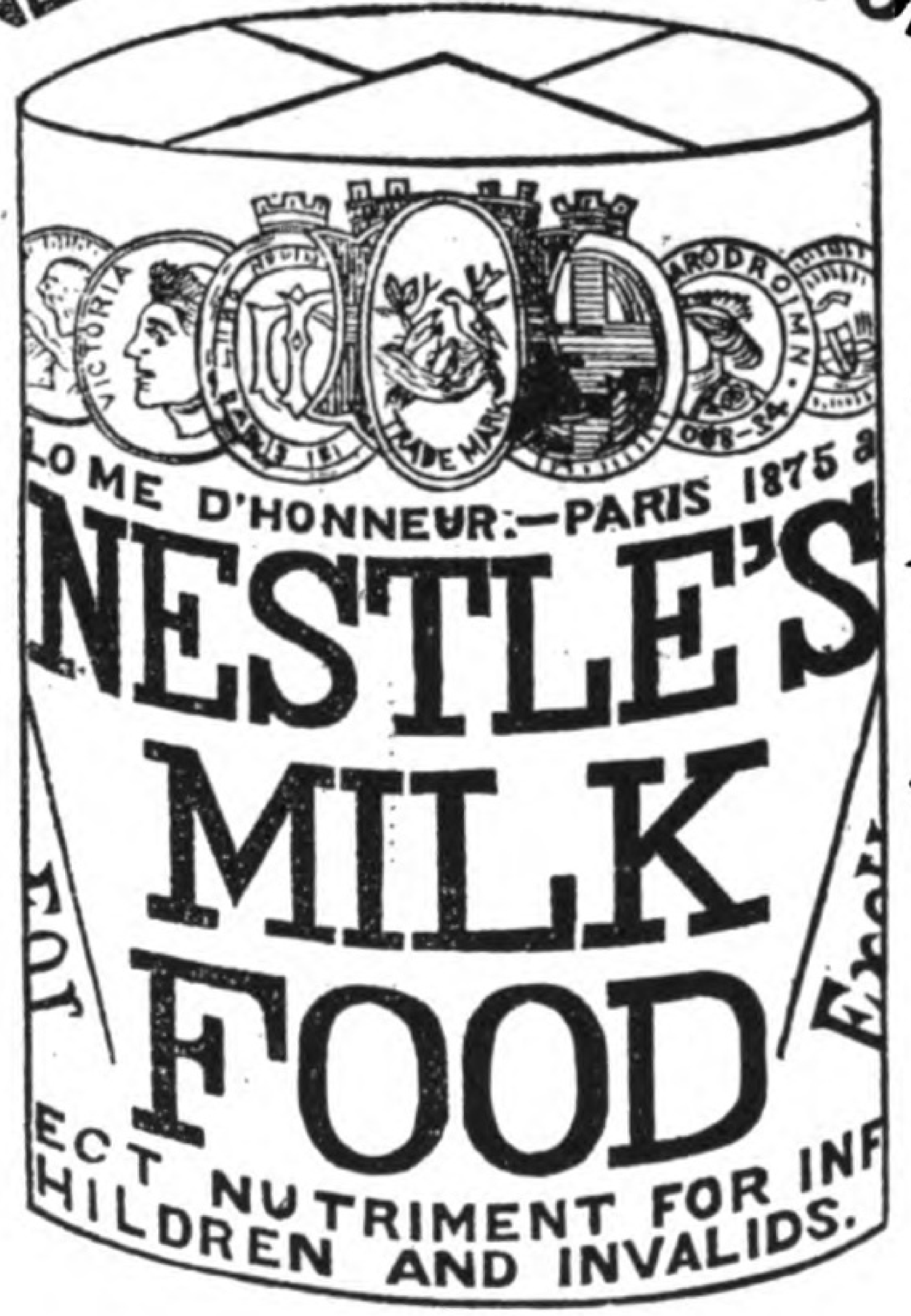
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

瑞西國ヘンリーネッスル氏製

ミルクフウド

NESTLE'S MILKFOOD



各國帝室御用品
各國醫科大學、大病院、
醫學博士ノ賞讃ヲ忝フス

(全國洋食品店及藥舗にて販賣す)

ミルクフウドは麥精と牛乳との調合になり小兒の骨、筋肉を形成するに欠くべからざる蛋白質、炭化水素を含蓄するが故に營養品として尤も消化し易き完美なる食物なり

ミルクフウドは小兒の生育、病者、虚弱者、老人の食物として他に比類なき良品なり

ミルクフウドは完全なる母乳の代用として著名なるものなり殊に母乳の欠乏若くは乳離れの場合に於ては尤も小兒の嗜好に適する最良品なり

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋の月



三宅克己氏筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

桔梗

三宅克己氏筆



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

野菊

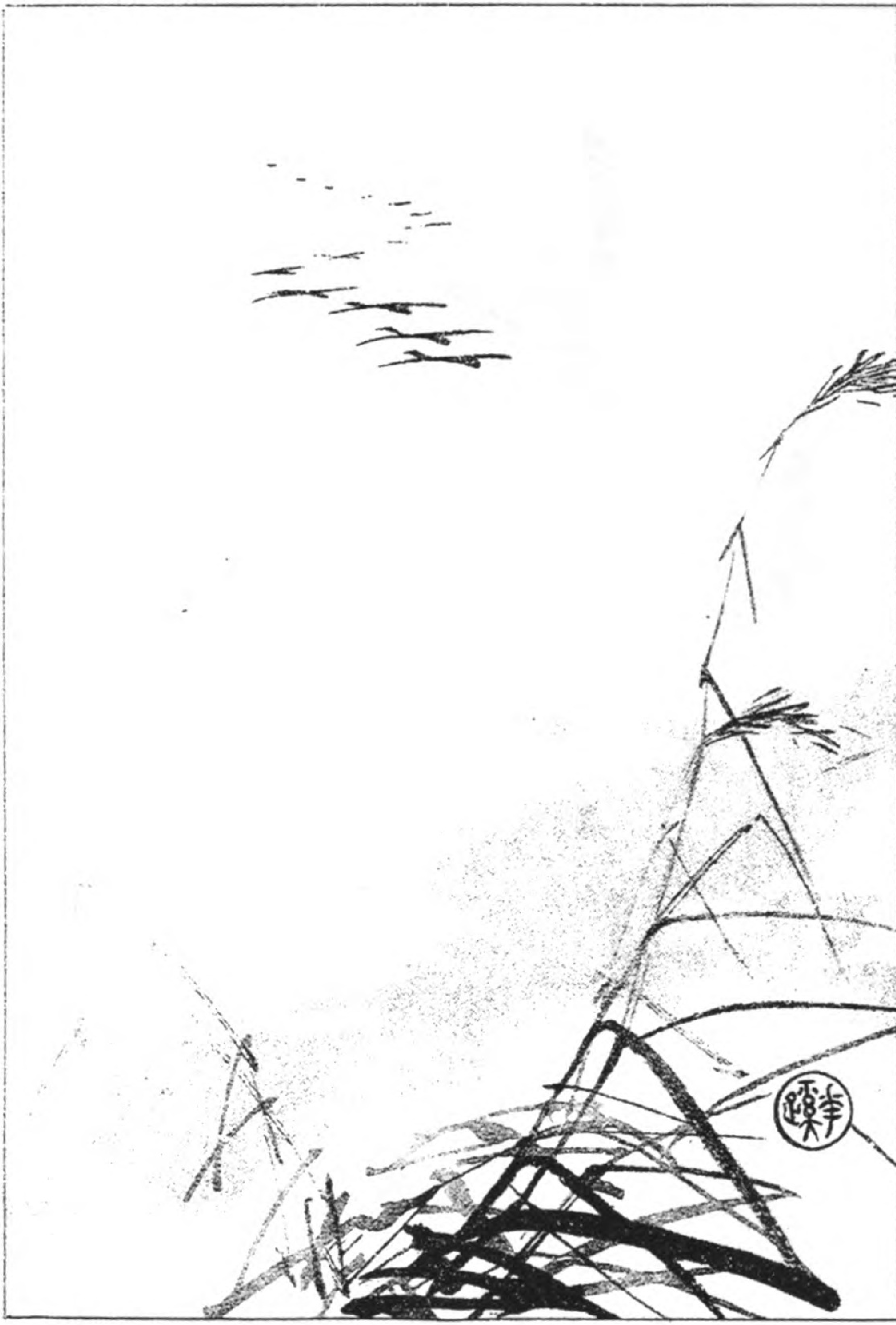
跡見花蹊女史筆



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

蘆雁

跡見花蹊女史筆



Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

まことみちにまよへる身よりつゝ
なつかしき人の心しらせ給はゝ
ゆく中よりもあはれなる人
とよろしきかたへ前もて
こゝろは何にか御返事あらむこそ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

おくれぬる法然の像の残り
ともしゐ給ふても中にも見え
ちるも残りにしてたつおもしく
あはれよき取給へる土一つる上人
法再度ありてく様のみして

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

跡見花蹊女史筆

燕知社日辭巢
去菊為重陽冒
雨開

花蹊書

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

跡見花蹊女史筆

菊

見のやとの
きくはしら露
ふりて
いく代つもりし
かくなるらむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

竹の園生

(二十年前の御撮影)



故小松宮彰仁親王殿下
故北白川宮能仁親王殿下
現伏見宮貞愛親王殿下
東伏見宮依仁親王殿下

梨本宮守正王殿下
小松宮大妃殿下
北白川宮大妃殿下

東京博進社印刷

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大山元帥と同夫人



滿州軍總司令官陸軍大將大山巖君



夫人捨松君

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

原六郎氏の家庭



（記者參照）

大久保師團長の家庭



遼陽攻擊の勇將大久保中將　同令孃英子

夫人みち子　令息健兒　令孃梅子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

内閣總理大臣伯爵桂　太郎君題辭
内務大臣子爵芳川顯正君題辭
司法大臣波多野敬直君題辭
内閣法制局長官法學博士一木喜德郎君序文

博文館編輯局編纂

增訂現行 日本法令大全

全壹冊洋裝
背皮金文字
入紙數約三千七百餘頁

▲正價五圓 小包一貫二百目 送料金四十錢　本年十一月卅日限迄の注文に限り豫約價參圓五拾錢 外に要送料

法規を類聚せるもの、中に於て最も精確なるものとして好評を博したる本書は茲に十三版を發刊するの盛運に會せり輯むる所の法規は維新以來今明治卅七年十月に至る三十六年十ヶ月間に發布せられ現に其効力を有するものは大小新古を問はず幾と之を網羅したり類を分つ二十有餘、類中更に篇、章、節、欵に分ちて序次整然、加ふるに目次には總目次あり又類別編年の諸目錄ありいろは引索引ありて其搜索に便せるが上に今回よりは新に爪掛見出を附したるを以て輯むる所の法令約一万に達せるに拘らず搜索に時を要せざるは編者數年の經驗上得る所のものにして本書の誇とする所なり其校正は事務の整頓と敏腕家の集合とを以て名ある東都第一の工場秀英舍の擔當せる所にして誤植脫字のなきも亦本書の一特色とす其他製本は堅牢にして繁き使用に耐へ體裁は高尙にして机邊の装飾たるに適す請ふ發售の日を待ち購求を賜へ

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

（甲の一）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學通信教授

會員募集
（講義錄缺本の處再版出來）

本會は女子必須の諸學科を揭げたる女學の講義錄を發行し小學卒業後高等女學校に入學し難き事情ある女子に僅少の學費にて配布し居ながら學修せしむるを目的とす●本會は學問に篤志なる貴婦人方多數の贊成あり殊に學科受持講師は名家をすぐりて囑託せり講義錄の如何に有益多趣なるかは十年來世の定評ある所なり●講義は實益を旨とし嶄新高尙なる學說を平易懇切に述べ假名をふり傍訓をも加へあれば初學の人々にも了解する事を得べし●讀者の素養に應ぜん爲講義錄に高等簡易兩科あり會費は簡易科金貳拾錢高等科金四拾錢とす●ハガキにて申込あれば直に詳細なる會則を送呈す

東京市麹町區下二番町三七
大日本女學會
電話番町一三三〇

繪はがき

本會發行の繪はがきは砲烟劍光の狀壯烈覩るが如く多忙なる勇士の通信に最も適當にして戰陣には軍事郵便の制あり無印紙の儘發送を許され後世の一大紀念たるべし故に出征將士への進物には唯一無二の珍品なり意匠嶄新印刷鮮美

▲日露戰爭繪はがき目錄▼

木曜會圖案　大高評四版
第一編　海　戰（第一輯）
全　四　版
第二編　陸　戰（第一輯）
（石版極彩色各六枚）　金十五錢

水哉君輯　古洞君畫
第三編　旅順の海戰（附軍歌）　三　版
第四編　在韓の我陸軍　三　版
（寫眞彩色各十二枚）　金十二錢

新刊豫告
中村不折君畫（千部限）
旅順陷落紀念　全六枚　金十五錢
（石版極彩色）　顚靳新陷落當日發賣

渡部審也君畫　好評三版
第五編　海　戰（第二輯）
和田英作君畫　再　版
第六編　陸　戰（第二輯）
（石版極彩色各六枚）　金十五錢
▲郵稅四組迄　各　二　錢

祝大捷大割引
三十部以上一割引
五十部以上二割引

會員募集
入會金拾錢會費六ヶ月卅錢を送附せば會員徽章を呈し六ヶ月間雜誌「はがき文學」を頒布す投書歡迎會規は要郵券二錢

東京市小石川區久堅町百〇八番地
發行所　日本葉書會
東京本町
發兌元　**博文館**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京帝國大學理科大學教授數學講坐擔任
理學博士 高木貞治先生著（製本既成）

新式算術講義

目次概要

第一章 自然の起原
第二章 四則算法
第三章 負數、四則算法再審
第四章 整除に關する整數の性質
第五章 分數
第六章 分數に關する整數論的研究
第七章 四則算法の形式上不易
第八章 量の連續性及無理數の起原
第九章 無理數
第十章 極限及連續的算法
第十一章 羃及對數
附錄 學用語對譯

全一冊大判 大判四百六十頁
總クロース 正價金壹圓
金字入美本 郵稅拾四錢

發兌元 博文館

田口掬汀君著
口繪 鏑木清方君
表紙 平福百穗君

女夫波



『女夫波』は將來善良の夫妻たらんとする男女夫婦間の親和と家庭の和樂と平和の慰藉とを望む人々に絕好の感化を與ふべしとは本書前編に對して世の批評家の一致賞讚せる處なり而も讀者は後編を讀まずして以上の希望を滿足するを得べからず

後編 十月一日 發賣
（前編三版印刷中）
クロース製頗美本定價各六拾錢郵稅不要

東京本鄉彌生町三 金色社

大賣捌 東京堂 上田屋 北隆館 東海堂
大阪市 吉岡書店 杉本書店

（甲の三）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子技藝講義

本學期掲載科目及び受持講師左の如し

科目

▲裁縫 女子高等師範學校教師 谷田部順子
▲編物 共立女子職業學校編物主任教師 農原繁尾
▲刺繡 共立女子職業學校刺繡主任教師 木村仲子

▲造花 女子美術學校造花主任教師 八木原靜子
▲繪畫 元高等師範學校囑托繪畫教師 一條成美
▲割烹 治庖會第四教場主 龜井まき子

▲染織 高等工業學校工業教員養成所 大塚廣通
▲家政學 前女子高等師範學校教師 塚本濱子
▲和歌 石原和三郎

▲禮式 茶の湯、生花、女子消息文、本會述

本會が他の通信教授と異なるは各地方に支會を設け實地講習會を開くにあり▲初號既に發行せり見本は一錢切手十五枚會則は二錢郵券送れば直に進呈す

●發行所 東京市下谷區茅町二丁目廿九番地 女子技藝會

會員募集

束脩卅錢會費一ヶ月卅錢一ヶ年三圓五拾錢一ヶ年卒業

(甲の四)

わきが特効劑 ●防臭芳香液

本品は獨逸にて輓近發明せる透明の液にして佳香を放つその特色は極めて強よき殺菌作用を具有するにあり故に如何ほど劇しき腋臭も一回用ふれば直ちに臭を除き連用僅かにて容易に根治し勿論身體に障害なく衛生上交際上日常欠くべからざる最良新劑なりされば腋臭に限らず多血性局部發汗過剩惡臭に惱む人の必携すべき要劑なり速かに試用あつてその効顯を知り賜へ

○試用分五拾錢
○小瓶入壹圓
○中瓶入貳圓
○大瓶入參圓
▲郵稅各拾錢宛

東京市日本橋區本石町三丁目角 合資會社 博愛堂藥店 (電話本局二八六番)

心の花

●編輯主幹 佐々木信綱

●第八卷第七號要目

●『浦島』を作せし顛末 坪内逍遙
●露國の民謠 昇曙夢
●常盤木 沼波文學士
●遼東の春色 寺崎廣業
●露國の大學生 八杉文學士
●同行十一人 竹柏會同人
●城ヶ島の落日 長文學士
●歌會沿革考 小杉博士
●自隱たる雅善子 石榑千亦
●野の聲 佐々木信綱

●短歌課題あり●投書歡迎
●一冊十三錢●半年七十五錢

日本橋區本石町 竹柏會出版部

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新治療藥

レウマチスの發見

THE GINEL

藥名（ギーネル）本劑はリヨマチスの最新藥にして現今最も賞用せらるゝ**ギーネル**と稱する一種の有力なる新劑なり有觸たる無効藥品の比にあらず苟も**りよまちす**は筋肉と關節なるとを問はず非式に一劑試みに用ふよ**忽ち偉大なる効驗**あり無効賣藥と同視する勿れ半劑八拾五錢一劑壹圓六拾錢貳劑參圓早く本劑を用て永年の苦痛を脫せよ

根治確証

わきが

新治療藥ラピヨシン

本劑を塗擦すれば其成分は皮膚及び肉の組織に吸收せられ其組織にある**毒素**を潔淨驅逐し惡臭を**根底**より**全滅**せしむる作用を有する最近發見の特種の新劑にして如何程頑固劇烈の難重症も甲價特別製を用ゐよ

必ず**全治**し決して**再發**せず或は病に罹せず速に用て苦惱を脫せよ丙價七十錢乙價壹圓卅錢甲價特製貳圓五拾錢

化學製品

色の白くなる

防ハンドコロン溶液

本劑は貴紳淑女紳士間に大高評を博し殊に愛用せらるる最新流行の**秘方奇劑**にして本劑を塗擦すれば**主性分**の**力**に依り皮膚は次第々々に新陳代謝を盛ならしめ

色素を**漂白**するを以て如何程色黒き人もB印特製を用ゆれば**白色艶美**の容貌となる男女共交際上最も必要の品也A印壹圓五拾錢B印特製貳圓五拾錢送料拾四錢

らい病

新治療藥 ダービン

本劑は最近歐洲諸大家の最良藥と認めたる有力藥品の成劑にして素人にも容易に服藥し得る樣弊館幾多の調劑の實驗に鑑み丸劑となしたる者にて其有効確實なるを保證す希ふ先づ試に壹劑丈けも用い見よ**必ず大効**あり壹劑廿日分三圓二劑四十日分五圓三劑六十日分七圓●郵券三錢送說明書進呈

專賣 東京本郷湯島四丁目十四 **オリエンタル藥舘**

各國異種

外國郵券

特別安價袋入發賣

（丁號）五十種入郵稅共金拾五錢（丙號）五十種入同三十錢（乙號）五十種入仝五十錢（甲號）特別五十種入金二圓（壹號）百種入金四十錢（二號）百種入金壹圓（三號）百種入金二圓以上金額により各異種の切手を取換へ有之候御注意の節は甲乙の區別御申越被下度總て郵券代用不苦●切手販賣目錄御入用の方は郵券三錢封入御申込あれ進呈す

發賣 東京市日本橋區通四丁目四番地電話本局百八十八 柴田商會

肺病

私儀多年肺病にて九死の際偶々一奇法發明の爲め全治する故世の同病者を救ひたき志願に付望の方は郵券封入にて御照會あれ

千葉縣安房國北條町 川名助次郎

圖書總目錄

弊館發行圖書は九月末日迄の調査を爲し新に總目錄を編纂し尚最近刊に係る分をも揭載しあれは御入用の方は往復端書を以て申込みあれ早速送本仕候

博文館小賣係

博文館各雜誌

廣告取次

東京京橋區元數寄屋町 **弘報堂** 電話新橋八五一

東京神田區千代田町 **博報堂** 電話本局一四四四

（甲の五）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

征露歌集

佐々木信綱先生撰

戰爭に關する短歌新體詩を募る

●日東帝國の基を開きてこゝに上下三千載。つら〳〵歴史の語る所を聽くに戰役又戰役頗る應接に遑なきを感ぜしむ。明治聖世に及びても東北に於ける西南に於ける或は臺灣に於ける近くは淸國に於ける等今上踐祚し給ひてよりも既に數回の多きに達せり。しかも未だ征露戰役に於けるが如く大且つ壯なるものあることなし。露は實に強を宇内に誇れる國にして其版圖は我に幾十倍し人口はた我に數倍し爲に我を見ると弱小に失し屢々輕侮を敢てせむとす。彼は實に滿洲に於て韓國に於て人道を蔑し平和を紊らむとし延ては累を我に及さんとす。於是乎忠言頻に之を誘ふも遂に容るゝ所とならず こゝに我は已むなく劍を取つて人道と平和との敵に向つて膺懲の師を擧るに至れり。

●正義の向ふ所前なく海に陸に戰へば必ず捷ち攻むれば必ず取り武威大に揚り彼の老大國の聲價をして頓に地に墜ちしめ八紘爲に震ふ。あゝ予等幸に武運隆々たるこの曠世に遭遇したり。文事の以て之に伴ふ事業なからむか。實に絶大の恨事たらずや。本館こゝに見る所あり。即ち征露歌集の發行を企圖したる所以なり。

●或は軍隊に從ひたる忠勇の情景を抒へて家鄕の信に代へたるものあらむ。或は鄕に留まりて遠く思を枕戈の征士に致せるもあらむ。或は勇を賞で壯を稱へ慘に泣き悲に叫びたるものあらむ。或は三軍爲に奮はむ軍歌となり。或は鄕黨爲に跳らし諷詠となり、材料の多大なる蓋し今古に絶せむ。征露歌集は是等軍事に關する短歌長歌新體詩軍歌の類を編して當局に献し同志に頒ち以て千歲一遇なる戰史の半面を裝はむとす。

●編纂の方法は一般士女諸君の投稿を乞ひこれを斯道大家佐々木信綱先生の批撰に竢ち以て完成せむとするに在り。希くは出征將士諸君をはじめ同好の諸君は續々玉詠の投寄に吝なるなく、日東帝國の武威をして益々宇内に輝かしむると同時に、文運をして大に發揚せしめ、一は以て新進帝國を最列強の班に列する愉絶快絶の最好紀念たることを得せしめよ。

募集方法

●短歌は十首以上新體詩等は三篇以上の事
●用紙半紙に限る
●神田區小川町一番地佐々木氏方に送附の事
●募集〆切十一月十日の事

募集期限十一月十日＝製本出來十二月初旬

發兌元 東京日本橋本町 博文館

(其の六)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中學課程

數學講義錄

毎月一回十五日發行　主筆竹貫登代多君　九月二十八日發行

算術及三角

—(第五號)—

第一學年
- 課程　諸等數命法ト通法並ニ問題
- 解義　問題第十八、第九、

第二學年
- 課程　歩合算ト其問答
- 解義　問題第十五ヨリ第十八

第五學年
- 課程　任意ノ角ノ三角比ト問題
- 解義　問題第六

補習科
- 課程　試驗問題ヲ以テ之ニ代フ
- 解義　試驗問題解義ノ欄ニ之ヲ掲

研究資料
- 最大公約數ト最小公倍數トニ付テ　立教中學校教授　馬込銀平君
- 文部省檢定試驗算術一問ニ付テ　日本中學校教授　中村新之助君
- 百人一題算術一問　天野貞二郎君

代數學

—(第五號)—

第二學年
- 課程　加減ニ關スル括弧用法
- 解義　問題第六、第七、第八

第三學年
- 課程　因數
- 解義　問題第三(二)ト第四

第四學年
- 課程　不盡根數ノ乘除
- 解義　問題第九

補習科
- 課程　試驗問題ヲ以テ之レニ代フ
- 解義　問題第二

研究資料
- 一次不等式ノ解法　理學士　藤田外次郎君
- 極大ト極小ニ就テ　一柳瀧一郎君
- 百人一題方程式應用問題　稲垣四郎君

幾何學

—(第五號)—

第三學年
- 課程　三角形ノ定理ト其問題
- 解義　問題第三

第四學年
- 課程　等積ノ定理ト其問題
- 解義　問題第二

第五學年
- 課程　立體幾何學垂線ト斜線並ニ其問題
- 解義　立體幾何學問題第一

補習科
- 課程　補習科問題第二
- 解義　試驗問題解義ノ欄ニ掲グ

研究資料
- 梯形ニ付テ　攻玉社中學教授　飯田與三君
- 球體幾何　同　田中矢德君
- 百人一題幾何學二問　船橋福太郎君

海軍兵學校入學試驗問題解義……（代數九問）
文部省檢定數學科豫備試驗問題……（算術五問）
文部省檢定數學科豫備試驗問題……（代數五問）
文部省檢定數學科豫備試驗問題……（幾何五問）
懸賞問題……（算術一問）

●問題募集

好きな題　此題名の下に其問題を書く
嫌いな題　此題名の下に其問題を書く

正價

各種共一冊……金拾錢宛
三ヶ月分……金貳拾九錢宛
六ヶ月分……金五拾七錢宛
一ヶ年分……金壹圓拾錢宛
▲外に郵税……毎冊壹錢宛

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

(甲の七)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醫學新書新刊

醫學士皮膚病科徽毒學專攻　旭憲吉君著（製本既成）

着色石版寫眞銅版西洋木版數百個挿入

泌尿生殖器病學

全壹冊　洋裝上製背皮金字入美本　紙數九百卅頁　正價金四圓　小包送二十錢

醫學書の新著日に新に月に盛にして汗牛充棟啻ならざるも、未た純粋なる泌尿生殖器病學の刊行あるを見ず、而して事實は男女の如何を問はす此疾病に呻吟するもの豫想外に夥しく慢性淋病患者の如き終生不治の疾患たるものと自棄し敢て療養を加へずして忍苦放却するものあり、之れ元より患者の愚たるに出づと雖、醫士も亦與て其責を殞たざるべからず、之を要するに泌尿生殖器病科の我國に專門獨立せるは僅かに數年にして今日も其大部分の患者は外科若くは婦人科に於て處置しつゝあるに過ぎず、從て其治療の不完全不適當なると勢免れざる所なりとす、本館玆に見る所あり斯學の專門家旭學士に托し本書を發行す、

本書は先つ大體を總論各論に大別し總論に就ては泌尿生殖器の圖解をなし次に尿の組織的細菌的理化學的及臨床的檢査の四章を詳細に記述し、各論に於ては泌尿器病、生殖器病、泌尿生殖器黴毒、花柳病性潰瘍及泌尿生殖器官能障害の五章とし其記述は務めて實地應用を目的としたるを以て繁簡其宜しきを得精粗皆適切を極め實際外科的技術を要するものは之を省略し泌尿器病に於ては淋病及膀胱病を詳かにし腎臟病にして多くは外科に屬するものは簡潔明快を旨とせり其他「ブージー」挿入法及尿道鏡膀胱鏡檢査及使用法等皆圖解を附して懇切に説明せるの外挿圖百有余にして讀者をして一目瞭然たらしむ、之を坐右に於て熟讀參考せば其治療上稗益する所蓋し尠少ならざるべし

（醫學新書既刊書）

●藥物學　醫科大學教室助手 醫學士 石原弘君著（全一冊）　正價金貳圓　小包送料貳拾錢

●精神病學　王子精神病院長 門脇眞枝君著（全一冊）　正價金貳圓　小包送料貳拾錢

●人體解剖學 上卷　醫科大學教室助手 醫學士 石原弘君著（全一冊）　正價金參圓　小包送料拾五錢

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

（甲の八）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋元子爵の家庭



秋元家令孃光子



夫人宗子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京女醫學校職員并に生徒



校長鷲山彌生氏

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

糸左近先生著

家庭衛生講話

（訂正再版）

圖入（質問劵附）全一冊

總クロース美製本●正價**七十五錢**小包料**十錢**

此説最も嶄新確實で。彼理學者の説いた衛生生理書や十八世紀頃の原書を譯した樣な我國に適せぬ本など丶は天地の差がある。言文一致總振假名でしかも流麗な筆、讀者興味を感じつ丶了解し易きは彼の乾燥無味なる有りふれの書とは大いに違ふ先衣食住から運動法腦の使用法疾病治療法生殖篇等と分け就中食物篇の日用に適切なること治療法の懇篤なること醫者が讀めば大いに參考となり素人が讀めば長壽を保つ術を知り、醫學後期生が讀めば受驗の友となる。早く本を開け。病氣ある人子無き人英雄にならうといふ人温泉に行くと云ふ人貧しき人富んだる人學者も不學者も

マリー、イーストレーキ孃著

英和婦人會話

（訂正再版）

全一冊　袖珍美本　正價**廿五**錢　郵税**二**錢

會話書類頗る多しと雖も女子に關するもの極めて稀なり本書は**イーストレーキ**孃の新著にして貴婦人令孃間に最も必要なる通俗の對話を網羅するものなり意匠嶄新にして材料豐富而して其記事の巧妙正確なるは因より論なし貴婦人令孃諸氏無二の良師友と謂ふべし。

東京市神田區今川小路一丁目五番地　金刺芳流堂發兌（カナザシホーリウダウ）　電話本局七六六番

杉山孚富先生著

漢文故事熟語詳解

（訂正三版）

全一冊　洋裝美本　正價**卅五**錢　郵税**六**錢

漢文學上故事熟語に關する解釋の書は古より和人と漢人との別なく多々有れども要するに大抵好んで僻語奇字のみを拈出したるものなれば大家名人の資料とはならんも青年新進の徒の助とはならざるなり本書は深く此に注意し集むる所の數百件盡く現今普く世に行はるゝ所の漢書に依り其要を抄し然も平易明快に註釋を加へたれば一讀して其異彩ある好書たるを知れ

杉山孚富先生著

國文故事熟語詳解

（最新刊）

全一冊　洋裝美本　正價**四十**錢　郵税**八**錢

本書は中學校生徒及び高等學校入學志望者の爲めに參考書として作りしものなり。曩に弊店漢文故事熟語詳解を先生に託して發行するや非常なる高評を以て忽ち數千部賣盡し今や既に三版を刷するに至れり因て今又た先生に乞ひて本書を公にす巾ふ續々御講讀あらん事を。

糸左近先生著

雅俗對照

和漢之文典

全一冊菊判　總クロース　正價**八十**錢　小包料**十**錢

（乙の一）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最も高評ある
最も正確なる
最も便利なる
最も經驗ある

卅八年
博文館當用日記
博文館懷中日記

出版廣告

明治三十八年 當用日記

◉紙數　中形大形共五百四拾餘頁　小形五百卅餘頁

大形（菊判）上製（舶來洋紙總クロース金字入）●正價金五拾錢　郵稅拾四錢

中形（四六判）特製（舶來洋紙背皮美製金文字入）●正價金五拾錢　郵稅拾貳錢

中形（四六判）上製（舶來洋紙總クロース金字入）●正價金三拾五錢　郵稅拾錢

小形（菊判半截）上製（舶來洋紙總クロース金字入）●正價金三拾錢　郵稅八錢

特色

用紙　何レモ海外製紙會社ヘ特ニ注文漉製セシ特別上等紙ヲ用ユ

印刷　秀英舍新規鑄造セシ活字ヲ以テ注意印刷ス頗ル鮮明ナリ

製本　弊館ガ特ニ歐洲ヨリ輸入セシ新機械ヲ以テ堅牢美麗ニ製本ス

趣向　（當用日記）日々欄ニハ過去同月日ノ重要歴史、七曜、干支等ヲ錄シ天氣、寒暖、受信、發信等ヲ記入スベキ欄ヲ設ケ、普通記入部ニハ細罫ヲ附シ秩序アル記錄タラシムルニ適セリ」附錄トシテハ紙數十二頁の補遺金錢出納

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十八年 懐中日記

新形（舶來洋紙頗美本總クロース金文字入細長形携帶至便）　●正價金貳拾錢　郵稅四錢

上製（舶來洋紙頗美本總クロース金文字入紙數三百餘頁）　●正價金拾八錢　郵稅四錢

並製（舶來洋紙總クロース表紙金文字入紙數三百餘頁）　●正價金拾貳錢　郵稅四錢

體裁

表、收支一覽表、友人住所錄、最新重要統計及日常必須ノ諸規則ヲ網羅セリ

（懐中日記）毎月ノ初ニ當月ノ行事、食品月令、遊覽案內、陰曆氣節等ヲ掲ケ日々欄ニ過去同月日ノ歷史、七曜、干支、天氣、寒暖ヲ記スル等當用日記ノ如ク、卷末ニハ金錢出納錄アリ又日常有用ノ事項諸稅則及最新重要ノ統計表ヲ附セリ

弊館出版の懐中當用兩日記の正確堅牢にして實用に適するは玆に喋々するの要なし今回用紙印刷體裁製本に至るまで尙一層の改善を加へ殊に本年調製の新形懐中日記はポケット挿入に至極便利にて附錄には重要規則類あり又名刺代用の切取線付の白紙あり、又當用日記は舊に倍して一層優美に裝釘し尙趣向の改良を加へて記入の便を計り小形外の四種には農學博士横井時敬君の農家年中行事及幸田露伴先生の旅行の心得某醫學士の衛生の心得等を掲け尙ほ伊東祐穀氏の嚴格なる調査に係る最新の統計及座右必需の重要諸規則は漏らさず收めて網羅せり之を舊年の日記に比すれば材料愈よ豐富記事愈よ正確にして江湖坊間の日記と同視すべからざるや論なし請ふ續々御愛購あらんことを

◉賣捌所は全國各地（書籍雜誌店及紙類文具店等）到る處にあり

◉取次望みの方は種類部數等御申込次第精々御便利に御相談可仕候

發兌元　東京日本橋區本町三丁目　**博文館**

（乙の三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

帝國百科

第百十三編

法學士 山内正瞭君著

世界殖民史

（全壹冊洋裝）製本既成

本書は遠く上古に遡りて、フイニシヤ、カルセージ等の諸國より降ては、葡萄牙、西班牙、和蘭、佛蘭西、英吉利等の諸國に至る迄、各國の殖民に關する歷史を說き、盛衰興亡の跡を弔ひ、幷ひに經濟史及政治史の兩側面より觀察して政策の得失を評論し、以て一卷の史乘たると共に又將來に於ける殖民事業發展の指鍼たるを期するもの我向上國民は今後の國策上是非とも熟讀研鑽すべき要書なり。

上製五十五錢　郵税十錢
並製四十錢　郵税八錢

第百拾四編

農學博士 大森順造君　農學士 山田玄太郎君合著（製本既成）

植物病理學

農稼、樹藝の業に從ひ、圓滿の收穫を得んとせば、須らく其植物の病因を究め之れが豫防除害の方法を講せざるべからず、近來肥培耕耘の法を說けるものあれども未だ植物病理を記述せしの書あるを見ず、著者之を遺憾とし學生教授の餘暇を以て本書を公にせり本書上篇には植物生理の違常より來れる病害に就きて詳說し下篇には主として寄生菌の害に因れる疾病を敍述し可成的本邦產植物上に就き各病害には各豫防除害の方法を併記せり蓋し農稼樹藝の業に從事するもの本書を得て大に稗益する所あるべし

上製五十五錢　郵税十二錢
並製四十錢　郵税十錢

發兌元　東京日本橋區

（乙の四）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全書新刊

第百拾五編

理學士 吉田弟彦君著

地文學

（近刊）

總論

第一編 地球星學

地球の成因●太陽系●地球の形狀及大さ●地球比重の測定●地球の重力の測定●地熱●地球內部の狀態●地磁氣●地球の運動●經緯度●晝夜の長短●四季及五帶●日蝕及月蝕●地圖（以上十四章）

第二編 氣圈學

大氣●氣溫●氣流●大氣中の水分●氣圈に於ける光の現象●天氣及氣候（以上六章）

第三編 海洋學

海の分布●海水運動●海水の性質●海水の溫度●海泉●海底（以上六章）

第四編 陸圈學

陸地の分布●陸地を構成する石●地史原統●地層の排置●陸界の種類●平原及臺地●山嶺及溪谷●河川●海岸線●陸界の變動（以上十章）

第五編 生物編

生物の分布●生物の移動及變動●地球上に於ける人類の位置●日水の文明と天然の關係●地球上人種の分布（以上五章）

上製 五十五錢
郵稅 十錢
並綴 四十錢
郵稅 八錢

第百拾六號

文學士 高木敏雄君著

比較神話學

（近刊）

第一章 （一）神話學の槪念及其由來（二）比較神話學說
第二章 （一）太陽神話（二）天然物素諸神（三）天地開闢神話
第三章 （一）罪惡の神話的說明（二）人文神話（三）死と火との起原
第四章 （一）支那洪水神話の英雄（二）洪水說話の比較
第五章 （一）英雄成功神話（二）勇者求婚說話（三）怪物退治說話（四）動物說話
第六章 （一）神婚神話（二）白鳥處女說話（三）仙所淹留說話——餘論

上製 五拾五錢
郵稅 拾錢
並製 四拾錢
郵稅 八錢

本町三丁目 博文館

（乙の五）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醫學博士 井上通泰先生監修

家庭衛生叢書

全六册

洋裝菊版 美本正價一册廿錢 全部一圓十錢 郵稅一册六錢

▲毎編講話大家肖像入……紙數一册百六十頁

家庭に衛生上の智識の必要であるといふ事は今更いふ迄もないが、此衛生上の智識は實に一日でも應用せられぬといふ事はない、住居を撰ぶにしても、衣服を製るにしても、食物を調理するにしても、之に衛生上の智識を應用したなれば、家庭がどの位幸福になるか、殆んど測り知ることが出來ないと思ふ。

其他小供を育てるにも、傳染病の流行時にも、病人の出來た時にも、婦人の姙娠時にも凡て吾々の家庭に衛生上の智識の必要であるといふを證據立てる機會は日常甚だ多いのである。

家庭衛生叢書は各專門の大家が特に衛生上注意すべき事項に就て、講話せられたる所を成るべく平易に寫し出して一般人が衛生上の智識を開發するといふを目的として發行せられたのであつて、讀者は必ず得る所が多いことと思ふ、尚此叢書に講話を承諾せられたる大家は左の諸先生である。

醫學博士 入澤達吉先生
醫學博士 緒方正規先生
醫學博士 金杉英五郎先生
醫學博士 土肥慶藏先生
醫學博士 岡田和一郎先生
醫學士 賀古鶴所先生

(乙の六)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醫學博士　中濱東一郎先生
醫學博士　井上通泰先生
ドクトル　富士川游先生
醫學博士　佐々木政吉先生
醫學博士　北里柴三郎先生
醫學士　宮本叔先生
醫學博士　森林太郎先生
此他講話ノ承諾ヲ得タル大家數十氏アリ

醫學博士　長與稱吉先生
醫學博士　吳秀三先生
醫學博士　近藤次繁先生
醫學博士　桐淵鏡治先生
醫學博士　木下正中先生
醫學博士　弘田長先生
（以上イロハ順）

第壹號

——（十月五日發行）——

口繪　北里博士、長與博士、金杉博士、土肥博士（肖像）

講話
- 傳染病の話……北里柴三郎先生
- 胃の攝生法……長與稱吉先生
- 眼科衛生談（第一）……井上通泰先生
- 血族結婚と聾啞との關係……金杉英五郎先生
- 淋病と家庭……土肥慶藏先生

雜錄
- 患者を生じたる時の注意……第一次

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

（乙の七）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

☛文藝倶樂部

定期増刊

十月十五日發行

軍談大鑑

●表紙……武内桂舟筆
●木版口繪……水野年方筆
●卷中繪畫……山中古洞筆
●厚色版……光彩陸離艷麗無雙
●寫眞版……講者の寫眞

日露一たび砲火を交へて、日本軍の勇武全世界に轟き亘る際當文藝倶樂部は來る十五日の定期増刊に「軍談大鑑」を發行致候。これ現今の講談界に一騎當千の勇名を馳する驍將に依賴しおの〱得意の軍談を新たに口演せしめ候を一卷に收め申候。中に日露の新作軍談を混へ候は申上候迄も無之、乍憚軍國の讀物として、此書に及び候ものは有之間敷、一讀骨鳴り、再讀肉動き申すべく、何卒下記目次御覧の上、偏に倍舊の愛看を祈り候敬白。

▲摩天嶺の十勇士……猫遊軒伯知
▲姉川の激戰……邑井一
▲味方ヶ原の偵察……神田伯山
▲旗艦三笠の奮鬪……神田伯龍
▲關ヶ原七本鎗……寶井馬琴
▲宇治の血戰……松林東玉
▲阿武隈川の勇戰……放牛舍桃林
▲仁川の千代田艦……伊藤痴遊
▲鬼上官清正……桃川如燕
▲南山の聯隊旗……伊東陵湖
▲佐藤忠信の忠勇……柴田南玉
▲佐屋川の一番乘……一立齋文車
▲小山評定……清草舍英昌
▲榎原兵曹の奮戰……昇龍齋貞丈
▲勇婦巴御前……一龍齋貞山
▲豪膽の兵士……眞龍齋貞水
▲眞田入城……神田松鯉

正價廿五錢
郵税二錢五厘

發兌元 東京市日本橋本町三丁目 博文館

（乙の八）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

下關婦人恤兵會小集



（和田德子寄贈）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

舞子の濱





但馬城崎温泉場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

少年世界定期增刊

——(十二月十日發行)——

金鵄勲章

正價拾錢
郵税一錢五厘

極彩色石版
表紙
渡邊金秋畫伯筆

極彩色石版
口繪
尾竹國觀畫伯筆

最近撮影
寫眞口繪
四頁

●金鵄勲章　巖谷小波君
●靈前　中山白峯君
●演習の功名　磯萍水君
●老將軍　竹貫佳水君
●武勇の働　江口岳東君
●旗手の勇猛　武田櫻桃君
●籠城の話　桂田玉階君
●健脚王子　高階柳蔭君
●金鵄國　木村小舟君
●高千穗山　川上鈴舟君

(丙の一)

發兌元　東京市日本橋本町　博文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

躬行會藏版

帝國大學文科大學長文學博士坪井九馬三先生校閲
在大學院文學士堀竹雄君
文學士竹村尙次君共編

露國の實相

全壹册
洋裝上製紙數約三百二十頁
正價金七拾錢
郵稅金拾錢

精巧地圖＝露國全圖、同歷史地圖、同産業地圖（着色大判）

九月下旬發行

要目

地理 歐羅巴露西亞●西伯利亞●トルキスタン●カフガス地方●行政區劃
社會 貴族●僧侶●市民●農民●外國人●虛無黨
經濟 産業●財政
交通 道路●鐵道●河流●郵便電信●海運
行政 中央政府●地方政治
宗教 一般教育●專門教育●學校●女子教育
軍事 陸軍●海軍
學藝 文學及刊行物●音樂●美術（以上）

本書は我が名門華冑に依りて組織せられし躬行會に於て今回特に編纂せられたるものなり、戰爭に要する第一義は能く己が力量を知ると同時に併せて敵の實狀眞相を審にし一に應急手段を誤らざるにあり、世上今や暗黑面の露國を示すもの多しと雖も、未だ露國の進步發達せる眞相を語るものの稀なり、蓋し露國が今日に至るまで能く覇を歐土列强に成せし所以は必らずや豪壯雄大の素ある事恰かも秦王が六國に對せし概無くんばあらず、躬行會諸氏茲に見る所あり、堀文學士に托して攻究數月以て本書を大成せしめ、坪井博士に囑して更に嚴密なる校訂を加へしめらる其價値ある以て知るべきなり、苟も濟世愛國の士は必らず一本を座右に備へ以て大資料とする所あれ。

法學士　須崎芳三郎君著　●現代露西亞　全一册　特製五拾五錢　郵稅拾貳錢　並製四拾錢　郵稅拾錢

法學士　須崎芳三郎君著　●露國侵略史　全一册　特製五拾五錢　郵稅拾錢　並製四拾錢　郵稅八錢

（丙の二）

★ 發兌元　東京日本橋區本町三丁目　博文館 ★

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

巖谷小波君序文　押川春浪君著

小峰大羽書伯揮毫
寫眞銅版色刷挿入

戰時英雄小說 武俠艦隊

（最新版）

全壹册　洋裝・袖珍

摸皮クロース金字入　美本

正價三拾錢　郵稅六錢

諸君お待兼の武俠艦隊出でたり、本書は江湖大喝采の「海底軍艦」「武俠の日本」の後を受けて、變幻出沒、壯快無比、世界の大秘密は日露戰爭に關係して一讀骨鳴り肉動く。武俠艦隊一出、露國バルチック艦隊、黑海艦隊の如き微塵とならんとは小波山人の豫言、愛國の士必讀の好書なり

◉◉春浪君著類書

◉海國冒險奇譚　新造軍艦　四版・正價三拾錢　郵稅六錢

◉海嶋冒險奇談　海底軍艦　九版・正價三拾錢　郵稅六錢

◉英雄小說　武俠の日本　五版・正價四拾錢　郵稅六錢

◉海嶋探險奇談　塔中の怪　六版・正價廿五錢　郵稅四錢

◉傳奇小說　銀山王　既成　正價三拾錢　郵稅四錢

發兌書肆　東京日本橋區本町　博文館　東京神田表神保町　東京堂

（丙の三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ハガキ文學

（丙の四）

文藝美術の月刊雜誌生る

金風颯々新凉郊墟に入り燈火親むべきの候青年の良師友として家庭の讀物として將短文學研究機關とし
て本誌第一號を發刊せり其内容の梗概は

毎月一回
一日發行

第壹卷
第壹號
十月一日

一册金六錢
前金十二册六十錢
〇郵税一册五厘

目次

●口繪　泰西最珍意匠繪葉書四枚　二頁
　アートペーパー美術印刷　壹頁
　名畫暮行く秋　寫眞版
●發刊之辭
●葉書に付て　文學博士　坪井正五郎
●雪と使人　文學博士　姉崎正治
●繪葉書の歷史　工學博士　塚本靖
●葉書私觀　巖谷小波
●葉書と繪畵の調和　石橋思案
●文藝評論　長谷川天溪
●燭可剪　岸上質軒
●繪葉書一代記　押川春浪
●評論
●繪葉書論
●文藝漫錄
●雜爼
●葉書八景
●雜誌の編輯
●是々非々
●反古籠
●大町桂月（月旦）
●葉書年表
●戰地便
●片事片々

其他〔論文。寫生文。小品文。新體詩。和歌。漢詩。俳句。
　　　漫錄。狂句。川柳。一口噺。等山の如し。

主計長　若尾瀾水
　　　　窪田空々
　　　　武田櫻桃
　　　　太田南岳
　　　　内山幻堂
幹事　〇●生
記者　▲△生
　　　松の家
　　　中村星湖
　　　かほう

眞に趣味と實益を兼れたる文字を以て全誌を飾る其材料の豐富なる文藝雜誌界に異彩を放つものたらむ敢て江湖諸君子の愛讀を俟つ蓋尤も面白く尤廉に又尤も美なるは本誌の特色なるが故に應接室の備品として旅行用の鬱散書として將休憩中の讀物として何人も必需の雜誌なるべし

發行所　東京小石川區久堅町百〇八番地　日本葉書會

發賣元　東京神田區表神保町　東京堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衛生の魁

阪本隆哉君著

滋養調製 病者の食餌

（近刊）

全壹册　洋装菊判並綴
正價……
郵税……

從來諸家の稱せられたる調理割烹の書類は。坊間に數多く見受けたれど。衛生のことに迄説き及ぼされたるはいとも稀なり、抑も食物は人間生活上一日も忽せにすべからざる重要のものなるにも拘らず。一家の主婦達を始とし女學校の女子達の教に至るまで。食餌衛生に心を留めざる樣覺ゆるは。いと口惜しき限りなり。かゝる有樣に過ぎ行かんには。世に病める人々の數增すべき道理なれば。著者の奇しき、いみじき思ぼし立ちにて。隅より隅へ意の屆く限り。考の到らん極み。病める人の用ゆる食餌の調理に付き其利害と方法とを編述せらる、本書是なり。行文の通俗にして明瞭なる。曩に著されたる衛生食物調理法と共に何れの家庭にも必ず一本の備へあらま欲しくなん。

● 衛生食物調理法

（全壹册和裝）

正價金三拾錢
郵税金六錢

本書は從來の料理法より其衛生に叶ひたるものを撰擇し其調理法を最も平易に述べたり故に日常の食膳に上るべき食物も此書によりて調理すれば滋味多くして人体を加養すべし例へば章魚は皮を去り奴豆腐は沸湯を注ぐなど其外野菜の洗方切り方煮又は炙り方食物の着色中毒物又は飲料水の選び方器具の清潔小兒の食物など逐一說き示したり家庭衛生として日用料理の師册として各家是非一本を備へらるゝの必要あることを知るべし

（丙の五）

發兌元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界お伽噺

第六十一編

病魔降服

巖谷小波山人著
久保田米齋畫

▲正價金八錢——郵税二錢

池の妖魔の祟に由て、不思議の病魔に身入られた姫を、御像の利益で降服させた近來珍奇な物語に、下篇には窓の聲とて、正体知れぬ變化の獨り語を獨り聞き得て奇功を奏せし忠義な獵師の出世話し何れも今度降伏させる露西亞の分捕お伽噺と知るべし

第六十二編

金馬將軍

巖谷小波山人著
桐谷洗鱗君畫

▲正價金八錢——郵税二錢

黄金の馬に黄金の鎧、一揮り揮つた太刀風に、數万の敵を追つ拂つた、不思議の英雄の素性を聞けば、何ぞ計らん第三の王子と、初めて知つた父に對面、こゝに初めて正濤の奇を知る、めでたい話は希臘の種なり

第六十三編

熊娘

巖谷小波山人著
渡邊審也君畫

▲正價金八錢——郵税二錢

全世界の遺物たる一大奇獸の遺骨を得て、俄の富貴を極めしは熊を助けし娘の功名、それもうつかり辷つた口から、榮華をばイカルの氷と解けたが興味は解けぬ西伯利亞のお伽噺……

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

(丙の六)

少年日露戰史

第一編 開戰の巻

巖谷小波山人著（既刊）

▲正價拾貳錢 郵稅四錢

▲戰爭の原因
▲三國の干涉
▲露國の無法
▲露西亞は何な國

▲文明と野蠻の戰
▲艦隊の出發
▲仁川の勝利
▲旅順の攻擊

▲宣戰の詔勅
▲國民皆兵
▲擧國一致
▲新艦の到着

附錄 軍國讀本（●葉山の御夢●東洋の子ルソン●三殿下の御勇戰●敵前の尺八●殘る劍●軍歌旅順の海戰●下瀨火藥の事●初瀨の初花）

第二編 決死隊の巻

巖谷小波山人著（既刊）

▲正價拾貳錢 郵稅四錢

▲日韓の條約
▲閉塞の計畫
▲決死隊の出發
▲決死隊の行動

▲驅逐艦隊の激戰
▲間接射擊
▲第二回の閉塞
▲閉塞の成效

▲マカロフの戰死
▲行軍の困難
▲騎兵の奪戰
▲露艦の亂暴

附錄 軍國讀本（決死隊の歌●勇士の膝枕●機關兵の沈勇●軍神の歌●氷割の勇士●大切な軍艦旗●子供好の中尉●斥候の犧牲）

第三編 九連城の巻

巖谷小波山人著（既刊）

▲正價拾貳錢 郵稅四錢

▲鴨綠江の地理
▲海軍の應援
▲架橋の掩護
▲江上の大砲戰

▲九連城の陷落
▲蛤蟆塘の激戰
▲敵兵の同士討
▲諸兵の苦心

▲金州丸の事
▲捕虜の厚遇
▲鳳凰城の占領

附錄 軍國讀本（●黑木大將●枚澤中隊の苦戰●九連城は占得たり●大膽な斥候士官●武士の情●裸體の勇士●志士の不運●戰場の物語）

第四編 南山の巻

巖谷小波山人著（新刊）

▲正價拾貳錢 郵稅四錢

奮闘十六時間、死傷千餘名、空前の大激戰と呼ばれた南山攻擊の眞相は、少年日露戰史の第四編として、紙上に實戰を見るが如し、附錄軍國讀本には、伏見宮殿下の御逸事より決死中隊の壯烈談に至る迄、軍國の奇談萃を盡して、一讀肉躍り、神飛ぶの慨あり

（丙の七）

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

紅葉全集

十千萬堂——出版部藏版

巻の一（既刊）

●二人比丘尼色懺悔 ●巴波川 ●戀の殼 ●關東五郎 ●猿枕 ●二人むく助 ●風雅媛

●南無阿彌陀佛 ●此ぬし ●新色懺悔 ●わかれ蚊帳 ●二人女房 ●新桃花扇 ●拈華微笑 ●夏痩 ●文ながし ●七十二文命の安賣

巻の二（既刊）

伽羅枕　おぼろ舟　むき玉子　紙きぬた　夏小袖　戀の病

巻の三（既刊）

三人妻　袖時雨　俠黑兒　男ごゝろ　心の闇　むらさき

巻の四（既刊）

隣の女　不言不語　鷹料理　三個條　冷熱　浮木丸　青葡萄　八重襷

新刊 巻の五

多情多恨（製本既成）　安知歌貌林　千箱の玉章　寒牡丹（出版發賣）

以上四編

續刊 巻の六

煙霞療養　金色夜叉

以上二編

全部六巻　菊判總クロース表紙 金畫刷毎卷九百余頁

正價　一冊壹圓八拾錢 全部拾圓八拾錢 小包一冊拾五錢宛

發兌元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

（丙の八）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女學世界

第四卷第十三號

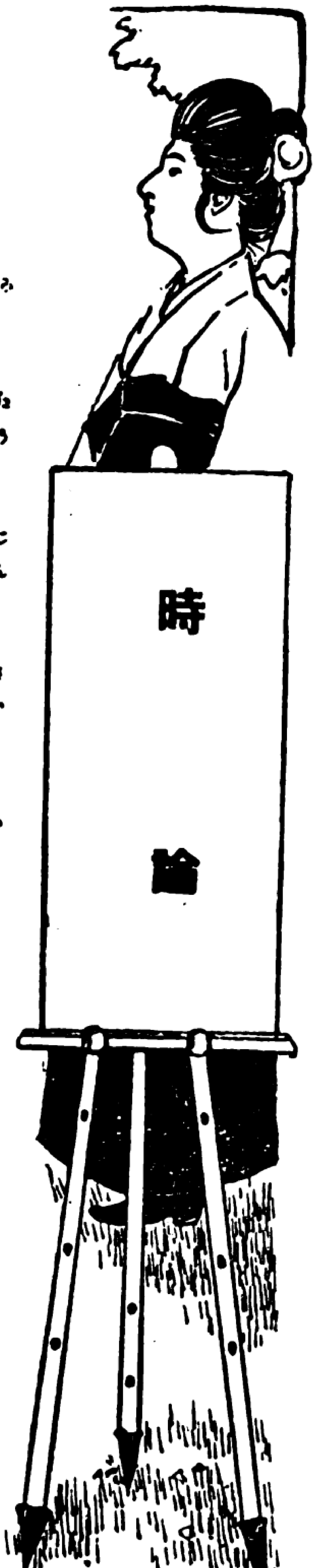
戰局と婦人の覺悟

露國と戈を交へて以來、玆に八閱月、我が國民の忠勇なる、上下心を一にして、克く戰ひ克く勝ち、前古無比の武勇を顯はしたるより、我が威力の前に風靡するもの、獨り滿州の山川草木のみならず、世界も爲めに驚嘆の眼を見開いて、我を賞揚畏敬するに至れり、乍去彼海軍は旅順に破れて四離滅裂したるにも拘はらず、又彼陸軍は遼陽に敗れて退却を餘儀なくしたるにも拘はらず、依然聲を大にして最後の勝利我にありと揚言しつゝあるにあらずや、其の歐露軍團輸送を言ふもの、バルチック艦隊東遣を傳ふるもの、蓋し新來の勇を以て敗軍の辱を雪がでは措かぬの決心なるべし、彼に此の覺悟と勇氣あり、我亦た之に應ずるの大覺悟と大勇氣なかるべからず、遼陽の大戰は僅に第一期戰の終結のみ、之より以後二期戰、三期戰に於て、幾多の激戰苦闘あるを豫期せざる可からず、戰爭の前途は遼遠なり、敵國の軍隊は夥多なり、而も之に勝つて悉く之を全滅せでは措かぬの決心なかる可からず。

抑々我軍の勝つ所以のものは外に忠勇武强の男子あり、内に堅實貞烈の女子ありて、内外協力、敵に當りたるに因らずんばあらず、されば今日以後一層の難局に處してよく國家の目的を遂せんには、益々男子の武力に依賴すると同時に、又た女子の力に倚賴する事一層切なり、あはれ同胞姉妹よ、男子を外に强くするもせざるも内に在る卿等の心一つにあれば、能く此の重大なる責任を自覺して、大に奮勵し、黽勉して、男子の業を輔け、國の祖先より受け傳へたる武强の芳名を辱しめざらんことに努力せよ、是れ國家の大事に對し女子の爲すべき最も大なるものなり。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



未亡人再嫁說

横井時雄氏

目下軍人の戰死者が多いので、從つて未亡人となられる婦人が多い、未亡人は再婚をするがよいか、してはならぬか、どうであらうかとの疑問に對し、私の考は別に奇拔の說もありませぬ。

凡て何でも自然に背く事はよくありませぬ、一時の感情に驅られて爲すことは永久の生命が得らるゝものではありません、故に未亡人問題の解決も亦自然に背かないやうにするが可い、自然に背いて無理に社會の力で推し付けるといふことは宜しくない、否到底出來得られないとだと思ひます。

未亡人は種々なる境遇を有して居りましよう又其人達の性質に種々の希望を有せられて居りましよう巳に年齡も三十四五歲より四十歲以上で且つ小供の二三人以上もある人達は其小供の爲めに又一家の事情の爲に結婚するよりは爲ぬ方を望まるゝのが普通でありましよう、ソンナ人達は結婚を爲ぬが可いです、併し未だ年も二十二三歲で小供も無し假令あッても一人位で之を養育すべき父母もありと云ふ場合には當人の希望によつては

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

結婚するが可いですヨシ三十以上の人でも小供が無く或はあッても巳に其關係が其人の結婚に妨げとならず而して本人自らが結婚を好まるゝ向はこれ又結婚す可きものであります。

結婚は婦人の性情上決して抑止すべきものでは無い法律の力又は社會の力で無理にこれを抑へて行うといふのは、自然に背くことであります、故に基督教でも佛教でも儒教でも決して未亡人は結婚す可らずとは言は無い、然るに近頃人心凡べて軍國化し軍人の戰死を頌讃するの餘、未亡人は巳に其良人と共に精神的に國難に殉したるものゝ如く考へて往々古典宗教などに斯る一の規則が有形に無形に存在するかの如くいふのですが甚だ誤ッて居ると言つて可い。

未亡人が婚家を去りて他に嫁する時は、其小供は、母を喪ひ、其家は自ら秩序を紊し、小供のため、一家のために悲しむ可き事であるから、未亡人たるものは斷然犠牲の精神を以て結婚せぬのが可いといふ人がある、これば一方の害を見て他方にこれよりも猶大いなる害のあることを見無い議論であります、未亡人が婚家を去るのは、其小供の爲には可哀相で、其家の爲にも亦自然秩序を紊ることがありましよう、併し結婚せずして其情動を制し得ず、或はヒステリなどに落入り爲に不都合なる所行を爲たらば如何、却つてより多く小供を不幸に陷らしめ、又之より多く一家の秩序を破るのでありましよう、加之其人、個人の名譽、人格をも傷けることゝなるのでありましよう、或は入夫結婚する場合でも矢張り同一の道理では、入夫して、而して家及び小供を安全にする方が入夫せずして萬一の間違を起すよりは勝つて居ります。

又或は人は家の爲には犠牲とならねばならぬといひますが、人を離れて何處に家がありますか巳に未亡人といふときは人です、女です、婦人です妻では無いのです。然るに既に良人の無い一個の婦人に對して妻の如くして貞節を立てよといふことは道理が立たぬと思はるゝのであります、或は貞婦不見兩夫の古諺を引いて未亡

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人が一生死せる良人に生けるが如くして仕ふるを武士道の粹として高尙なる社會道德の然らしむるもの丶如く考へて文明國の婦人は、斯くあるべきものといふ人もあれども、これ等は歷史上の一種の社會の狀態より生じた考であつて、決して永久の倫理ではない、之を今の町に行かんとする時人の聲に動かされて却つて、倫理の本源たる人の性情を沒却しての議論と言ふの外は無い。

世人は戰死といふことを特別なる死の如く考へ、一の戰死は一の夫婦の徇難を意味するかの如く思ふてゐる然れども凡て誰でも其職務に斃ふる丶は皆戰死である、技師が噴火山火口の測量に斃ふる丶も銀行員が其勤務中に死するも水夫が波浪の間に溺死するも皆均しく人が職務の爲に斃る丶ので即ち軍人の戰死も同樣である。然るに世人は餘りに軍人の戰死其ものが花々しきため一切これに呑まれて、彼等の死を一種特別のものと考へ他の日常必要なる平和の職務に斃る丶人を尊敬せぬのはよくない、而して未亡人が良人に對する責任は何れの場合も同じであると私は考へる。

又或はいはん。尤とも克く發達したる人類社會には人の力で造らる丶一の美德がある未亡人が結婚せずして亡夫の靈に仕ふるは正しく其一ツであつて、斯る習が移して一の習慣となれば洵に以て其社會道德の美を誇る可きであるといふ人があるけれども、如斯人間の自然に背く敎訓が、決して永久に生ける敎訓とはなり得られないのであります、或は又未亡人が結婚せぬといふことになれば、軍人の忠徇の志操が益々堅固になるといふ說もあるが、多少其點はあるかも知れない、然れども結婚させぬ弊も甚だ多くあり、ツマリ一得一失でしよう

私は何事も不自然を貴ぶ作爲的の事は凡てキライです、不自然の敎は決して社會國家の爲めになるものでないと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭の三理想

佐治實然氏

家庭には種々の器具調度を設備せねばならぬけれど、さりとて必要でない物を備へて置く事は無い、故に我輩の所では不必要品は一切買はぬといふ方針である、勝手道具にしろ、身邊の調度にしろ、必要を見出さぬ以上は決して購求めぬ事にしてある、で、此の不必要品を買はぬと云ふ事は、一面に於て必要欠く可からざる物を充實するといふ意味合で有るから、日常生活に直接必要な物丈は一通り揃へて置かねばならぬ事になる、けれど唯だ一通り、然り唯だ一通りあれば足りるのである、同じ物を二通も三通りも持つて居るには及ばぬ、然し一の物でも兩途の用を達すもの、例へば盆栽臺の如き、時にはランプ臺の代用にも成る樣なものは、兩方の役目を勤めさせて置いて差支ない、敢て新にランプ臺を買ふて來るには及ばぬのである、斯樣に必要なる物の外は買はぬといふ方針が、家政上、即ち處帶の上に非常な利益を持來す事は言ふまでもない。

世には夜店の道具屋を素見して、價を附けて、減けたからと言つて、當座の役にも立たぬ物を買つて來る者がある、或は又た賣りに來た反物屋の代物が安いからと言つて、旣に幾枚もの衣裳を簞笥の抽斗に仕舞込みながら、尙ほ其上に錢を拂ふて無益の反物を買込む者があるが、這麽風に贅澤に、無意味に、餘計な物を買ふといふ習慣は、一家の經濟上に非常な損耗を來たす原であるから、何でも必要を待つて後に買ふといふ習慣を養はねばならぬ、是は主婦の心掛くべき大切なる要件であると言つて宜い。

それから不必要品を買はぬと同時に、不必要品を置かぬといふことにも心掛なければならぬ、即ち不必要な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

物と見たらドシ／＼處分して了ふが可いのである、屑屋になり、古道具屋になり賣拂て了ふが可いのである、たとへ其價が二足三文で捨てる樣に安くとも、場所を塞げて蓄つて置くよりは遙かに優である、斯樣にすれば第一に家庭の整理がよく、第二に淸潔が保たれて、非常に利益である。

それに昔時必要で有たものも、或る時日を經過すれば次第に其の必要を去つて了ふものであるから、時々押入の中や、納戶の隅々を片付て見て、少しでも不必要な物、餘計な器物が在たら、容赦なく之を撤去して了ふといふ事に勉めたなら、何れ程經濟であるか知れぬ、而して當用の必要品丈が用に從つて取出される樣に整然と陳列して置いたら、何れ程整理が行屆くか知れぬ。

世の諺に三年經てば役に立つとか、何時か一度は世に出ると云ふ事がある、是れ冗物保存家の常に口にする所である、成程是も一理屈で、左樣いふ場合が無きにしも限らぬが、我輩の見る所を以てすると、三年後の必要を見込んで仕舞つて置く位なら、寧そ其の時に成て買つた方が遙に利益である、或人が一年經つて見て一度も必要を見出さなかつた物ならば、之を不必要品と見て差支ないと言ふた事が在た、成程平生要らぬものでも、巨燵は冬季に於て必要を生じ、蚊帳は夏季に於て入用を生ずるが故に、矢張必要品で、保存して置かねばならぬが、一年三百六十五日といふ長い時日に於て一度も其の用途が無い位なら、成程不必要品と認めて差支あるまい、故に相當の時日を經て不用に歸したにも拘らず尙ほ之に戀々として居て、三年五年の時日を假すは馬鹿げたる事にて、經濟を知らぬ人のする事である。

昔時我輩の知る某寺の庫裏に大長持が在た、其の中には古綿、古糸、古反古が一杯に詰つて居る、而して是が我輩の幼時より生長する迄、凡そ二十年間といふもの曾て一度も手を附けられずに其の儘で在つた、何と驚くべきではないか、是が田舍だから未だしも善い樣なもの丶、若し東京の樣な都會生活をする者の家であつて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見たら、何うであらうか、邊鄙の山の手にしても宅地一ヶ月の借地料が一坪に付き二錢を要し、下町になれば所謂土一升に金一升で坪二十五錢、買へば四十圓五十圓を要し、其上家屋税といふものが多分にかゝるではないか、斯ういふ高價の地面と家屋に住つて居つて、こんな眞似を爲たら何うであらうか、其の愚や實に笑ふべく、不經濟も亦た極れりと言はなければならぬ。

其柄我輩が或る私立の小學校へ參看に行た時、敎員室の一隅に明治五年頃に出來た掛圖が吊て在た、勿論今の敎授に用ゐらるべきものでもなく、さりとて參考品としてある譯でも無いらしいから、一種の好奇心に驅られて、試みに其の掛圖を揚げて裏を見た所、果して其處の所丈壁の色が變つて居る、壁の色は一年や半年で變るものではない、少くも五年以上掛けたまゝであつた事が分る、何と驚くべきではないか、此の類の事は此の學校に限らず何處の家にもある事で、人の家の隅々を細かに搜索する時は、乾度何かの不用物を發見するものであるから、我輩は家人殊に家政の局に當る主婦方の反省を促して置きたいのである。

そこで我輩の家庭に於ける理想を申すと、秩序は兵營を以て理想とし、淸潔は茶室を以て理想とし、整頓は軍艦を以て理想とする、之が我輩の家庭の三理想である、即ち秩序を嚴格に保ち規律に從ふ事は兵營生活の樣にし、家庭を淸潔にし質素にする事は恰も茶室の樣にし、而して物品を整理して、必要品のみを都合よく配置して少しにても無駄のない樣にする事は宛も軍艦内の設備の如くするのである。

以上申述べた所の不必要物の排斥も、畢竟この理想から來たのである。

而して此の不必要物を買はぬ、置かぬといふ事は、宗旨の如何に拘はらず、主義の如何に依らず、誰人にでも容易に實行出來る事であつて、勤儉貯蓄の趣意にも協ふのであるから、之を諸君の家庭に試みられん事を望む、家庭を利する莫大なるは我輩の堅く保證する所である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

教育時言

子爵　秋元興朝氏

近來我が女子教育の隆運は驚く許で、全國到處に女子を教育する學校の續々として勃興するは、誠に賀すべき事ではあるが、然も今尚ほ女子教育の方針一定せざるより、學校に就ても二樣の解釋があるやうだ、一は日本現今の程度から推して實際に役立つやう教育を施すに在りとなすもの、一は近き將來に於ける進歩發達の程度を豫期して教育を施すに在りとなすもの、即ち實用的と進歩的の二つがある。

實用主義の論者に言はせると、女學校にピヤノや琴や、茶湯生花は無駄である、獨りピヤノ許ではない、其の他の教科に於て此の類の事が多くある其柄西洋の例に倣つて多くの學科を教授するが、是は常識の程度を高める點からは成程必要であるけれど、國情の相違を考へぬ所から、兎角實際の用には立たない結果を來して居る、故に是等の學科は成可く斟酌して實用に適する樣にするのが第一であると、是れが一方の論旨である。

又進歩主義の論者に言はせると、苟も文明國の民と言はるゝからには、從つて常識も高くなければならぬ、其には是非共女子の感情の程度を高めねばならぬ、女子の感情の高卑は直接男子に影響し、間接國家の品位に影響するのであるから、將來國運發展、萬國に雄飛する秋の準備として今より女子を豪くする樣に心懸て置かねばならぬ、故に寧ろ現在の時勢には、稍々進み過ぎたる教育を授ける位が却て良いのである、と斯う言ふのである。

中には又た此の兩者の言ふ所を良い工合に調和して往けば宜いではないかと、云ふ議論を唱へる者もあるや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うである、成程左樣行けば其に越した事はないが、扨て此の調和といふ事は、普通の場合の調和とは違つて、餘程困難のものであると思ふ。

ソコデ私は子供を學校に入れるには、實用主義、進歩主義の何れにもせよ、其の子供の希望に任せた方が良からうと思ふ、我邦目下の狀態から考ふるに、多年學校で受けた教育の程度が、嫁して良妻となり賢母となるに適合せしむるといふ點からは、前に言つた實際主義の論は最も至極であるに違ひない、けれど又た文明を意味し向上を理想とした高尙論も、決して捨てることは出來ない、仍て私は兎に角いろ〳〵の學校の在つた方が可からうと思ふ。

それから源氏物語だとか土佐日記だとか其他種々の日本文學は、感情の程度を高める爲に、女子には殊に必要のものであると思ふ、併し之とても餘裕なき女子には効力がない、學校に居た時學んだ事も、家庭の人と成た時には忘れて了つて、始から敎はらぬと同じ事に成て了ふ位ならば、殆ど無益の事故、詮じて見れば猶且實用主義の方が一般には良いのである。

全體學校の立て方が間違つて居る、日本の學校の立方は、大經綸があつて初めると云ふよりは、唯だ大家といはれる人々が、種々な說を蒐めてする事が多いので、どうも理屈詰に成つて了つて趣味と云ふものが乏しい、從つて一貫した理想が無い、もう少し何うにか改良して貰ひたいものである。

其柄餘りに西洋に倣摸するは宜しくないと思ふ、例へば西洋音樂の如き、識者は頻りに之が鼓吹に努めて居るけれど、何時まで經つても面白いといふ聲は聞えないやうだ、是は一つは日本人の耳に聞く習慣がない故でもあらうが、一つは感情の相違から來るのである。

兎角理屈といふものは、共通のものであるとしても、感情は古き習慣より起るのであるから、たとへ外國で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

面白いものでも日本人に持て來ては其程面白くない、故に何事でも外國の物を輸入し、或は之を我が女子教育に應用するに就ては、此邊の注意と斟酌がなくてはなるまい。

理屈と感情の區別を最う少し詳しく言へば、理屈は共通する事が出來る、例へば外國から凡ての物を輸入し模範を執る上に於て、科學上の事、理論的の事は之を取寄せて彼我共通し得るけれども、感情の方は左樣はいかぬ、早い話が、酒の好きな者が菓子を嫌ひ、菓子の好きなものが酒を嗜まぬと同じ事であると思ふ。故に理屈で推して行かれるものは共通で宜しいが、感情で持つものは必ずしも共通といふ譯には行かぬのである、畢竟するに、たゞ外國の物を我國に入れて、直ちに以て日本の社會を利するといふ事は出來ないだらうと思ふ、日本には日本特有の感情があるから、此の點をまで共通にすることは到底不可能のことであらうと思ふ。

されば西洋の文學にしろ、音樂にしろ、之を取つて以て我が女子教育に資益するは宜いけれど、直ちに之を教育の土臺とするのは、非常な間違だらうと思ふ。

東京市民と獸肉

身體營養の効あるも其臭氣が人に慣ざりし爲め一時或部分には忌み嫌はれし牛乳も今は販路餘程擴まりしが尙ほ府下十五區八郡にて其搾取所は三百一、其受賣所は三百八十四、乳牛は三千四十六頭にして最近一ヶ月の搾額二千百石一斗一升五合に過ぎず然れば一頭が一ヶ月に產出する乳の量は六斗八升九合四勺にして一日二升三合弱にあたり牛乳一合を四錢と假定せば一ヶ月搾量總額は八萬四千四圓六十錢となるが東京府の現住人口を百九十萬とすれば廿七人强にて一合を飮む有樣となるなり但し滋食の材料、アイスクリーム等に用らるゝものも尠なからざるべければ個人が其身體の營養にとて用ふるは愈ゝ尠なきに至るべし而も其搾出額を廿四年に比せば九百七十七石餘を增し廿八年に比するも四百六十九石餘を增すに至れり又東京四ヶ所の屠場にて屠殺し東京人の食饌に上る獸肉一ヶ月の總額は牛肉四十七萬二千六百八斤(千三百八十四頭)馬肉十二萬四百廿一斤(四百八十二頭)豚肉十萬四千四百四十六斤(八百七十六頭)にて東京人は每日九十頭の獸を食ひ居る事なるが一人の食量に割當れば二匁弱に過ぎず即ち肉一片位しか口に入らぬ勘定なり此外諸種の肉類の罐詰は外國及び神戸廣島より多く府下に入り込み橫濱より少なからざる牛肉入り來れど素より府下の附近にて屠殺する其半ばにも及ばず詰り東京人は每日平均一匙の牛乳を飮み一片の獸肉を口にし居る有樣となるなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人の貞節と生命保險

生命保險相互會社
專務取締役
矢野恒太氏

古來我邦では忠臣二君に仕へず貞女兩夫に見へずといふことを以て臣たる道、婦たる道の第一義と致しました、然るに近來或一派の學者は寧ろ婦人の再婚を勧めるがよいと主張致しまして、先月の時事新報にもそんな議論が出て居りました、處が私の友人で將に出征せんとする軍人が申ますには、成程無教育の婦人又は天性淫亂なる婦人を抑制して、強て再婚せしめなかつたなら却て社會の風儀を惡くするだろうから、或一派の主張の様に四十歳以前で夫に別れた婦人は再婚するのが徳義だといふ風にして置けば、夫の獨居に堪へ得ない婦人をして遠慮なく再婚せしめる、從て社會の風儀を亂すものが少くなるといふ利益もあろうが、今出征して居る友人や將に出征せんとする自分等の立場から考へれば、特に此際盛んに再婚説を主張する事は止めて貰ひたい、かくいへば如何にも男らしくないといふ非難もあろうが、強いばかりが武士でもないし、自分等も亦木の屑や石の切ではないからチーと申ました。

私は非常に此説に同情を寄せます、否私のは時節柄再婚説を見合はせろと申のみではありません、絶對的に非再婚論であります即矢張兩夫に見へざるが婦人の道と致したいのであります、勿論生活上の關係又は父母の壓迫等から已を得ず涙を呑んで再婚するものをも一概に不道徳者と申すのではありませぬが、かゝる酌量すべき事情なくて猥りに再婚するのは婦道に外れたる行と存じます。

非再婚を以て道徳と致しますれば多少社會の風儀を亂る様な寡婦をも生じませう、再婚を以て道徳と致しますれば其弊害の少くなることも私は認めますが、之を救ふには他に社會の制裁とか教育の感化との種々の方法もありませうが、再婚道徳論に從へば實に戰慄すべき大弊害があると考へます、それは何であるかといへば終に我國體を破ぶるに至らずやと思ふのであります。

古來我邦絶海の孤島に國し、未だ曾て一たびも外敵の征服を受けず、且中ごろ皇室の式微を極めたるにも由るべしと雖、二千五百六十有餘年國民未だ曾て二君に仕へず、假令臭露西亞の如きものがよく我國を征服したりとするも、恐くは最後の一人に至る迄再び露西亞國皇帝に仕へる者はありますまい、又あらせたくないてす、此忠節の心は何に原因するでせう、勿論直接には武士の間に存したる二君に仕へすてふ道念、之を潤飾せる逸話等の感化に由るに相違なしと雖、家庭に於ける母の貞節が間接ながら大感化を及ぼせることを忘れてはなりませぬ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

元來二君に仕へざると兩夫に見へざるとは、男女の性と職との別によりて二つの言葉となりたれども、同一の根源より流れ出た格言であります故に一家の母たるものが今のお父さんが死れば直ぐに他へ再縁するのだとか、前の夫に別れたからお前達の母になつたのだとかいふことを見せ聞かせて居る家庭で、其子供等に我皇室に對しては假死しても斬殺されても忠節を二ツにするなといふことを教へて且之を實行させようといふは、甚無理だろうと思ひます、ヨシ已を得ずして再婚したる母と雖、これには再婚せざるべからざる理由あることを明にし、子供達をして不知不識の間に乳呑子の内から節を二三にするは人間の最耻づべきものだと思はせる樣に養成したいと思ひます、それには母の實踐躬行が何より必要と思ひます。

再婚道德論からいへば生命保險などゝいふ窮屈なる貯蓄方法は、細君の爲には全く不必要であります、何故なれば自分が若い内に夫に死なれたら又紅白粉を飾り立てゝ可及金のありそふな人を見付けて再婚すればよいのである、又自分が四十五十になつてからは夫に死なれても大抵子供が養ふて呉れます、之に反して兩夫に見へずとの決心ある婦人には一日も早く其夫に生命保險を付けさす必要がある、其夫に別れるが否や一家の生計は忽ち其弱き肩にかゝり、年寄から子供、さては自分の衣食まで覺へもない苦勞をせねばならぬ、多少の財產がありたりとて何時なくたるかも知れぬ事は、ツイ近頃何百萬圓の身代と歌はれた人が三日か五日の間に破產した例が變つもあるではありませぬか、まして死んだ人の名を以て朋友親戚に體のよい乞食をするなどは、決して佛の滿足する所でもなし、子供の前途の爲でもありませぬと思ひます。

論じて此處に至りますると、忠臣二君に仕へずといつた武士道も、矢張家祿といふ一種の生命保險によつて維持されたと思ひます、若し自分の死後は家祿を取上げられて家族が生活に困る樣な狀態であつたなら、君へ忠義といふ道德を立てる爲に、水火の中へ飛込んで妻子を飢餓に陷れるといふ不人情を敢てする人は少かつたろうと思ひます、ソレが何故に水火をも辭せなんだか又二君に仕へぬと力身たるといへば、家祿といふ手厚い生命保險が付けて貰ふてあつたからであります、故に再び夫婦の關係に就て觀察しても、男子が軍人となるなり、政治家となるなり又は商工業者となるなり、成敗利鈍の外に立ちて、志を天下に行ふといふ勇氣があるなら、昔ならば床の下へ小判を埋める所、今は萬一の準備を生命保險といふ家祿に置て、父母妻子の前途に心を曳かるゝ事なく、斷々乎として全力を自分の事業に注がねばなりませぬ、婦人は一たび嫁したる以上、一生を送るに足るだけの生命保險を其夫に付けさす權利がある、之を爲さない夫は一家の主人たるの義務を盡さぬものと謂はねばならぬ、又た之をさせない婦人は夫の死を待て再婚する意思のあるものと謂はればならぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭月令

十月——大——神無月

（一日）茶道にては此日風呂を廢して爐開をなす。（六日）より十五日まで淨土宗諸寺に十夜法あり。（十一日）より十三日まで日蓮宗諸寺にて會式を執行す、其角云ふ「妙なりや法の蓮の華いかだ」（十五日）より銃獵期に入る、當季の獲物は雉、山鳩、鴫、鶉、鴨等。（十七日）神嘗祭とて、新穀を伊勢の太廟に奉るの儀式あり。（二十日）商家惠比須講。（二十一日）十三夜の月見風露無聲月滿樓のあたり清觀賞す可し。

（氣　節）「寒露」「霜降」、時候の變り目なるを以て、天候定らす、陰晴常なし、且つ北風漸く冷氣を加へ、下旬には結霜を見るに至る、衣服は袷に羽織といふ所なり。

（農　事）黄稻郊野に滿つ、夏禾の收穫、冬穀の播種等にて農事漸く忙し、水陸稻、大豆、蕎麥、甘藷、胡蘿蔔、蕪菁、胡麻、刀豆、蕃椒、棉等の收穫、大麥、小麥、裸麥、豌豆、蠶豆、芥子菜、小松菜、油菜等の播種。

（園　藝）散る木の葉に、黄ばむ樹の葉に、籬に咲き出づる黄菊白菊のいろ〳〵に庭上錦繡のながめあり、木賊、牡丹、芍藥、櫻、梅、桃等の植替、寒菊の根分、薔薇、野木瓜、牡丹等の接木挿木等此月に於てすべし。

（食　品）ほう〳〵、さんまの鹽燒、栗の甘煮、栗飯、燒松茸、松茸鍋、松茸めし、初茸汁、初茸の鹽煮、芋田樂、甘藷めし、甘藷の茶巾、衣かつぎの鹽ゆで、新そば、細根大根の漬物、柿。

（行　樂）小春日和の上天氣を撰んで郊外散策を試むる最も妙、下旬より菊の展覧を愛すべく、又は紅葉の絢爛を林間に賞するも可なり、菊を見るには東京なれば團子坂、京都なれば圓山を冝とす、漁舟に棹して餌打、投網に出掛るもまたむゆく樂なめり。

（日曜日）二日、九日、十六日、廿三日、三十日、（祭日）十七日。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

貴婦人の嗜好

原六郎氏夫人

中村鈴子

夫人とみ子は奈良縣素封土倉庄三郎氏の長女にして明治二年七月に生れ二十歳にして前正金銀行頭取原六郎氏に嫁す夫人が京都同志社の女學校に在りし時は才名夙に一代を壓し同窓生をして歩塵に堪へざらしめたるが今は家政に曉通し四女の教育に家婦の感化に一向專念し模範的家庭を作りつゝありと云ふ

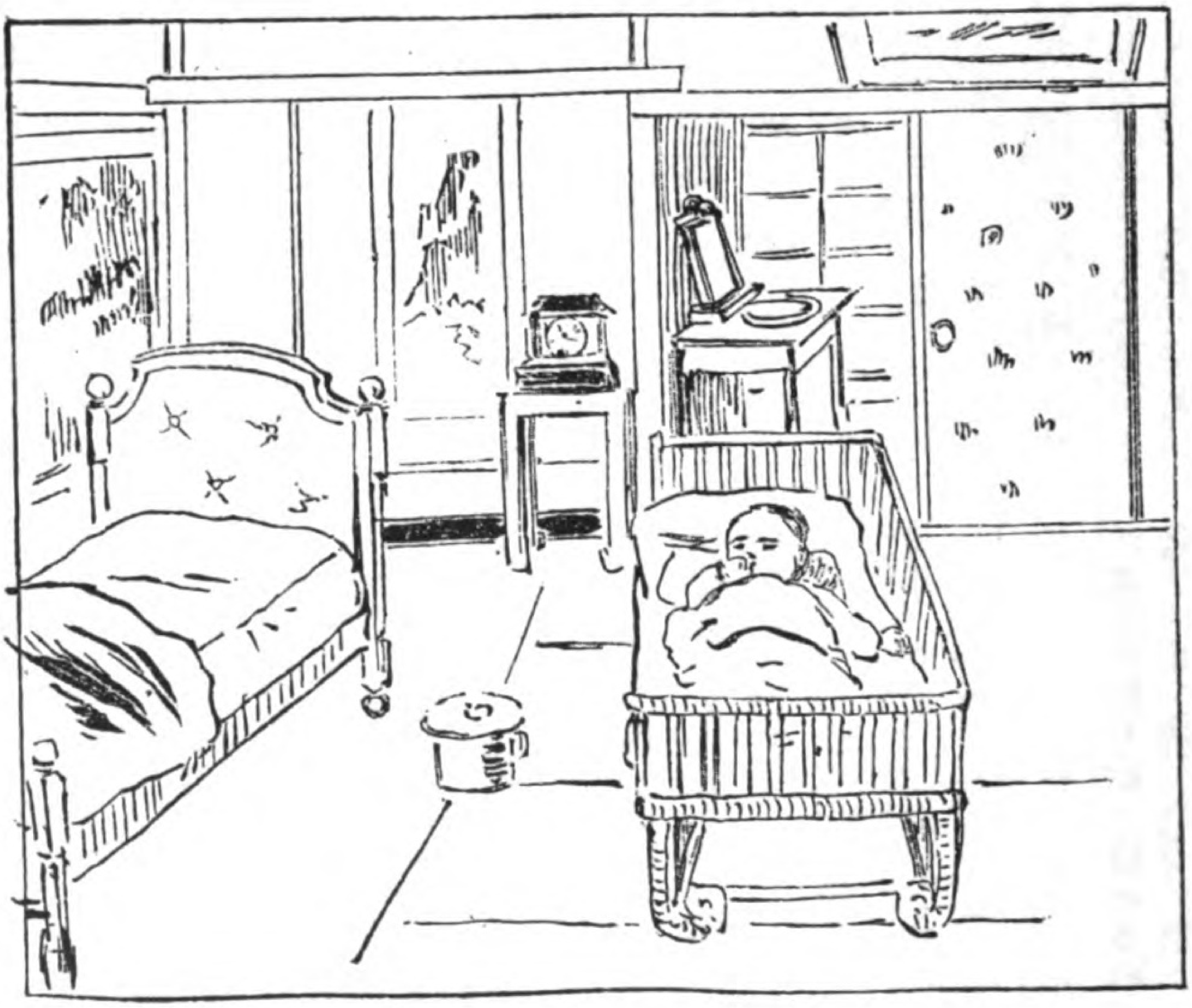
實業界の立物なる原六郎氏の御住居は、八山の麓で汽笛と電車鈴の響が稍遠ざかつた幽靜の地に在り、鯱鉾の上つた嚴めしい門は、品海の煙波を睥睨して居ります。白露花野に滿ちた朝、記者は原夫人を尋ぬべく出掛けましたが、門前の坂道に赤い友禪の筒袖を着た、「かぶきり」の可愛らしい御子さんが、保姆の膝にもたれ螢草の亂れ咲いた中に立つて、飛び交ふ小蝶を愛して居られました、門を入ると黑松赤松參差枝を交へて兩側の芝小山に列を成し、其隙間から鬱々天を摩する杉木立も見えましたが、長い道に車轍を印しつゝ右折して、石燈籠を据ゑられた小高い處に御玄關があるのです、記者は築地の垣を入つて御中の口へ廻りましたが、赤い花緒の小さい福草履一足こちら向きに疊の上に置かれ、今門外に遊んで居られた少孃御歸りの待受と問はずに頷かれ、整然たる御家風先づ眼に映ずる心地しつゝ、狩野法眼筆牡丹に唐獅子の大衝立を据られた内玄關より帳場格子を建てられた事務室を通り、土佐繪の金屛を列べられた廊下を越えて洋風應接室へ案内されました。艶かな切組の床に長方形の大卓子を据ゑ絹緞で掩うた長椅子を適宜に配り、古い精妙な佛畫幾幅を壁に懸けられ、軼入りの大畫帖は側の机上に堆く其他金獅子、觀音像、陶製五重の塔を始めとして、珍奇の置物室の四側に列べられ、大理石暖室爐の側に熱帶地方產蘭の鉢植は白花を開き、秋草摸樣を金色に織り出した暗赤色の窓掛は、百合形電燈に反映して壯麗の趣に富んで居るのであります。小間使茶菓を運んで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

下ると入違ひに上草履の音聞えて長廊下を奥より歩み來られた夫人は、紺地に白い竪縞ある糸織の單衣に鼠琥珀の丸帶を結び、白絽の襟を正しく合され、鬢髱のふつさりとした束髮に沈着な夜會どめを挿され、雪を欺く肉色に中高の瓜實顏、蛾眉明眸朱唇皓齒、絕えず愛嬌を含みて、話調も高低緩急其度に適つて對手を恍惚たらしめるので御座います。さて其御話は—

▲願くば國民の母を造らん

私は皆樣のやうに交際



社會へも一向出ませず、又種々の會へも名前だけ入つて居ましても責任を持つて務める事の出來兼ねますのは、小供も召使も多う御座いまして、其監督の爲め一日忙しう御座いますのに私は極子供の敎育に氣を揉む方で尙更暇がない故で御座います。併し氣を揉む割合に小供も不束でして、餘所樣で餘り干涉なさらずに立派に御仕立てなさるのを見ると、全く私が足らぬからだと耻ぢて居るのです。私共では女の子ばかり四人で尙更監督に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世話が燒けて困りますので、過日も御友達に手紙を上げますのに、私は直接に國家へ盡す小供を仕立てる次第に參らぬから、切めて健全な國民の母を造り出したい精神ですと書いて送りました樣な次第で、「貴姉のやうに氣を揉ますとも……」と皆樣が仰しやるので御坐います。

▲令孃の教育

娘は十六歳を頭に十一歳のと四歳のと當年五月生れの乳呑子とで御坐います。上兩兒を遣はす學校も隨分いろ〳〵氣を揉みましたので、總領のは幼稚園も方々調べて一番良いと存じた芝公園の共立幼稚園へ遣はしました。それから築地の小學校へ三年ほど遣はし、あとは宅へ家庭教師を聘ひ、私も見て遣りまして、唯今まで宅で教育致したのですが、小學も卒業の年になつたので、此後遣はすべき學校を詮議致し、華族女學校へ入學の手續に致しました。私共の娘は華族へ嫁入させる次第ではなし、手重い風を見習はせるのも如何かと存じて私は異論を唱へましたが、少しは交際上の事も慣れさせるが宜からうと申すので、遂に私が負けましたのです。私の居つた同志社は餘り堅過ぎた教育でしたので、御交際などには窮窟な風が拔けないで困ると云ふとは、自分でも承知して居りますけれども、私は一體當世流のハイカラより寧ろ武士氣質の昔風を娘共の精神に浸み込ませたいと存じます。私の父母は至つて教育の嚴しい方で、特に母親は本當の昔氣質一遍の人ですが、自分の教育は當節に向かぬと申しますからイヽエ母樣あなたに受けた教は、唯今一々役に立つて身に泌みて有り難いと思ふとはかりで、丁度娘逹や召使にこれを復習して聽かせて居りますと、私が申すので御坐います。

▲家庭教師

漢學、和歌、英學、音樂などそれ〳〵專門の先生に來て頂き、習字は岡田先生に願つて淸書を送つて見て頂きます。御茶や活花も一通りは習せねばなりませぬが活花も自然を酷く矯めるのは宜くありませんから、座敷によつて花の種類を選ぶ働きが附くだけの事で澤山

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ですし、御茶も濃茶の飲み廻しのやうに多勢で口をつけて飲んだり一つ布片で拭ふなどは衛生上に甚だ宜しくありません。畢竟彼れは物事を無駄なく手際よく取扱ふ稽古で、チョット御客の席へ何か持つて出た時も先に空いた器は直に持ち下ると云ふ風に差す手引く手に油断なく又禮法も茶室の中かばかりでなくチョットそこらを歩くにも物を蹴飛ばしたりせぬ様の練習ゆゑ唯だ御茶を立てる時ばかりでなく萬事に應用せねばならないと毎度申し聞かせます。

▲自分の始末は自分に爲せ

子供は各々に世話する者を附けては置きますけれども自分の事は成るべく人手を煩はすなと申し附け、自分の室の掃除、結髪、時としては肌着の、洗濯まで致させます。人を使ふに自ら致して見なければ、何位の骨折であるか味が判りませんから……。十一歳の娘にも先達てから髪を獨りで結ばせて居り、未だ少し無理のやうですが、追々慣れるであらうと存じます。

▲乳兒の取扱

これは私の乳と牛乳を等分に與へます、五月生れの兒に唯今私の乳を二回と牛乳を二回與へますので、朝六時に私の乳、十一時頃に牛乳、三時頃に又私の乳、夕の六時に牛乳を遣はして臥させた限り朝まで一度も與へません。皆様がチト回數が少いと仰しやいますが其餘に飲みたがりも致さず、體量も充分に發育致します。夜分眼を醒せば、自分の手をチュー／＼吸ひながら又睡つて了ひ、餘り他處の御子さんのやうに泣きません。極最初からチヤント規則を立てますれば、其通りになるもので御坐います。便通なども朝眼が醒めれば必ず致すやうに爲せ、自然に無い時は灌腸して癖を附け、便通後水で身體を拭ひ口をも拭つて哺乳させます。大便は一日一回と定まつて居ますが、小用の際は屹度グズ／＼申して教えます。朝夕に一度づゝ保姆が抱いて外を運動致す間は始終寢臺に寢かして置くので永く抱いて居ると却て泣き出し、下へ寢かすと温和しく泣き止むのは、矢張り習慣の故で御坐いましやう。夜分は私の寢臺の直ぐ下へ乳兒の寢臺を置き、其下へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

保姆が臥ります。生後一年間は主人が喧ましいと申すので、主人の部屋と隔つて臥るのです。浴湯は朝夕二度宛遣はせますが、私が何時も世話致して遣ります。

▲御主人の性格

主人は誠に忙しい體で、大抵留守勝で御坐います。今朝も九州の炭山の方へ出張致しました。出張先からは毎日のやうに電報や手紙で信りを致し、暇があれば和歌などの贈答を致して居ります。以前は可なり遊んだ事もあつたさうですが、私が參つてから一度も他へ泊つたことは御坐いませず、出先で不意に人樣と會食する都合の時は、必ず電話で宅へ其由を申し越すと云ふ風で、家内に不愉快の分子は御座いません。芝居も極好きでしたが、私が大嫌ひで子供に見せては爲にならぬと申しますので、全然參らなくなりました、矢張り何方かに染まるものと見えまして――。皆樣が貴宅では反對だと仰しやるのですが、芝居は馬鹿らしくて見て居られません。私の郷家でも嚴ましくて、子供に芝居などは一切見せませんでしたが、東京へ參る前(二十歳の時)に兩親が「嫁してから人樣と御話しする際一度も芝居を覗いたことが無いと云ふのも曲のない次第最早見ても差支へない分別のつく年頃になつたのだから、是非見て置け」と申して連れて參りましたが、能くまア斯樣な馬鹿げた事に金と時間を費せたものだ、實に惜しい事だと申して笑はれた位、唯今でも御客の御愛想の爲めに必要の場合には、年寄つた下婢を遣はし失禮のないやうに注意させるだけで、如何しても其時間が惜しくて參られぬので御座います。主人は一家の細い事や小供の教育には少しも搆ひませぬ、畢竟安心して私に任せて居るからでも御座いませう。祝儀不祝儀の贈物なども、一切私一人で取計らひますので、隨分事が多いので御座います。

▲下婢の業務分擔

下婢は小供に附けて置きますのが四人、料理と飯炊が二人、小間使が二人ですが、男の方は執事から園丁まで悉皆で八人ほどで御座います。下婢には各々受持の仕事を定めて置き、例へば乳兒の保姆は襁褓洗ひから

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

牛乳罎の掃除、口拭ひのガーゼの始末等まで、總て乳兒に關する一切を擔當し、他の小供の保姆は、衣服の洗濯、出入りの世話等を受持つと云ふやうに、チヤント定てはありますが、一方の下婢が病氣したとか、臨時の出來事の爲めに間に合はぬと云ふ際に、他の受持だと澄して居らずに互に助け合ふ事に仕付け、廊下を歩くとき紙屑などあれば、誰でも見附けた者が拾ふやうに申し附けて置きます。幸な事には、下婢が蔭日向を致さず、私が留守でもチヤント定めの用事は整へて置き、少しも手落が御坐いません。毎日入浴の時には必ず洗つた肌着を持つて來て與れますが、今日は未だ汚れて



居ないからと申して、成るべく私の方で手數を省いて遣ります位で、下婢達も正しく規則を守つて居り、此點は皆樣に羨んで頂く位で御坐います。

▲時間供給と訓示

朝飯も七時、夕飯も七時に濟み、七時からは下婢達に自由の時間を與へてありますが、十一時には必ず臥らせる事にしてあります。又日曜日は休日として自由を與へ、此日に自身の買物用達しに出掛けさせますから間には一切外出させません。併し日曜日に出掛ける者はトント御坐いませんので、大抵家に居て互に何か致して樂んで居ります。何でも慣し一つだと見えまして最初は東京の下女は實に使

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ひ難いと存じましたが、氣長に導いて勉强を勸めましたので、當節は夜分皆で習字を致し、清書は娘の先生へ送つて正して頂いて居ります。ハイ月謝は下婢一同として私の方から差し上げて居ります。給料などは望まぬから仕込んで與れと申して參る者が多う御坐いますから、度々代ると云ふ事は御坐いません。少し不快でも我慢して居る者があると嚴しく申して醫者に見せ平常の衛生にも隨分注意して遣はす代りに却々小言も申します。『汝達も他へ行つた時、彼の嚴しい奥さんに仕込まれたのに行跡が惡いのはよく〳〵だと言はれては耻かしいぢや無いか、此家で汝達が少しぐらゐ我儘をしたとて格別障りもないから、優しい奥樣と褒められるのは極容易い事だが汝達の後來を思へば小言も言はねばならぬ』と吳々も申し聞かせるので御坐います書生に用事のある際は執事に取次がせ、男女の別は極嚴重に致して居ります。

▲永勤の馬丁に店を開かせる

畑の世話、米搗など一切は馬丁が善く致します。此度馬が徴發されましたので、永々勤めた馬丁に資本を與へて新聞取次店を開かせました。目黒の或家が其配達先で其家に出來た珍らしい胡瓜を私共へ屆けて與れました。

斯く話されて室隅を顧み示されましたが、大皿に載せられた胡瓜は長さ二尺に近く直徑四五寸もあるべき疵のない褐色の物で御坐いました。

▲園藝と動物

子供に一部分づゝ持たせて、望みの種子を與へ、最初から自分で世話をさせますが、却々研究に便利で御坐います。温室などは農科大學を卒業した人を先頃まで監督に頼んで置きました。牛も邸内に飼つてありまして、飲料の乳を搾らせ、鷄も犬も居り、此世話も子供にさせます。虫類はピンで留めて標本を作らせ、他に動物は剝製を置いて、動物學研究の一助と致して居ります。

▲器什の取締

畫幅や金屬其他の道具類の出入は、執事が取扱つて居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り、折々の應接室の裝置、挿花等まで一切執事が致して居ります。尤も金屬は此度可なり獻じまして御坐います。彼の佛像で御坐いますか、彼れは私の郷家から寄越しましたので……私の處では神も佛も祀りませぬが、一頭は廊下にズラリと列べて、大切に致して居りました。

▲會堂行と旅行

私共は同盟教會ですが、參るべき會堂も定めてはありませず、日曜毎には却々出られません。併し新年の初めての日曜には家族一同で教會へ參ることに定めて御坐います。本年は此際で控えて居りますが、毎年夏冬には一同旅行致します、別莊に滯在中も日課を定めて子供達に復習させるので、矢張り暇は御坐いません、本當に私のやうに、家の事にばかり忙しく年中齷齪と生活すのも損だと存じますが、青い顏して馬車に乘り歩き成さる方より幸福だと喜んで居ります。

▲待　客

主人は西洋風の人で、大抵倶樂部で會つて呉れますから、宅へは用談に御出での外は餘り飲食の御客が御座いません。併し田舍から宿泊客は始終ありますし、出入の者に御膳を出すことも毎日のやうにあります。尤もこれは下婢の取計ひで濟むので、私が指揮して饗應するやうな御客は滅多にないのです。主人も私も留守でさへなければ、御訪問の御方には必ず御目に懸りますので、私はお化粧の爲めに御客樣を長くお待たせ申すのが嫌ひで御座います。

▲料　理

私の參りたてはコックを雇ふて居りましたが、主人が留守にでも致すと、兎角休んだりなど致して思ふやうに參りませんでした。それで私はコックを廢して賄ひ、主人の注文によつて及ばずながら何樣か斯樣か料理を間に合せて居りました。昨年から敎師を聘んで猶ほ研究中で、子供や下婢にも見習はせて居り、鯵や鰯のやうな廉價の魚で稽古させて、お臺から漸々に引上げることに定めて置きます。私共でも朝は極簡單で、皆牛乳と卵、主人は其外にスープ位の事で仕舞ひ、晝は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

チヨツトした西洋食とか肉を煮るとか、何れにしても肉は必ず用ひますが、御夕飯は淡然とした魚軒とか吸物とかに致して居ります。魚類は活きたので無ければ求めぬことにしてありますから、魚屋が参れば私が必ず出て見ますので、呉服類は呉服店から持つて参るのを女中に見繕はせます、三井へは買物に御出掛けになつて、魚屋などは汚らしいやうに思召し、下女任せになさる御方とは全然反對なのです。

▲令嬢の食事

私共の子供には食物に好き嫌ひは御座いません私は大勢の兄弟でしたが、前にも申す通り、私の兩親は極嚴しいので、召使達一同の總菜を一皿づゝ私共兄弟の膳へ附け是非それを一皿食へ終らなければ、他にイクラ御菜があつても食べさせません。若し總菜を食べなければ香の物で食べさせるので、實に嚴重な躾でしたから、私は何でも嫌ひは無くなりました。唯だ割合に肉類を多く勸められた故ですか、魚軒などは先づ好かぬ方で、御飯さへ加減が宜しければ、梅干か香物で澤山なので御坐います。それで子供達も食物の我儘は少しも御坐いません。御菓子や果物は食後に遣はせ、間食は一切致させませぬが、欲しがりもしません私は子供を御客樣と一つ卓子で食事させるのを好まぬので御坐います、御客樣と一緒であれば、子供だけ一汁一菜と申す次第にも参らず、自然奢りの癖が付きますから――。

▲躰育注意

子供達には充分に勉強して充分に遊べと申し附け、朝夕には必ず邸の周圍の運動及び園藝を致させたり、寢ます前には私も一緒に鐵の啞鈴で躰操を致して居ります。子供の躰は皆發育が宜しう御坐いまして、先達ても橋本國手が入らしつて、十一歳の娘を御覧なされ、實に完全な體格だと仰しやいました。彼の嚴ましい評判の橋本さんに完全だと言はれて丹精の甲斐があると存じ、嬉しう御坐いました。私は御醫者樣の言はるゝ通り、正直に守る方で、姙娠中の攝生など少しも命に違はず注意致しますから、產も輕く肥立も宜しく、生

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

兒も極健かで御坐います。

▲衣服

六七歳までは洋服を着せますが、出來ぬながらも私が仕立て又下女に敎えて縫はせ、上の娘は自分の物だけ自分で仕立てるのです。衣服の地質に就て善く妹達と話すのですが、我々の家で繼いた木綿を着せる次第にも參らず、又木綿は一度洗濯すれば色が汚く爲り、如何しても縫ひ返しが利きませんから、矢張り絹物の方が經濟になるやうだと、私も思ひ妹達も皆同じ考へで御坐います。

▲讀書

新聞や雜誌は要點だけ走り讀み致す位で、纏つて書見と申す暇は御坐いません。唯だ聖書は毎日一章づゝ缺かさず讀み、子供達にも讀ませます。女の子は直に感化され易い者ですから、自身に分別の出る年頃までは新聞雜誌など滅多に見せられません。小說類は倘更で親が撰擇して見せれば可いと云ふ說もありますけれども忙しい身體で骨折つて小說を撰擇して小供に見せたとて、何の益もない事で、其樣な暇には倘幾何も小供達に致させる有益な事があらうと存じます。總べて小供の監督は難かしいものですが、特に女の子には注意の上にも注意が要りますので、惡の面其儘で誘つたとて、眞逆欺かれるやうな事はありますまいが、世間には能く善の面を被つた誘者があつて、これが一番恐ろしいです。却々油斷はさせられません。

夫人が令孃を敎訓せらるゝ熱誠は、其注意各方面に行き屆き、殆んど間然する處がないので、只管感じ入り、何時までも御側を去り兼ねましたが、迂濶長坐致したのを詫びながら、倘ほ御住居の組織拜見を願ひ、板、疊の長廊下幾つかを越えましたが、十一歳の令孃は恰も音樂敎師（納所辨次郎氏）にピアノを習ひ居られ、夫人の寢室に入れば羽なき天使とも見ゆる小令孃白茶フランネルの洋服着て籐寢臺の上に寢ね、圓き手を吸ひつゝ莞爾笑まれてある其下に附き居たるは三十歳位の品よき媬姆で、恰も哺乳時間と見え、ガーゼを淸水に搾つて小令孃の口中を拭ひ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夫人も亦ガーゼで乳房を數回拭き清め、小令孃を抱き上げて乳を與へられました。尙ほ女中の裁縫室、臺所、食堂等を概略拜見して整頓せる御家風に感服致しました。

（完）

秋元子爵夫人

菊池雪子

駿河台なる秋元子爵邸は佳麗な西洋造のお屋敷でございまして、往來の人織るがやうなる小川町通を曲り、稍々坂に上る央ば、やはり西洋風の立派な御門を入つて參りますと、取次の人が入口まで出て參られ、記者のお尋ねいたしたことを奥に通じて、客間に案内せられました。

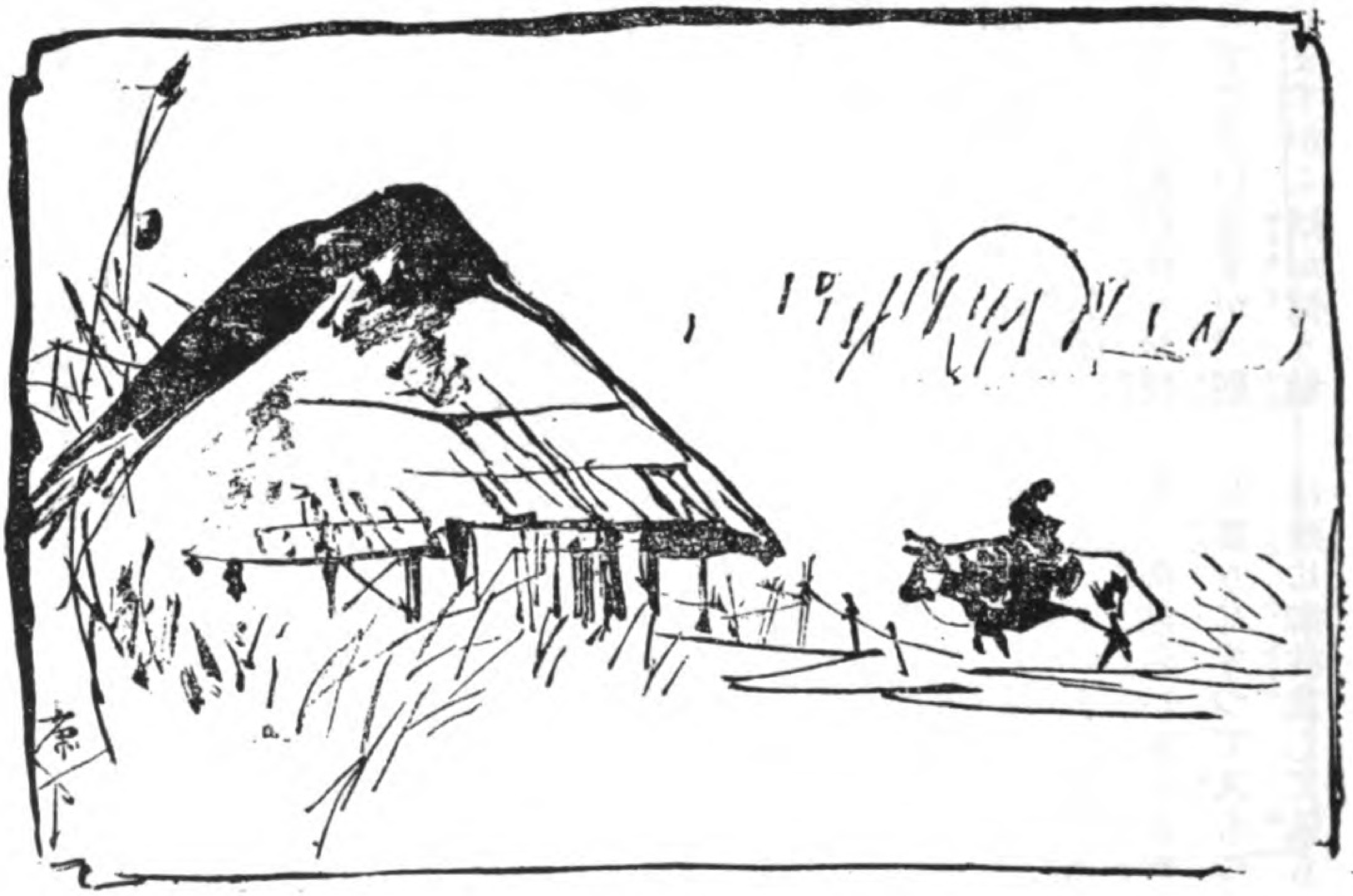
▲客室

廣らかな、しかも美しい、床板は、楠の寄木細工、いかに駿河の工が妙を盡して造られたかと思ひながら、視線を轉じて、窓の方を見ますと、鶯茶の上品な窓掛、佛蘭西パリからでもお取りよせにでも成りましたのでせう、周圍はざばらの色糸で縁とられ、中央を大きな房の付いた紐もて結ひて、白いレースの窓掛が間からほの見え、お庭の樹木は青葉の緑を湛えて、宿らす蟬に歌うたはせながら、室内を射る烈しき征矢を和げて居ります、椅子といひ、卓子といひ、いづれも見事でございました、中に濃き紅のフラシの風流なささやかな卓子に、團扇一本、記者の前に進められました、煖爐の上には、立像二個と側に大きな姿見が立てられ、爐を蔽ひますために、叢に佇む鶴の刺繡が衝立に造られ、これまた、室内の美を裝うて居りました、御鏡入りの西洋式戸棚には具足を付けた二個の像がございました、此の棚の上に、山鳥一對の標本が立並んで、長々しい其の尾を兩側に垂れ居る樣は、古の人が、長き夜をかこちましたのも、か丶るを見て詠みましたものであるかと思つて居りましたところに、

▲子爵夫人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

薩摩上布の召物に、繻珍の腹合せ帶をお太皷に結ばれ、お品のよい、當時流行形の丸髷に御髪を上げ遊ばして、素足に二枚草履を召させられた御様子は、高尚な、粋なお姿で入らつしやいました、始めてお見にかゝりましたのですが、夫人は、白魚のやうなお手もて戸をお開けになりながら、まことに心安いおもゝちに御挨拶下さいました、お暖いのにようこそと、立つて禮を申し此方の御無沙汰御詫を申上げます記者に椅子をお進めになりながら、長椅子にお腰掛け遊され、片手には、白絹に草花を刺繍された團扇を



手弄りながら、いと愛嬌づいてお話し遊ばしました、茶菓を命じて記者にお進めになり、手づから團扇を下されて。

▲夫人御謙遜の言葉

『いへ、もう、皆様にお知らせ申すやうな家庭でもございません、却て模範などゝ仰せ下さいますと、お愧しうございます、近頃は躰も弱くなりましたので、世間の御交際の場所にも参りません、内にばかり引籠つて居りまして、朝から晩まで、何だか家の事ばかり、ごたくいたして暮して居ります、暇の時には、ちと勉强でもいたすと宜しいのでございますが、其れも定

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

めてすることは六ヶ敷うございます……はい、篤志看護婦會にも入つて居りますが、矢張病氣になりましてからは、ちつとも參りません、皆様は毎日お出遊ばして繃帯巻のお稽古をなすつて入らつしやるさうですが、私も病氣に成りません頃は、始終參りましたが、どうも、娘も、私も弱うございますから、其のために出席いたしますことを怠つて居ります、皆様にばかりお任せ申まして、家庭と申ましても娘が一人ございますだけで、小さな時分から弱い質でございましたから、學校に通はせまして思ふやうに教育いたすことも出來ませんでしたから、家庭の先生をお頼みして、毎日お出になつて貰いました、岡田醫學博士の妻君でございまして、御良人が獨逸からお歸りになるまで、お出になりました、只今は其の方の御世話で、松田未亡人たへ子と云ふ方がお出になります、はい、矢張女子高等師範を卒業なすつた方なさうで、私が折々お復習をしてやるやうですと宜しいのでございますが、弱うございますので、遂もうなまけますから娘が何う勉强いたして居りますか、先生にお任せ申きりで、餘り冷淡なやうでございますが、復習をいたしてやりますにも、自分が第一勉强いたさなければなりませんので」とは仰せられますが、記者は兼々子爵も、夫人も、令孃の御教育、御家庭の教訓には非常に御注意遊ばさることを承つて居りますから、夫人がお話の中にも、何となう、凛としたところを見受けまつりました。

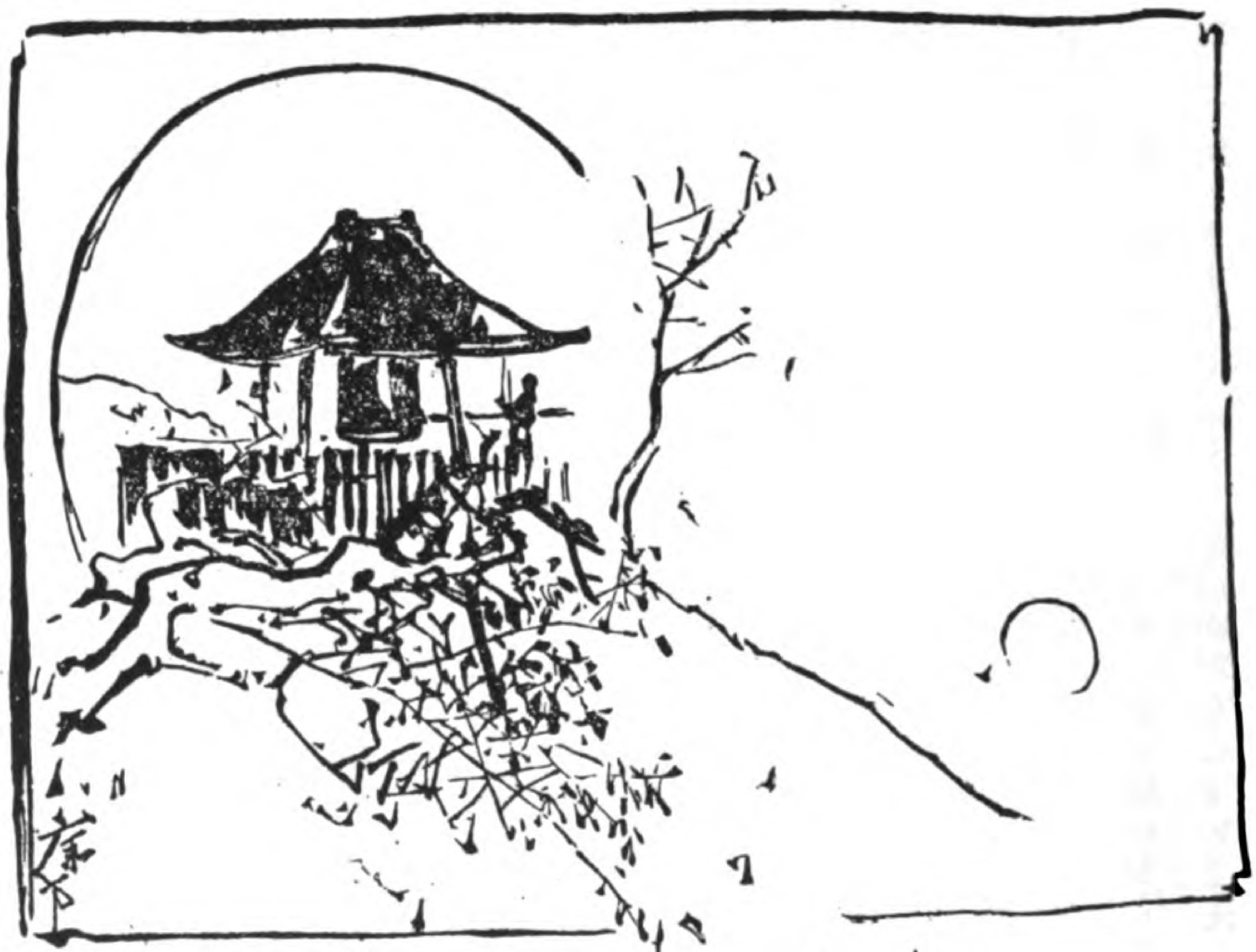
夫人は南部家の姫君で入らせられまして、御姉君は華頂宮大御息所でお出で遊ばし、御母公は飛ぶ鳥も落す勢ひであつた德川氏御三家の一なる水戸様から南部家に御嫁し遊されたお方で入らつしやいますが、何程文明の世とは云へ、夫人の御言語、御擧動などに誇る御様子は露ほどもお見受け申しません、却て御叮嚀に、記者に應接遊ばしますには、まことに何と申上やうもございません、恐れ入りますばかりでございます、御姻君伯爵南部利祥様は、戰地にて斥候の重任にお當りなすつて入らつしやいますから、夫人も戰爭には殊に御注意して入らつしやいますとのこと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『元は英語を習ひましたんですが、病氣になりましてから、何も、彼も、怠りがちになりまして、只今では、娘にお復習してやりますには自分が先にお復習でもしませんければならぬやうになりました』と仰せながら、新に茶を命じて記者にお勸めになり。

▲夫人の嗜好

『いへ、これと云ふ嗜好が特更にございません何でも好みますはうで、音樂ですか。日本のとも、西洋のとも申されませんが、どちらのでも聽きます事はまことに面白いと存じます、西洋



のは實に賑かで、勇ましうございますね、健康のために勉强と申ましては出來ませんが、讀み物は好きでございます、はい、文藝倶樂部、婦人界、女鑑、女學世界、戰時畫報などを見て居ります、近頃は餘り外出もいたしませんから、宅に居りまして家の事ばかりで、格別これと云ふこともなく日を送つて居ります。』

▲秋元家に嫁せらる

『七才の時、國から東京に參りまして、其後一度も行つて見ませんから、些つとも國の樣子は覺えては居りません、秋元家に參りまし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たのは十四才の折で、只今から考へますと、實に其の頃は餘り早い結婚でございました、もう一人、娘の前に、男の子を有ちましたが、早く失くしてしまいまして、其れからは娘一人だけです、私が秋元家に參りまして後、久しい間、母も壯健で居りましたから、充分交際もいたしました、また何彼とお稽古もいたすことが出來ました」とお話し遊ばしながら、ゆるやかに團扇をお使ひになりました、朝まだきより、お訪ねいたしてはと記者は御遠慮申した次第でございますか、段段日の暑さがいや増しに増し行きますに、夫人は親切に、微笑を浮べてお對ひ下さいました、塵の巷をかけ離れ、都の賑ひに遠ざかつて居るやうな趣のある御邸内の樹々は、青葉の枝をさしかはして滴るばかりに、折々風に、戯はむれて居りましたのも寢りかゝつて參りました、お庭もお廣いやうですから、隨分御運動遊ばすには宜しうございませうと申上げましたところが、夫人は「手入れをいたしませんから庭の樹は繁つて欝陶敷い位です、生え次第にいたして居りますんで、」と仰せられました。

▲日常の規則

「家庭に規則などのやうな立派なものとては設けてございませんから、別段お聞かせ申すやうな事もございませんが」と夫人は御謙遜遊ばしましたが、重ねてお尋ねいたす記者の言葉につい仰せられますには「朝は六時前後に起きます、食事は七時頃にも成りませう、九時頃からは訪問の方がお見えになります、午後でございますか？はい、一時半から二時半頃迄續きますことがございますよ、……晩の食事は六時にいたします、……十時に休みます、まあ時によりましては、少少早い事も、遲い事もございますが、大低十時前後でございます……先刻も申上げました通り秩序などは家庭内に立てゝないのですから」

▲平常の住居

「西洋間に居りましたり、また日本造りの室に居りましたり、適宜にいたして居ります……いへ、日本造りは以前からございました西洋造りの方は二十五年に建

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

築いたしましたんです。」

▲庭　園

『主人は薔薇を好みまして、多く薔薇が植えてございます、……はい、あれも薔薇でございますよ』とのお言葉に、記者は驚きました、直徑四寸もある、何うしても灌木とは見えない大樹をなして、それが年々花を咲きますとは、まことに珍らしうございました、百歳にも近い老木でございませうと申ましたところが、夫人『三十五年以前私が此處に參つて覺えて居ります頃、もういゝ加減大きな木でしたよ』とお話しになりながら、またしても記者のお尋ね申にお答へ下され。

▲家庭教師

『娘は十九才になりますが、健康のために學校に遣りますことが出來ませんから、競爭いたさせて勉强させますことも出來ませんが、結果は何れにも、兎に角、只今でも先生にお出を願つて居ります、松田さんは每日九時から十二時まで御敎へになります、先頃までは裁縫も習はせて居りました、……英語の先生は英國婦人ミス、デニングと云ふ方で一週に五度お出になつて一時半から二時半迄、御敎授なさいます、古い御懇意の方ですよ其の方のお父さんは主人に英語を敎へに參られた方でして、其の緣故やら、また主人は外國語は其の邦人に就けて學ばせたいと申ますので、皆樣から日本人を賴むはうが經濟になるなどゝお話がございましても、矢張デニングさんにお願ひして居るんでございます、日本語を巧にお話になれますから、私共にも日本語でお話になつて、またこちらからも、遂ひ英語で申せば宜しいのを、日本語で以てお話いたすやうになります……面白い方で』

▲御養子

『先年、毛利家から養子を迎へました、當家と毛利家とは前々からの緣故もございますので、春朝と申まして二十四才になります、はい學習院で學んで居りましたが、只今は頻りに英語の研究に熱心になつて勉强に通つて居ります……毛利家の當主元秀は春朝の兄になります、昨年南部家の、あの、私の姪に當ります常子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が嫁しましたのは其處でございます、春朝のはうは敎育の事でも其の他の事でも一切主人がいたして居りますから、私は娘のはうですと敎育のはうも存じて居りますが、掛りでございませんはうは存じません、けれど、主人に尋ねますとすぐに分りますからお聞かせ申しますよ」

と、實に夫人はしとやかにお優しいうちにも、お氣輕に、お話し下さいますのはまことに上流の御夫人方のよきモデルと申上げたく、記者は獨り心中に、あゝ夫人は優美、淡泊、誠實の美質を備へてお出遊ばすと感じ入りました。

▲花しやうび

色白う艶かな、怜悧のお額、頬のあたりに愛嬌づき口元やさしう、二重瞼のぱつちりしたお眼は、何となう、上品に淡泊に、愛を湛えて、しかも、溫雅な風を示して居ります、今年夫人の御歳は三十九才にお成りになるとは承りましたが、ことに御眼御口元のあたりにわざとならぬ少女の若やかなのを宿してお出で遊ばします、中背で、よきほどに肉づいて入らつしやいますのに白地の召物をめして、團扇を片手に、客間の椅子にお掛け遊ばした御様子は、白うばらの一輪、錦の褥の上にあるかのやう思はれました。

「主人は何でも好きなはうですから、お話すきでもございます」と仰せながら、つと、お起ちになり、しばし彼方へとお越しになりましたが、やがて夫人と共に、客間にお出で遊ばしたは、

▲子爵の君

即ち當家の御主人公で入らつしやいました、子爵もお心安い御挨拶で「あなたは○○さんの妹？」と仰せながら、椅子にお腰掛になり「當家の家庭と申しましても……」と、口火を切つて仰出られましたは、矢張夫人御同様、御謙遜のお言葉でした「別段私が家庭内に規則を立てゝやらせて居るでもなし、斯うと取り立てゝお話するやうな事もありませんがな……然し私は隨分話好きな方ですから、度々いろ／＼の人がやつて來て、意見を聞きたいとか、やれ大名の家庭は何う云

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふものであるか、話して貰いたい抔のやうな事を尋ねられるんです、一體私は大名の家庭と云ふものは好まんです、又模範になるべきでもないと思つて居りますが、意見は中々有つて居ますから、問はれると答をいたして、自分の意見と云ふものを發表いたすのは差支ありません。」

▲令嬢の教育

「子供を教育するには可愛がつたり、悪弊のあるときは譴責もしたりして、結局、賞罰ともに行つてしなければならんのですが、私共では、子供と云つては娘が唯一人ありまして、身体が弱いのですから、何うも、私共は、情を以て育てるはうが重くなつて行きますですから、邊から見るときは、可愛がり過ぎる抔と思はれる



こともありませうが、實際弱い子供を有つては、事情に流れてしまいます、一体私は人の事に干渉することは極く嫌な質ですから、人の事に就いては何彼と口を入れません、其の代り、自分がよいと思つて致すことを、人に干渉されることも大嫌なので……娘に英語を學ばせて居りますが、教師は外國人なんですよく人が私に外國人を頼むよりも、日本の教師を頼めば月給も安値、餘程經濟にやつて行かれると云はれますが、此様話は成程一理あるやうに聞こえます、勿論、經濟は經濟です、が、また私の考にも道理がないことはない、私の考をお話すれば、斯うなんです、日本人よりも外國人のはうが祖國の言語を教へるに發音が正確い、の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

みならず、洋行させたいと思つても、身躰が薄弱ために出來んから先づ外國の風俗、外國人との應接方を學ばせるには、外國人を聘するはうが優つて居る、外國人から學び、外國人と交際いたす内には言語、動作を見聞して、知らず〳〵會得いたすのですから、私のは經濟の點よりは、結果を豫想して、人が斯う云つたからとて方法を、變へずやらせて居るんです、けれど、私が是れ程注意して致す積りで居つても果して娘が勉强の結果は善くなるか、何う成るか、其處までは分りません、其れは又論外です、唯、私は、凡てに結果と云ふものは當人にある事で、方法は良いものを撰んで施さねばならんと思つて思ますので、結果が惡るかつたから、良い方法でも絶体的に施さぬといふ事は贊成されません、其れこそ不可行こと〻思ひます。」と熱誠込めてお話になり、其れより女子敎育へとお話が移りました。

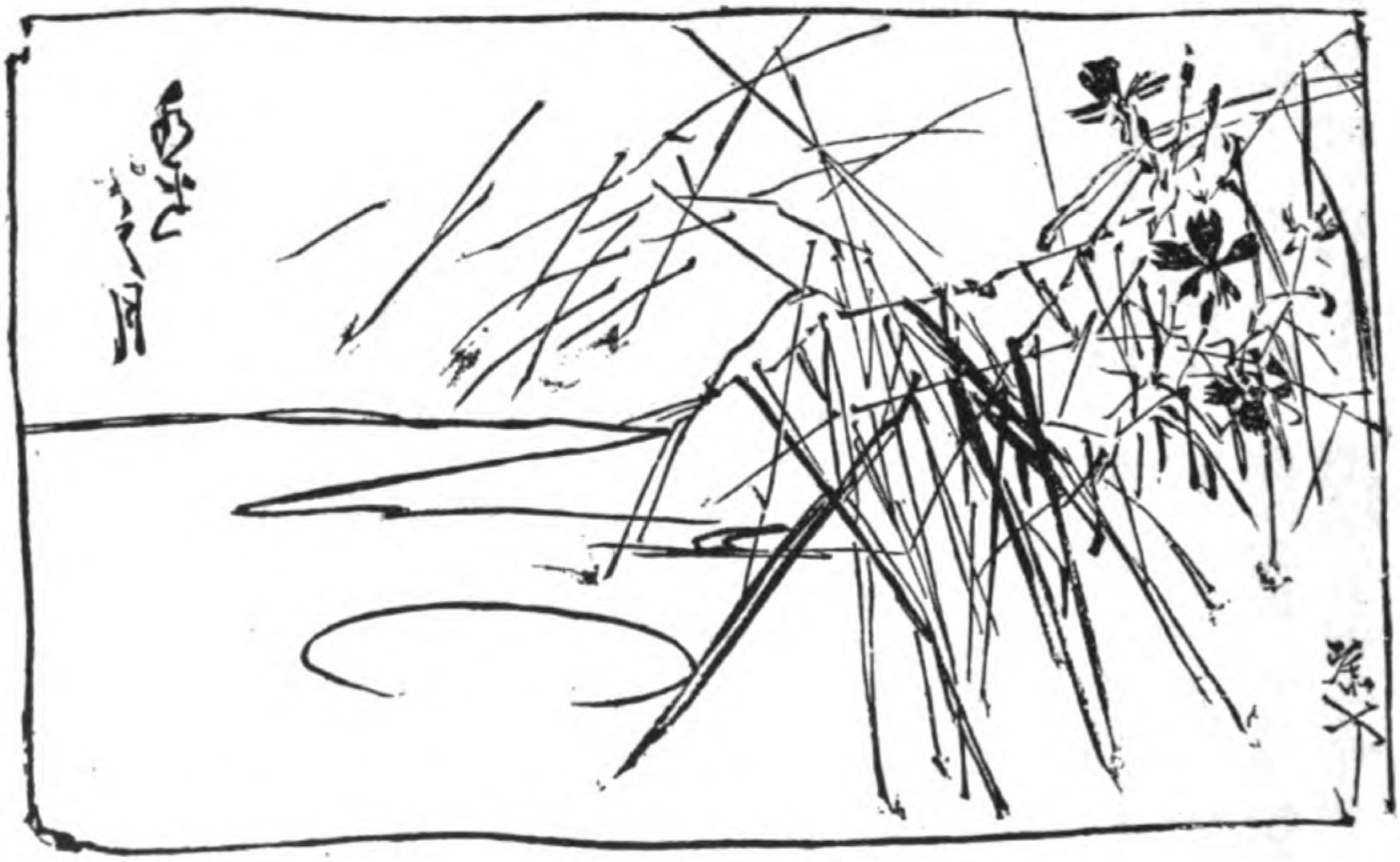
▲子爵の御意見

「處で、十數年此の方、女子の敎育は都鄙ともに餘程盛んになつて參りました、女子も男子に劣らず、勉强をいたすやうになりました、之れは結構な事です、學問した女子は兎角生意氣に流れ易い、之れは些と失禮ですが、中にはあつたんです、其れを見て、人が、女に學問をさせた爲に傲慢になつたとか、不品行になつたとか、申て、學問其の者が惡いものかのやうに云ひ立て〻、女に學問は無用だ、害物だなど〻極端な說を唱へて、女子の無學無識を奬勵するやうに成つた、餘り理の分らん說です、どし〳〵歐米各國と交際をして行く今日、日本の女子に學問がなく、品位が低くければ何うなりませうか、男子の學識が高くなつて行くと共に、女子の知識も並行に進ませねばなりません、弊害ばかりを見て、學問を罵つた人が多くあつて、一段衰弱した女子敎育も、幸に盛んになつて來ました、左樣あるべき筈です、社會の進歩に連れ、歐米と肩を並ぶるやうになつた今日、何うして女子敎育ばかり舊式を取つて居られませうか？」子爵は猶も種々仰せ出られました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲理解力は學問に因る

『格別女子は感情の強い者です女子に學問は禁物だと云ふ人々も感情から割出した話なんですがな、先づ、大多數に於て、女子は感情が強い、嫌やと思ふものがあらうものなら、何う云ふ理で其れが惡いかを判別しないで、徹頭徹尾惡いものと視做す、だから、度々善いものでも感情上惡いとし、又惡いものでも氣に適つた事ならば善いとしてしまうのです、學問と云ふものは、理解力を養ふものですから、物事を論理的に考へさせる、縱ひ善いと思つても、理を究めなければ、眞に善いと思はない、嫌いなものと思つても、嫌ふ道理



がなければ、決して嫌ひはしません、是れは即ち、智で以て判斷をするので、所謂、學問の力の致す所ですから、私は何處までも、男子の教育の高くなると同時に、女子教育をも奬勵いたすのです、善い方法を與へても、折々結果が惡しくなることは、受くる者の精神が腐つて居るのであつて、其れがために善い方法までも惡しく致すのは、感情に因つてもの丶善惡を定めるので、大に誤て居ます。』

▲けれど

『女子が學問して男化すると云ふ心持があつてはいけません、女子は女子の本分を保存して居らなければなりません、世には

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子を生むは女子の本分であると思つて居る人がありますが、子を生むのが女子の役目とするならば、實に下等な考へではありませんか？だが、母となつて子供を敎育するのは、女子に取つて立派な役目です、……此の重大な義務を果すには、是非とも、學問が要る、故に女子にも高等の敎育を與へねばなりません、學問が進んだとて、母と云ふ美しい義務までも蔑視するのは、之れがつまり、女子の男化したと申すもので、其れはいかんです、又子を生むのが女子の役目であるから、學識は要らん、料理を覺えさせて、自分でやらぬとも、下女に指圖するやうになれば、女子は充分であると思ふ者も誤つて居る、女子の品位を下落するのですから」

▲無爲に居るは精神を腐敗す

「法律は人の精神が腐つた爲に設けられたものですから、一個人から一家内に、又、其れから社會一般に及ぼして、精神が腐つて居らないものならば、法律抔は用のないものです、精神を腐敗させぬやうにするには氣力がなければなりません、ところで、我々華族は、何うも邊の者が、やれ華族樣はさう遊ばすものでない之れもなさるな、其れもお止め遊ばせと云つて、無爲に日を送らせるのは自然無氣力の人間にしてしまうのです、私は無氣力になることを最も嫌ひますから、始終何かして居ります、結果は兎もあれ、氣力を失はないために、勤めるのはよい事と思ひます、氣力が過度ても向見ずに走りますが、極端に何れがよいかと申せば、私は無氣力よりはまだ向見ずのはうを採ります。」

▲眞の利益、眞の名譽は自然に來ます

「無理に利益を得たいと思ふときは、不法な事もし、人道にも悖ると同じく、無理に名譽を得たいと思ふときは、名譽の奴隷となつて、大切の命を棄てるのを何とも思はぬ者があります……然し、忠君、愛國と云ふのは日本人の美點でありまして、臣民は忠孝の義務を盡さなければなりませんから、義務を盡すために命を棄てるは、自然名譽を招くのであつて、之れが即ち、眞の名譽ですが、名譽を渇望して、命を輕くするのは感心しません。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲儉約

「は二ッあります、德義上のと、經濟上のとです……上の者が、下々の者の貧困を思ひ遣るために、香々で茶漬を食べる、之れが德義上の儉約です、成程昔は此樣な道德家があつたんで、今も猶ありませうが、私は經濟から割出した儉約でなければ致さぬと云ふ主義です、德義上のは感心は感心ですが、何うも今日のやうに智識か進歩いたすに伴つて、躰育にも注意しなければなりません、躰を强壯にする滋養物を食べなければなりません、ですから私は經濟から割出した儉約の方を、自分にもいたしたり、又家内の者にも致させたりして居ります。」

▲敎育費生活費交際費

年割にて諸種の御費用を伺ひたく、お話いたしましたところが、子爵は、いとお氣輕にお答へ下さいました、「娘の敎育費は一切家内が存じて居ります、其の他は私から申ませう」と、其時夫人は、微笑を漏しながら、「デェングさんに五十圓、松田さんに十七圓、月々差上げて居ります」と淡泊にお答へ下さいました、子爵は「そこでゞすね、養子の敎育費も合併して、年に一千圓、其れから、生活費、交際費と區別することは六ヶ敷いですから、一纏にして一ヶ年二萬圓以上ですけれど、軍事に献金至すのは、臨時に出すのですから是れは二萬圓以外のものです、前申た通り、私は經濟上の儉約を奬勵して居りますから、何うも香々に茶漬では濟ませませんで、費用も些と張ります、はゝゝ」と委しうお話下さいました、面白いお話を承りまして時刻の過つのも忘れてしまい、正午もいつしか過ぎて記者は子爵と、夫人との御優待下さるを、其儘歸宅いたされず、夫人の御案内に食堂へと導かれました。

▲食　堂

此處も、西洋造の廣い室、大きな食卓には、ま白の布が掛けられ、四圍に、幾つとなく椅子が並んで、大きやかなる油繪は彼處に、此處に壁に掛けられ、窓に映じて居るは眠りに沈んで居るお庭の樹木枝葉でしたさすがは体育にも御注意深い子爵と令夫人、記者にお

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進めになりましたは滋養の美味のみ、……食事後、お庭の小高い處を拜見いたし枝吹くそよ風に袖を飜して客室に入り、夫人と四方山のお話をいたしました。

▲蔚堂閑話

やがて、夫人は一冊の書をお取りになり『是れは、主人の話を集めまして、此頃發行になりましたから、差上げます』と仰せられて、記者に下さいました。何れ此の御高著に就ては紹介する機會も御坐いませうと思ひます。

▲御家從召使

をお尋ねいたしましたところが、夫人仰せられますには、只今よい家令、家扶を尋ねて居りますが、見當りませんで、家從を三人置いて居ります、はい書生一人に取次のはうはいたさせて居ります、馬丁ですか、一人、御者も一人居ります、上女中は五人に、下女中二人でございます、臺所料理人は三人でございます』と、種々お話下さいました。

お暑いのをお厭ひなく記者にお會ひ下さいました御親切と、御厚意とを夫人に謝して、お暇いたし、玄關までのお廊下を通りますと、先刻氣がつかざりし唐銅の大きな鶴一羽、右側に立てられてございました、記者はお見送り下さる夫人に今一禮お別れいたして、車に乘り、歸途に就きました。（をはり）

涙の競爭

本年四月米國市加古市にて婦人の泣き競爭と稱する珍しき競爭ありたり、其目的は葱類の如き刺戟質の助を假ることなくして五分間に能く幾何の涙を出し得るかを示すに在りし由なるが、之に對する賞與は一等二百圓、二等五十圓、三等二十圓の三種にして、競爭の結果グリヰンと稱する孃、豫定の時間即ち五分間に三十一滴の涙を落し得たるを最も多數として一等賞を得某と稱する既婚婦人次に十九滴の涙を落し得て二等賞を得、某孃僅かに十四滴の涙を落し得て三等に有附きたりとのことなるが、悲しきとも憂きともなきに無理に涙を流さんと藻掻きし各競爭者の樣子と云へば何れも見ものならざるはなく、見物人一同腹を抱へて笑ひ倒れしと云ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

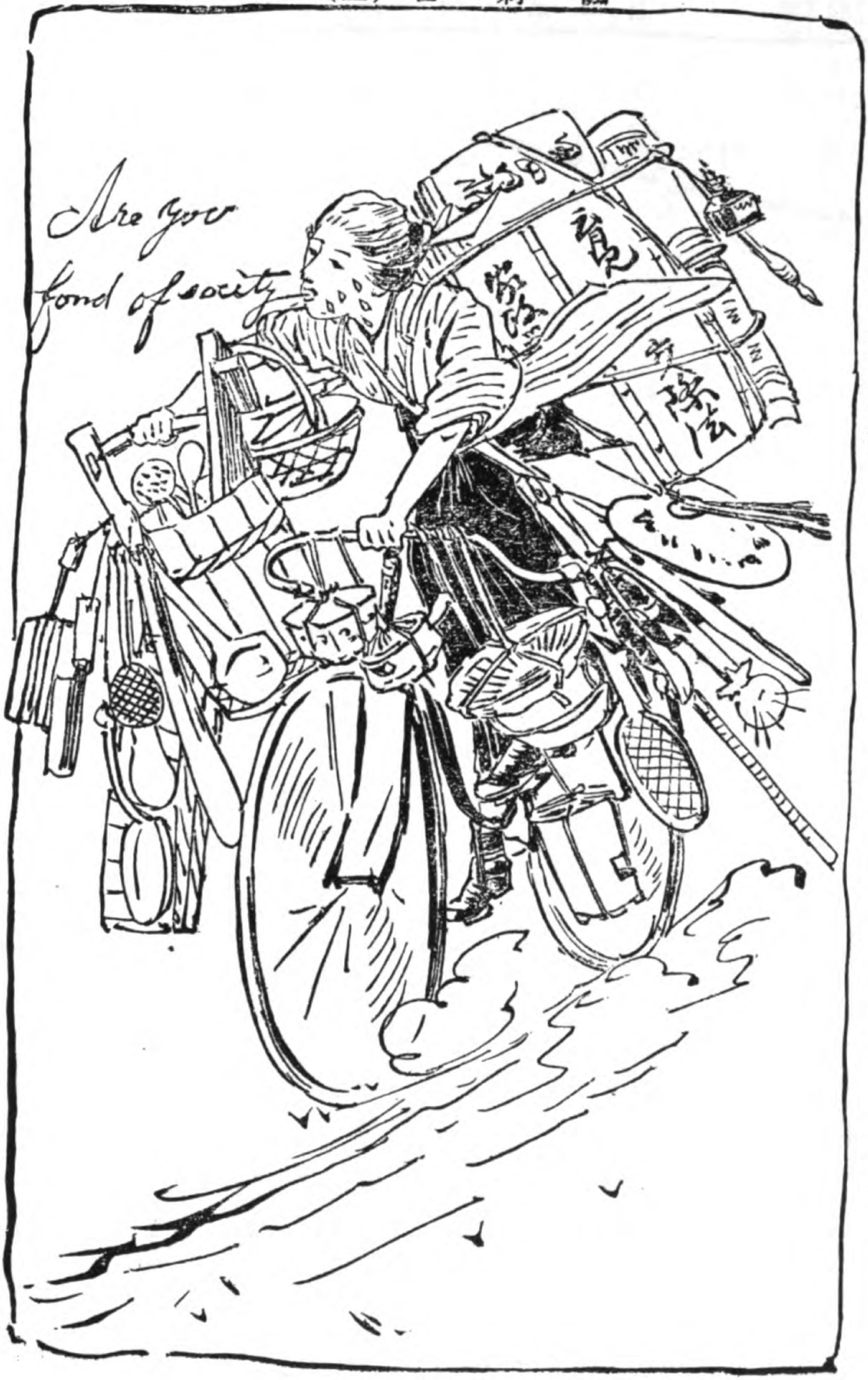
諷刺畫（一）



彼女は糸竹の道に暗からざりし、彼女は敷島の大和言葉をよくせり、而かも彼の女は何を爲せし歟（過去）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

諷刺畫（二）



彼女は家政を學べり。彼女は英語を習へり、彼女は料理、裁縫、音樂、理化、博物のあらゆる學術を習へり、而かも彼の女の荷は重くして路甚だ遠し（現在）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭雜感

巖谷小波

▲辛抱氣の無い國民

遼陽、旅順を一段落として、日露の交戰も、玆にその第一期を了らんとして居る。次いで來るべき第二期戰は何時？　思ふに來卅八年に成らねば、この二幕目は開かぬだらうが、これが平和の大詰を告げて、めで度く打出しに成ると云ふには、まだ何年かゝるか解らぬのである。

然るに我が同胞の多くは、この第一期戰の濟むと濟まぬに、ヤレ祝捷の賀勝のと、まるで戰爭が局を結んで、全然大勝利を占めたかの樣に、喜び狂ふ氣の速さ、――否、そゝかしさ！　片腹痛い沙汰ではあるまいか。

祝捷、賀勝、必しも惡い事では無い。之に依て士氣を鼓舞し、人氣を引立たせる事が出來るとすれば、寧ろ奬勵して可なりであらう。

が、その實無意味のお祭騷ぎか、さなくば漸く戰爭に倦んだ者の、强いて悶を遣るに過ぎぬとすれば、頗る忌むべき現象と云はねば成らぬ。況んや開戰當初に於ける、勤儉貯蓄、以て十年の戰苦に耐へやうと云ふ、天晴れ軍國民的覺悟の、次第に弛み行く傾向のあるぞや。

さりとは辛抱氣の無い國民や！　是が世界の强大國を敵手に、見事連勝の名譽を博した、勇敢無比なる將士の同胞とは、ちと受取り兼ねた次第である。

▲賴みに成らぬ留守番

軍人援護會の、遺族慰問會の、奬勵會の、恤兵會のと、一時は雨後の筍の如く興つて、美名眩ゆき斗りに世を照らして、大いに人意を强うした、軍國的公共事業も、世は相變らず軍國なるに關はらず、その活動の自然鈍りつゝあるが如きは、一體如何したものであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らう。

成る程それ等の會は、皆形の如く存在して居る。また活動して居るに相違無い。が、畢竟世間の之に對する熱心が、次第に冷めて來たのであらう。

然るに會その物は、今後ます〳〵必要に成るので。今日以後にては、益々活動せねば成らぬのである。一度すればそれで濟むものと、はや高を括つて居るのではあるまいか。勤儉も貯蓄も、開戰の當時丈行ればよいものと、獨合點をして居るのではあるまいか。

一時誰やらの煽動に乘つて、時計も指輪もなんにも入らないと、これを日本銀行へ納めてしまひ、乃至髮も束髮に、服も綿服にと、見事軍國的に改めた人々も、何うやら此頃では、髮も結はせれば、服も絹布を纏ひ、果は新たに時計を買うて、指輪も更に注文するに至つたやうだ。

恐らく此種の連中は、もはや號外の聲を聞いても、手に持つ煙管を置かうとはせず、毎日の新聞は取りあげながら、二號活字の戰報は後廻しにして、六號活字の芝居便りに、まづその眼を着けるのであらう。こんな連中に留守を頼んで、戰場で汗を搾つて居る者こそ、思へば氣の毒千萬である。

▲妻の覺悟

夫の氣に入る細君、必しも家の利益を謀らず。世間で評判の好い奥さま、又旦那樣を滿足せしむるとも限らぬ。

が、抑も人の妻たる者は、夫の爲めの者であらうか。家の爲めの者であらうか。はた世間の爲めの者であらうか。

無論妻は夫の爲めの者、世間の爲めの者では無い。而して夫の爲めとは、同時に家の爲めであらうと、かう云ふ人もあらうけれど、夫の爲めと、家の爲めとは、自ら違ふと思はねば成らぬ。

眞に家の爲めを思ふ妻は、時として夫の機嫌を損じる事がある。否、その夫の爲めを思うてすら、勢ひ之

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と爭はねば成らぬ事さへある。
畢竟人の妻たる者は、夫の爲めとも、家の爲めとも、世間の爲めとも偏せず、期する所をその家の幸福に置き、その幸福の爲めには、塲合に依つて夫とも爭ひ、世間とも背く事のあるのを、豫め覺悟してこそ、その賢なる者と云つて可からう、

▲夫婦喧嘩

夫唱婦隨とは、千字文で已に敎へられて居るが、これも琴柱に膠の解釋は出來ぬので、さう〳〵夫に盲從する計りが、妻の態とも云へないのである。
これが日本風の夫婦で見ると、多くは前に馴染の無い者が、結婚と同時に、初めて知合に成るのであるから、當座は互ひに遠慮をして、云ひ度い事も云ひ切らない代りには、見苦しく罵り合ふ事も無いが、西洋風の自由結婚では、以前に双方とも懇意に成つて居るから、結婚後ます〳〵親密に成るに連れて、互ひに我儘がつのるので。果は顔を赤らめ合ふ事の、決して少くは無いのである。
一體男女の關係は、結婚するまでが所謂る花で、色も香もその間にこそあれ、一旦夫婦に成つてしよふと、即ち果實と成るのであるから、それが圓滿に熟して、甘い味の出るまでには、澁い、苦い、乃至は酸い時代をば、如何しても經過せねば成らぬ。
例へば双方娘と息子で。一向世間を知らぬ間は、戀も愛も單純なもので。實着な慮よりは、兎角空想のみ逞しく成る。然るに夫と呼ばれ、妻と呼ばれ、共に一家を持つ事に成ると、茲に世帶の苦勞、世渡りの懸引と云ふものが必要と成り、今までの樣な空想では、迚も實地に當られなく成る。
於是、或る者は失望し、或る者は落膽し、また或る者は自棄にも成り、隨つて、樂しかるべき夫婦の間に、時々衝突の止むを得ぬ事などあつて、思つた程は面白からず、却つて胡馬の北風に嘶く如く、獨身時代の氣樂さを、私かに戀しがる連中のあるのは、往々にして聞く所であるが、是も畢竟その人々の、世間不知から

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

起る不平で。やがて浮世の風に馴れ、社會の浪に親しんで來ると、また心機一轉して、當初の失望は更に希望の光明を認め、獨身時代には殆んど想像も出來なかつた、一種の快樂を見出だす事が出來、是に至つて、初めて家内安全の、甘い果實を結ぶのである。

是を思へば夫婦喧嘩なるもの、必しも之を斥く可らず。寧ろ屢々喧嘩して、遂に琴瑟の和合を得るのが、却つて家庭の秘訣であらう。

▲未亡人の救濟

「一生困らぬ」とか、「生涯氣樂である」とか云ふ事を、随一の條件にして、嫁入先を極めた時代は、もう過ぎ去つてしまつた筈だ。

女は三界に家無しとか、百年の苦樂男子に依るとか云つたのも、もう今では通用せぬ句で、男も人間なら、女も人間と、大分婦人の頭を持ち上げて來た今日。それでも夫に死なれた妻と、妻に死なれた夫と較べて、何方が途方に暮れるかと云へば、別に論を俟たずして、妻が此場合の當惑の、夫のそれに比して幾倍なるかは、何人も認め得る所であらう。

假に女大學主義を絶對に排して、婦人も亦男子の如く、その配偶を失つた場合、更に第二の配偶を求めて、決して差支無いものとしても、その目的に於ては、自から之を異にせざるを得ない。

即ち男子の之を求めるのは、その家の爲めであるが、婦人の之を求めるのは、全くその身の爲めである。男子は己れの世話をさせんが爲めに、後妻を迎へ、婦人は己れの面倒を見て貰ふ爲めに後夫に嫁す。其間雇主と雇人との差のあるのが、我邦現今の有様ではあるまいか。

今や日露戰爭の結果は、一時に寡婦の數を增すので。之が救濟を講ずるのが、そろ〳〵問題に成らんとして居る。

而もこの救濟の道が、多くは再婚を勸めるのにあり、之に依つて彼等が前途を、所謂る氣樂ならしめ、困らしめざらんとするが如き、御親切は即ち御親切と雖も、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さりとは世間の婦人と云ふものを、是では矢張り安く見て居る。知らず幾多の未亡人諸姉、之に對して何等の感かある？

▲家に嫌はれる客、客を嫌ふ家

大低何所の家にも、歡ばれる客と、嫌はれる客とがあるもの。そしてその歡ばれるのは、滅多に來ぬ丈一層歡ばれるが、その嫌はれるのは、繁々來るので増々嫌はれる事に成る。

然るにその嫌はれる客は、兎角人の寐て居る時や、食事の時分や、或は取込んで居る塲合に來て、而も長尻を据ゑ込むものだが、それに依つて自分が嫌はれるとは、また一向氣が付かない。否、それに氣が付く程なら、また人に嫌はれもしまいが……

所で受身に成つて見ると、忌な客人、生憎な訪問と思つても、流石にこれを面に見せて、歸れがしにも扱へないから、餘儀無く世辭を云はねば成らぬ苦しさ。主人として此位迷惑は無いのだ。

同じ人間でありながら、同じく人を訪問するのに、甲は大いに歡ばれ。乙は甚だ嫌はれること、偏にその性質にもより、人徳にも依る事であるが、少しく意を用ゐれば、必しも人に嫌はれないで濟むのを、氣の付かぬとは云ひながら、自から人に嫌はれに行くこと、かへす〴〵も淺ましい。

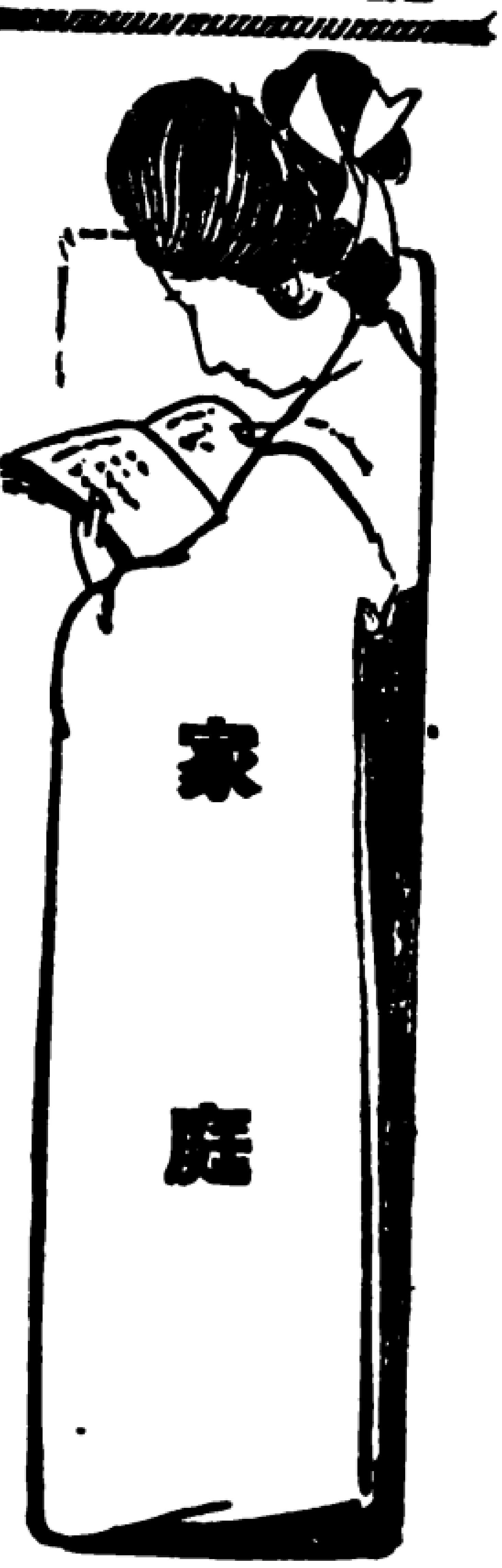
尤も家に依つては、その相手の如何に關らず、客を喜ぶ家と、客を嫌ふ家とがある。折角遙々尋ねて來た客をさへ、無愛想にあしらつて歸へし、度々來る客人には、居留守を使つて追拂ふ。

かう云ふ家では、大方門がメ切で。玄關に心張棒がかつてあり、偶々奥へ通されても、煙草盆の火が直ぐに消えて、茶は出がらしの温いのを出す。

行つても甚だ不愉快であるから、自然客が寄り附かないが、家ではその寄り附かないのを、結句喜んで居るのであらう。

兎に角家に嫌はれる客と、客を嫌ふ家とは共に閑却せぬ所である。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



出征 軍人の留守宅へ

在戰地　坪谷水哉

稱して出征軍人といふ、上は總司令官より、下は下士卒に至るまで、其數は數十萬に上るべし。此等の將卒一たび戰地に臨めば、皆生きて本國に還るを期せず、屍を異域の野に埋むるは、豫ねて覺悟の前以て、戰地の消息の如きは、一々細かに之を留守宅に報する者は極めて稀に、偶たま軍事郵便の私信を發しても、僅に無事を知らするに止め、多く其他を言はざるは、寧ろ軍人氣質の眞面目なるべし。去りながら留守宅に在る家族の身としては、神に祈り、佛に願ひ、出征者の身に不慮の怪我なく、花々しき戰功を奏せられんことを期し、隨つて戰地に在る人々の消息は、成るべく詳かに知らんと欲するは、普通の人情なるべし、幸ひに余等は筆と携へて戰地にあり。請ふ出征軍人に代り、略ぼ從軍中の境遇を述べ、世の數十萬の留守宅家族に傳へん哉。

數十萬の我が出征軍隊、分れて摩天嶺方面の軍、大石橋方面の軍旅順方面の軍、及 析木城方面の軍と爲す其中に、〇〇〇の兩軍は、今はともに〇〇附近にあり、旅順より摩天嶺までは、殆ど一百里を隔て、氣候風土元より至大の相違あるべく、余等は今其等の地を距ること遠く、此に其の消息を語るに由なきも、〇〇〇〇の兩軍には、日夕往來して略ぼ一斑の情況を窺ひ知りぬ。故に今は專ら海城附近に駐屯する出征軍人の境遇を語るべし。而かも他の方面に在る軍人とても、類推して之を知るに、必しも大差なかるべきを信ずるなり。

〇〇軍の始めて五 月上旬遼東半島の一角に上陸する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

や、陸上には舍營すべき適當の宿舍稀に、野は一面の漠々たる平沙、風吹けば砂煙天に漲り、輜重の車輪は沙中に沒すること一二尺、眼鏡をかけざれば路を行き難く、加ふるに淸水少なく、新たに井を掘り、水を求むる程にて、手足を洗ふ水だに得難く、食糧品は、輜重の運搬續き難く、半熟の飯に罐詰の副食物、僅に饑腸を慰さめ、新鮮なる肉類、野菜の類は、一も徴發に由なく、生活には頗る困難を極めたりしと聞くも、今は平野盡とく黍、粟、大豆などの穀菜を以て蔽ひ、砂塵の眼を襲ふこと稀にして、また塵埃除けの眼鏡を用ふる者なく、村落は各地に散在して、駐屯の兵は大概、土人の家に舍營し、最早靑天井の下に露營するが如きこと無し。

滿洲の暑熱は日中百三四十度に上り、隨つて日射病に罹り易しとは、また豫ねて聞く所なりしに、成程日中は盛暑に百度以上の暑熱なりと雖も、涼風面を拂ひ、且つ北に進むに從がひ、路傍に樹木茂り、徐ろに暑熱を綠蔭に避け、殊に普蘭店以北には井水頗る淸冽にして、久しく手を水中に浸せば、痺るゝ計りに冷たく、口に入れゝば流汗忽ち消散する位にて、行軍中、兵士の、日射病に罹りしを聞くこと、極めて稀なりしは、實に意外とする所なりき。

滿洲の雨季とて、恰も內地の梅雨の如く、七月より八月に通じ、約一ヶ月間に每年霖雨の期節として知られしに、其れも今年は、七月中雨天稀に、漸く八月に入り、十二三日頃より二十日頃まで、連日の降雨、道路を泥田の如くに化し、行軍には非常の困難を感せしめたるも幸ひに其れも一週間計りにて雨は霽れ、其後は好天氣打ち續き、暑熱も稍や減じて、最も人身に快き時期と爲れり。況や節、秋に入り、到る所の村落に蔬菜多く、葱、茄子、南瓜、隱元豆、大角豆、などは、相當の代價を拂へば、好むまに〳〵買ふことを得、雞雞卵なども、また甚だしく高價ならず、雞は一羽六十錢、雞卵は拾錢に四個位にて、自由に買ふとも出來るなり。

戰地にては生じ易き流行病も、今回は至つて少なく、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

コレラ病などは全たく無く、赤痢は少しくありと雖も激しく流行するとにはあらず、飲料水は、大抵一旦沸かしたるを水筒に入れて腰につけるも、暑さの爲に飲み盡くし、不圖井水など多量に飲みたる者、偖は瓜西瓜などの菓物を遠慮なく食したる場合などに、下痢を起し、食慾絶へ、一時に四十度に近き熱を生じて、腸チブスにはあらざるかと疑はるゝこともあるも、數日にして癒るを常とし、一般に稱して滿洲熱などゝ呼ばる夜間の暑きまゝ、身體を暴露し、腹を冷やしたる爲に此の病を醸す者も多しとぞ。去りながら概して軍隊の衛生狀況は、極めて良好なるものといふ。

戰地に在りては、將卒ともに唯一の快樂は、唯だ飲食物のみ。住宅を飾る必要もなく、衣服は總て軍服の外に用なく、毫も裝飾を施こすに及ばず。それも服裝を異にして示すべき婦人にてもあらば、或は身邊を飾る野心も起る然れど、到る所に土人の婦人は盡く陋れて影を見せず、隨つて不養生の爲に三等症などゝ呼ばるゝ病院入りの患者なく、髭を剃り髪を梳るだに慵うく、日に燒けたる垢面に、口の周圍一面鬚髯を伸ばし、見るも怖ろしげなる顏色の人、軍隊にては最も顯よ相に見へて幅は利くなり。

食物の軍隊より給與せらるゝは、牛肉罐詰、福神漬、鮭罐詰、などを普通とすれど、時には切干大根、若布蓮根、牛蒡の壓搾して乾たるものなど、陸軍糧秣廠の製造に係るもの、往々にして口に入る。況して到る所にての徴發品を以て、小豆飯を焚き、または挽割の麥飯を利用し、薯蕷を土人より買ひ、トロヽ汁なども出來ることあり。其の方法は、罐詰の鐵葉を平たく伸ばし、釘にて數多の穴を穿ち、其の背後の膨れ出たる所にて、薯蕷を摺り、醤油のエキスを溶かして下た地液を和す、仲々の珍味なりといふ。

蓋平海城などの地にては、二週間乃至三週間も滯在したれば、其の滯在中の無聊を慰むる唯一の快樂は、所謂飲むと食ふとの二方法にて、飲むべき酒は、各軍隊または兵站司令部附の酒保に往けば、何時にても買ふと得、其の直段は、運搬便利の有無により、非常の相

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

錢ありて、二合入りの正宗一本、三十錢なる所もあれば四十錢の所もあり。麥酒などは、一本七十錢位の所もあれば、五十錢の所もあり。最初陸地より運ぶ頃は非常の不便なりしも、南山戰勝の後、柳樹屯、ダルニー等の地は、我が有に歸し、糧食は此等地方より運ばれ、續いて營口も我が軍の手に歸し、御用船の此所に入港するを得るに至りて、總ての輸送に至大なる便利を得、今は海城あたりには、內地の朝日麥酒、ヱビス麥酒など、夥多しく輸入せられ、御蔭で數日前まで六十錢の麥酒は、忽ち五十錢に直下げとはなりたり。海城にては、兵士を市中に入らしめず。東西南北の四門には、晝夜歩哨兵立番して將校にても、市中に入ることの許可證ある者の外、一切入るを許さず、故に市場は四門の外に開かれ、中にも南門外最も賑やかにて、凡そ日本軍人の好み相なる物は、大抵陳列し、麥酒、コンデンスミルク、紙卷煙草、齒磨粉、手拭、手帳、鉛筆、寶丹、梨の罐詰、鳳梨の罐詰など、大道中に積み上げて、片言交りの日本語を用ひ、ヨロシイ、マケル、など、言ふかと思へば、強く直切れば、ポコペン、ポコペンと叫び、其癖錢を見せるときは、多くは負けるなり。而して門內に這入られざる兵士等は、入り變り立ち變り、朝から晚まで非常の雜沓を極め、隨つて直段も餘り高からず、大抵內地の倍額位にて買はる。

尤とも各軍隊の酒舖に往けば、大抵の日用品は買はるゝも、其の直段は仲々高く、加之に酒保の商人頗る橫柄に將校に對しては左ほどならぬも、兵卒に向つては、適當なる代價を貪ぼりながら、宛かも賣り下けて遣はすといふ樣なる顏するに、不平やる方なけれども濫りに隊外へ出ることとならぬ身は、據なく、願ふて賣て貰ふといふ始末にて、シカモ一箱の紙卷煙草に十錢を拂へば、補助輸卒などは、二日分の日給は、忽ち煙となる次第なり、實に兵の身の憫むべきと共に、小面憎きは彼等酒保なり。

昨今は月末頃の時候に就て言へば、朝日は午前六時十五分頃山の端を出で、夕には七時三十分頃に、平野

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の低く天に接する所に沒し、晝間の暑き盛りは、寒暖計九十五六度、夜間は五十五度位に下り、宵の間の、暑きに慣れて、迂ッ濶り衣服を薄くすれば、忽ち夜明方の冷氣の爲に、腹を冷やして例の下痢を釀すとある。なり。時恰も陰曆七月十五六日頃、月は空に懸りて晝よりも明くなれば、田舍出の兵士が、宿舍附近の畑中に集まり、手拍子可笑しく盆踊りを爲すなど、先づは陣中絶好の快樂なるべし。

陣中の消息、數へ擧れば衣食住總ての境遇、なか〳〵一朝夕に盡すべからず。要するに戰地に在る者は留守宅にて心配するほど不自由にあらず、また案ずるほど危險もなく、比較的に呑氣なる生活を送るも、去りとて夫人方の氣の揉める艶福は無し、故に留守の家族は、須らく安心して陰膳を寫眞に供へ、目出度く金鵄勳章下げて凱旋の日を待たれて可なるべきなり。(終)

婦人は婦人らしくてこそ其天職を全ふするものといふべし　グラドストン

主婦と職業

羽仁もと子

家婦の他に何等かの職業に從事するとの可否得失は、種々の人々によつて樣々に考へられて居るやうでありますが、日本に於て是等の議論をする方は、多く男子で御座います。事は家庭と最も重大な關係を有つて居る問題でありますゆへ、勿論男子の感想を聞くとも必要でありますが、實際かゝる境遇に居る女子自身の經驗を記載するそも、また無益ではなからうと思ひます

▲その不便

御承知のお方もありませうが、私共は私共の家庭の事業として、家庭之友といふ雜誌をもつて居ります。そして主人自身はまた他に煩劇な職業に從事いたして居りますゆゑ、その月の編輯の大體に就て相談しますと、あとは殆ど私一人の手にかゝるとになつて居ります。それゆゑ學校などに勤める方々のやうに、毎日

時間をきめて、何時から何時までは、是非出ねばならぬといふやうなことはありませぬけれど、訪問やら考へることやら書くことやら、若しも時間に見積るならば、日に五時間づゝ必ず學校に出る方よりは、むしろ多くの時間を雜誌のために費して居るのでありませう。私はこの事のために始終不便を感じて居りますことは、他の行届いたお家に訪問つて、お庭の隅々までも、下婢まかせではなからうと思はれるやうな心地よさを見、また強ちに高價な材料でもないものが、料理の込み入つた手數のおかげて、食卓の珍味でもてはやされることなどを見ました時は、若しも私も家事の外何の用事もない身體であつたなら、あの樣な御馳走も、こんなお料理もこしらへて見ることが出來るのに、その樣なことに工夫を凝らし、また手を下す餘裕がないので、我家の生活などは不經濟でもあり、また恥かしい程に殺風景だと思ふことが度々あります。

そしてまた主人も私も、家庭之友の經營には、種々の希望と多くの興味を持つて居りますゆゑ、その爲に起る不便や骨折は、何とも思はぬのでありますが、雇人などの身になると、此方は出來るだけ斟酌もし氣もつけて居りますけれど、主婦が始終家に居て、萬事の世話をするよりは、困ることも骨の折れることも必ず多いであらうと、現に外に出て歸りの遲れる時などは、氣の毒に堪えないことが御座います。子供はまだ去年の四月生れました女の子一人きりでありますゆゑ、始終家に居るなら斯うもアゝもと、思ふことは種々澤山ありますけれど、用事の多い割りには隨分氣をつけて、留守中のことは世話をするものに、よく〳〵云ひつけ、夜から朝は自身に世話を致しましたので、幸に今までの所では寐起、食物、通じその外すべて思ひ通りに參つて居りますゆゑ、私に用事の多いことは、子供のために別に氣の毒だといふほどの害を殘さずに濟みました。

なほモー一つの不便といふのは、始終家に居て家内の仕事のみなさる方には、外から家事以外の用事を持つて來られるやうなことはあまり無いのでありますが、何かその外に仕事をもつて、折々外に出ることになります

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と、忙はしい上にまた種々な用事が何所からともなく出て參ります。私などは一體ごく片寄つた性質でありまして、自分の生活の事業だと信じて居りますことには隨分一心になりますけれど、あれもこれもと、種々のことに盡力するなど　いふことは、どうしても出來ないので御座います。强ていたさうとしましても、元よりその様な才智などは少しもないので御座います。併し雜誌のために度々外に出ますと、自然斷りきれぬ義理のために、忙はしい上に忙はしさを重ねるやうなことも間々あります。以上私の一家の主婦として、また他の仕事にも從事して居る事のために、感じて居ります心苦しさの大體で御座います。

▲その利益

私は私の如き境遇に於ける第一の利益は、餘計なことに左程神經をつかはずに濟むことだと思ひます。婦人の中には、たまには、廣い心を持つてツマラヌ事にクヨ〳〵なさらぬ方もありませうが、多くは物を氣にかけるのが婦人の天性かと思ひます。私は前後一回の妊娠の間に著しく感じましたのは、一體自分の性質はごく〳〵普通の體質で、少しも特別な健康をもつて居ないのにも關らず、惡阻とか氣鬱とか甚しい食物のより好み（平生は一體嫌ひの多い方でありますが、妊娠中とても常と別段に違ひませぬ）などゝいふものは、殆どないと申してもよい位で、分娩間近の頃にも何となく氣分の勝れぬといふやうなことはありません。これは全く後から後からと用事に追はれて、妊娠のことなどを氣にし過ぎる餘地がないからだといふものは、流石に雜誌の編輯でも濟みまして、一日位の閑があると、俄に妊娠を就て、考へても詮のないやうな事などが、それからそれと思ひに浮んで、下らぬ神經をつかふのです。私はその度にこの忙はしい境遇に感謝いたします。そしてまた世間の方を見ましても、始終病氣勝だといふ方や、妊娠中にひどく神經を惱ます方、或は平生邪推深いとか、また嫉妬心の强いといはれるやうな方は、多く用事の少い籠り勝な方に多いかと思ひます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

次に時間と力を經濟的に使ふ利益があります。誰が見てもブラ〳〵して、如何にも閑人にきまつて居るやうな人は、いふまでもありませぬが、別に手をあけて居るやうなこともあり、相應に用のある身體だと思つて居ても、果してその樣な人が十人が十人まで、精一杯の力を出して、働いて居るかどうかは疑問です。ナゼなれば人間は眞に氣の持ちやう一つなもので、子供のない時代にも相應に忙しかつた積りのが、なほその上に一人二人の子供が殖えても、矢張やつて行けるといふやうなもので、自分の仕事の多いか少いかはよく〳〵他の用事の多い人や少い人に比較して、詳しく考へもしまた實驗もして見なければ分りませぬ。そして人は忙はしくなると自然用事が早く出來るやうになり、また仕事が少しでも大きくなればなる丈け、我々の能力はその必用の方に引寄せられて、前に申したやうな下らぬ思ひ煩ひは遠り、日增によい方に發達してるであらうと思ひます。女は家を持つと愚になるといふことは、慥に世間にあることでありますが、それは即ち家内の用事にのみかまけすぎ、自分の力がなほその上に餘りあることは心附かぬための退歩ではありますまいか。相依り相助けて共々に進歩するのは、人間社會の常態でもあり、また美はしい所でもありませうが、その相依り相助けるといふ意味は、例へば自活することの出來ない婦人が、結婚して夫に養はれ、夫のためにその身のまわりなど、男子の煩はしくうるさく思ふ用事をしてやるといふ樣な消極的のものでなく、いづれも立派に獨立の出來る資格ある男女が、更に相依り相扶けて双方單獨で居たよりも、一層光輝ある生涯を送り得るためでなければなりません。夫に早く別れるといふことその他種々の事情のために、生活の困難を來すといふことは、人世にあり勝なことであつて見れば、婦人は唯に家事を所理するだけで充分だとは、決して考へられぬ譯であります。そして已にこの樣な素養あり、力ある婦人ならば、結婚して家を持ち順境に立つて居る場合でも、家事に不都合を見ぬ限り、自身の力相應なる家事以外の用事に關係することは、最もよいことであると

思います、何せならば我々の出來る限りを盡くすといふことは、自身のためにも他人のためにもよいことで、十分の力を有つて居ながら、八分だけより出さぬといふのは、骨惜しみ同樣の結果になるので、極端に云へば一種の罪惡で御坐います。

また或人は主婦が二十圓足らずの給料で學校の敎師になつて、その爲に下婢など置くことになると、その食料と給料が七八圓、その上多くの無駄が出來、主婦自身も毎日外に出るために、衣服その他の費用がかゝり、ツマリ月給の二十圓が引足らぬことになつて仕舞ふ、女の職業に從事するとは、それだから無益といふ樣な至つて現金な勘定をする人も御座います。併しながら金錢を得ると斗が利益ではありません。若しもその人の長所が敎師となるのに最も適して居るならば、そしてその人自身もその職にあることを幸福に感じて居るならば、よしその收入の家を益するに足らぬとしても、夫のため家の爲めに他の不都合のない限り、敎師をして居て何の差支がありませう、私は寧ろその人のため家のために幸福であらうと思ひます。私の存じて居ります一人の婦人が御座います。その人は餘程賢明な方で婦人一通りの業も出來、充分な常識をも有つて居るのでありますが、その中で最も勝れたる長所といふのは、その學識と文才で御坐います。然るにその良人は今の名士でありますが、婦人の家政以外に力を盡すといふことが餘程嫌いでありますので、十數年來夫人も矢張夫意見に從つて居るのであります。一寸思ふとそれだけの夫人が專心に家事のみを經營するなら、ドンナ立派な家庭が出來るかと思ふやうでありますが、その割に驚くほどの事もなく、却て何所となくその婦人の退歩するのが目に附いて、人々の最大長所を用ゐずに棄てゝ置く、多くの損失は勿体ないやうに思はれるので御座います。ある人が此婦人に就て、一体あの樣な特別の長所をもつた婦人が結婚するのが間違つて居ると申したことを聞きました。けれども私は決してさうとは思ひませぬ、何せならば家事を處理する能力の、非常に缺乏して居る婦人に限り、他に何等の長所があ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つても、結婚は不適當でありませう。併し家を治める力が普通であつて、更に他にそれ以上の長所を有つて居る人ならば、結婚するのが何で不得策でありませう、むしろ家持ちには至極適當な婦人であつても、他に何の勝れた所のない人よりは、その用ゐ方一つによつて良人のためにも家庭のためにも、最も幸福なる妻或は主婦となることが出來るので御座います。

以上は、ごく〳〵大体だけでありますが前に記した三つの不便は、若しも適當な仲働きを得ましたならば、慥にその大部分はさけ得られると私だけは充分に信じて居ります、萬々避けることが出來ぬとしても、次にあげました利益の方が、たしかにそれらの不便を償つて餘りあることと思ひます。要するに私は自分に適當なる仕事が家政以外にもなほあるならば、そして健康が許すならば、一家の主婦でありながら、更にそれ以外にも働くといふことは、家庭に取つて些少の不便を感ずる代りに、更により多くの利益を得られるものであると思ひます。

母親の感化

法學士　松村仙藏

凡そ母の感化力なるものは其子の幼時に最強く成長するに隨ひて、漸次弱めらるゝものなれば、幼年時代の教育ほど大切なるはなし、偶々其子の成績頗る揚らざるを憂ひ、態々學校に行きて觀る程の母と談話を試むれば、如何にも其子の爲に意を注ぎ監督に心を用ふるらしく、思はるゝも、一度其の家庭に就て見れば頗る矛盾したる行爲あり例へばやれ着物に墨汁を着けたとか、帽子を壞したとか頭ごなしに叱り付け、甚しきは新しい品を買うて遣つても復た直壞すだらうなど、と無用なる臆斷を恣にして罵詈惡口、其子が坐に居堪まれぬ程嚴酷なる態度を取るものあり。

又壯健なる子に殊に多かるべき惡戯に一々頓着して、之を八ヶ間敷叱り懲すものあり。

されども罵詈すればとて其子の惡點が直るものにあら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ず、却て母としての感化力を失ふべきとなり、尤も或母は「叱責れば子供が始終自分で改めやうと勉めるから却て其身の爲になる」てふ理由を以て罵詈するを憚らずといへども、叱責るのみにて一方に賞讃する事なければ、敎育上何等の効果なくして終らんのみ、賞讃は子供の身に取りては最も嬉しき賜物にして、爲に善事に心を傾くるに至るものなれば、苟も善き言行あらば、努めて之に注意して賞讃を與へ、益々其の發達を奬勵せざる可からず。

母の注意すべきは先づ其子の矯むべき點を見定め、然る後諄々として諭し從順ならしむる樣計ることとなり、猶命令を肯かざれば進で叱責するも可なり。唯之を五月蠅き者として取扱ひ、全く是非の辨別なき事をも其罪と見做して責むるは、酷も亦た甚しといふべし、濫に怒りを發して罵詈を事とするは暗愚なる母のする事なり、「少しは怒る位な母でなくては」てふ意見は往々危險なる誤謬を生ず、たとへわるさの原因はともあれ一旦怒を外面に現はす上は、其影響意外なる邊に及ぶものにして、外見の好ましからざるは素より母親の自制心に乏しきを證明するものと謂つべし。幼時家の內外にて厄介者とせられしも成長の後堂々たる人物と成りし者世間其例に乏しからず、或婦人は數人の男兒を有せしが幼時より毫も苛責せしことなく、且大人との交際を自由にせしめ、子供には似合はしからざる事をも之を許して敢て干涉せず而して其子等は遂に有爲の人物となり德望萬人を凌ぎたりき、然れども人各々異るあり、必しも此婦人の法を則るべきにあらずと雖も、苛責と子供の前途との關係を明にするには好き例證たらずんばあらず、何は兎もあれ一度母となるからは子女を完全に訓育する義務あるものなれば、些々たる事にも其勞を厭はず、怒りたき事も怒らぬやうにし、よく〳〵心をしづめ私情を制して永久に罵詈することなきこそよけれ。

他人に對して意を用ふる事を愉快と感ずる樣子供を育つるは、甚緊要なる事なり、それには母親が一方に於て、無慾の好模範を示し其卒爾なることを知らしむる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を要す此の模範は若き利己論者（即ち子供）をして利他主義に關する新知識を探らんと欲せしむるに至らん、而して其の結果は母の示せしよりもより大いなるものを意外なる方面に現すに至らん、嘗て十一歳なる子が數人の年下なる者と共に一團となりて坐にありし時、其前に菓子を盛りたる盆を置かれければ、各一ッづゝ取上げしが最後に一つ不足なるを知られぬ、坐中の最年長者たる十一歳なる子は其最後の一個を取るべきか將又他に讓るべきか、是れ滿座の注意を惹く所なりき然るに彼れ及び其の對座せる子との間に來りし時、彼れ十一歳の子は意外にも極めて迅速に殘物を掴みて頬張りしが、之れと同時に其對座せる年下の子は之と爭はざるのみか、寧ろ讓與の態度を執りたり、是に於てか滿座皆其の德に感じぬ。

斯の如き行爲は實に本能的美事にして敎訓と善良なる感化によるものと云はざる可からず。

利他主義の敎訓を兄弟姉妹に據りて行はるゝを可とす若し兄弟なくんば從兄弟若くは友人をして其任に當らしめても可なり、此種の敎育は最も肝要の事なれば其任にある者は絕えず注意を怠らざるを要す例へば、數多の子供が一所に遊戲せる際、其中の一人が努めて他の者の注目を引かんとし、常に自己の事を先にするが如きは實に私慾の萠芽と認むべきものなれば未だ長せざるに當つて之が芟除に意を用ゐざるべからず、然れども成るべく温和の態度を以て其の本能を喚起すやうに勉めざるべからず、世には、我子の成長を欲して、三才にして未だ少しも步行出來ざる如きとあらば、其母は「立ちかゝつてなりと與れゝば宜いが」と心配し、或は之を醫師に問ひ或は家族親族に尋ねて心を痛むるものあり、然るに之に反し其子が稍々成長して後、他人に對する同情の一端をだも現はさず、他人の喜を悦ばず悲みを分たず、超然として我不關焉といふ如き場合に於て、却て之れに心を留むるもの少きは吾人の了解に苦しむ所なり。

慈善利他の心を養成する事實的敎訓の第一例は彼の動物虐待防止なり小さき子は唯採つて見たさに虫類を殺

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し、或は全く知らざる爲めに撲殺し又踏潰すこともあらん、故に虫類が受くべき苦痛の度を示して思ひやりの心を起さしめ、同時に動物に對する保護心を高め、其の仁は跛の犬、羽の折れたる雛にも及ぼし、キングスレーの子にはあらねど蟇の類にまでも及ぼす樣、訓諭するは最も必要の事なり。

次に些細なる喜捨といへども顯著なる結果を生ずることを論ずべし、機に臨んで金錢を吝まざる心は斯くして育成せられ、遂には贅澤なる美味の費を節して之を貧民に施與する程の心掛となるや疑なからん。

家庭科學

理科應用 家政二十四時

河西璞

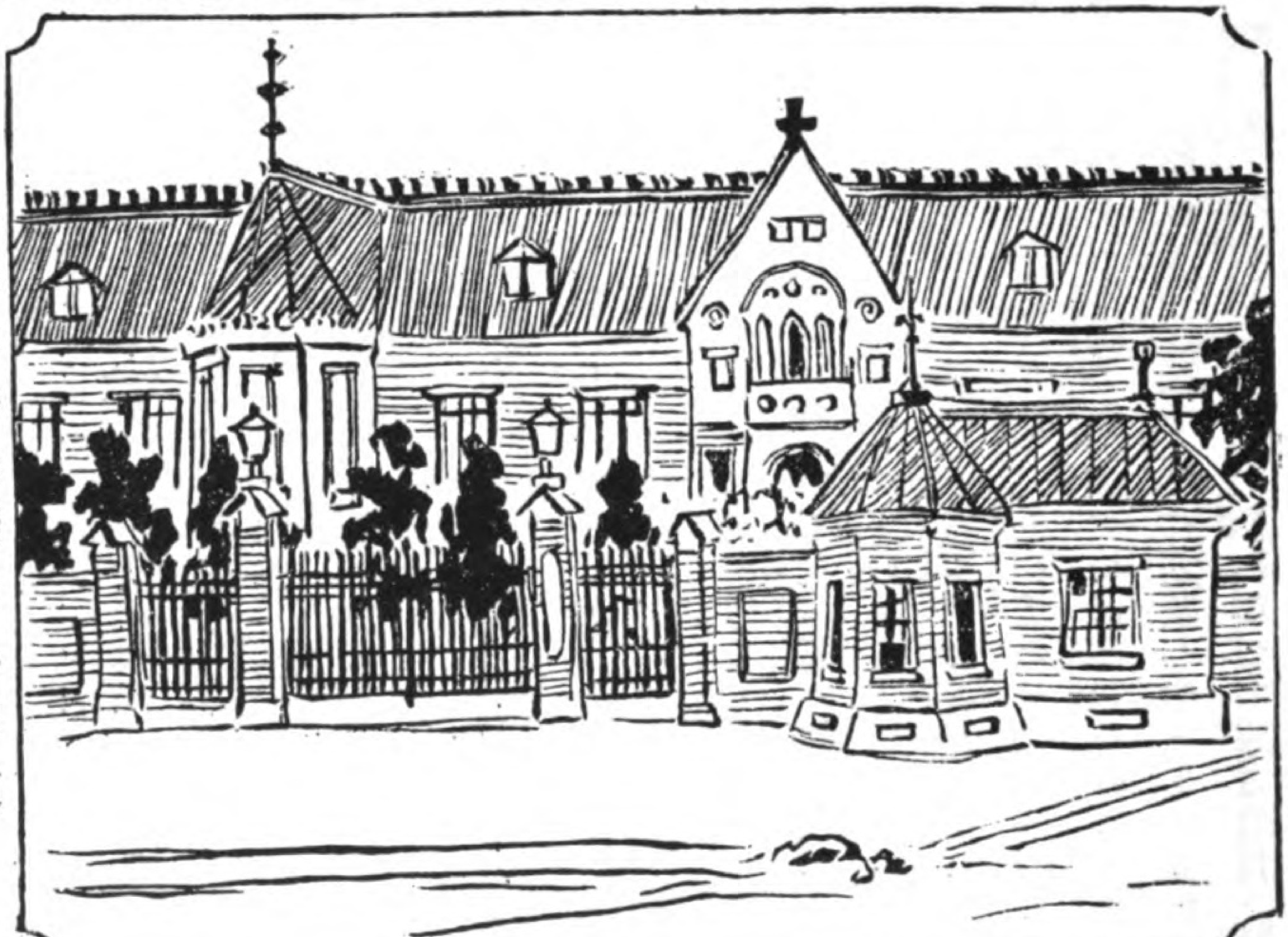
筆者曩日滿州丸に便乗戰地巡覽歸來引續き止むを得ざる事故の爲め久く讀者に背けり乞ふ恕せられよ。

▲被服と熱の性質

朝夕の秋風に冬の用意の促さるゝ此頃、此題目に關する智識は特に必要であらうと思ふ。一体被服の用ひは何であるかといふに、言ふ迄もなく、寒さを凌ぐ爲と、暑さを凌ぐ爲と、夫から身を飾り被ふ爲で、寒さ暑さを凌ぐといふ大切なる目的を十分に遂げる爲には、是非被服と熱との關係を知つて、此關係を滿足に利用する心懸けがなければならぬ、そこで被服がどういふ道理で寒さ暑さを防ぐかと、根本へ入つて考へて見るにこれが即ち被服に對する熱の性質によることとで、被服の實質と、其中に閉ぢ込められてある空氣の、熱を導く力が弱いといふ事實に歸着する。こゝに一本の鐵火箸がある。これの端を火の中へ入れて置く。直ぐに熱を導いて、持てなくなる。然るに被服の材料にする動植物質は之とは大違ひで、絲へ火を付けて燃して持つて居ても、指先へ燃えて來るまでは熱くない。かく被服の材料は凡て熱の不傳導體であるが、其間に入つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

居る空氣は猶之より、不傳導體だ。注意して試驗した結果によれば、空氣の熱を傳へる度合を一と立て、木綿布は八水は二十、鐵は四千、銀は勿驚三萬二千、大凡の比較數ではあるが、これによつて空氣がどんなに熱を導き惡いものかといふことが分らう。さて被服には、この空氣が絲の間綿の間に閉ぢ込められて居る夏被服を被て日向へ出たとする、太陽の熱は百度以上の猛烈なる勢で攻擊して來る、金屬物は手を付けられぬ程に熱するが、身體は此熱を導き惡い布と、布目の内部及び布と身體の間にある空氣の爲に妨



華族女學校（麴町永田町）

げられて、膚へ突貫して來ることは出來ない。忠實なる被服はかく身體を守つてくれる此理によつて、炎天に身體を曝す時は空氣を含むこの少い麻や絹の單衣よりは、地厚の綿布、綿布の單衣よりは綿入の方が凌ぎよい。印度あたりの熱帶地方を歩く人深い〱鑛坑や硝子吹などの職に從ふ人はよく此理を知つて居る。但し以上は直接大熱に身體を曝す時の場合であるから、何故夏綿入を着ないかなど詰問に及ぶべからず。さて夫から本題、冬の寒さと被服になるのだが、これの説明は、身體の温度と外氣の温度との比較

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

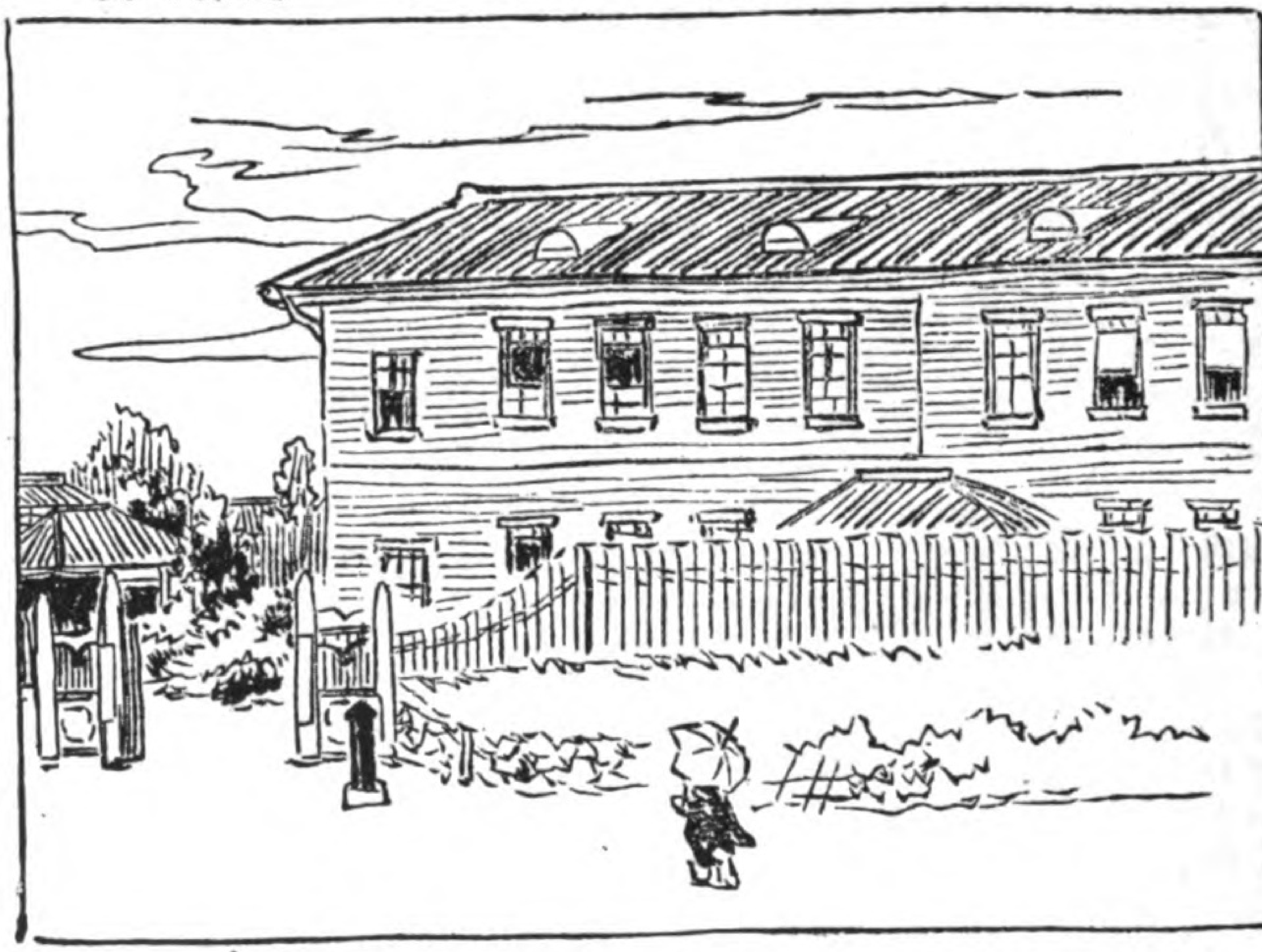
をして、今の理を締めれば自づと分つて來る。冬になれば外氣が體温より低くなる。暑い物と冷い物と並んで居れば、熱は必ず冷い方へ移つて行くといふ自然の規則で、體熱はドシ／＼外氣へ移つて出て行く。寒い。そこで體熱の逃亡を喰ひ止める工夫が必要、夫には熱を外へ導かない性質の物で身體を包んで、身體の周圍が身體よりあまり冷えて居ないやうにする外無いといふ事になる。さて何で包まうか。空氣は熱を導く力が極弱いが、只空氣の中に裸體で居たでは、空氣は自由に動くから、いつも同じ冷い空氣の中に居ねばならぬ一度暖めた空氣を、いつも身體の周圍から逃がさぬ工夫をと、そこで被服が現はれて來ることになつた。我々先祖の大發明と言はねばならぬ。

我滿州軍の防寒外套は總々した毛織物、寒地の人民は好んで毛皮を使用する。何れも空氣を最多く含んだ被服だ、フラネルの襦袢、毛糸の手袋、靴下、木綿よりは空氣を多く含むから暖かい。冬の被服は凡て此理で支度せねばならぬ。綿は纖維の間に多く空氣を含んで居るから、綿入や蒲團夜着は暖い。綿入や夜着蒲團の暖いのは、中に入れてある綿の目方に比例するのではなくつて、中の綿の間に閉ぢ込められてある空氣の分量に比例するものだ。これが考へてもらひたい最大切の點で、いくら綿が澤山入れてあつても、若し其綿が壓し搾められて堅くなつて居たでは、綿の功能は全く無いとは言はぬ、綿自身も熱の不傳導體だから、が、殆ど無いと、言ふてもよい。綿は必ずいつも膨らんで居べきものと定めて、沈んだら之を舊のやうにする工夫が必要、舊の樣にするには、何の造作も無い、斷へず日に乾して、其中の空氣を膨ませ、空氣の膨らむ力で綿を推し上げさせる、それ丈の事。此日に乾すといふことの功能は、只に此丈では無い。之によつて衣服、寢道具の中には必ず常に含まれて殘つて居る水分を蒸發せて、一つには綿を沈ませる敵を亡ぼし、一つには体熱を外に導き出す妨を防ぎ、今一つにはこゝに繁殖しやうといふ病菌を滅殺する。こんな大切な結果になつて來るのだ。日のあまり南へ移らぬ今の中に

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

仕舞つてある寢道具綿入冬坐蒲團などを取出して日に曝すことは、晝飯前の三十分で出來ることで、三十分もかう使つてもらへば實に滿足であらうと思はれる。

空氣を着るといふ事の道理が分れば、之を應用の出來る凡ての事に應用するが宜しい。例へば、男の洋服を新調する時、あまりギツチリと身體へ付くやうに仕立れば必ず寒い足袋も其通り、靴も其通り、澤山の空氣をボタンで締め込むシャツ一枚は綿入一枚に向ふ、素肌は寒いもの。袷一枚よりは單衣二枚の方が暖い。革靴よりは藁靴が暖い。古新



女子高等師範學校（御茶の水）

聞紙を綴ぢ合せて寢道具を造へたのは、西洋の貧書生の智慧で夜着は重くなければ暖くないと言ふのは、日本の老婆の不思議な論斷。

▲日光浴の事

太陽熱利用の話が出たから、傳手に日光浴について一つ述べたい。

洗濯張物などで日向に出て居れば、日に燒けると言つて厭がる者がある。海水浴は面白いが色が黑くなつてと溢す者がある。婦人達の目には血の氣の無い、白壁のやうな、夫から靑瓢簞のやうな膚色が理想だらうか。此間聖路易の博覽會日本部で藝妓

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を見た外國記者の通信を讀んだ人は思ひ當る所があらうと信ずる。強壯らしいといふことは、必ず美の一要件ではなるまいか。

日光の各種色光中、特に青色光線、夫から紫外線は皮膚の色を黒くする。これは事實だ。日に燒けた皮膚を顯微鏡で照して見れば、色素の細胞が著しく增して居る。丁度日向の草木の葉は椽の下の笹などと違つて、緑々して居るやうに、日光が皮膚の表皮の下に色素を造へる仕事をするので、此色素はどんな働をするかといふに、日光中、強く皮膚の組織に働く色線を吸收して外に害を及ぼさせないやう保護してくれる、これが一つ、夫から、これに吸收される日光は、自然周圍の組織に働いて之を丈夫にし、及びこゝへ循環つて來る血液に力を添へて全身を健康にするといふ大事の仕事をしてくれる。海水浴に行つた人は經驗があらうが、始め一二日は日に燒けた膚がピリ〳〵して痛いが此痛みは日一日無くなつて、遂には苦にならぬやうになる、馴れた爲だと言ふが、此馴れたといふ言葉の本當の意味は皮の下に色素が出來、此色素が光線を取つてくれるから、膚の組織が荒らされないことになるといふことに外ならぬ。かうなれば、日光浴の効驗は段段現れて血色がよく、身體に力が付いて來るので、海水浴の効能は決して海水にばかりあるのでは無い。

日光が草木の葉の緑色素を造へ、日光が之を打崩すと同じことで、人の膚の色素も、日光が之を造へるが、あまり強い日光に久く身體を曝せば、色素は悉く之を吸ふて持つて居られる筈は無いから、自然皮の組織は之に破壞され、同時に色素自身も破壞される。言ひ換へれば、皮がむける。尤も皮がむければ、直ぐ下に新しい皮が出來、今度の皮の組織は、前よりは日光に張合ふ力が強く出來るから心配は無いが、兎に角物事は程度で持つて居るのだから、度を過すと日射病などに罹る虞れが生じて來る、日光浴も適度といふところを考へねばならぬ。太陽が回歸線より南へ廻つた今日以後は婦人の日光浴に最も宜い時期だらうと思ふ。

日光浴の効能は身体を病氣に彊くする許りでなく、あ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る病氣には適切な治療法になる。例へば肺病。肺病の根源は根棒バチルスといふ顯微鏡的の細菌で、これが肺臟に繁殖して犯すのであるが、此細菌は日光には弱い性質の者で、強い日光に曝されゝば死滅して了ふ。だから肺結核に罹つて居る人、さなくとも之の遺傳のある人、友達や近所に此病人を持つて居る人などは、分けて日光浴を重んずべきで、室內を始終日光に曝すやうにすれば其內にある此細菌は、たとへ死滅せぬまでも、勢が弱くなつて、人体を犯す力が減つて來るし、自分に此病氣のある人でも、少くとも病勢の重るのを喰ひ止める上に大効のあることは疑ひなき事實だ。寢道具を日に乾す効能の一もこゝにある。新に家を造る時借りる時、家に部屋を撰ぶ時、いつも日光は地球の生命の本源であるといふ一事を頭に置かねばならぬ。



女子學院（麴町上二番町）

洗濯、張物、汚染拔、寢道具の日曝し、こんな仕事を少しして居る中に時計の針は頓着なく晝飯の支度の催促をして、八百屋が來る魚賣が來る、子供は遊び疲れて歸つて來る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子と書簡文

松山俊子

經驗によれば、書簡文程其人の性質を表はすものはありませぬ。

是迄幾度か未だ一面識もない人から手紙を貰ひましたが、其毎に二度三度繰返し、又其字体及び書きぶりを見、かくて狀袋の表裏を取調べて後、さて此人は如何なる性質の人であらう、どれ程敎育のある人であらう、など丶いふことを考へるのが私の習慣で、多分こうであらう、あ丶であらうと想像し、其後機會を得て其人に出逢ふて直接に交つて見ると、十人が七八人迄殆ど想像に合ふて居るのです。係る注意をなし、經驗を重ねますと、愈々正確になつて參りまする。これを一々申述ぶることは容易でありませんが、其一二を申ますと、大要左の如くであります。

一、手紙を送りますと、直に返信して呉れる人、或は稍重要なる用事ならば、一回で濟むことも、必ず再びして之を確むる人は、大抵規則正しい人であつて、信賴すべき一の特長のある人であります。

二、行文必ずしも流麗ならず、文字また美はしからぬも、主要なる事柄を明記し、殊に誤り易き數字を決して間違ふことの出來ざる樣明瞭に書する人も亦た前同樣の人で御座います。例へば五の字に九の字の如き或は十二といふことを畧して一二となすが如き場合であります手近い例は先般露國軍艦ワリヤークの速力を書いた新聞を見ますと二三、二即ち二十三ノット二といふのを三二、二と間違へました、これは通信者の書き方がぞんざいな爲に遂に恁麼な誤を來したのですこれ手紙ではありませんが以て一例となすを得ませう。

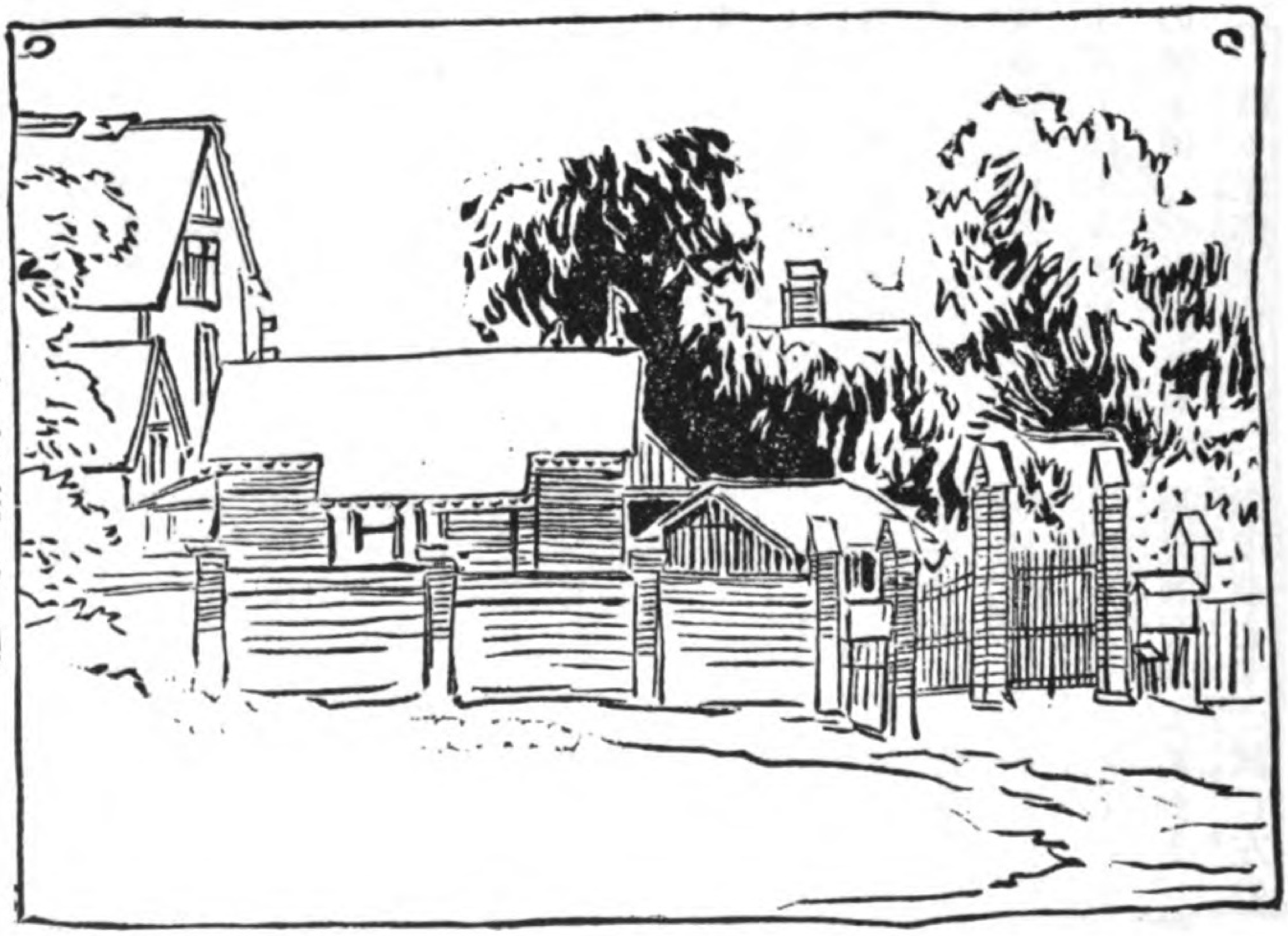
三、卷紙等の認め方が、正しくあつて、また其卷き方さては上書を楷書か行書で郵便配達夫が一見して直にそれと分る樣に記す人もまた此種の人で御座います先達横濱の一女子より送られた手紙の表書の中自分の名の「なほ」といふのを、つい「木月」と誤りました。又男子の名の「正人」と云ふのを「でん」と間違へた爲めに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女と思ひ、男の樣な書ぶりだと笑つたこともありました。其他「彌彥」と云ふ名を「彌七郎」と讀んだり、「卓二」といふを與十二と解したり、五十錢を五十三錢と見たりした例は二度や三度でありませぬ。恁樣なことは受けた人も迷惑するし、また大切の用事も不得要領で終はるといふ不都合を來すのであります。

四、文章は簡潔で、併も主用は直に了解さるゝのは事業家としては敏腕で、婦人にしては締りのよい人で性質は捌けた人か、正直な人であります。反之一葉のはがきに迄も時候がどうの、御機嫌はどうのと、狹き紙面の三分二も費し、用事は二三行しかない樣なのは兎角人に後れ勝の人で締りのない人であります。左に事實に就て之を證しませう

東京女學館（虎の門）



浪花地に昨夜安着致し候、身神もさまで疲勞仕らず候間御安心被下度萬樓後便、先は取敢ず安着の御報まで、

匆々

これ花もあり實もあり、且つ其要をつくした書狀ではありますまいか、然るに同じ安着を報知するに、先づ時候の如何より「高堂皆々樣云々」「次に私事……」など、書き列ね、かくて末の方に

一昨朝此地に着致し申候、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何卒御安心被成下度、滑京の節は云々と山鳥の尾の長々しく書せるを見る、別れてより僅に一二日しかならぬのですもの時候も、所謂高堂の健否も明かにわかつて居るではありませんか、それよりか送り方で心配して居る安着の事を何より先に報知し、第二信に於て詳細に亙るべきではありませんか、併も一昨朝など、申て中二日も報知せぬのは、畢竟こんな細々したことを書ふと思ふからです。

五、猶々書即ち再伸の有無、また其記した事物は、發信者の温情の人か否やと云ふことを察し得る料となります。それから鳥渡したとですが郵便切手の貼り方です、これはあまり人の注意せぬ問題ですが、其貼り處及び曲直などは大に其發信者の人物如何を知るを得る識金石で御座ひます。

さてかく申と手紙は唯用事の爲めのみに書くもの、如く聞へますが、決してそういふ譯ではありません、手紙の目的はまた一方には相互の情を傳へ、誠意をおくる爲めのもので御座ひますから、時々家鄉、親戚、朋友間に親しき手紙を往復することを忘てはなりませんさもなくんば「遠きものは愈疎し」と云ふた樣に自然々々と遠々しくなり、遂に殆ど忘れて終ふ樣なことも御座いまする。

次に申たいのは文言で御座ひます、近來此事大に亂れ、殊に年若きものに此弊が多くある樣で御座ひます例へば兩親や長上に對して打つけに拜啓の、何某樣のと書いたり、「申入候」とか「申進候」、「左樣御承知相成度」など命令的文字を用ひ、そうかと思ふと下婢に對して「安心し給へかし」の「御身」と敬語を用ゆるのなど見苦しとも見苦し、殊に況んや、女子の身にして「妾等の遺憾に堪へざる所、豈之を默々に附すべけんや」とか「希くは妾に許すに今二ヶ年の日月を以てせよ、必ず一大飛躍をなさんと欲せば」とか、一讀嘔吐を催さしむるもの往々として見る所であります。

殊に女學生同志の書狀に至りては、實に一種の文体展覽會を見るが如き、鵺的なる奇怪のもの殆ど然りで御座ひます。試に左の一例を御覽なさい、噴飯に堪へ

ざるもの少からぬではありませんか。

あはれ△△子の君よ、君はそれ如何なるチャームを有し給ふらむ、余は實に君を忘れんと欲して忘るゝ能はざる也。借問す三ケ年の母校の窓月、君は今如何に感じつゝある……　…かまへて〳〵忘れ給ひぞ姉上、愛知の一寒村に小妹の君を慕ひつゝあることを、げに妹はたゞ君が慰めを第一の樂みとなすぞかし……グートバイ、さやうなら

あゝこれ何たる文躰で御座いませう、これが高等女學校の優秀生であるとは。次に某女



佛英和女學校（神田猿樂町）

學校に學び明年四月を以て卒業する一女生の其父に送りたる書狀中左の如き數項を見ました。

なつかしき母上に女が好意を傳へてよ、女は彼の女を日頃に思ひつゝけつゝあれば……

おとーさん、どうぞ卒業までに紋付のよいのを一枚仕立てゝ頂戴、ねーおとーさん……

此の如き不体裁なる文字を列ね、其最後に記して曰く「敬愛なる父上の御許に、君が愛子竹野子より」と、何ぞ其敎育と釣り合はざるの甚しき。敎師の敎へ足らざるの致す所

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

か、將た女學生自身の不注意なる爲めか、兎に角に訝しきの至りではありませんか。

次に世俗の所謂「海老茶式文學」の弊は單りこれのみにあらず、書風の如何はしきとで御座ひます、近年の婦人女子の手紙を見ますと、見掛けによらぬものが多い樣で御座ひます、蚯蚓を這はした樣なのはこれ流行の鷲堂風でせうか、蝸牛の跡の樣なのがこれ親愛流でせうか、骨もなく躰もなく、まるで海月を握り潰した樣なものや、乾鰯の突つた樣な書風には聊か閉口せざるを得ませぬ。殊に甚しきは泰西一般ラブレターに用ひらるゝ赤文字で父兄長上に致すに於ては言語同斷と申さねばなりませぬ。

古は「家書萬金に値す」と申まして、非常に珍重したもので御座います、これ一は今日の如く僅かに三錢の切手を貼用した丈で千島のはてより臺灣までも音信を通せらるゝ便利がなかつたからでも御座いませうが今だとて此意味充分に御座います、殊に彼我の胸に溢るゝ情と誠を托するは簡で御座ひますし、またよく其人の性質を寫すもので御座ひますから、今少し心して書も習へば文も學ばれんことを一般の婦人及女學生に對し希望致しまする。

以上は單り婦人女子のみでなく男子にも通じてある事で御座ひますが、別けても婦人女子に重きを置いたわが老婆心の一部で御座ひます。

良妻の資格

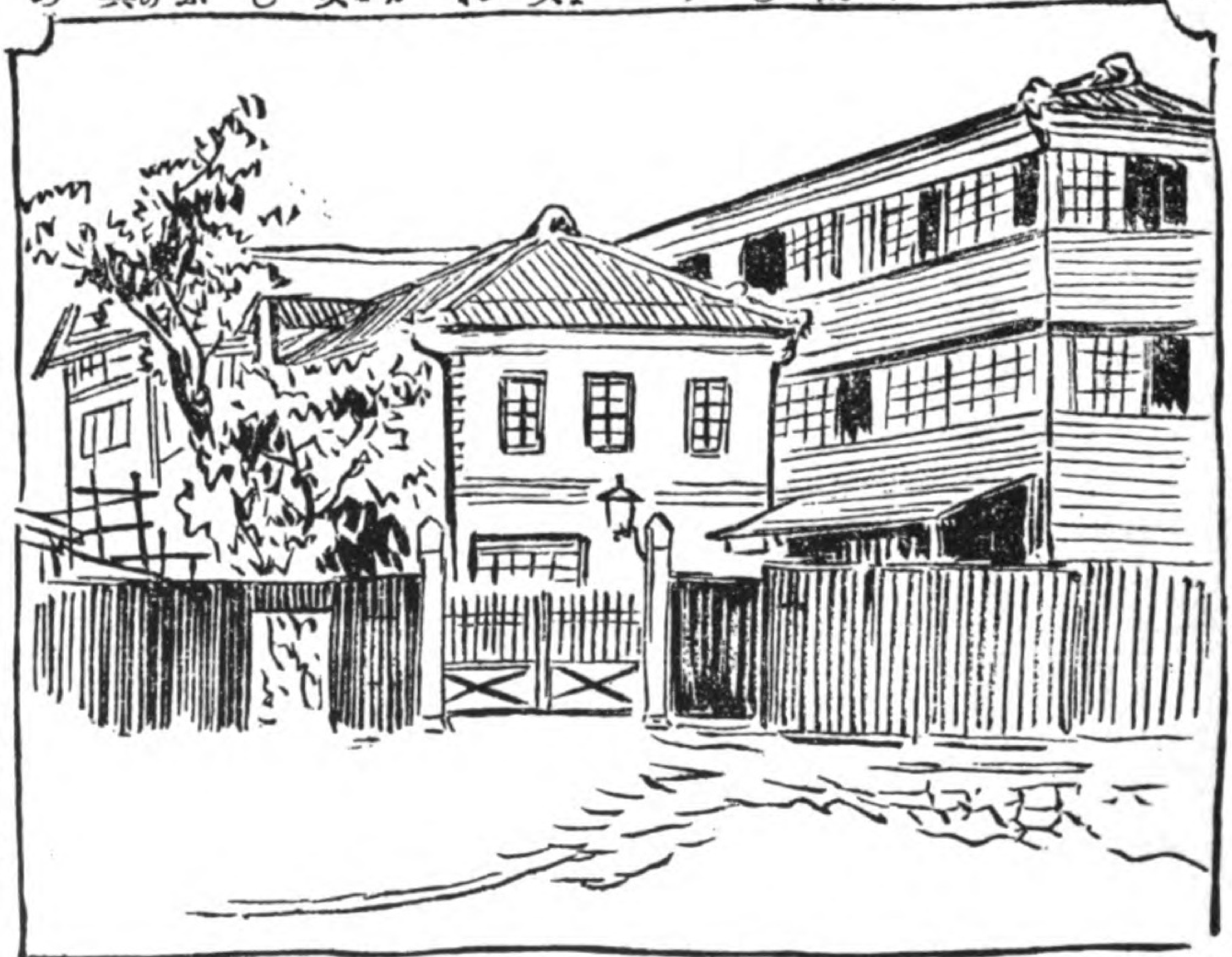
黃葉女史

妻を撰ふ心得

婚姻の事の重きは今更いふまでもなし、妻を迎ふるものは即ち其人の半身を得るなり。斯くてこそ其人は尋常一般の人の本分を盡し得べきなりされどその半身の良否によりては健全の人とも又羸弱の人ともなり行かん事疑ふべからず、故に汝が將來の幸福は其撰擇の如何によりて定まる、善良なる女に騙れるはなき如く惡

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しき女に上越す惡き物もなし賢こき婦は夫の冠なり、辱を來さず婦其夫をして其の骨に腐あるが如くならしむといふ汝の身分より遙かにすぐれたる所のものを迎ふる勿れ、彼れは我儘にして常に汝を苦しむるならん、去りとてあまり賤しき家の娘を撰むなかれ、心さまも尊ときは尠し、彼女は俄か分限を憑み傲奢に流れ易し、所謂成り上の根性免がれがたし、持參金して嫁ぐ女に離癖のなきは稀なり、若し彼れ十人並の形ち才能を備ふるなれば、必らず夫を凌ぎ其心の自由を毀ふ、顏よきをのみ望む勿れ、景色よき眺めも



日本女學校（本鄕龍岡町）

不斷目に馴るれば其趣を失ふ眉目容貌も唯よき心操にて光を添ふるものなり世間を見渡すに兎角美人は心落着かず節操を全ふし難き傾きあり、若し美人にして心正しきものあらばそは夫の譽なり、されどもよく思へ、今日うるはしとおもひ入にし花も明日に至れば何となく其艶を失ふにあらずや、而して遂にうつらふ色を見よ、唯眞實なる心の輝きは、日々に其人の容貌を尊とくす頭に白髮を頂き額に老の浪をたゝよはすも却て人の心を悅服せしむるものなり、かへすへすも男子に限らず美貌は若き人の尤も喜び迷ふもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なれは注意すべきものなり。
不具、癈疾の如きはよろしく是れを避くべきなり、斯くあらざれば汝は世の中より輕しめられて一生頭角のあがらぬのみならず、疾病を子孫に傳ふべし。妻の惡しきは七十五年の不作といへど疾ある妻は一生の不作と知るべし。就中忌べきは痴愚なるにあり、彼は汝に辱をきたらせ、又汝の秘事を洩すべし、道理に暗く一家の管理も出來ず、折ふしさし起る難事をも處置し難く、且つ夫の友とし呼ぶほどの値なき女は汝の內助者にあらずして寧ろ汝の重荷なり汝は彼の爲に業を煮やすと堪へざるべし。諺に惡しき女は己れの手もて其家を毀つといふ惡女に婚するは不幸の極みなり、さて又愚婦を迎へし處こそ其の行先も見ゆるやうにていと憐れなり。
容貌のよしあし、もと固有性なれば詮なし、唯心の美に如くものはなけれども、目、鼻立もけうとく、すさまじく見ゆるまでに醜くきは心樣も直なるは尠く、大抵は性根の僻めるものなり人の侮を受くるのみならず常に汝を不愉快にす、さはいへあまり優美に過ぐるとて、其風情もいとあはれに外山の霞、葉末の露の消へなん樣なるも心細し、彼の細腰折れんばかりに打被げる衣も重げに見ゆるよりは、むしろ朝夕の飯も味よくくらひ足踏も確々としたる方よし、撫肩にして風采よく見ほるゝ樣なるよりも寧ろ不格好なるも胸腸廣く肺臟の强健なる方大に勝れるなり、歳長けたるは大抵嫉妬深く、强情にして人の言を用ひず、ケバ〳〵しきものなり、されど又あまりに若きは了簡もなくてまさかの時の用にも立ち難く二つながら好ましからず、されども若き女にして一家を治むるほどの才もあり、氣質も温順ならばそは善良なる妻なりといふべし。
學事諸藝も、暗からずしてよく物事を辨まへたるは尊し、されども何事も知りたらん樣にて鼻うごめかし我は顏に立振舞ふ女は傍へに見るも惡々しきものなり、はては其の夫まで人に忌み嫌はるゝに至るものなり智慧ある女は其家を立るといふ彼れは物の分限を知り世事に鑑みて節度を誤らざるが故なり、さはれ智慧も愛

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

には及はず、學問智能仰くほどなるも、底意に實なき女は蛇蝎のごとし、忍耐も、温柔も、寛容も勇氣も皆愛の泉より湧出するなり、故に愛なき女は利己心に打勝難く人のなさけをも酌み分け難し、又謹み深き女は假令諸藝に通せざるも利發に、神妙に見へ、世間の交際も疎からず、但し諸人に愛嬌なきは、怨敵を造り易し、夫の肩身を狹むるものなり。

衣服髪飾なども、些細の事に似たれどあまり華美やかに作りたるは心の程の見透されて、いと淺猿し女の職業を營む人は一家の幸福にさしたる關係はあらじまして富裕なる家に於てをや、然しさるほどの心かまへもなき女は一家族の獨立心をも養ひ難し、物臭き主婦は婢僕をも不性にし、懈怠なる母は其の子を懶惰にす、女をして縫針の嗜みなきは夫に始終襤褸を纏はせて恥かしともおもはぬものなり算用に疎きは家の政を亂し一生に大なる不幸を來すべし、一家の風波は大抵會計上より起る事多し氏も育ちもいやしからず年若くして形もさほど醜くからず、諸事にも渉り心操よきは最良の妻なれど不完全の世の中に斯る人を求むるは難し、唯愛心深き人こそ望ましけれ、愛は人のすべての欠點を覆ひ、其他の事は陽炎のごとし、要時浮世の夢のあとゝ消へ失せんなれども眞誠の愛は永刧渝はる事なし。



女子美術學校（本郷弓町）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さて愛心深き女とて偶然にしては彼れの心を知らんよしもなし爰に簡單にして尤もよく其人となりを知るの良法あり、まづその母は如何なる人なるや、また彼れは父母に對して孝順なるよき娘なるか、その同胞朋友に接するに、むつまじく親切なる姉妹なるかを尋ね見るべし、而して汝が滿足し得べき女にして其の品性に於ても賞するに足るものとせば、是と共に汝は彼れを敬し得るかを試みよ、然し敬なき時は狎れ、狎る時は互に欠點を見出して遂には不和の原因となるべし或哲人は言ひたり不良の妻と共に一生を送らんより、寧ろ猪、狼と棲ふの遙かに勝れるには若かじと、惡しき妻を娶るは汝が五十年の災厄のみに留らず、傳へて子子孫々の不幸となるべし。唯温順なる妻は其夫を喜はせ、彼の智慧は夫の身体に油そゝき、謹愼にして言葉少く、信實にして愛深き女は神の賜物なり、世の寶なり、這は汝の爲に撰ふ處の良妻なりと知るべし。

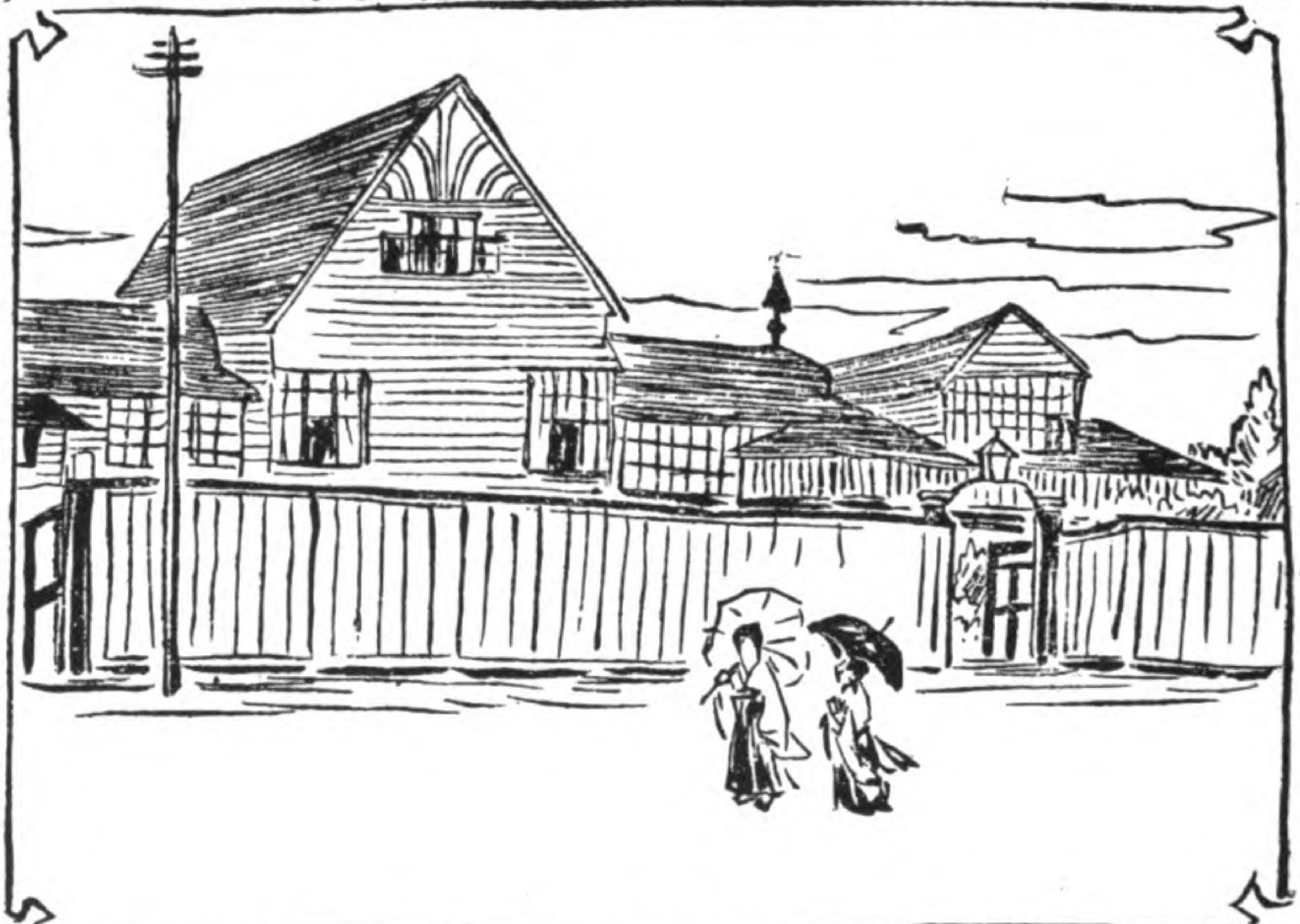
秋の衛生

貧者には衣食の心配あれば、富者には又金の要愼なくてはならず。之れを比較すれば寧ろ富者の方に心配多しといふべし。人間世の中に居る間は絶へず、注意と要愼に身を堅めて居らねばならぬ、若しこれが苦痛とあれば人生は死せざればこの苦を遁れ難し。

扨て人間萬事の間違は得て不注意から起りやすく、一槪に過失と云ふ中にも、その實我が不斷の不注意から起る事件甚だ多し、且又人は大事にかけては、いかにそゝッかしき人でも、注意に注意を加へるに相違ないが、些細なことには不斷思慮のある人でも、兎角放棄に爲やすいものなり、されども亦大事は得て小事より起りやすきものにて、ウッかりと小事に頓着せずに居ると、在るか無きかの秋の螢の光ほどの燠一ッの粗相よりして、怖る可し人口百萬の一大都府をも燒野ヶ原として退けるやうなことに成る。兎に角この世は火用心御用心で、轉ばぬ先の杖、胃病に天賦の顔の色を[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

まさぬ前に身の運動は爲るに限る。さて胃病と云へば思ひ當るが、苟くも身を思ひ即ち國を思ふの人は、我が身體の衛生に就いては、不斷熱々注意爲なければ成りません、殊に此頃の氣候の變遷期には、衣服、食物その他の事にも、最も注意爲なければ成らぬ。ところが大方の人はこの際僅の注意を怠つて、寢冷をした爲に呼吸病に罹つたり、或ひは又この際食慾の進むに任せて食べ過した爲に腸胃病などに冒されて、この好時節を呻吟苦しむなどは、實に氣の利かぬ話であります。さて人間は物の道理には、案外能く通じて居るものでありますが、それを實行



佛和女學校（麻布鳥居阪）

する人は誠に少い。この頃の期節の變遷目の衛生事項の一端に就いても矢張左樣です。これまで夏の間は、外からいろ／＼と刺激のお手傳があるので、身體に自ら溫度を作るの必要は無かつたのですがこれから段々寒く成るにつれて、自ら身體に一定の溫度を作らねば成りません、秋風や思はず襟を合すまで、氣候が冷かに成つて來たならば、嚔の出ぬ前に鳥渡羽織の一枚も肩にかくれば、風を引いて、呼吸病やその他の病ひにも罹るやうな恐れは無い、また同じ道理て、夏の間は身體の溫度を作るの必要が無いので、勢ひ食事の量も進まなかつたのが、これ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

から漸々寒く成るにつれて、勢ひ我から一定の温度を身體に作らねば成らぬ。就いては自然と食事が進むやうに成るけれども、それに任せて、頓に食べ過しますと、これまで少量に食べて居た胃腸、即ち少量の食物を消化すに馴れて居た腸胃は、勢ひ加答爾を起す事になりますから、此處を鳥渡注意して、頓に大食を爲ぬやうに漸次にその量を増して行けば、別に身體の健康を害うやうなことはありませんと斯樣な事は誰でも知つて居ることですが、さて僅な不性から事を起して、我自らも苦めば、また我が家族にも餘計な物思ひを爲せる人も無いとは限りませんこれ等の事は何處までも時の機の退引ならぬ過失では無くて、皆いづれも我が僅の不注意から起つて來るのでございますから世の中は何でも注意御用慎が必要です。

音樂心得草

これは歐洲屈指の音樂家であッたロベルトシユーマン氏が初めて音樂を習ふ方の心得にとて書き遣された有名の遺訓の一つです、ピヤノなり、オルガンなりを稽古される方には至極有益な事です勿論歌を謡ふこと、又た樂器を奏することの細かい規則を話さうとするのは中々困難です、之れ等は實地師に就て習はれるより他に途がありません、其故茲に申すのは初めて音樂を習はれる方に必要な心得を申すのであります。

▲音樂を習はふといふには先づ第一に耳が肝腎です必竟種々の音色を聴別けるのが音樂進歩の近道です。

▲音樂は總て指の稽古ですから怠らず學ばねばなりませんしかし世間には毎日數時間づゝ機械の動作と同じ樣に、唯だ指の稽古さへすれば何んでも出來ると思ふて居られる方もありますが、音樂の上達は決して器械の動作によッて得られるものではありませんから諸嬢は決して斯樣な無益な事に時間を費してはなりません

▲奏樂は必ず其時間を定めて置いて、勉めるときには十分勉め、又休むときは全く休む樣に致すのです、世間多數人の奏樂を見ますに、丸で酩酊者が道を歩む樣

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

な仕方です。

▲絃や鍵（オルガンやピヤノの前にある白と黒との小板を鍵と申します）を徒らにザラ〳〵と鳴らす抔は宜くない事です、常に赤心を以て奏すことです。

▲稽古の時は別段ですが、其他では決して一ッの曲を細かに分けて少しづゝ奏してはなりません。

▲奏樂のときは能く曲譜の速さに氣を付けられて、遲速を間違ひない樣にせなくてはなりません。

▲無暗に六ケ敷曲譜を奏するよりは出來易いものを過ちなく愉快に奏するのがよろしい。

▲自分の樂器は平生能く調子に氣を付けて、少しでも狂つて居たなら直ぐに直させる樣になさい、調子の惡るい樂器は不快でもあり、又た之れに連れて歌ひますと聲を損じます。

▲唱歌は樂器なしでも歌へる樣にならねば本當でない又歌の節位は暗誦する樣に稽古するのです。

▲自分が稽古して居る中は誰れが立聽をしては居まいかなど丶思つてはなりません、常に教師が傍らに居られる積りで致すのです。

▲少々位音聲の惡るいものでも、勉めて習ひますと立派な聲になりますから、決して失望してはならない、又た善い聲の方は猶更勉められて益々美しい聲になる樣にお鍛えなさい。

▲毎日定の時間丈稽古して疲れましたら決して其以上の練習をしてはなりませぬ、不活潑に不愉快に技を稽古する位なら休養だ方が勝です。

▲諸孃は決して無益のものを歌つたり彈いたりしてはなりません、時間は頗る貴重すべきものですのに世間に殘つた佳作だけを習ひますのにも一生の壽命では足りません。

▲糖類や菓物に育てられた小供が不健康である如く音樂を習ふのも又之れに同樣と御承知ありたい、世の中には隨分甘い言を云つて弟子どもを瞞着する音樂先生がありますから、能く氣を付て先生をお選びなさい。

▲何人に賞められても決して油斷をしたり自惚たりしてはなりません、唯だ音樂に巧な人から讚められたならば確かに上手になつたのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋の庖廚

△鯖の鹽出し膾

新らしき鯖を三枚におろし薄鹽をふりかけ、桶にならべ置、蓋をなし、重石を置き充分おされて堅くなりたる切身を刺身の如く切り皿に盛り、おろし生姜酢、又おろし柚子の酢をかけて出すもよし。

△八方菜の椀盛

栗、にんじん、長芋、牛房、松茸、小鰕、麩、右の八種を細かに切りて味をつけ、豆腐の水を絡り、麥粉少し入れ、右の八種をつゝみ、油にてあげ、昆布だしにても鰹だしにても醤油にて加減し、薄葛にておろし山葵にて出す。

△芋と蛸の煑つけ

芋は小粒なれば丸のまゝ大粒なれば竪に二つ切にし、蛸はゆでゝ細かに切り共に入れて湯煑し、芋の柔らかくなりたる時に醤油と砂糖にて煑つけるなり。

△栗のうま煑

栗の皮を厚く澁共にむき弱火にて湯で三十分位にて水を取りかへ、木綿針の透るまでゆで、水をこぼして砂糖と水と等分に一ぱいづゝ入れ醤油を入れて煑るべし鍋は唐金をよしとす、又鷄の身をほどよく切り、味淋と砂糖醤油にて煑る、この汁に味淋さとう醤油を加へて蓮根を煑るべし、蓮は穴の間を花のやうにきり置、鍋釜をとり生のまゝ煑たるのち、さまして切るなり、三品共深皿に盛り柚子の皮を載せて出す。

△松茸の芥子漬

笠を開かざる小さき松茸を擇りて其土氣を去り、能く洗ひて其石づきを切り捨、鹽を加へて蒸煑になし、其鹽汁を冷して芥子を溶きこれに松茸を漬ける事五六日後松茸をとり出して其芥子に麹を加へ少許の醤油を和してよくかきませ此中に再び松茸をつけ釜を密閉して空氣の流通よき處ろに置、十四五日を經て後食すべし但し置處よければ四五ヶ月は貯ふる事を得べし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

簡易 佛蘭西料理

掛汁製法（つゞき）

(四)アスピツクジエリー　材料はストツク四合、それにゼラチン一写、種々の野菜屑、丸胡椒、レモンの皮、酢を小匙に半分、それから卵の白實一つ、方法は鍋にストツクを入れゼラチンを溶かし、溶けたる時に種々の野菜の屑を入れ煮立つた時にストツクのアクを引いた時の方法でアクを引き、後布で漉す、これを冷やすと凝るなり、これを溫めて種々の型に入れて飾として用ふるなり。

(五)メルテツド、バタ　材料はバタ三十目、鹽、白胡椒、方法は鍋にバタを入れて靜かに溶かし、鹽、胡椒にて味を附ける、此時決してバタから煙の出るやうに火に掛けてはならぬ、只バタが溶けるだけの溫度にて差支なし。或はそれに少し水を五勺位入れて殖やしても差支なし。

(六)メルテツド、バタ　材料はバタ三写、粉一写、ストツク二合、水と牛乳を代用す、鹽、胡椒、方法は鍋でバタを溶かし、粉を入れる、後溫めたるストツクを入れ次に味を附け強からざる火にて煮るなり、汁の濃淡は粉にて加減するなり。

(七)カパ、ソース（ソース、ヲ、カツプス）　材料は前の汁、卵の黃味一つ、罐入りのカパ大匙で二つ、及び其の汁少し、方法は前の掛汁を溫めて二重鍋にて充分熱く溫める、其の中へカパ及び其の汁を入れ直ちに用ゐる（長く煮るときはカパの色變ずるものなり）これにアンチヨビ、ソース（舶來品）を小匙にて一つ入れて用ふ、これは魚肉及び羊の肉に用ふ。

(八)チイストナツク、ソース　栗半斤ストツク二合レモンの皮一切れ、胡椒、クリム或は牛乳一合、方法は栗の皮を生の中に剝きて水に暫く浸し、ストツクで軟かくなるまで煮る、全く栗が軟かく成つた時に毛水嚢で漉し、それをクリーム或は牛乳で淡くするなり、レモンの皮は栗をストツクにて煮る時に共に入れる。

(九)プラヲン、チーストナツト、ソース　前の通り漉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

したる栗を作つてそれにモパニス、ソース凡そ一合を混ずる。

(十)ダチ、ソース　材料は粉一匙、バタ二オンス、酢を小匙に一杯、水を大匙に四杯、卵の黄味一つ、椒胡に鹽、レモンの汁、方法はレモンの汁と卵の外は皆一時に鍋に入れて火に掛ければ糊の如くなる、後黄實を入れ、火より下して布にて漉し、後レモンの汁を入れる、魚又は野菜用とする。

(十一)ダーク、ソース　材料は玉葱一つ、粉を大匙に二杯、バタ一オンス、グレーピー一合、葡萄酒を盃に一杯黑カレンズのジャム大匙に二杯、酢を少し、レモンの皮、鹽、胡椒。方法は葱を細かく刻みバタを入れ、充分色の附く迄火に掛ける、後グレーピー其の他を入れて五六分間煮立る、後漉すなり、重もに燒きたる肉へ掛ける。

(十二)メードデテール　材料はバタを三十目、パセリを五六本、胡椒、バタを遠火で温める、充分溶けたる時にパセリを細かに刻みて布片に包みて水氣を搾り、これに混ずるなり。尤も是は直に用ふるものにて、長く置く時はパセリが變色する故用ふる時に臨んで必ず入れるなり、重もに魚肉用とす。

(十三)マイヨネス、ソース　材料は玉子の黃實を二つオリブ油を大匙に八杯、酢を四五杯鹽、胡椒を大凡黃實一つの半分位、方法は玉子と鹽、胡椒を鉢に入れて混じ、これにオリブ油を一滴づゝ滴らして充分に攪き廻はし、凡そ半分ばかり油を使ひし時又酢を半分入れる、再び油を入れ又酢を入れる時にはそれが少し固まつて居る汁が出來る、堅ければクリーム及びストックにて淡くする、共に魚獸鳥總ての冷えたる肉へ用ひ又生菜を食する時に掛けるものなり。

(十四)辛の混せ方　英吉利にては辛は水及び鹽にて溶く、佛蘭西にては之に酢を入れるなり。

(十五)オリブ、ソース　材料は前のメルデッド、バタ二合、罐詰のオリブの實、方法は(七)の如くアンチロピ、ソースを用ふる勿れ、オリブには種子あるを以て皮を剝くが如くにして種子を去れ、鳥魚又は犢用。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(十六)サラド、ドレシング　サラドと稱する生の菜を食する方法なり、方法種々あり。
(イ)マヨチ、ソース少し淡くして菜を濕めす、トマト(赤茄子)茹でたる卵の白實と黄實とを各別に漉し上より振り掛ける、これをサラド、レモラードと云ふ。
(ヲ)林檎を切りて入れても宜し。
(ハ)ピーツ(赤蕪)を茹で入れる。
(ニ)普通マヨチスを作る割合にてオリブ油、酢、鹽、胡椒の四種を混じ掛けるなり又これへクリームを加へるも宜し、凡てをローストの時添へ用ふるなり。
(十七)シユヲンプ、ソース材料は小さき蝦、メルデッド、バタ少し、胡椒、アンチヨビ、ソース少し、方法は蝦を湯煮して其の身を潰ぶし(十六)のソースへ入れて火に掛けて煮る、後アンチヨビ、ソースを入れるなり、煮立る可からず、凡ての魚肉用とす。

名所月　女子大學　細川とし
須磨の浦に寄來せる波の飾らずば
そのまゝ月の影や宿らん

秋季總菜の取合(上)

▲汁

○茄子の大賽目に葉人參こまぐ。
○新芋に十六さゝげ。
○百合根に新午房のさゝがし。
○冬瓜のそぼろに茗荷の子の小口。
○零餘子にしらが午房。
○芋の角切に莢ゐんげんの纖。
○松簟に冬瓜の大賽、口柚子。
○初簟に摘み菜放し、口柚子、(汁を旨く仕立つるには初簟を細かにし泔水に漬し置き、よく洗ひて擂鉢にてすり、鰹節のだしにてとろゝ位に延べ、すいのうに漉して汁にまぜるなり)。
○燒鮎に根芋に口靑山椒。
○鮑の薄切に靑昆布のたんざく。
○身蜆に萵苣こまぐ。

▲吸物

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○むすび干瓢に刀豆のせん。
○よせ慈姑にしらが牛房（寄せ慈姑は皮をむきて山葵おろしにて卸し、胡椒をふりかけて葛粉と共に砂糖少し加へて擂鉢にてすりいかやうにも形ちとり、釜にて蒸すなり。
○十六島のり其儘岡入にして生姜のせん。
○鮑を斜切りにして十六さゝけそろへて。
○黒鯛の切身に粒初茸に、ぼう風。
○蝦のたゝきに冬瓜のそぼろに生姜こまぐ（蝦のたたきは首と尾とを去りて皮ともによく庖丁にて叩き葛少し入れて叩き合せ如何にも取りて酒にて煮るなり。

▲鱠　刺　身

○鱚の薄作りに茗荷のせん、からし味噌。
○鯉を細く作り子を酢にてときならし山葵（作りたる身を煎酒に浸け解きたる子に山葵を加へて交せる）。
○鯖の薄作り、海月のせん、二はひ酢。
○針魚の細作りに貝のはしら生姜酢。
○葛引鯛細作り蓮いもそろへ、卸し山葵、いり酒。

○鯛を三枚におろし刺身を作る樣に木とり葛粉にてくるみざつと湯くゝらせ水にて浸し、然る後平作りにするなり。
○沙魚の細作りに紫蘇そろへ、わさび醤油。
○いなだを皮のまゝ作りて、蓼酢（披骨を去り鹽をふり置きて細作りにするなり）。
○鰯ひき裂きて大根のたんざくに生姜酢。
○きはだ鮪にもみ大根、土佐醤油、（もみ大根は丹冊に切りて鹽にてもみ、辛みを絞り捨つるなり）。

△和　物

○人参のほろあへ、（葉をしごきて、根を短冊にきざみ葉も根も分けて湯煮し、葉を細かに敲き絞り白胡麻を炒り、白味噌入れてよく摺りてあへる）。
○小芋四つ半に切り松茸の蓋薄切り柚子味噌あへ。
○よまきゐんげん、生姜味噌あへ赤貝へぎて茗荷を繊に打ち山葵味噌あへ。
○榮螺細う切り新蓮根らんきり、胡麻味噌あへ。
○身蜆、葉にんじんの五分切、山椒味噌あへ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○ゑび味噌あへ（伊勢ゑび、茹でゝ肉を割き脳醤を取り味りんに鹽を少し加へ酢にてゑびの肉をあへるなり）。

▲煮物

○刀豆、照り煮、（實入たる刀豆をくづれぬ樣によく湯煮とし砂糖に鹽を入れて煮上るなり。）

○照煮柚（ゆずの皮をよく煠で、味淋鹽、砂糖にて煮上ぐ。切付合物によし。）

○銀杏のひしぎ寄せ（新銀杏を割りて炊り、澁皮を去り、肉を叩きひしぎて温飩粉に寒ざらしの粉を合せ、味淋醤油少し入れてのばし、銀杏を五つほどつゝとぢて胡麻の油にてあげ蓮芋又は松茸等を取合せ葛餡かけて出す）。

○鹽煮初茸（茎を去り傘に鹽をふりかけ空なべにて摺つけ、青海苔かけて出す）。

○湯松茸いか樣にも切りてざつと湯煮しおろし柚子、葛掛にて出す。

○いなだの酢煮、干ずいきの煮しめ。

○燒餅の煮びたし、新蓮根の鹽煮。

○いわしのあんかけ（首を取り三枚にへぎ器に入れて蒸し水氣をしたみ、おろし山葵、あんかけにて出す又丸のまゝ腸を取りて蒸し生姜酢にて出すもよし）。

○蜆のやわらか煮に紫蘇の實の甘煮。

○榮螺を薄切にし、腸をときて共に煮胡椒ふりかけ。

○金海鼠の寄煮（大きなる柔らかきものをサイ〳〵きり爼板にのせよくたゝき、銀杏、きくらげ、慈姑など細く切りてたゝきまぜ、鷄卵の白味をまぜ合せ、器に入れて蒸し、いかにも切り薄くづ掛胡椒の粉ふりて出す。

▲炙り物

○慈姑を串にさして胡椒醤油つけやき（胡椒醤油は酒を加へつよき火にて燒付にするなり。）

○松茸の傘をらんぎりにして柚子醤油つけ燒。

○刀豆のしぎ燒製法は茄子のしぎ燒に同じ。

○子持鮎の色付燒に山の芋、蕃椒味噌つけ燒。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

會話 (日英對譯)

Visiting.	訪　問
I beg to ask.	お願み申します。
Somebody knock.	誰れか來ましたよ。
Welcome! Pray come in.	いらつしやいまし、さアお上り遊ばせ。
Who are you? Come in if you please.	どなた樣? どうか お這入下さい。
I am very glad to see you.	あなたに御目に懸つて嬉しい事。
Excuse me! Here I am after all this long time.	どうも御無沙汰いたしました。
I was very rude to you on our last meeting.	先日は失禮いたしました。
Have you any news?	何か變ツた事はありませんか。

Dinner.	晝　飯
What have we for our dinner?	御晝にはどんな御馳走がありますか。
Did you send for any fish?	肴を買に遣りましたか。
There was not a fish in the market.	魚市場に肴がありませんでした。
Dinner is on the table.	午餐の用意が出來ましたよ。
Will you take some soup?	あなたはスープを召上りますか。
I am very fond of it.	ハイ大好ですよ。
You have no sauce.	あなたおしたぢがありませんね。
Will you take white or brown bread?	麵包は白いのをあげましようか、それとも黒ろいのがようございますか。
It is all the same to me.	どちらでも宜しう御坐います。
No any thing more, I thank you.	ありがとう もう 何も戴かれ ません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衛生顧問

(問)(一)月經時外に何時も白色の粘液出づ其の療法(二)肺病は父母何れより遺傳するか、且つ其の初期の徴候を問ふ。(無名女)

(答)(一)は第四卷第十二號の一日醫者なる子宮内膜炎を見られよ。(二)は父母何れからも遺傳します。極めて徐々に瘦せ次第に貧血し、食慾も段々減り、呼吸が短くなり、聲が斷嗄れ、胸が痛み頑固な乾いた咳嗽が出で痰も隨つて多くなる等である、併しこれ丈では肺病と斷定することは出來ぬ詳しくは昨年の女學世界に在り。

(問)腋臭の原因及び療法と齒の白くなる法とを敎へて下さい。(ふさ子)

(答)原因は多くは不明である、唯發汗の多過る人に多くあるものである。澱粉を撒き、夜は歇貌拉氏軟膏を附けて寢なさい。齒を白くするには食事毎に含嗽し、喫煙を禁じ、毎朝左の藥で磨きなさい。

沈降性炭酸加爾叟謨　五匁
炭酸麻倔湼叟謨　二匁
食鹽　五分

右能くまぜてブラッシに着け磨くべし

(問)齒が黒くなつて困ります其の療法、又硼酸を何倍に溶したら好いでせうか。(大阪ふく子)

(答)齒は前答の如し、硼酸二、〇を溫湯百瓦即ち半合に溶すが通例である、水では溶けず。

(問)頭痛のする人は油を髮に附けてゐると逆上せぬから良いと又洗髮にしてゐる方が良いといふ二説を聞きましたが何れが實でせうか。(北海道の二少女)

(答)何れも左程の關係は無いが、併し油を餘り澤山附れば宜しく無いでせう。

(問)(一)海水浴をするに色の黒くならぬ法。(二)白粉を云々草書文字で讀めず。(三)私等三人は舌におさな毛が云々これも草書文字で讀めず(四)(五)確と其の意義分らず。(六)神經痛の治る法。(七)べにには何といふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のが善いでせうか。（梢澤子）

（答）（一）は大抵無いでせう、何となれば海水浴の目的は色を黒くして强壮にし、蒼白い肺病的の顔色即ち天保時代の美人を避けようといふのであるからである、皆様よ何うか筋骨逞ましく、色黒く、歯白く、腕力秀で、寒暑何のそのといふやうな明治の美人になつて貰ひたい今後色の白くなる法などは答へず。（六）は御地の醫者と御相談の上、「フエナセチン」〇、七瓦を朝夕用ゐて御覧なさい、この薬は仲々功あれど劇薬であるから必ず醫者と相談することと必要である。（七）生臙脂が善いでせう。

（問）（一）神經衰弱の薬。（二）薄弱体を强壮肥滿ならしむる方法。（三）胃弱にて「チンチヤ」炭酸を服用してゐるが尚善き薬教へて下さい。（小松茂政外二人）

（答）（一）御地の醫者と御相談の上（還元鐵〇、三亞砒酸〇、〇〇五甘草末適宜）右丸薬となし一日三回食後分服。（二）言ふまでも無く滋養の食品を取り適當なる運動をなし内服薬としては（機那丁幾四、〇稀鹽酸一、〇單舎八、〇水百瓦）を一日三回食前分服。（三）チンチヤとはケンチヤナの事で炭酸とは炭酸曹達の略か、或はチンチヤ炭酸といふ薬小生知り申さず、併しそれ等よりも（含糖百弗聖三、〇ヤルチ子〇、三右三包に分け一日三回食後分服）の方が確かに善し。

（問）妾事胃病に候が何胃病なるか醫者に依つて各々其の診察を異にせり、兎に角食欲減じて平日の半分位さうして食後腹部を上下すればビチヤ〳〵音を發す、その外身体痩せるのみに候何卒〳〵療法及び衛生法を教へて下さい。（備後福山ＲＳ女）

（答）醫者が面接丁寧に診察してさへ區々になるのであるから唯單に此の位の病狀書では、何とも答へ難し、詳しく年齡職業發病年月便通の如何遺傳病の有無生來の健不健其の他醫者の参考となるべき事今一度御記載あれよ。

（問）顔の赤いのを赤く無いやうにする法如何。（十七才の女）

（答）それは大抵脳充血即ち逆上するのでせうから御

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地の醫者と御相談の上便通のあるやうにせられたし。
(問)(一)十七歳の女二三年前よりコシケ時々下り坐浴も致させますが臭氣あつて困ります子宮内膜炎でせうか何卒其の療法。(二)第十一號に腋臭等の臭氣を止めるには栗の皮云々とありましたがイガでは無いでせうか。(心配婦女)
(答)(一)然り子宮内膜炎でせう第四卷第十一號の一日醫者に詳しくあり。(二)勿論イガでは無い、その樣な事尋ねずともお分りになりませうに。
(問)胃病にて顔色青く瘦せてゐます滋養藥を敎へて下さい。(靑顔生)
(答)唯單に胃病では分らず胃病の種類數十ありますから其の病狀詳しく御記載あれ、併し小松茂政君の、(二)(三)の答の藥を試みて御覽なさい。
(問)前略僧帽瓣狹窄・僧帽瓣不全閉鎖・僧帽瓣全不全閉鎖と三人の醫者が診斷す、何れにしても不治の症に候や下略。(大和郡山の片山生)
(答)僧帽瓣不全閉鎖は良性なるも、其の他は不治の症なり、併し生活の狀態に依つて大いに異り生活法の惡しき人は良性も治らず善き人は不治症なれど二十餘年の間左程の苦痛を感ぜざりしが偶々熱病に罹つて死んだ人もある、現に角心悸亢進時には氷囊を心臓部に當て、平常とても心身を安靜にし滋養の食品を取り多食せぬやう酒類を禁じ温度の高い湯及び冷水に浴せぬやう注意すべし藥は御地の醫者に御相談の上左記の物を試みては如何醫者の參考までに。

ヂキタリス末、鹽酸規尼涅　各一、〇
還元鐵　五、〇
右二十五丸になし食後　丸宛

(問)(一)氣管支加太兒の根本的療法。(二)眼や手足をピク〳〵動かす癖ありこれが矯正法如何。(小倉の幸子)
(答)(一)今居らるゝ處よりも、一層温暖なる地方に移住して醫者と相談の上的列並底油療法を施し、さうして冷水洗拭厳守すること肝要なり、若し移住出來ぬ時は一生多少の加太兒あるを免れず(二)は心理療法即ち坐禪でもして精神を沈着にしたら必ず治るでせう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(問)(一)本年十八歳なるが身長三尺六寸位しか無しせめては三尺九寸程になる見込無きか。(二)肥え過ぎて困ります。(三)月經の度毎に痛み甚し右三問の療法伺ひたし。(かほる子)

(答)(一)サンダー體力養成法を試みて御覧なさい(二)脂肪の強い食物を避けて(一)の法を行へば治る(三)は婦人科專門醫の手術を請はねば治らず。

(問)亞砒酸をのみたく思ひますが（以下草啓のやつしがきで讀めず）身體に如何なる影響を及ぼすか叉分量を問ふ何卒敎へて下さい。(しらつゆ女)

(答)藥は内務省の規定では通常藥、劇藥、毒藥と分たれてゐて亞砒酸は毒藥に屬す、故に醫師が其の病に應じて用ゐれば卓効あるけれど素人が誤つて少し用ゐ過ぎても惡心嘔吐咯血一方ならぬ害あり併し折角のお尋ね故醫學生に答ふるとして答ふれば、最初一回に(〇、〇〇一)位から初め漸次増量して(〇、〇〇五)に至つて一且服用を止めねばならぬ、さうして決して空腹時に用ゐてはならぬ、しらつゆ女は察するに（小生の邪推なら失敬の至り御免下さい）色を白くする爲でせう、當りましたらう、醫者に白狀した上で其の醫者に調合して貰つてお服みなさい。

(問)胃擴張の新治療藥を敎へて下さい。(困胃者)

(答)御地の醫者と御相談の上左記の處方を連服してすべての攝生法を嚴守し玉へ

加爾々斯泉鹽　五瓦　水　五〇、〇
右早朝空腹時頓服（服用後冷水にて必ず含嗽すべし）

重曹　三瓦　硝蒼　一瓦半　ホミカエキス　〇、〇八
右分三包一日三回食後一包づゝ

(問)(一)年四十歳なり喘息にて醫士の藥効無し根治療法を問ふ。(二)卵二つと牛乳一合何れが滋養多きか。(伊勢桑名の澤しと)

(答)(一)發病時に施す藥はあるけれど根治療法は無しと言つても善いでせう、併し（沃度鐵舍利別六、〇　水一〇〇、〇）を一日三回に分服を試みて見なさい。(二)は卵の方多し普通の雞卵一つは牛乳九勺餘に當ると心得られたし、併し病氣の時は大抵牛乳の方よし。

(問)二十年の女、肺尖加太兒の處方のみを伺ひたし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(岩代の一讀女)

(答)單に處方をのみ示せといふのであるから、劇藥であるけれど二ッ三ッ醫師の參考までに書きませう。

亞砒酸 〇、〇〇三 還元鐵 〇、三

右爲二六丸一 一日三回 食後二丸宛(漸次增量)

炭酸グワヤコール 一、〇 酒精 一〇、〇

水 一〇〇、〇

右一日三回食後分服

的列並底油 一、〇 水 一〇〇、〇

右一日二回朝夕吸入

(問)夜分寢つきがわるくて困ります、安眠藥は無いでせうか、尤も昨年神經衰弱症を病んだのですから。(一女學生)

(答)此の質問書も鉛筆で草書で如何にも亂暴に書いてあつたから仲々讀みにくいのを二三人で判じたのである故に誤解して問者の意を得ぬかも知れぬ。安眠藥は大抵左の三つなり。

1 臭剝 一瓦 2 スルフオナール〇、七

3 抱水コロラル 一、〇

右何れも寢際に服む一度分なり醫者と相談の上用ふべし

(問)(一)委は性來顏の色が青白くて困つてゐます、反體とて平生弱ッぞもありませんが何月色艶書もよくする方法又は藥品とてもはありませぬか(二)滋養品として人造牛乳の効力如何(三)吾等は田舍で且つ貧ですから植物性の滋養品を敎へて下さい。(周防の青白娘)

(答)(一)の意味分らず。(二)豆腐を食ふやうなものです。(三)米、豆腐、湯葉、百合、自然薯、麩、葡萄、胡麻、慈姑、蕎麥粉、蠶豆、などでありますが、魚肉もまぜて食ふ方が勿論善い。

(問)鯛、鰯、鰹の滋養の優劣を伺ひたし。(本鄕の何度女)

(答)唯滋養分を含んでゐる丈に就いて言へば一等鰹二等鰯三等鯛なれど其の身體に消化吸收するといふ點から言へば一鯛二鰹三鰯なり。

(問)三歳と一歳との男兒に海水浴致させても害無きものに候や。(福岡縣津田町のふじ子)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(答)海水を沸してならば宜いが直に海水に入れるのは賛成しませぬ。

(問)十九歳の女常に腰邊に發汗多く爲に着物が黄色に染ります其の療法を伺ふ。(黄色生)

(答)栗皮を澤山鍋で煎じ其の汁を風呂湯に入れて腰部を洗ひなさい(二十日間程續けて)。

(問)(一)心臟病を治す法。(二)煙草を止めんとすれど止められず之を止める工夫ありませんか。(函館のすみ)

(答)(一)大和郡山の片山生の答を參考せられたし(二)心の立て樣に依るから神明に誓はれよ。併し煙草の功と害とに就いては議論あるが、余は二十五歳以上の者ならば有効無害と信じてゐる、貪り吸はれぬことは如何なる滋養物も同じ、或る病に用ゐられぬことは牛肉鯛も亦然り、倦怠の心生ずる折、睡魔の襲ふ節、疑問の起る時、煙草一プク吸へば大いに興奮するに非ずや、今や極端に喫煙を非難する者が多い。試みに其の害の如何を尋ぬれば吸はぬ者に一服吸はしむれば眩暈を發す位の薄弱な議論、これ皆米國人などの宗教上或は阿世的に言ふ説に雷同するのである。余は斯う言ふもの丶固より必要品としてお勸め申すのでは無い、唯活花抹茶の類と見做し、さう八釜敷蛇蝎視する程の物で無いことを一言辨じておく尚他日詳しい議論をお話することもあらう。

(問)手に白く田蟲の樣なものが出來時々痒くなつて困ります治療法を敎へて下さい。(羽前の康子)

(答)御地の醫者と御相談の上千倍の昇汞水をつけて御覽なさい。

(問)當年廿一歳月經前每に水はなの如きもの下り候捨ておきて差支なきや。(心配女)

(答)何の困難も感せねば捨ておきて差支なし困難あらば第十一號の一日醫者子宮内膜炎を見られよ。

(問)廿二歳肺結核今は快方に向ひ居候か養生法を敎へて下さい、且つ月に三回位……(大阪の一日醫者愛讀方)

(答)可成南海の孤島或は半島に移り精神を安らかにし脂肪の少い魚肉、鶏卵、牛乳などを食し、皮膚を淸潔にし、度々散歩して善い空氣を吸ふやうにすべし、牛豚

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

肉の如き脂肪多き物は餘り食はぬがよし、日光と空氣とは本病の良藥であることを忘れてはなりませぬ、月に云々の問は自らに其の心起るならば差支なし。

(問)私十四歳頃より白血が月經前後にありて、それで普通以上の壯健なり差支なきか。(麹町の山口女)

(答)身心共に不快無くば差支なし。

(問)私の小兒生後二年で生後三十日頃より腸加太兒を起し、今に全治せず、且つ時々氣管支加太兒になります色々醫療を加へても効なし何とか壯健にする方法ありますまいか。(大坂北區今井町女學世界愛讀者)

(答)それは大方結核性でせう、食物が第一の肝要であります、可成牛乳、卵黃、水飴位の外一切食べさせぬやうにし、毎日溫脚浴を施し、左の藥を連服させて御覽なさい。

硝蒼　一、〇　含糖百弗聖　〇、九

右三包に分け一日三回一回一包宛

(問)右眼の睫毛の內側に白き粟粒の如きもの出來候別に害無きや云々。(無名女)

(答)診察せざれば分らず、何となれば其の病狀書が餘り簡單であるからである、併し果して粟粒の樣なものが結膜にあるならばトラホームでせうこれは早速眼科專門醫の治療を受くるが肝要である。

(問)私の兄が久しく痔で困つて醫療効無し良藥及び養生法を敎へて下さい。(某少女)

(答)痔に種類多し其の病狀書を今一度詳しく書きなさい。

(問)身長低し高くなる法、夜寢る時の姿勢を御敎授下さい。(名不書生)

(答)身長云々は前の(かほる子)の答を見られよ、姿勢は右を下にし足を伸してが善いわけである。

(問)(一)足部の所々に腫物出來かゆき事甚し(二)足先ほてつてだるく困ります(三)戸棚の濕りを防ぐ方法右三問御敎示を乞ふ。(濱松の一婦人)

(答)(一)腫物の形狀大小等書いてないものを占者では無し見ずに藥が分るものですか、兎に角酒精をつければ痒いだけは治ります(二)も問方が簡單で分らず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(三)は太陽の光線を入るゝやうになすべし若し光線を入れられぬ處ならば仕方は無い。

(問)(一)蜂又は毛蟲の害を受けし時の藥。(二)耳孔痛し馬糞をぬれば善しとの事果して然るや。(三)牛乳の功用右三問敎へて下さい。(大坂きよ子)

(答)(一)療法種々あれども、單簡なる方法は酒精を塗つて其の上を氷で冷しなさい。(二)馬糞などぬれば大害あります、(三)は乳兒の母乳を得られざる者及び病人に與ふれば滋養の効あります。

(問)私の乳房大きくて醜し小さくなる良法ありますまいか。(東京の冬野つや子)

(答)それは健康者の相である、目出度し〱、小さくする必要無し。衛生顧問は病身になる方法を說かず。

(問)(一)五歲の女兒蛔蟲になやむ賣藥のセメン一日一回三日續けて無害に候や。(二)俗に申す食合は化學上作用を起すものなるか。(三)姙娠中兒動を感ずるは何ケ月に始まるか及び九ケ月までは一里位の散歩差支なきか。(四)齒痛に善き藥を聞ふ。(伊勢の愛讀者)

(答)(一)差支無し、但し賣藥は醫師の知らぬものなり何となれば醫師は局方即ち其成分及び生理的作用等の明からになつたものを用ゐるのに、賣藥はそれ等の藥を幾種合はせ其上色を附けたり香をつけたりして人に知れぬやう秘密にしたものであるからである然るに素人の方は賣藥も醫藥も同一視して賓母酸は如何、一點水は効あるかなどの質問をなさる、知らずと云へば醫者が藥を知らぬは藪だらうと言はる、文明の智識無き人には閉口するのである。(二)俗に云ふ食合せは多くは跡方も無き虛言である、水爪と實丹、蕎麥に田螺、鰻に梅干など何れも差支無し、併し私の知らぬ食合せに害あるのがあるかも知れぬ、又藥に茶は害ありといふけれど醫師の方では害あるのもあるし却つて善いのがあるやうな譯で兎角昔からの說は針小棒大的である(三)胎動を感ずるは五ヶ月が始めなり、九ヶ月では一里の歩行せぬがよし。(四)齒痛には丁幾最も善し。

(問)出產後六週間以內に姙娠することありや。(何右

(答)有り、一週間以內にさへ姙娠した者がある、され

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ど六ヶ月以内に姙娠する原因をなす者は人間では無い否人面獸心である、之を名づけて意馬心猿の奴隷と云ふ。

(問)鼻が赤くて困ります其の療法如何。(豐前の春子)

(答)本誌の顔の話(中)に在り。

(問)白帶下の治療を伺ふ云々。(芝蘭子)

(答)第十一號一日醫者子宮内膜炎を見られよ。

(問)强壯ならずして、豚的に肥えてゐます何とか瘠せる方法ありますまいか。(豐後の波音女史)

(答)可成野菜的の食物を取り、勞働をなし、御地の醫者と御相談の上左の藥を服んで御覧なさい。

法列兒水一滴　林檎鐵丁幾一、〇　水一〇〇、〇

右一日三回食後分服

(問)(一)冷水摩擦は心臟に害なきや。(二)鼻加太兒の療法。(三)手掌に田蟲あり其の退治法。(早々女)

(答)心臟病者には害あるも健康者には心臟强壯法なり(二)本誌顔の話(中の巻)に在り。(三)は前の羽前康子の答を見られよ。

衞生顧問　質問者へ注意!!!

(注意)!!!仙北五城はつ子、具萩子、大坂蕪子など外數十名の方の書方は如何にも美事で手本に致したい程であるが其の草書の崩し方が如何にも我家的で讀めませぬ何卒楷書で認められたし。越前御尋女、光子、番町閉口女、下谷の七東女、伊豫の岩子、丹波の田舍娘子、秀代女、TK生外數十名の問は次號の糸氏郎の話(下の巻)に詳しく載せますからそれを御覧下さい、必ず滿足を得らるゝことを保證致します。

糸左近宅へ手紙を寄せて「折角御教授の藥買ひに行きしも田舍の事故無し、或は藥店主知らず或は買ひ來りしも調合法分らず依て代金送るからのむばかりにして送って下さい」といふ依頼が澤山來る、そこで「御教授はするが斯る手數な事は致し兼ろ」と御斷り申せば送金して頼まるゝ方さへある私も甚だ迷惑する所から同番地の藥店主人に話したら「それでは他の藥舗の二分の一乃至三分の一の廉價を以て(女學世界愛讀者に限り)一切其の勞を取りませう」とのことである、若し藥品に都合惡しき方は左記の處へ御注文あれ。

▲東京市本郷區森川町壹番地順天堂藥舗▼

家庭衞生

通俗 流産豫防法

婦人醫者

凡そ經驗ある婦人の我が健康を害する一大厄難として

尤も恐怖且つ痛恨するは流產より甚だしきものなし、若し流產習慣となれば、先に健康なりと賴みたる躰質も遂には莫大の患害を來し、死病の種となる事あればなり。

懷妊の始めには母親と胎兒等との連繫極めて微弱なる事を理解し居れば、世間に流產多き事も、敢て異しむに足らずして流產し易き理由も容易く悟り得らるべきなり。

抑も流產の一度習慣となりては其害甚だしき事、前述の如し而して母子の連繫極めて微弱なるに依り流產し易き事斯の如くなれば、人或は醫者に向ひて斯く慘毒なる患害の基となる事故、如何にもして防ぐべき手段あるや、若しあらば敎へ玉はれといふなるべし。醫師は之に答へて曰ふべし。手段元より有り。されど、斯の如き手段は多く當人の愼みて避るより、よく其効を奏するものにして、醫師の力らにては既に一度習慣となりし流產を防ぎ得る事は甚だ尠少のものなれば、只常に自身にて十分なる豫防法を熟知せん事を要す、然る時は、單に其身に益あるのみならず、又其子の生命をも安全ならしむるものなり。

△流產の起る時期

これは甚だ不定なるものにして、懷妊中の日數は四十週、即ち二百八十日を定度すと、此の日限中は何時を限らず子の生るゝものにして、その七ヶ月以內に生るるものを流產といふ、それ懷妊して後、間もなく、故障生ずる事ありて、流產の原種となるべき病害は間々後日、顯はに發すれども、始終暗地に作用を爲すの類少なからず、是れ流產の懷妊後三週間中に起る事ある所以なり、されど大抵は八週間、乃至十二週間の後とせり。

△流產の徵候

懷妊中に確とした理由なきに、氣力衰ろへる事ありて胃の下部及び腰、尻のあたりの苦痛、或は發り或は止むは是れ流產の徵なり。斯くありて後、暫時すぎて、幾分か血の出づるは最早胎兒が、母親の躰より幾許か分離せしものと知るべし。それより又腰、尻の苦痛漸

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く烈しくなりて、壓下らるゝ樣の心地し、明色せる血塊の多分に下るに至れば、全く分離したるなり、斯くの如くなれば流產、全終りたるもの故に、譬へこの死體未だ出でざるも、日數數日過ぐる內には必らず出るものなり、但し其の以前に、必らず乳房娟やかになりて、腸胃多少の常度を失ひ、血下りて其色常に異なり頗る苦難を覺ゆるなり。然れば下る處ろの血の分量、及び其の變り色等は、右に說く如し。是ひそかに流產の熱したる證據なり。

△流產の根元

流產の根元はいろ〳〵あれど、必竟不意に發ると、性質より發るとの二種に過ぎざるなり、今其の重要なるものを記さん。

不意の事故より流產を起す事あり、母親と胎兒との連續微弱にして、極めて斷れ易きにより、若し懷妊中に、倒れて身をうち又は胃部を衝事あればそれが爲めに流產を招く事ありと知るべし。

烈しく運動し、又は勞力する事の流產の原因となる事間々あり、踊り、又は馬に乘るはいふまでもなく散步の度に過ぎる事、(重き物を持ちあぐる事)又甚だしく奢侈を極むる事、等は時としてこの健康を害すれども神經を、擾動する事も又流產を促がす事あり、烈しき下劑、吐劑等を用ゆるも又流產を促がすの害あり强き下劑を服する時は、下腹にカタル症を發するに由り、流產を催ふす事常なれば、强き吐劑の烈しき作用を胃に行ふ時も又同害の基となる事明かなり、故に懷妊中は愼みてこの二ッを用ゆべからず、是れによりて見れば世人のやゝもすれば、墮胎せん爲めに烈しき下劑を胃腸の煩熱を起さしむる程多量に服して只管身輕にならん事を欲し、却つて身を害し、死を招くに至るを省みざるは愚の至りなり。

△遊惰の風習

懷妊する度每に其時ありて必ず流產するやうに癖づけるは甚だ患ふべき事にして流產の根元中最も大切なり、今其景狀を委しく說けば不意の事故などの爲に、一度流產して後は兎角慣習となり勝のものにして何時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も斯くの如し、かく慣習となりたる上は流産を免るゝ事甚だ難くして又懐妊しても曩時と同じ期限に至れば何か患害生じて、その患害は假令前より微なることにても流産すべき勢力を保つこと他の期限に生ずるものよりも甚し。

遊惰なる風習よりして身體の虚弱になりたるも又流産の原因なり、高貴なる生活有福なる身分にして、勞働すること少く、奢侈を好み、日常温柔なる臥褥に起臥する事を習慣としたる者は、肝要なる胎兒の滋養を主どる血液を運輸すべき脉管強健ならざるが爲め、胎兒は自己の成長に必要なる滋養を給せらるゝの道を失ひ、遂に痩せ衰へて死し、排出せらるゝなり、是れ又流産の重なる原因といふべし。

又生來壯健なる者にても前の如く遊惰に耽ける時は亦流産の患あり、但しその景況は少しく異にして、先づ身體に似合はざるほど多分に血殖へ、其の血は遂に非常なる烈しき力を以て血管中を通過する故、子宮の血管も又其の作用によりて刺衝を受くるなり、此の際に子宮若し速かに順從すれば害無しと雖も少しにても抵抗すれば局部に壓重又は擴張感覺ありて、腰脊及その邊に痛みを生ずる者なり、此時若し相應の藥を用ゐて速に治せざれば血管破裂して流産に及ぶことを免かれるざなり。

此の外格段に身體を激動する種となる事、懐妊中始終月經通ずる事、晩年にして結婚すること、痔を病みて熱を持ち、又は痔潰破て多分に出血すること、その他猶種々なる事よりして、流産を催すことあり。

△流産の防禦法

防禦法には種々あれどまづ別ちて二種とす、一は嘗て流産したる者の豫めこれを防がん爲に用ゆるもの。二は其兆著はるゝ時これを治せんが爲めに用ゆるものなり。まづ其兆しの著はるゝものに就て説明せん。即ち左の三期を心得べきなり。

△第一期

流産の第一期とは兒の體未だ損せずして唯恐嚇流産といふべきもの〻催ふしたる時限なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

この催ふし始めには大抵これといふ理由もなくして只氣力大に衰へたる事を覺へ食氣なくなりて少し熱氣を帶び程なく腰臀の邊に痛を生ず、若し生來健康なるものなれば顳顬の脉搏亢ぶりて血行の激動を證す事あり又それに次ぎて强く頭痛し、皮膚に熱氣ありて口渇き食氣なく、腰の中壓重しき心地するなど其人々によりて種々の徴候あるものなり、此の如き病苦を發せし時は至急に醫師を招くべし、その發り初めには醫療も極めてよく屆くものなれば手後れにならざる前、然るべく指圖を求て防ぐこと肝要なり。

△第二期

右各所の痛み方漸々繁く、又烈しくなりて程なく凝塊せる血の出づるに至らん、但しその血の出づる量多き時は必らず明色を帶ぶるものなり、是れ胎兒の幾許か分離せし徴候にして即ち是を第二期とす第二期は第一期より手重くなりし事勿論なれど、されど方法によりては豫防ぎ方なきにあらず、但し斯く危險なる場合に至りては醫師たるもの丶快手勇敢に治術を施さん事を要す、當人も又一心に醫師の敎に從ひ、隨分過酷る處置をも忍耐すべし。此際醫師の來る前に施すべき手段は臥床に閉ぢ籠りて冷やかなる酢と水とにて浸したる「リンネル」の布片を以て時々下腹部に當て、十分に食物を節し緩下劑を四時間毎に服するなり。

凡そ流産を兆す病患の發する時には即時に治療を加へ第三期に至らしめざる樣注意するを肝要とす。

△第三期

若右の恐嚇流産の加はれるを禁止むべき手段効なくして續きて出血し若し苦痛增して少し壓重き心地をなしたる時は流産の第三期に入りたるものにして安産の望旣に絶へたるものなれば、唯遂なく、流産せしめて頓て以前の如く健康體に復さしめるやう勉むるより外に工夫なし。

但し受胎後三ヶ月にして流産したる時は只管平臥すること猶月滿ちて分娩したる時の如し、況して胎卵の出づる前に當りて多分の出血せし時などは猶更の事なり抑も婦人の流産せし後、餘り早く出歩くことは實に甚

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

だよろしからず、一體その常坐には子宮平生よりも大きくなりて重きものなる故、動もすれば子宮脫を起し又それほどならずとも、白帶下を患ふるの恐あり、何れも流產の後一週間、又十日間ひたと平臥し居れば此患を免るゝものなり、

第一期は禁戒の時にして此時に治療を加へ流產せざる樣勉むべし。

第二期は治する希望のある時期にして深く意を用ゆれば治し得べし。

第三期は最早効を奏するの手段なき時節なれば、產後の快復を勉むるの外なし。

△流產の習慣を防ぐ法

右は始めて流產の徴候に對する心得なるがこゝに又曾て一度び流產したるものゝ豫めこれを防がん爲めに用ふる手段、これは再度懷妊する前と受胎せし後とに用ふるものなり、但し身體の健否、異なるに從ひて多少斟酌せざるべからず、因りて其の心得方を左に述べん

性質怯弱にして瘦せ居る者は再度懷姙する前にまづ身體の全部を健康ならしめん事に務むべし。これ根本的に子宮の機能を健かにするの道なり。まづ第一は胃と腸とに注意して朝夕適宜の運動を取り、又時々食後に健胃劑を服するもよし此の際若し便秘する事あれば灌腸を行ふをよしとす、されど激しき下劑などを用ふる事は堅く禁ずべし。蓋し下劑を用ふれば必らず大腸と其近傍なる子宮を刺衝するものなれば深く注意すべし。

食物は始めに滋養分多き物を少量に食すべし、その品は柔らかなる飯、煮たる野菜肉類にして雞、牛肉などよろし、但しよく咀嚼するを要す、

胃の消化力確かなる時は一日に二回肉食して可けれども分量の適度を失はざるやうに注意し、且つ夜食には決して食ふべからず、又食後に少量の葡萄酒は消化の効あるものなれば、二盃位用ふるも可なり。

激しく腦髓を刺衝する事柄を見聞し、又過度の精神を勞するの事柄に遭遇するはよろしからず。難解の事などは一切避けて適宜に精神を靜養すべし、室內の暗き

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はよろしからねど、あまり日光の透入する處に居るはよろしからず、臥榻の邊には頭部に至る、幕の外一切飮進物なきやうにし、閨は廣くして能く空氣を通はしむべし。

善良なる浴法を擇び行ふは第一の事にして朝は寢床の暖氣尙身体に殘り居る中をよしとす、又晝間行ふ時はその前に少しく運動して體溫を引起すべし。又坐浴の如きも多分の益あるべし。但し坐浴は往々子宮を刺衝する事あればあまり屢々行ふべからず。

次は運動なり、運動は身体の健否に相應して行ふ事肝要なり、まづ始めは朝餐と午餐との間に步行し、若し上流社會の人ならば窓を開けたる馬車に乘りて郊外等徐行するもよし、勿論その運動は食前になすべし、食後にはなすべからず、且つあまり疲勞を覺へざる內に休止し成可くこれが爲に心地爽快を覺へ氣力の增すやうにするを肝要とす。

又空氣は乾燥せる處をよしとす、彼の陰鬱にして、濕りある處にては如何に醫藥を施すも流產の恐あるを免かれざるなり、猶又茲に注意すべきは流產後三ヶ月過ぐるまでは必ず房事を愼みて此期間は再び懷胎せざる樣心掛くべし。

▲婦人肥瘦法

一每朝安息香を加へた微溫湯で、浴すること、

一スープ又は牛乳で煮た馬鈴薯を喫すること、

一炙肉又は燒肉を食ふこと、これは主なる滋養を取るためである、

一麥酒若しくは牛乳を飮むこと、

一身体を疲勞させないこと殊に忿怒とか心配とか何でも激しい感動をしないやうにすること、安眠する事

之を實行すれば、肥ること請け合、併し肥り過ぎて困まる人は、次の瘦せる法を行ふ、

一每朝冷水に浴して自轉車に乘る事

一柔かに炙つた肉を食つて、澱粉質のものよりか、青い野菜類を食ふこと、

一成るべく飮料を減ずること、即ち食時每に、葡萄酒一杯を飮んで、食事の外には、一切飮まないこと、

一規則正しく步行するか、又は馬に乘ること、

右外國雜誌より

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋のよそほひ

千草八千草の色うるはしき今日此頃、人の粧ひ様々にて、挿す髪飾り、指環より扨は衣裳の模様、仲々に目に付くもの多し、今是等の重なるものを記さんに。

▲櫛　は鼈甲物の上品なるが流行せり、是は楕形の黒鼈甲臺に銀を張りたるものにて、面には松島の景、玉川の圖、月の影、竹の春、秋の千草など、いづれも瀟洒の彫刻を施しあり、年若き婦人の艶やゝかなる黒髪に挿し用ゐて、いとうつり好し、之と同ものにて、艶消したるものは、一層上品にて、光を嫌ふ地味の向に好まるゝ品なり、(價十二三圓)。次に象牙にては、楕形の山稍々高きもの流行せり、是には金銀螺貝などもて、花鳥の類を鏤めたるものと、花卉を透彫にしたるものとの二種あり、共に實着向なり（一圓五十錢より四圓五十錢）。又た木地にては蠟色塗にして元祿模様をあしらひ、象眼の様に見せたるもの、風雅にてよし、(一圓半より三圓位)。尚ほ木地の蒔繪　に就て見るに材には柞、黄楊、白檀、鐵刀木の四種あり、形は鄙形といふもの行はれ、色は極めて薄く銀色又は色漆にて、蒔繪を薄りと施したるもの殊に輕きが愛でらるゝやうなり。

▲束髪飾　目下の新流行たる磯巻、S巻の挿飾としては、鼈甲製にて、三枚櫛のサイドコオム(五圓位)か、又は鼈甲臺に古代蒔繪をしたるもの(一枚一圓より二圓三十錢位迄)が、品も善く、うつりもよければ、最も廣く女學生社會に持囃され居れり。

▲平打簪　にて今尚ほ流行し居るは、朝日に匂ふ山櫻の透彫なり、(純金製七圓より十圓、銀製三圓位まで)

▲束髪ピン　は時勢に因みて意匠を凝したるの多く、中にも多く行はるゝは、艶消の銀製鼈甲脚のものか、眞珠入の細工ものなどなるべし。

▲指環　も時局に當篏めた意匠のもの多きが如し、近來少女の間に多く見受くるは、軍艦の錨を斜に置いて、錨綱を輪にした銀製のものなり、是は意匠に於て申分なければ戰捷紀念品として最も恰好なり。

▲戰捷紀念の衣裳　には紋御召、風通織の中に日章旗と、露國旗の破れたる其中に敵艦を細かに織出したるもの、又た竪縞に砲彈の命中したる模様のもの、帶地には帝國軍艦の名稱に因む名所の景色を寫したるもの、又た博多織の男帶地に軍用鐵道電線と稱し、鐵道線と電信線を獨鈷に織りたるもの、友禪の中に萬歳呼ばふ提灯行列の模様を出したるものなど、くさぐさあり、是等は孰れも三井呉服店の意匠に成るものにて、時節柄最も人の注意を引き居れりとよ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

海外事情

獨逸皇后の平生

五千萬の人口と、六十萬の常備兵とを以て世界に雄視する一大武强國獨逸聯邦の帝室、ホーヘンツォルレン家の現皇后の御平生に就て、英國某記者の記載せし一節を茲に御紹介申さん。

皇后は名をアウガスタ、ウヰクトリヤと稱され、獨逸聯邦の一公國シュレス、ヴヰック、ホルスタイン家の姫君にして御年四十六歳に渡らせられ、今を距ること二十二年前現皇帝維廉二世が未だ皇太孫たりし時嫁し給へり、皇后良人に長じ給へること三ケ月、身體頗る壯健にましまして一と腹に子女八人を擧げさせ給へるを見ても其の如何に躰質の强健に渡らせ給ふかを知るに足らん。

皇后の御容姿はさして美人といふ程にはあらねど、其狀貌は快活にして生氣滿面に溢れ玉ひ、且つその擧動はやさしくして何處までも家婦たるの資質を備へ給へり、宮廷の人多くは纎弱なれども此の皇后のみは肉太く骨逞ましうして微塵も弱々しき所なく、日夕庖厨の働らき、若しくば薪を負ふて市に出づる女もこの皇后に對しては容易に誇るべからざるほどの肥胖の躰質を備へ玉へり、而かもその御眸は涼しく、其の髮はうるはしく、且つ尤も柔性の美を備へ玉ふはその御顏の爽やかにして温和なる所ろにあり。

或る外國の觀察者は皇后の容姿を一見して常に男子を凌ぐ女傑ならんと言ひしも、決して然らず、皇后は順良なる家婦の好標本にしてその力量と、愛情と調子よく發達して其頭腦は極めて明亮に、其の氣象は快活にして且つ自ら恃むの念堅く、其性質は華々しきを嫌ひて質素なるを好まれ、帝王の皇后と言はんよりは寧ろ尋常の家婦といふに適當なり。

獨逸先帝の皇后は雄才大略に在はして常に政事向に干渉して帝を動かし給ひしも現皇后に至ッては、微塵も政治上に念頭を持ち玉はず、彼の性急熱烈にして野心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

尤も深く其の擧動變幻不測にして歐洲外交界の鳳凰と稱されし程の今帝に配偶してよく其の家を治め、子女を撫育し給へり。皇后は何處までも家の妻なり、小兒の母なり、溫和貞淑の良主婦なり。

皇后は門地高き家庭に人となり給ひしも極めて質素嚴肅の敎育を受けられ、普通課程の外に又農家の女の如く種々なる手藝を修め給ひ節儉にして家政に長じ給ふこと王者の配としては寧ろ異數といふべく、其の身歐洲大國の寶位に坐し給ふも朝は必らず五時に起きて手づから子女の世話をなし、早起夙夜は健康の基、富の基、又智慧の基といふ事を堅く信じて十年一日の如く之を實行し給へり、卽ち予は（英國の觀察者）玆に皇后の平生に就て其の一斑を記し以て世の家政者に資せんと欲す。

△皇后の平時

皇后は必ず五時に起き給び六時に朝餐を喫しそれより一定の日課を讀み給ひて夜は十時を過ぐれば一家皆夢の中なり、皇后は時間を重んずること甚だしく、他の結婚祝、誕生祝などに物を送り給ふ時は常に時計を送らるゝなり、獨逸皇帝は歐洲の諸帝王中にて尤も服裝のよく整ひたる君なりとは一般の評判なるが、是れぞ全くその家に針線の技に長じ給ふ皇后のありてその良人子女の衣服、襯衣、襪など尋常家妻の及ばざる程よく注意せらるゝ皇后の在すが爲なり、歐洲流行社會の婦人には日耳曼皇后の半分程も其子女の事に注意するもの少きが如し、彼の敎育の最高目的は、人物を造るにありとは皇后の少かりし時常々聞き居られし所なれば、今や其多くの子女を敎育し給ふにも一と方ならず骨を折り、暇と云ふ暇には必ず小兒部屋にありて假令賓客堂に滿つる時と雖も子女就寢の時刻となれば必ず臥床の邊りに到りて其皇子達の祈禱をなし給ふを聞かせらるゝなり。

△避暑中の皇后

又初夏の頃、空蒼々と晴れ渡りて、日光滿地に輝き鳥

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の聲・樹間に喧しき折りなどポストダムの公園に英國風の質素なる黒服を着たる風姿優美、容貌快活の一婦人が五才より十四才までの小童六人に取りまかれて散歩するさまを見る事あり而かもその誰か其獨逸の皇后たり、歐洲强大國の皇子、女皇たるを知るものあらん、皇子等は蝶々を追ひ、小舟を掉さし池に漁り、小馬を走らせなど快活なる幼なき聲は、その母君の爽やかなる笑聲と相和して園中に響けり。日耳曼聯邦廣しと雖も、斯く快活なる仲好き家族の一と群は容易に見ざる所なり。これ夏に至れば皇室の一族　大率伯林を去て此ポストダムに赴くを常とし給ふ故なり、皇子等は各々此處に小園を有し給ひ



各自に小園丁となりてその園を保管せらるゝ由、聞く當年十二才の皇子が曾て老園丁と共に日々風に吹き落さるゝ槲子を拾ひ集め、之を老園丁に賣りて金を積み拾ひては賣り、賣りては貯へ、斯くして父帝の誕生日に進物を買ひて進せられしことありきと、これその節儉、勞力の價値ある事を深く其小供に知らしめんと日頃骨折り給へる母后の感化を見るに足るべし、斯くて六七月の頃に至れば諸人の雜沓せざる海邊に行きて清素の生活をなし給ふ、斯る折皇后は只ラブエンス伯爵夫人と名乘り給ひ、日々英國風の青き水夫の服を着たる其御子達と海邊の砂上に出で皇女、皇子は砂に穴を掘り驢馬を馳せ、小舟の間をぬ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

けくぐり、貝を拾ひ、海藻を集むれば、母后は靜かに砂上の椅子に倚りて、或は讀み、或は編物をなし給ふ皇后はまた寫眞を撮るの技巧に長じ給ひ曾ては倫敦新聞の畫工が濳かに皇后の砂上に子女と相戯れらるゝ風を描かんとなし居りしを目早くも見とめ給ひて反對にその寫眞鏡を畫工に押し向け給ひしかば、畫工は大に驚ろき匆々にして逃げ出せしとなり。

維廉二世曾て云へることあり、余は獨逸の女子が皆皇后の例に倣ひて三の大なるK字即ちキルヘー（敎會）キンデル（兒女）キッチエン（家政厨房の事）を發達せしむる樣に務めんことを望む」と獨逸にては婦人の最高德は善良なる家妻たるにありとなすことにて獨逸の皇后其人は固に此點に於て好模範たるべき人なり、

皇后は其父の家にて學び得られたる質素平易の風を王宮の中に移し植へられたり、皇后はあまり世間に出でて盛典儀式などに列するを好ませられざるなり、されど流石は武を以て立つ國の習ひとて此の質朴平易の皇后も軍隊の檢閲、演習等に列するを好み給ひ、制服を着けて皇帝と馬を駢べて轡を按じ、徐行せらるゝ事あり、是の時こそ誠に天晴なる見ものなり、皇后は少き時より騎馬を好んで之に長せらる、左ればキユイラシエル隊の名譽大佐の美々しき軍服を着て昂然として馬上に顧眄せらるゝ時は三日三夜、馬を下らずして、矢石の間を走りまはりし英國のマアガレット皇后の昔もしのばれてゆかしともゆかし。

△公共のおつとめ

公衆慈善の事は又皇后の尤も注意せらるゝ所也、伯林中の慈善事業は一として皇后の與かり知られざるはなく、就中小兒の爲めにするものは、其尤も注意せらるる所ろなり、滿都の貧兒は皇后に對しては常に母の如く愛敬せり、或日皇后小兒病院を見舞ひ給ひし折極めて幼き子供は病床より起き上りて皇后の衣を牽きければ、皇后は其ほとりにありし繪本を取り上げ、其病兒の側らに腰うちかけて共に繪本を開き見て彼れを慰められしとなん、又曾て或る女學校に行啓ありし時一少

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女が全級總代として一個の花束を献じ、且つ一編の祝詩を吟ずることゝなりしが、如何にしけん少女は其震ふ手に持ちたる花束を捧げしまゝにて滿面紅を潮しつゝ詩の一句も吟じ得ざりければ皇后は目利く之を見て其少女のほとりに寄り給ひ接吻して云はるゝ樣、「御身は其美しき花束を予に贈らむとするにやサラバ詩は此方より御身に贈る可」と慰めたまへり、其の機敏の智想ふべし又皇子の誕生の時は、同日に生れし日耳曼中の小兒に皇后のお手許より下賜金ありたり、されば日耳曼のありと



姪うり

あらゆる人民より、各吾子の名親となり玉はんことを願ひ出づるもの其數を知らざりしといふ、あまり多くして十分の一も應諾せらるゝこと叶ひ難ければ、其子の父か母か皇后の知り玉ふ者丈け其願ひに應ずることゝせられたり一世ナポレオン曾て曰へり「吾は國を獲ジョセフィンは人心を得たり」と獨逸皇后の如きは眞に人望ある王者の配といふべし。

扨又皇子皇女が其の母君を愛敬せらるゝの情深き一端を曰はんに皇太子の師傅が曾て聖書より引き來りて人間は皆罪人なりと云

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふことを太子に說き聞かすに當り太子は容易に信ぜられず、再三押し返へして、さらば世にエラキ人達も猶罪人なりやと問はれたり、師傅答へて曰く今申せし通り人間は誰れしも皆罪人にて候」とされど懷疑的の太子は猶肯がひ給はずして我が父君は或は然らん、されども我が母上に至つては決して然ることあらじ」と言はれしとなん、以て其の母君を敬し玉ふの情深きを知るべし、獨逸皇后の快活なる氣性は實に一家の光なり曾て左る大演習の後一夕維廉帝はグルエックスプルク



(皇后の生地)の宴會に於て演說して宣はく。

余を他處にまさりて此地に親しく繋ぐものは余が側に光を放つの寶珠(即ち皇后陛下)あるが故なり此地に生れ獨逸婦人の美德を兼ね具へたるは彼女也、余の吾が位置の重大なる責任をも喜んで負荷し得る所以は、皆彼女の力によりて也と。

英國貴族の食卓

西洋の諺に珍膳は巴里にあり、されど美肉は倫敦に在り、社交は巴里に在り、されど待遇は倫敦にあり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又いふ山海の珍味は巴里にあり、されど食卓の整頓は倫敦にありと、されば今この美肉と待遇と、食卓の整頓を以て聞こへたる英國の食事に就て聊か記して以て我が社交の一端に資せん。

△朝餐の例

朝餐の献立には通常丸形の卓子を用ふ、若し多數の賓客の滯在せる場合等に、食堂にて朝餐を調むる時には家の主婦人は正面に着席し、其面前に茶及び珈琲の器具あり盃及び小碟あり茶壺、珈琲入、砂糖罐、乾酪壺あり、次にテーブルの中央には花木を挿せる花瓶ありて夏期には陶器の花瓶に薔薇花を飾り或は草花の鉢植にせるを飾る秋は菊花羊齒花を擇ぶ、



要は食卓に光彩を副ゆるにあれども正食の際食卓に裝飾する花木の如く儀式正しくするを要せず偖て料理には鷄卵、肉、肴は漸次に食卓の上に列せられ次で燒麵麭、捲パン、烘餅、鳶色と白色の麵麭の如き各種のパン類、乾酪は落度なき樣各人の前に置かる次にハム、パイ類の如き滋味多き御馳走出で又椎茸キドニー(獸類の腎臟)フライドベーコン(豕肉)の餚物あり。

各人の面前には乾酪、麵麭、燒パン、を盛りたる陶器を置き手拭、小刀、肉叉を備ふ。

佛蘭西に於ては朝餐は食事の初めに必ず鷄卵を用ふるが故に煮卵は各人の前に列せられ一同は是を味ひ後に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

野菜、肉類の羹を味ひ最終に菓物を喰ふ、盃及び小皿は其傍に砂糖及び乾酪と共に置かる。

以上は日常の朝餐の献立なるが、婚禮の儀式の際の朝餐の献立は全く其方式を異にし、正食の際の儀式を以て種々に室内に装飾をなす、料理品、酒類共に其品數日常の朝餐よりも多し、食卓に列せらるゝソープ、茶珈琲、クラレット、シャンパンは凡て冷却せるを用ふ而して食器は凡て普通の器物より美麗にして高價のものを用ふるは勿論なり、室内の装飾は規則正しく花束を以て四圍を點綴し、纍々たる菓物を飾る、食卓は秩序整然として銀製の食器、玻璃器、陶器に山海の珍味を盛り、蘭陵の美酒は琥珀の盞に湛へられ室内の光景燦然として人目を眩するばかりなり。

△正食の例

善良なる料理、善良なる會衆、懇切なる待遇の三者は相待つて愉快なる正食の要素なり。第一善良なる料理を作らんが爲には、各自に料理法案内の如きものを備へ置き、學術的に嗜好に適して且衛生的の料理を作る

料理法に就て、英人の短所は矢鱈に高價の品目を擇び肉汁、醬油の鹽梅の如きは無頓着なるが如し、されど佛人は然らず料理法には凡ての點に細密の注意を注ぐ佛人の諺ざに美味なる醬油は絶美なる料理を作る、と云ふが如く、廉價なる食品も鹽梅次第にては美味なる料理品となす事を得べし、以て佛人の英人と比して機敏なるを識るに足るべし、食卓の膳に向ひて第一番に味ふは肉汁なるが故に、此肉汁にして衆賓の口に適せざる時は、如何に善美を盡したる高價なる料理も、最初の肉汁の不美味なるに蹴落され、折角の饗應も其價値を損することとなきにあらず、されば洋食に第一に注意すべきは、醬油の鹽梅、肉汁の佳否にして、料理の品質の高價なると廉價なるとを問はず、鹽梅は料理法の基礎をなすと知るべし、厨房の術に巧妙なる佛人は歐洲に其比を見ざる處にして、料理の術に於て、英人は到底佛人の敵にあらざるなり次に料理の献立に付て注意すべき要件は料理の品別の餘りに澤山なるにあり食皿の數多きを以て無比の御馳走と考ふるものあれど

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も、一度の食事に如何に山海の珍味あるも、五十種の料理はとても喰盡すこと能はざらん、されば料理の種類は其數を限り、前後の配合を適宜にせざるべからず然らざれば山海の珍味は善盡し美盡して順次に食卓に運ばるゝも、殆んど應接に暇なくして腹ふくれ如何なる美味も厭氣を催し、折角の饗應も半ばは益に立たざるべし、されば料理の品目徒らに多きを望まんよりは、其品質を能く撰擇し、鹽梅に注意し、食皿の前後の配所を工夫して、賓客をして遺憾なからしむるこそ食卓の應酬の機微に通せるものと云ふべし



△正食と待遇法

扨又正食の饗應の第二の要素たる、待遇に付き一言せん、此れは別に學術的に研究するに及ばず、又料理法を學ぶが如き困難なるものにあらずして、只經驗と天才によりて待遇の奧意に通じ、賓客をして遺憾無らしむることを得ば足れり。懇切なる待遇の第一の要素は敏捷にして若かも靜肅なるにあり、賓客を待遇して遺憾なからしむるは、一種の天才を要し、天性內氣にして臆病なるもの〻如きは、肉汁を撒き、食皿を轉落し玻璃器の食皿を損ずること奇しからず、されば正食の饗應には懇切なる待遇を第一とし、給仕人等も宜

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く是を撰擇し、前述の要件に適ふ樣注意すべきなり、給仕人一人しかなき時は、賓客は必六人を超ゆべからず正食の饗應には、二週間又は三週間以前に紳士又は貴女の名當にて招待狀を發す、斯て返事は成るべく早きを貴び倘一度承諾の旨を申送る時は、其契約は徒らに破棄すべからず、我國に於ては宴會等の招待狀を受て、定刻に至りて出席せず、又は無斷缺席をなして平然たるが如き輩あれども、英國にては此等の契約は嚴格に是を守り、違約などあるは甚だしき恥辱にして且つ宴會の用意に行違を生じ混雜を來たすが故に、宴會の定日には定刻に遲るゝも甚だしき恥辱となすなり正食の時間は朝九時より十時迄を常例とせしが、現今は七時三十分より八時三十分迄となれり、佛國の俗諺に五時に朝餐、九時に正食、五時に晩餐、九時に夜食の諺あり、東洋流の食事と全く其趣きを異にするを見るべし、結婚の際の正食の饗應に賓客となるものは主に靑年と處女とに限り、且つ身分年齡共に左程の相違なきを常とす、別に親友ならずともよろし。

△小晝餐の例

一日の食事は朝、晝、夜、の三食にて忙はしき社會の劇務に應接して左程の空腹をも感ずまじきに現今に至りては一日五食の習慣となり小晝飯と夜食とは普通の食事に附加せられたり、小晝飯、夜食共に一日の主なる食事の部分を占領するものにあらざれども、我邦の所謂茶を入れて夏の日永の鬱を散じ職業の閑暇に疲勞の体軀を息むるものと稍々其趣きを異にす然れども別に秩序立ちたる食卓の膳に向ふにはあらずして淡白に簡易に食事をなすものとす。

小晝飯には別段に定める儀式作法を必要とせず食室に入る際に主婦人先きに立ちて案內し、男子は一体となりて其後に從ふ、婦人の賓客にして若し小晝飯の席に列して御馳走を受くることあるも、帽子又は外套を脫するに及はず、併し家內の主婦人丈けは禮儀正しく正服を着用す、食器及び調理品は豫め食卓の上に乘せ置きて各自勝手に食事す、若し大仕掛の小晝飯にして賓客多人數ある時は給仕人附添ひて儀式通りに初めに野

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

菜、サラドの食皿次に肉類の調理品と、漸次に食殘りの皿を運び去るなり。

小家族の小晝飯にての御馳走は大抵前日の晝飯の殘り物を以て當つ其主なる御馳走は冷肉、鳥肉等にして其殘り物の御馳走も殘りたる儘食卓に列する事を堅く避け体裁能くつくろひ且つ別物の如く美味に調理するなり、假へば野禽の調理品の殘食の片足のみ殘れるは食卓に登りては甚だ卑しければ程よくつくろひ洋芹をかけて食皿に盛るか如き是なり其他犢肉のカツレツの冷したるもの豚肉と共に養て程よく調理したる物は又嗜好を滿足するに足るべし。



▲女中の通學

小晝飯の食卓に上る主なる料理は羊肉、鳩、豚肉、ビフテキ、燒肉、鰕、ブッデング、ビスケット、乾酪、菓物、又酒類にはシエリー、ビール等なりとす。

米國の苦學女生

在エール大學　前澤初治

私は米國の苦學女生のお話をいたします。苦學の方法は何程もありますが、其中で最も普通のものは、旅館の接待掛、即ち日本で云ふ宿屋の女中と、猶一つは普通の家の子守女に雇はれることでありまする。

女中と云つても、日本のやうに朝から晩まで、仕切無しに用があるのではありません、忙しいのは夕方から朝にかけてゞすから、晝間學校に通ひますので。

給料は一週間拂ひで、十弗（一弗は日本の先づ二圓です）内外ではありますが、別に客から心付が貰へますので、何や彼や一ヶ月七八十弗にはなると云ふことであります。尤も家によつては、心付を貰ふのを禁じてある處もありますが、客の方が之を實行しないから同じとです。女も亦た、其客からの貰ひを、收入定額の中に算入して雇はれますので、從つて其心付を成るべく澤山貰ふやうに勤めます、呉れる方と、貰ふ方と、其間に心付の取引が濟みますと、双方の間に、意思が能く疏通しますので、つまり客は、僅かの錢で非常に便利になりますから、如何しても禁止することが出來ません。

それで、仕事はと云ふと、云ふまでもなく、出入の客を送り迎へし、客の爲に餘り賤しからざる用務を辨ずるのであります。

▲子守の夜學

子守の方は、女中と違つて晝間は暇が無いので、夜學校に通ひます。

子守と云つても、日本のやうに脊負つたり、大小便の世話を爲るではなし、子供を唯だ乳母車にでも載せて、住宅の近所、又は近邊の花園（スクエアー）か公園（パーク）でも轉がして歩けば、それで役は濟むのです、それに不思議なことには、米國の子供は、如何も日本の子供より泣かないやうです。寢ても起きても、何時もニヤ〱笑つて居ますから、可愛らしう御座います。人見知りをしないで、誰にも懐かれて、世話は少しも燒けません。牛乳の壜さへ口へ宛行つてさへ遣れば、大人しく一人で遊んで居ますから、自分は木蔭の共同椅子にでも腰をかけて、讀書も出來ると云ふ譯ですから、樂な仕事であります。

給金は月拂ひで、先づ十五弗内外が相場です。子守の役德は一週間に一度の洗濯で、此洗濯賃が月に四五弗になります。洗濯と云つても、別に湯を沸かすではなし、水を汲むではなし、重い盥を持ち運びするでは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なし、一つ龍頭を捻れば、湯なれ、水なれ、何時でも迸り出て、石鹸、洗粉、曹達、其他一切の洗ひ道具絞り道具が、整然と洗濯所に備へ付けられてありますから、手の皮の剝ける氣遣ひもなければ絞る力を出すにも及ばないので。

洗濯物を干すにも日本のやうに、物干竿なんて、彼様な長つたらしい仕末の悪いものを、扱はずとも可いので、彼方と此方の張詰に車が附いて居ますから、其繩に洗濯物を掛けて止めるもので止めて、それを曳けば譯はなく干せますから、少しも世話がありません。

兎に角、日本の女中や子守より、確に仕事が楽ですから、身体も疲れず、從つて充分に勉強が出來ると云ふやうな次第であります。



それから學校のことでありますが、それは最早本誌に、度度掲載されてありますから、今更蛇足を添へるには及ばぬことではありますが、私が實地見聞したほんの少しばかりを次に述べまして、聊か諸君の御参考に供します。

▲男女混淆教授

米國の女學校、就中女子大學は、大概宗教的でありまする、そして多くは男女混淆教育主義でありまする

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此主義を多年實行し來りまして、頗る好成績を得て居ります大學の中、オハイヲ州のヲバーリン、アンチヲーク大學などは、最も評判の好いもので、從來多數の女學生を養成して、有名な學校であります。

併し、數ある米國の大學の中には、勿論、斷然女子の入學を許さないものもあります、其譯ば、女子には女子獨特の性能が備はつて居ますのに、徒らに人爲でもつて其美性を傷るのは間違つて居ると云ふのであります。

そこで、女子は女子のみの大學校があります。女子の行くべき學校も、米國全躰では、隨分澤山ありますが、第一流のものは誠に少なく、僅に十二三校に過ぎません。今其最も完全なものを擧げると、

マツサチユセツス州ノーザンプトンに在るスミス大學、同州ウエツスレーに在るウエレスレー大學、同州サウスハツドレイに在るマウントホリオーク大學、イリノイス州ロツクフオード大學、キヤルホルニヤ州アラメダに在るミルス大學等

が有名なものであります。けれども普通學の研究には、マツサチユセツス州アウバーンデールに在るカーセル大學が一番好いとの評判であります。

女子大學の組織は大抵、我が華族女學校と同じく、豫備科として小中學の分科が設けられてあります。

▲寄宿舍の規則

今、キヤルホルニヤ州のミルス大學の寄宿舍の規則を掲げまして、米國に於ける女子大學の學生々活の一斑をお話いたしますれば、先づ次の如くであります

一　生徒は必らず寄宿舍に起臥しなければならない。

二　生徒は保護者又は教師と一處でなければ外出は許さない。

三　日曜日でも無暗に外出は出來ない。

四　兩親から紹介されたもの丶外には、決して男子の客に面會してはならない。

五　面會日は土曜日に限る。

六　宿舍は二人づゝ。

七　兩親は、自分の子の幸福になることなら、何時でも勝手に宿舍へ入ることが出來る權利がある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

八　客の贈物は、菓子の外は決して受けてはならない。（甚し衣食に充分の供給がしてあるから）

九　衣服を二十種以上持つて居るものには、其多寡に應じて、税を課する例になつて居る。（併し白の襟のやうな實素のものは別として）

十　兩親は、自分の子が手紙を遣り取りして居るもの、姓名を前以つて校長へ屆けて置くと、其他の人から來た手紙は、校長の權利で封を切られることがある。

▲男女學生の共棲

斯樣に嚴重に學生を取締つて居る學校があるかと思ふと、他の大學では、男女の學生を同一の宿舍に入れて、輪番に自炊をさせる、頗る寬大な規則になつて居る處もあります。

而も異性同士の交際に慣れた米國の男女は、苟にも亂りがましいことなどは、微塵しない美德が先天的備はつて居る所爲か、其處に一の醜聲が洩れないとは、何と羨ましいことではありませんか。

されぱこそ、男女學生間の友情は、また實に優美なもので、一度同級となつた友人は、生涯の友人で、其和氣の靄靆たる日本とは雲泥の違ひであります一級は即ち一徒黨、一團體であつて、一致共同の友誼が、假令如何な境遇に出會ひましても、永久に忘れないと云ふ風習が、米國學生の獨特の美性で、殘念ながら、我が同胞學生などは、夢にも思ひ及ばぬ處です。

巴里の裏面

巴里は各國遊人の集まる處ろ世界の公園、都の中の都にして其の豪華、盛觀は、倫敦、紐育の遠く及ばざる處ろにして豪客が一席の饗燕に萬金を費やし、金銀を見ること土芥の如く、歌舞管弦、日夕絕ゆることなく、食は山海の珍味を列ね、衣は綾羅錦繡をまとひ、遊興歡樂日も又足らず眞に下界の樂園として、この都を謳歌せざるなきほどなれば定めし其國人は奢侈淫逸にして、今日主義の濫費を專らとするものならんと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

想像するなるべし、されど其の實際は決して然らず、巴里を有する佛蘭西人は元より、巴里の都人士にありても一歩其の裏面に立入りて內情を觀察する時は、其の表面の豪奢、淫逸なるとは全く反對にして、勤儉、質素よく働き、よく貯へ、啻に金錢を濫費せざるのみならず、他の英米國人の未だ知らざる微細の點にまでよく注意して經濟を保ち、節儉、忍耐するの美質を有するは、他國人の意外とする處なり。これありてこそ巴里の盛觀は永久に世界中の花の都として存在し、又これありてこそ、佛國が今日よく六大强國の中に數へられつゝあるの偶然ならざるを知るべきなり。

◎初めて巴里に遊びたる人は大商館の番頭などは多額の給料を得て贅澤なる生活をなし居らんと思ふべけれども實際は然らず此等の商館に住込める番頭は高等學校の卒業生にあらざれば採用せず最初の給料は一ケ月六十法（一法は四十錢）にして順次百五十法に至れるが既に商館の番頭たる以上は衣服も清潔なるものを着する故每月の被服料にも多額の金子を要し六十法や七十法にては生活の道立たず然るに彼等が立派なる服裝をなして番頭然と濟し込むは何にか秘訣ありやと云ふに彼等とても神にあらねば無より有を生ずる譯には行かず只だ日用の生活費を節險して之れに充つるのみ巴里に於ける下等の飲食店日本の繩暖簾と云ふべき所にて食事をするにも一食一法を要すれば三食をなせば三法を要し一ケ月には九十法を要すべし、然れば薄給なる番頭等は三度の食事を二度に節して朝晚に葡萄酒に水を割り黑パンにチース（バタの粕）をつけて喰ひ二日目に一度位飲食店に赴きて食事を營むなり斯くして餘りたる給金は被服其他の仕度料に充て其餘りは何れも貯金となすなり。

◎佛蘭西の農家に至りては其困苦は日本の農家に勝れり五人の家族にて豚一匹を鹽漬となし日曜每に其の一片を割きて之れを五人の家族に頒ち之れにて一年間を支ゆるなり日常は芋、大根、人參などを煮て鹽をかけ固き黑パンにチースをつけて食ふ葡萄酒は農家にて作ること日本の農家で濁酒を造るが如し農家の葡萄酒は輕便に作られ葡萄を潰して壺に入れ醱酵せしめ之れを絞りて酒となす農家の田園には必ず葡萄を栽培せり黑パンは農家が共同して燒くものにて二十軒位の村には

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一箇所のパン燒の竈あり各自順番に之れを掌どり二週間毎に之れを燒くの例なるが當日は各農家よりパンの原料を持ち來れば燒方に當りたるものは之れを燒きて渡すなり左れば二三日間は柔きパン二週間に近づけば固くして石の如くなるを彼等は平氣にてチースをつけて嚙り居れり斯くして節儉したるものは何れも貯金をなすを以て日本の水呑百姓の如きものにても一千法位の貯金を有せざるものなし



◎佛蘭西に於ける農家の貯金の方法は豚、牛、鷄の如きものを以て家族に分ち假令ば姉は豚、妹は牛、弟は鷄と云ふ如き有樣にて豚より生じたる副產物は姉の所得、牛より作りたるバタチース等は妹の所得、鷄の卵子は弟の所得となし彼等は之れを金に代へて貯金をなすを以て小百姓の女子にても嫁入時には少くとも三百法位貯蓄せざるものなし。

◎佛蘭西の農家にては遊山などに金錢を消費することなく偶々巴里に遊ぶことあるも黑パンと葡萄酒とを袋に入れて之を携へ公園其他に野宿して巴里の市中を見物す其節儉なるは日本の赤毛布などの遠く及ぶ所にあらず、左れば巴里を去る五十里位の田舍にありては巴里を知れるもの村中の二分の一に過ぎず夫れも多くは下女奉公のために赴きたるものなり又た農民は羅紗服等は着せず麻服の帆木綿の如くなり汚れたるものを着て平氣に働き居れり其の勤儉の美風欽すべきものありと。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

珍書解說

通俗源氏物語 若紫（上）

水原翠香

紫上の幼立を說を以て此名あり　紫上は藤壺の姪にて源氏第一の思人也、（夕貌卷のつゞき）

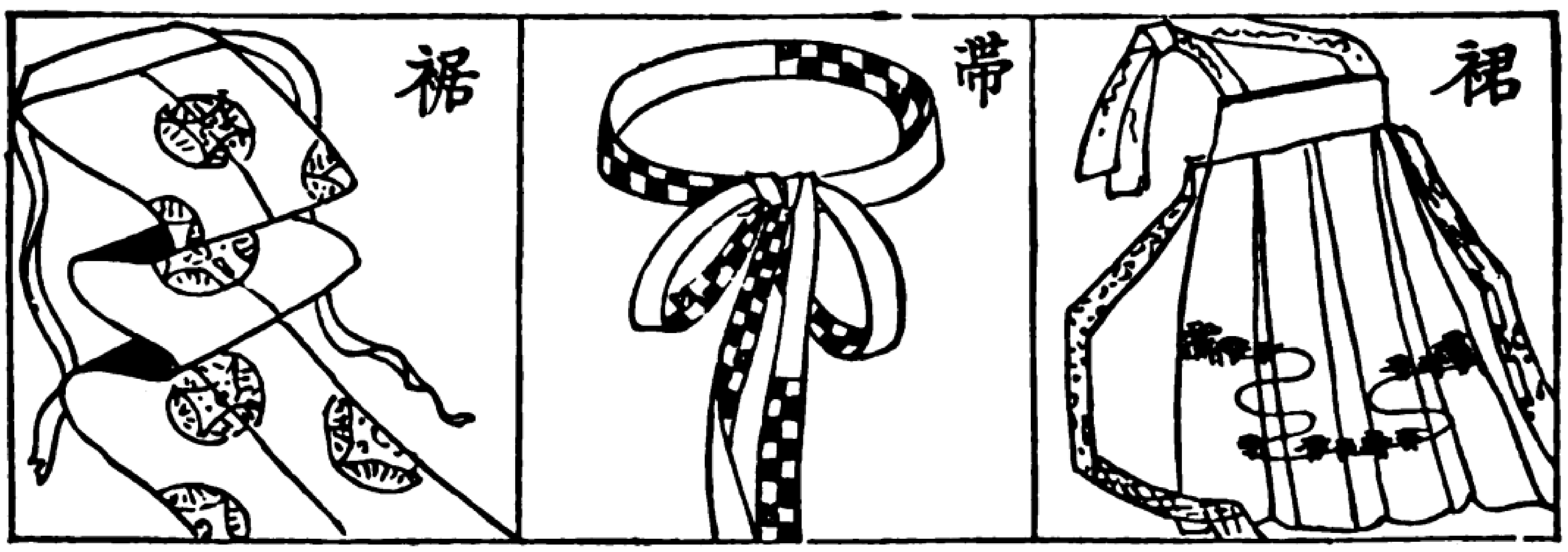
源氏君瘧病に罹り賜ひて、數度瘧賜へば、或云、北山鞍馬寺に奇特の行者在、一年世上流行せし際にも、其處彼處にて奇特顯し候ひき、此御病は痼ては御大事也、疾く彼僧を召さるべうもやと申す、即召聘使を遣たるに、老衰甚くて、案外にも出難と辭し申に依て、止を得ず微行有べしとて、近臣惟光良清と、隨身上下四五輩にて、三月晦日の曉に出發賜ふ、都の花は散果たれど、名におふ山の遲櫻、分入る儘に景色尤佳、後峯高く聳て、嶮峻巖窟中に庵を結びて籠り居たり、驚迎へて、嗄恐や一日召されし君にや、老衲今は驗方の行も捨忘たるに、とは申せど、有驗の大德なれば、即依法咒符を作りて令呑奉り、加持行ふ程に日高く昇りぬ、小憩に立出で見渡賜へば、高所なれば一山の僧坊悉眼下に在、直下に同じ小柴垣なれど、風雅に結廻して清潔なる家屋建連て、由緒有氣なるは、何人の住にかと獨言給ふを、御供中に知れる者在、是ぞ何某僧都が禁足所にて候と申、羞人の住處に、餘り省扮ても來つる哉等宣ふ、淸らなる丫鬟庭に出で、閼伽供り花折などす、彼處に女こそ在けれ、僧都は豈女置給はじを、何故ぞ怪訝等口々云ふ、進寄て覗く者歸りて、丫鬟の外にも女多くみゆといへば、彌何人ならむと評し合へり、君は修行爲賜ひて、日更る儘に奈何と覺すを、何恁紛して、念慮ぬぞ可と、人々誘引奉て後山に登りて、都の方を見渡し賜へば、遙々と靄引四方の梢、其處彼處花の咲交れる、書にかゝばやと宣へば、此等は可賞候はず、遠國の峻山大河、有名の奇勝を御覽せば、奈何御書上達賜はむ、富嶽の秀、天橋の奇、或は瀨戸海の浦々など、各自語り續けて、只顧

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

紛し奉る。
耳「近國にては、播磨なる明石浦こそ、何となく優寛に有趣所に候、彼國の前司、新發意が女寵育家の言痛さよ、大臣の裔にて、發達も爲べき人なるを、世を憤りて近衞中將を辭じて申請つる國司なりしも、世の僻者なればや民不服、何の面目有てか、再び都に歸る可とて、入道したれど、奥山にも不入、濱館に住へり、先頃罷下りし序に、訪問候ひしに、京にて社失意狀なりけれ、遉に國司の勢力にて、造營し舘とて、餘命を送る財產も裕にて、佛道も法師増りに修し侍る、堂なども建てあり
源「扨其女は如何
耳「褻しうは侍らじ、容貌志操有氣なれば、國司を始言寄る者多く有れど、更に承引かず、吾身の不運だに有るを、唯獨の女兒を、爰か凡庸にやは爲べき、若予に遲れて志遂難くば、海に可投と常に遺言し置とか聰と申せば、人々海龍王の后に爲むとにや、高尙も苦やと哄笑ふ、斯云ふは播磨守が子に、藏人良淸とて、今年叙爵えたる若人也、〔惟光に次ての昵近也〕頗る好色人なれば、彼入道が遺言破らむとて、彷徨寄ならむかし
惟「將や爾云ふ雖田舍的たらむ、幼より舊弊の親にのみ從ひたらば、母こそ由故も有べけれ
耳「否宜女房等、都より緣引に尋採て、萬都手振に、美麗社以倣なれ
今一人「若國司に無情人あらば、然安全には不可置等云ふも有、君は何心ありて、海底迄沈思らむ、底の海松布も難解き世を等宜へど、只ならず覺す、並ならず奇僻事好み賜ふ御癖あれば、御耳止る可と惟光は察しけり、日傾けど瘧賜はねば、有驗たり速御歸館と申を、大德御怪祟も加はれると見奉れば、今一夜、篤と加持參らせて社と申に、君も珍しき旅眠有趣くて、有然ば曉にと宣ふ、暮難に徒然に、又彼小柴垣の元に出賜ふ、惟光一人御供にて覗賜へば、直此西表に持佛置て行ふ尼在、簾少し捲て華供る、中の柱に凭居て、脇息上に經を置て、惱氣に讀居る、尼公凡庸とみえず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

四十餘にもや、尤白し貫的に痩たれど美
貌也、哀と見賜ふに、女房二人計、扨は
童女ぞ出入す、中に十歳計にやと見えて
白き衣山吹の軟たるを着て、走來る女兒
數多の中に優て、甚生先みえて美艶なる
容貌也、髪は扇を開たる如く揺々として
貌を摺赤めて立てり
　尼「何事ぞ、又童と爭ひて腹立給へるか
とて、見上たる貌の、是彼似たるは、子
なめりと覩賜ふ
女兒「いぬき〈童女ノ名〉が、雀の子逃しつる、伏
籠に入たりつる物をとて、尤口惜氣也、
此居たる女房
女房「例の不注意哉、何方へ參りつらむ、
可愛氣になりつる物を、烏抔見つけて捉
やせむとて立ゆく、髪長く見易き女房也
少納言の乳人と呼ぶは、此兒の後見なる
べし



王朝時代の衣服

　尼「將喫幼や、我かく病めるを何共思は
で、雀大切に爲賜ふよ、生類を飼ふは罪
也と常にいふを、心憂やといはれて、坐
居たる面容、最臈闌て〈上ヒンナルヿ〉、眉間打烟り、
〈美人の眉眼間一種不ㇾ可ㇾ言色句ある也〉稚氣に搔遣たる額、髪美
う、成生則愀き人哉と目止り賜ふ、然有
は無限心に泌める人に、酷似たるが瞻
らるゝ也けり、尼君髪をかい撫でゝ
　尼「梳をも臆腐がり賜へど、佳の御髪や
何迄童しくお在るぞ、此歳にては、早成
人しき人も有物を、故姫君の〈此兒の母〉は十二に
て、故殿に別れ給ひし折、甚愁傷給ひし
が、只今我死なば、奈何してか世にお在
むと爲るとて泣けば、幼心にも流石に伏
目に成ぬ、溢かゝれる髪、艶々として限
りなく愛らし
　尼「生たゝむ在處も知らぬ若艸を
〈ヲシカ死ダフメレナタヨリニ人トナルカシレヌ〉

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

遅らす露ぞ消む空なき
コノコチオモヘバツユノイノチモシニトモナイ
ゴタクアクヘモユカレマイ

少「初草の生立末も知らぬ間に
コノオコサマノドノヤウニオナリナサルカモシレヌノニ

奚か露の消むとすらむ
ドウシテアナタガオカクレアソバスコトガデキマシヨカ

と打泣く、僧都出來て「爰は顯にや、今日しも端に出お在事よ、此上の聖の庵に、源氏中將の、瘧病兇に登山有けるを只今聞付たり、微行なりしかは得知らで、爰に在ながら訪問も申さゞりけり。

尼「嗚甚じや、打解たるを人や看つらむとて、簾卸さす。

僧「世に騒光君、かゝる序に見奉り賜へ、世捨人の心にも、憂を忘れ齢延ぶる人の御光景也、將御消息申さむとて、立つ音すれば歸り賜ひつ、可憐なる人を見つる哉、好色者は常に諸方を行て、種々の人をも見出す也けり、予邂逅に出ても、斯存外なる事を見聞よと有趣覺す、偖も美き兒にも有ける哉、何人ならむ、及ばぬ人の替に明暮慰に見ばやの心深く印ぬ、僧都の徒弟來て惟光を呼出づ、間近ければ、自然口上聴給ふ。

「御登山の由、只今人の中に驚きぬ、何某爰に在と御承知乍、忍ばせ賜へるぞ憂はしき、艸蕭も我坊に社設置すべけれ、最不本意事と述ぶ、源答「去る十日餘り瘧に煩ひしを、人の敎に從ひ、俄に登山じつれど、若驗なくば、高德を瑕付むかと憚りて、微行つる等答へ賜ふ、暫して僧都も來訪す、法師なれど人品よく、世上に尊敬する人也、輕卒の扮粧仂く、恥かしき心地し賜ふ、山居の物語申して

僧「同じ柴の庵ながら、少しは清潔水の流も御覽せさせむと、切望給へば、未見人に仰山言聞かせつる、恥差と覺せど、彼兒の上聴出む機會と覺せば、導く儘に渡り賜ふ、實同じ木艸も心異に植做し、月もなき頃なれば、遣水に篝火燒かせ、燈籠掛て、南面清潔に裝飾たり、薫香心憎く燻滿たるに、君の御追風尤特なれば、內の人々も注意爲べし、僧都佛道の事共語申

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

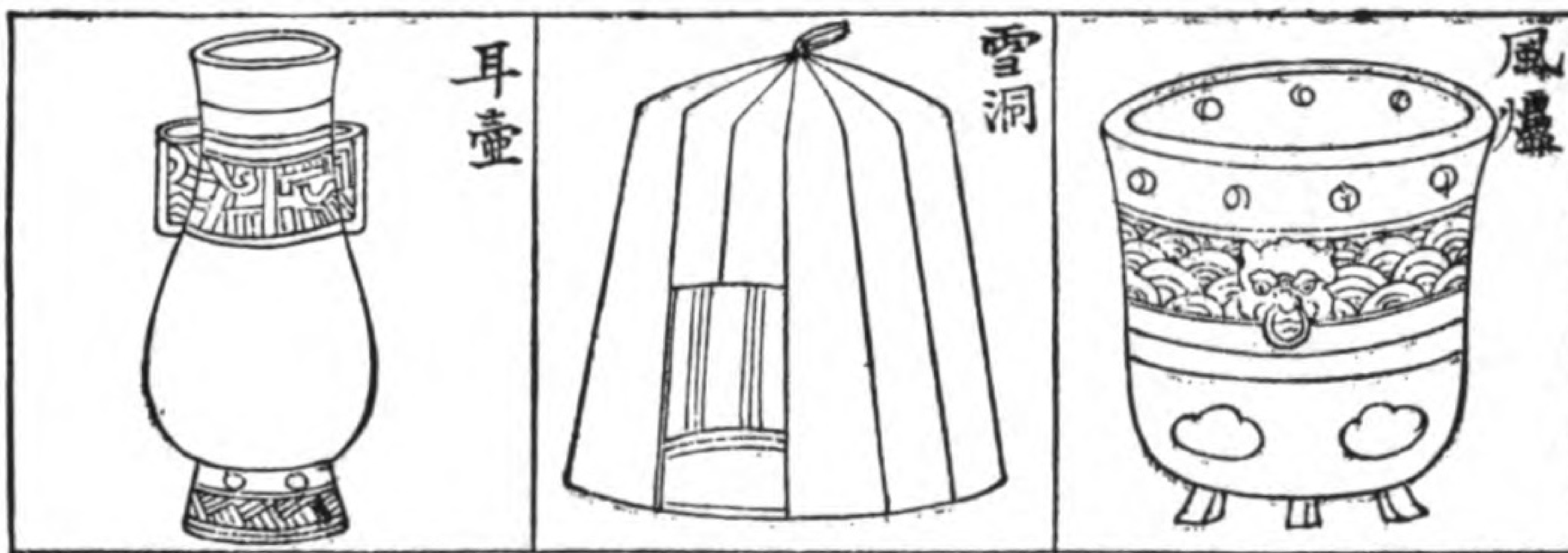
にも、吾業因思知られて、恥かしき物乍、見つる面影心に懸りて忘られねば、言を設て

源「爰に御在は誰人にか、尋ま欲き夢を見待りしか、今日社思合せつる、と宣へば打笑ひて

僧「卒示なる御夢語にも待る哉、尋知らせ賜はゞ御心劣爲賜はむ、故按察使大納言と申しゝ、死去て久しければ、君は知召さじ、其が北方は、老衲が妹に侍るが、病て祈禱の爲に、爰に籠り候ふ也

源「彼大納言の御女在と聞えしはと、押當に宣へば

僧「女子一人侍し、失て早十年斗にや成侍らむ、故大納言は、内裏に奉らむと思ひしを、本意の如くも非らで亡侍しかば、母獨り持扱ひたりし程に、何者の業にか、式部卿宮を、忍びて通はせ奉りしを、



王朝時代の器具

本臺門閥にて、易からぬ事に嫉妬せられて、朝夕憂慮の餘り、終に夭沒し侍りぬと申、然は其子也けり、親王の血統にて藤壺に似たるも理也、人柄も貴族なれば中分なしと覺せと、猶慥に知らむと

源「最哀に承る、それは止め給へる御形見やお在る、

僧「夫もやはり女にて、煩惱の種にぞ侍ると申、今は疑ひなし愁に賢心なく、打語らひて、随意に教育してみむと覺し定めて

源「突然に怪悕と思すべけれど、其幼きが御後見と覺すべく、聞え做し賜てんや思ふ心有て、行拘らふ處も有乍、意に然ます、獨住のみ爲侍る、未早しと世並に覺さて、いかで〳〵と懇に宣ふ

僧「最嬉しかるべき仰言なれど、無下に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

幼稚に侍れは、御戯にも御覽じ難くや、抑女人は、人に以做されて成長するなれば、彼祖母に傳へ申さん委細事は出家の得執不申と、强直に答て、木强なれば若き御心に羞くて、能も聞え憎くなりぬ、初夜勤行未爲候へば、終て又侍はむとて立給ひぬ、雨少し打灑ぎて、山風冷やかに、瀧の淀み音高し、讀經の聲絶々聞ゆる物哀也、初夜といひしかど夜は更たるらし、内にも寐ぬ氣息して、忍びたれと、珠數の脇息に引鳴らさるゝ音、微に打動く、衣の音なひ貴的也、間なる屏風を、少し押開て、扇を鳴し賜へば、覺なき心持は爲れど、聞知らぬ樣にやはとて躙寄人在、少し退きて、怪訝僻耳にやと疑を、

源「佛の導は、冥に入ても違はぬ物をと宣ふに、客人と知りて、打出む聲も羞かしけれど

女房「奈何方の御導にか、覺束なくと申

源「實突然と疑心賜はむも理にはあれど

同歌「初草の若葉の上をみつるより
ヒルマ初艸トヨミタマヘルコトヲトリテソレヲ
　旅寐の袖も露ぞかはかぬ
ミキヽシニヨリテタビ子ニツノ〆バカリオモヒツヽケテナチリマス

と、傳賜ひてんやと宣へば

女「更に然樣の御消息、承り分べき人も在さぬは、知召たり氣なるを、誰にかは

源「自然爾る要有て申と、思ひ做賜へかしと宣へは、入て聞ゆ

尼「噫今めかし、此君や生心附たる程と覺すらむ、有爾にても、彼若草を、いかで聞給ひけむと怪訝きに、思ひ惑ひて、久しうなれば情なしとて
コノコ十五六
源氏君ノ意ヲ解シ兼テ他事ニ取ナシタル返り

尼「枕結ふ今宵ばかりの露けさを
オンタビ子ハコヨヒバカリノゴフウユウデアリマスソレヲ
　深山の苔にくらべざらなむ
ミヤマズマヒノコチ衣ニクラベモノニハナリマセヌ

源「如所人傳ならて、忝く共此序に、眞實に可申事有と宣へば、尼君僻言聞賜へるならむ、最恥し氣なる御光景に、何事かは答へられむと宣ふを、人々幼しとや覺さむと申、げに若き人社あれ、眞實にと宣ふを、忝しとて坐寄賜へり
オソレオホイ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

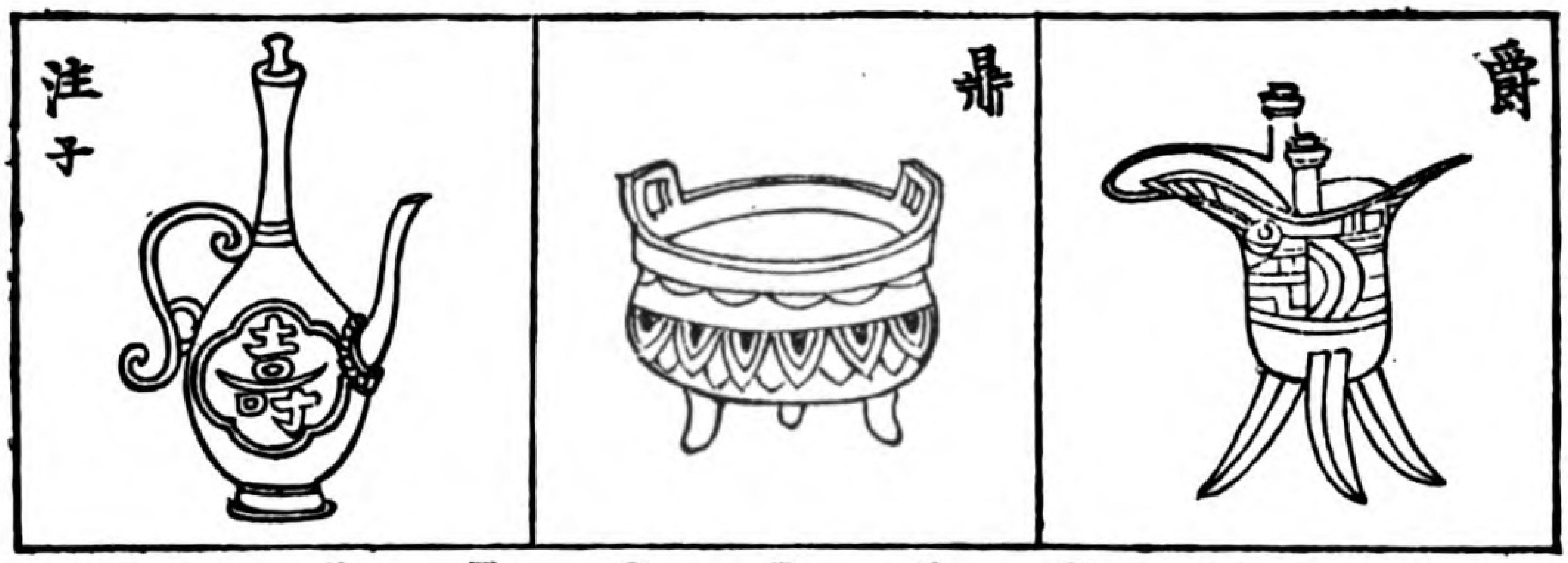
源「輕卒に淺慮也と思召べけれど、我心然に侍らぬ事は、佛も自然照覽ならむとて、泣は述賜へど、老成人に包まれ（尼公ノヤサス）て、急にも打出兼て、ためらひ賜へば

尼「實思ひ寄らぬ御序に、斯迄仰らるゝを、爭淺くは承り侍らむ

源「哀に承る御光景を、彼去賜ひし御替に思做し賜ひてむや、（子ブンニシテクダサレ也即聟トイフヿ也）我も幼少にて、睦じき人々に別れ侍る、同運命を類に做し賜へと、願ひたきを、如斯機會は又非じとて、思召をも不憚打出侍る

尼「最嬉しき仰ながら、聞召僻めたるにや侍らむ、果なき身一つを、依賴人に爲人侍れど、尤幼少侍れば

源「そは悉皆承知、其事は御配慮なくて、物好なる我心底を御覽せよと、押返し宣へど、似氣なきを、然も知らで宣ふと、一途に思ひて、心解たる御答なし、處へ



王朝時代の器什

僧都出來たれば、惜けれど中止賜ひつ克程に物語して、御帳（オンフシド）の準備なりぬと申せば、退出ぬ、君は入賜ひても、千思萬考涌出て、睡まれ玉はず、曉に成て、法華三昧行ふ堂の、懺法聲、山嵐に聞えくる、最尊く瀧の響に合ひたり

源「吹惑ふ深山おろしに夢醒て
　　淚もよほす瀧のおとかな
　　此歌は見る儘なれば別に注せず

僧「差ぐみに袖ぬらしける山水に
　　すめる心は騷ぎやはする

耳馴てと宣ふ、明ゆく空尤霞て、山鳥ども、其處彼處となく囀り、名も知らぬ木草の花、色々散交りて、錦を敷けるとみゆるに、鹿の佇立歩行も珍しく、御惱全く紛れ果給ひぬ、彼聖僧、常は動もせぬを、門弟に扶られて參り、護身參らせ奉る、枯たる聲の尤甚功積て、陀羅尼讀た

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り、御迎の人々參り、忝り賜へる悦び申、內裏よりも御使あり、僧都畏り怡びて、御菓物何や彼やと、谷の底迄堀出て、心を竭して饗應奉る、今年中の誓あれば、御送も奉仕られぬ事と畏り申賜ふ、

源「山水に心止れど、勅使惶ければ、此花の折に、又も參らむとて

宮人に行て語らむ山櫻
（ゴショノ人々ニユキテハナシセムコノヨキハナノヿチ）
風よりさきに來ても見るべく
（風ノフカヌ先ニイテミルベキコトデアルト申マセウ）

僧「優曇華の花まち得たる心持して
（チンキヤクノオイデハウドンゲノ花ノコヽチシテメヅラシカラヌ）
深山櫻にめ社うつらね
（ミヤマザクラハメニモツキマセヌ）

源「時有て開くなるは、難からむをと、微笑て聖僧に
（ウドンケノヿ）
御盃賜はる

聖「奥山の松の樞をまれに開て
（ツチハカタクサシテアル貴人ノ御光來ユヱニアケテ）
未見花のかほをみしかかな
（世ニモメヅラシクメデタキ御貌チハイシ奉ルヿノ有ガタサヨ）

感極りて涙吨作、御守に獨鈷奉る、僧都は聖德太子の百濟より得給へりける、金剛寺の珠數に、玉の裝飾したる袋箱共、其國の儘なるに、紺瑠璃の壺に藥入たるを添へて、五葉松の枝に附けて奉る、君よりは、聖僧を始讀經の僧徒の布施品々賜はる、昨日御供の一人を歸して、京より採寄せ賜へる也、僧都差よりて

僧「彼仰つる事、尼に申傳へたれば、只今は何共御受の申樣侍らず、今四五年を經て後、御志淺らせ賜はすばと申侍りつると答ふ、尤本意なけれど、爲方なければ、傍に侍りける小童して傳へさす、

源「夕間暮ほのかに花の色をみて
（ユウカタマギレニチラト本人チミマシタ其カホカメニツイテハナレヌカラ）
けさは霞のたちぞわづらふ
（タツテカヘルノガノコリオシクテタチカ子テオリマス）

尼「洵にや花のあたりはたち憂と
（ホントウデスカイ御メハアレノヤウニノミ思ハレマス花ノアタリハ）
かすむる空の景色をもみむ
（タチウシナド・オツシヤル其御言ノウソカマコトカ年月タツテカラシレマセウ）

由ある手跡を、捨書し給へり　捨書はかまはずかく事

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大殿より、頭中將其他の公達、大勢打連來賜へり、如斯御供は誰も誰も仕奉度思へるを、知らせ賜はぬ事と恨み申して、此佳景の花蔭に、暫時も休らはで歸らるべしやはとて、岩陰の苔の席に並居て、酒器參る、落くる水勢の清潔きに、頭中將懷なる笛採出て吹澄せば、辨君扇拍子取りて、豐浦の寺唱ふ（催馬樂の葛城かづらきの寺の前なるや豐浦の寺の西なるや」二「ゑのは井に白玉沈くや眞白玉〻しとんどとしとんど音頭ナリ）篳篥ふく隨身、笙持參の好者在、僧都自手琴を持參りて、是唯御手一遊ばして、同じくは山鳥をも驚かし侍らむと切望す、病惱未治ものをと宜ひ乍、憎からず掻鳴して皆立賜ひぬ山寺に珍しき盛事なれば、飽かず殘多しと法師等も皆いへり、況て年老たる尼君達は、如斯人の御光景を見賜ふは始てなれば、此世の物とも覺えず、僧都も

僧「可憐何の宿因にて、如斯人の尤煩悩き末世に生れ賜ひけむと、眼押拭ひ賜ふ、此若君幼心にて、愛度人哉と見賜ひて

若宮（父ミヤ也）よりも優り玉へる哉と宣ふ、然らは彼人の御子に成賜へと申せば打點頭て最宜事と覺したり、是より雛遊ひにも源氏君を作出て美衣着せてぞ册き給ふ。

史傳

幕末の烈女

大鷲子

『信濃なる山路の雪ともろともに春をもまたできゆる今日かな』とは。まだうら若き女の身を以て、死を決して國難を除かむとし、沃婦若山を斬り、囚はれて刑場の露と消えたる烈女お藤が辭世の歌なり。あゝお藤お藤とはそも如何なる人ぞ。若山とは如何なるものぞ

▲彼女の生立

德川十一代の將軍家齊に事へたる、飯田（信濃）の藩主堀大和守親審の家臣。山口彈治の一女に生れたるお藤。家は十石の小祿、もとより裕ならねば、父母が内職の手助けし、閑あれば讀み書きに心をよせ、父が夜語りの忠臣孝子の事どもきゝては、悦びて其が歌など

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

諳んじ。母が病床に侍りては、成人も及ばぬ程の看護、其孝養は遠近に傳へて、誰れ知らぬものなく、其事藩主に聞え。姫君の御側附きにと呼び上られぬ。父はもとより律儀の人、其恩命に接しては悦ぶこと限りなく、近くお藤を呼びて恩命を傳へ、『親に孝なる者は君に事へても忠なりとは孝經の説く所。此度汝が孝心深きを聞し召され、姫君のお側附きにと仰せつけらるゝ。此上もなき仕合せ。上りたらむ上は御奉公大切に、御家法を守れ。苟も操を亂し、不忠のこともあらば、不忠不孝の名は免れじ。かねて申聞かせし通り、君に事へては身は君に捧げたるもの、吾身にして吾身にあらず。山はさけんも、海はあせんも、一心に事へ奉れ。起き伏しにも身を大切にし。もし事ありたらんには、たとへ火の中、水の中へも入らむの心を持ちて、不忠不孝のそしりを取るな』と、誡め、萬事の用意も出來たれば、あくる日館に參り上るべく定めける。あくれば、親戚故舊は目出度出世を祝ひて、廣からぬ一間に滿ち、やがて迎への中間來れば、お藤はかりそめの別れとはいへ、朝に夕に事へまつりし父母を、後に殘して立ち出づる悲しさ。胸ふさがりて言葉もいでず。さりとて君の仰せに背くべくもあらねば、『さらば父上母上、今より館に參り上りて、姫君に事へまつり。父上の仰せをまもりて、たとへ如何なることありとも、君の御爲めにつくしまつらむ』とせきくる涙をおさへて別れを告げ、館に參りける。參れば、君をはじめ、奧方、姫君、御側近く召し寄せ。『かねて聞き知る藤女か。其方の孝心深きは一藩の譽れ。今より姫を守りて、吾家のために盡せよ。』とかしこき仰せに、藤女はつゝしみて御うけし、其日より姫君の御側に事へければ、姫君には何事につけても、藤女〳〵と御側を離さず。これより館の御寵愛も深く、朋輩の羨む所となりしも、父の誡めまもりて、つゆ御家法に違ふこともなかりける。

(侯の奥方は阿州侯左少將治昭の妹にして子なく側室二人あり若君姫君數人を擧げたり藤女はこの側室の擧けたる姫君に事へしなり)

▲沃婦若山――お家の騷動

親繁侯小藩の主たりと雖も、才學衆に勝れければ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

將軍家齊公これを拔きて若年寄に任じ、遂に側御用人に昇り、御寵任ます／＼厚く、諸大名の使者は其門に集りて市をなし、權威頗る高かりけるが、一度一婦の愛に溺れてより、近臣離散し、將に一家存亡の危急に陷らんとしけり。始め當時大奥の女中多かる中に、將軍の寵愛を一身にあつめ、威權表の老中をもしのぐ某の局の妹に、美貌すぐれたるものありけるが。姉の局親憲侯の權威に目をつけ、將軍の中臈にもと思構へし妹を薦めければ、親憲侯之を納れて、名を豐浦とたまひ、深く寵愛しければ、姉の局も悦びて、侯の御爲めよかれと、將軍にとりなし、侯はます／＼勢を得たれど、豐浦もさるもの、それらの事は氣色にも出さず。美貌にも誇らず。奧方を敬ひ、側室にもあしからず。何ごともつゝしみて事へければ、侯はいよ／＼寵し給ひ、新に館を營み、中御殿と稱し、豐浦をこゝに住はせ、自らも多くはこゝに居まして、豐浦の讀み書きにも勝れたるより、公の事、秘密の事、何事も豐浦に代筆せしむる程なりければ、豐浦巧に侯を惑はし、やうやく匿しもちたる爪を露はし、和歌を善くしたれば、自ら師となりて末々の女中に至るまで、これを習はしめ、又音曲を好み、自ら舞ふことも善くしたれば、さる道のものどもを館に呼びよせ、若き女中をしてこれを習はしめ、時としては中御殿に狂言踊りの催しさへあるに至り、質素を旨としたる館の内も、忽ち變して華奢となり。侯一度酒を呼べば、弦歌わき起り、銀燭輝く處、長袖ひるがへる。かくて侯にはそを悦ばせ給へ、藩政はおろか、公の政事さへ疎になりければ、飯田にありし藩士の面々聞き傳へて。大饑饉の餘害いまだ復せざるに、侯には愛妾に溺れさせ給ひ、吾等の扶持米までも遊興の費にあて給ふ。さしもの明君も妖魔に魅入られては、かくもならせ給ふか。かくては御家も末なりと。或は怒りて怨むもあり、或は君家の衰亡に迫るを歎くもあり、飯田の人心動き立ち。彼の楊貴妃を馬嵬にくびり、禍亂の根を絶ちし例しもあれば、所詮は一同連判して江戸に上り、上に迫りて豐浦を賜はり、これを亡ひて御家の安泰を計らむと、衆

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

議まち〳〵なりければ、代々の國老安富主計、かねて聞き知る館の奢りも、御器量すぐれ給へる侯の御事故よし二人三人の御側室は置かせらるゝも、華奢をきそふの當代、諸大家皆かゝれば、强ちに御退め申しがたきも、一婦女の愛に溺れて、政を疎んじ給ひ、御家臣の黜陟も愛妾の意に出づる如きは、御家の亂れとなること、このまゝには過されじ。我れ苟しくも老職の身をして、制止せざれば、事公邊に聞えなば、如何なる御沙汰のあらんも計られじと、衆を城中に集めて一同の江戸に上るを止め、おのれ一同に代りて出府し豐浦を斥けんと、家内の者には『もし侯の御怒りに觸れて、御手討ちにもならむ時は、累代の御恩に報ひたるものと思ひて、決して上を怨むことなく、屋敷を下りて所縁の所へ立ち退けよ』と言い遺し、急ぎて江戸に上りけるが、館にては、老年の國家老の遙る〳〵の出府何事の起りしかと驚き給ひ、直に中御殿の御居間に召し、御寵愛賜はりけるが、かねて聞き知る豐浦は、近く御側にあり。まばゆきばかりの裲襠きて、人なき如く一人侯にとりなしければ、主計賜はりたる盃返して、頭をはかりて侯が御前に進み、御顏を見上げて、はら〳〵と涙を落して平伏し、老年の主計、今生にまたと得がたき御褒賜はり、冥加の至り、此上の御仁には主計が細首を御手討ち給はれ、主計飯田表出立の際決心仕りたりと、請ひまつれば、侯には愕かせ給ひ『主計銘酊したるか。酒に本性失ひたるか、手討ちにせよとは何事ぞ。』と仰せ給へば『御前、主計は決して酩酊仕らず。本性も失ひ申さず。憚りながら、御前こそ酩酊あそばされ、御本性も失なはれ給ふか、御先代に例なき重職に登らせ、諸大名の尊敬高きに心緩ませ給ふか。この程よりの御驕奢に御家風を壞り、恐るべき妖婦豐浦が愛に溺れ給ひ、其毒舌に惑はされ御先代よりの御用意金は遊興に盡させ給ひ、家臣の御扶持も給はらず、妖婦の讒構を納れて御家臣を黜陟あそばすなど、御前の手足を變化に斫らるゝとは思し給はぬか、この妖婦のために御家の安危は旦夕に迫まるを御前には御心づきなきか、飯田の諸士は皆豐浦を怨

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り、御前を怨み奉り、あはや大事に至らむとしたるを主計さとしてわづかに止め、老年の身の忠の終了めと存じ、出府仕り候。此主計が首を討ち給ふか、沃婦を斥けて御家の安泰を謀り給ふか、何れか一つに定め給はれ』と。君家を思ふ熱誠の涙はせきあえず。侯は大に怒らせ給ひ、御詞もなかりけるが、豐浦はさるもの、主計の言に怒りはしたれど、さあらぬ体に、侯が御側にありて、『御前只今御家老の御言葉きゝては口惜しくも悲しくも存じまつれど、此世に生きては居られじ。此場に御許し遊ばせ』と、御側の刀とりて自害せんとしけるを、侯とゞめ給ひ、『主計、さすがは家老よく申したり。奇特に思ふぞ、今まで過ちたり。今より豐浦には暇つかはし、汝の心にまかせん。速く飯田に歸り、諸士をして安堵せしめよ』と主計の過言を咎給はず、豐浦には其場に暇遣はし、其夜の中に牛込あたりの親里へ送り返しければ、主計はよろこびて、飯田に歸へりける。歸れば諸士の面々出迎へて『さすがは明君の御決斷、御家は愈榮えまつらん』と、悦びあひけるが主計は忽ち家老職を召しあげられぬ。かくて豐浦暇賜はりて親里へ下りたれど。將軍の御寵愛深き姉君あるとなれば、如何にか計りけん。里にあること二月ばかりにして再び館に參りければ、親衛侯の悦び斜めならず。名を若山と賜ひて寵愛ます〱深く、主計に心よせたるものより、奥方、側室に事へし女中まで、何れも沙汰して斥け、暫く廢したる奥の踊りもふたゝび始め、若山の振舞いよ〱増長したれど、老臣主計さへ職を奪はれたる程なれば、江戸詰めの諸士口を噤みて君の命するまゝに從ひける。

▲お藤再び館に事へて若山を刺す

お藤一度館を下りて、町醫某に嫁ぎたれど、夫は間もなく病にたほれたれば、いとしや、鴛鴦の片羽さびしく暮しけるが、父母を始め親戚のものども、なき町醫の相續すべき弟あれば、これに藤女を配はせ、兩家の親しみを深くせんとしたれど、藤女はもとより此不倫をなすべくもあらねば、これを辭して里に歸り、再び館に參り、姫君の御側に事へけるが、さきには師

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



とも頼みし豐浦、今は若山と名をかへて、奥方、側室もなきものゝ如く、何事も吾が意のまゝになしければかねてきゝたる主計の事など思ひ浮べて、此若山こそ御家を亂すの源。君家のためにはたとへ火の中水の中へもとは父の御誡め。此若山を亡ひたらむには御家は永く榮えまさん、如何にもして此毒婦を除かんと思案に暮れ、君に捧げし身は如何にもなれ、父上母上に先つ不孝は如何にせんと一夜を泣きあかしけるが、父上母上へは其よしかき遺し、時の至るを待ちたり。時は來れり。九月三日、若山は侍女を集めて月次の和歌を講じける、藤女これを聞きて、身の譏りにと下し賜ひし懷劍とりて懐にし、立ち上りて見廻す部屋も、これが一世の見納めかと思へば、せきくる涙はとゞめもあえず。さりとてかくてあるべきにあらずと、氣を取り直して中殿に參り、『若山様に御内々にて御願申度き大事ありて、急ぎ參り候。取次き給はれ』と申せば、侍女取次ぎて其旨申せば、若山披講を止めて侍女を退け『何事か知らねど、こゝへ參れ』と導き入れぬ。藤女

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は側近く進みより、『憚り多き事ながら、若山樣には御家のため、御生害あそばす樣御願申ます』と、其理一々數へ上げ。『もし御生害遊はさねば、藤が手にかけて、御家のため、わざわいの根をたちます』と懐劍とり出して睨みつくれば、若山面色灰の如くに戰きふるへ、『人殺』とし叫びて新殿の方へ逃げんとするを、藤女はすかさず裳裾を摑み『おのれ毒婦』と叫びざま、脇腹目がけてぐさと計りに突き刺し、返す刀におのれも自害せんとする處に、たゞならぬもの音に、諸役人中殿に走せ上り、お藤を囚りて小手高手に縛め、事を侯に告げ申せば、侯の驚き一方ならず、直にこゝに來らせたれど、若山は虫の息にて言葉も出ず、四日目に敢なくなりにけり。やがて侯には御怒りのあまり、藤女と同謀のものもあらむかと、吟味嚴びしかりけれども、たゞ『御家のため、御生害御勸め申したれど、御聞き入れもなければ、御家のためとぞんじ、是非なく殺害いたしたり』とのみ申ければ、御家のためと思ひ入りたる事ども一々申上げよ申しゝも、『この事一々侯の御事にかゝれば、恐れ多し、たゞ藤を如何樣にも御仕置遊ばせ、と、申上ぐる氣色もなければ、係りのものども其心を察し、紙を與へて思ふ處を記さしめ、侯に上りければ、再び吟味もなく、父を始め疑ひのかゝりたるものども、皆釋されたり、其書はやがてお藤の所分定まると共に火中にしたれば、惜い哉如何なることの記されたるかは知るによしなけれど、忠烈の志氣や紙面に溢れたりけむ。かくてお藤は信濃の飯田に送られ死罪に處すべしとの下知あり。年内に執行すべしと聞えたれば、在藩のものどもこれを嘆きて、一同連署してお藤の助命を哀願したれど納れられず、江戸表にても聞き傳へて其忠烈に感じ、譽めはやさぬものなく、阿州家よりも助命を請ふこと再三に及びければ、こゝに御宥免の御沙汰あり、急ぎ飛脚は飯田に下りたれど後かりし、お藤は其日一首の辭世を殘して、從容として死につきたるあ と なりき。聞くもの惜しみて泣かざるものはなかりけり。藤女時に年僅に二十一。天保十一年十二月二日なりき。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



生理衛生　顔の話（中）

糸左近

前號には、外部に表はれてゐる事だけに就いて述べましたが、今回は、夫等内部の微妙なる點を聊か發いて御覽に入れませう。何うか前號と照し合してお讀み下さい。

空澄み渡る秋の夕に簾を捲き、一椀の薄茶に『舌』鼓鳴しつゝ、明月やの一句も詠まうとすれば淋しい景色が「眼」界に來り、遠近の蟲の音は喞々として「耳」に入り籬の菊は馥郁として「鼻」を撲ち、清風徐ろに頰を撲つ、嗚呼樂しい哉天地の景色、嗚呼巧みなる哉顔面の構造されど生理衛生を守らねば此の樂しい景色も遂に樂しむことが出來ぬやうになる、さても大切にすべきは顔守るべきは衛生である。

天地雖レ大ナリト入リ二眼界ニ一眼界雖レ小ナリト容ル二天地ヲ一といふ眼球は何程の大さあつて如何なる構造かといふに、其の直徑大凡八分五厘程あつて、外側を白膜脈絡膜及び網膜といふ二膜を以て包み、内には水晶體水樣液及び硝子體を含む。白膜は其の場所に依つて名が違ふ、即ち其の前面の中央に出でゐる處を角膜と名づけ、其の餘を硬膜と云ふ、角膜は他部より隆くなつてゐて透明であるが、硬膜は不透明な白色で、其の質は強くて堅いから、能く眼の形を保つに可い。脈絡膜は白膜の裏にある黑い膜で、眼の内に入る剩りの光線を吸ひ込む作用がある。網膜は最も内方に在る膜で、視神經の分れ枝が蔓つてゐる。水晶體は眼球の内に在る Lense（眼鏡の玉）で、光線を屈げて其の焼點を網膜の上に結ばしむ。水晶體の周緣には毛樣體といふ物が之を支へ、其の前には水樣液と名づくる水樣の物がある、後の部には硝子體といふ透明な膠樣の液體があつて充ちてゐる、偖又角膜の後には虹彩といふ膜あつて水晶體を被ひ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

能く伸びたり縮んだりして、光線の這入る量を調へ、其の眞中に一つの孔がある、之を瞳孔といふ。（前圖と照し合すが肝要なり）

偖視ゆるといふ感覺は何うして出來るかといふ事に就いて近古までは漠然たることを言つて居つたのである。彼の有名なプラトー氏でさへも『眼球から幻線といふ絲樣の物を外界に放ち、それが物體に觸れて始めて視覺が起るのである。』と、けれど物理學が段々進歩するに伴れて今は左の如く説明するやうになつた。

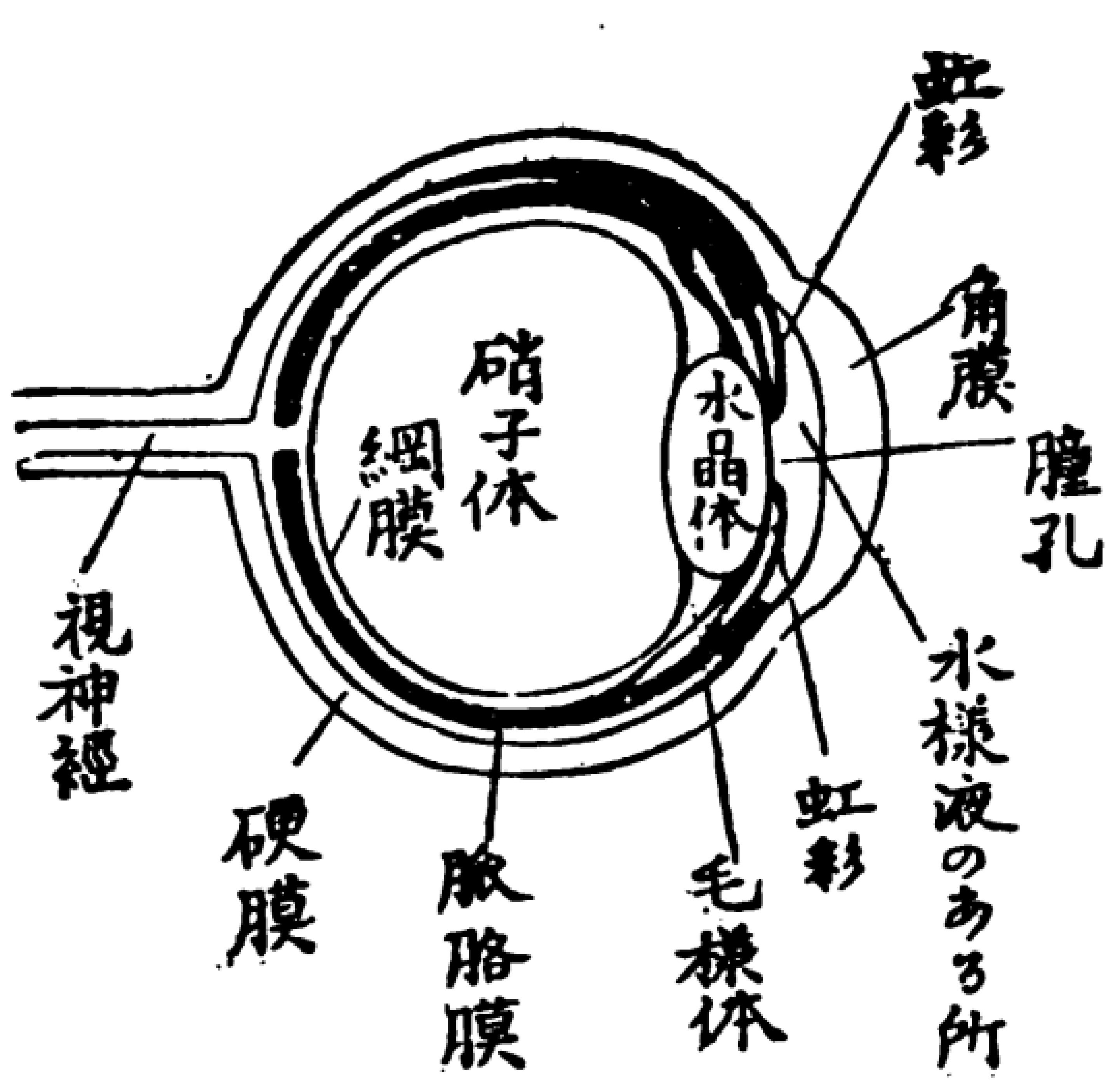
夫れ光線は透明な角膜を通して入れば、水晶體は光線を屈げ、黒色の脈絡膜は剩つた光線を吸ひ込んで其の反射を防ぎ内面の網膜は光りに遇へば忽ち變化する物質を含んでゐて光りに感ずること頗る鋭敏であるから物體の各點より發する諸光線は網膜面に集り、網膜面に鮮明な物體を現はすのである。さうして網膜の上に出來た變化は視神經の末端を刺戟し、神經は更に其の興奮を腦に傳へ、茲に初めて視覺が發るのである、實に巧みな仕掛と謂はねばならぬ、特に水晶體は人工の眼鏡とは違ひ、其の彎隆の度を色々に變へて遠い所近い物を視るに程よくし、以て網膜の上に明らかなる物像を映す樣にするとは偖も〱靈妙な構造と感賞するより外に無い、されど人に依つては水晶體の彎隆が大に高くて近い處に在る物の外は其の像が網膜に達し無いで燒點を結ぶのがある、斯樣な眼を近視眼といふ。又これと反對に凸隆の度が低くて遠く隔つた物の外は其の像が網膜の後に燒點を結ぶのもある、之を遠視眼といふ。老人の眼は水晶體の度を變る機能を失ふから遠視眼になるが通例である、斯ういふ道理であるから遠視眼の人は凸面鏡を用ゐ、近視眼の人は凹面鏡を用ゐるのである。

そこで此の近視眼になる原因は如何といふに遺傳もあるけれど、多くは色々の不衛生から來るのである。今左に之を列記しよう。

ドクトル、ベルツ氏は『我が國人の近視の原因の主なるものは、幼年者青年者が活潑なる運動を怠るからこれが爲に身體組織の抵抗力の發達を十分に遂ぐること

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が出來ぬ、抵抗力の發達十分に遂ぐることと出來ねば、隨つて眼も亦內壓に抗することが出來ないで、遂に其の原形を失ひ、近視眼鏡の奴隷になるのである。』と、然り〳〵大賛成である、深窓の下に支那人的の生活を遂げてゐたお孃さんが急に外國語でも教はると忽ちに『お父樣金縁を買つて下さいな』と强請るやうになるのである。又如何に抵抗力の發達强き人でも、眼球に對して危險を及ぼすべき接近點三十三乃至三十五仙迷以內の物ばかりを視て居ればこれ亦近視眼にならねばならぬ、故に眼と物との距離は一尺乃至一尺二寸を最も適當とするのである。光線の强弱も亦大なる關係あるものである、黃昏の勉强などは近視になる稽古をするやうなものである、暗薄い洋燈の光りで書を讀む如きも同じ道理である、螢の光り窓の雪など〵千歲の後まで歌はれゐるけれどこれは萬己むを得ぬ者の爲ることで決して眞似すべき道では無い、すべて光線は左側から採り且つ少しく後方より來らしむるが良い、光線の程度は新聞紙上の五號活字が五十仙迷の距離則ち一尺六七寸も距つて容易に視ゆる位で無くてはならぬ。又幼年の折は色々の距離で物を視る稽古することが必要である、何となれば、同じ距離の物計り視てゐると、近視眼或は遠視眼になる恐れがあるからである、或る時は濱邊に出で〵渺茫たる海原を眺め雲か山かと歌ふも可し、或る時は顯微鏡下の蚤の臟腑を研究するも亦可い。されど此の道理を誤解して頻繁に遠近の距離を見ては宜しく無い。何となれば水晶體は其の穹窿の度を調ふること非常に忙しくて忽ち疲れ、一方ならぬ害を與ふるものである、步行しながら書物を見たり、車上で新聞を讀むな



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

どは、矢張眼と字との距離が絶えず變るから、甚だ宜しく無い、斯樣な『見てくれ勉强』は却て怠惰者に多くあるものである。又蠟燭火などの樣な動搖する光線で物を視るも同じ道理であることは推して知るゝでせう。

次に舌を以て眼瞼の裏面を甜るは害がある、何となれば、舌の端には「レプトゝリキスブツカーリス」といふ六か敷名の黴菌が在つてそれが角膜に着くと化濃性炎といふ眼病になることがあるからである、故に異物が這入つた時は眼瞼を飜して布片を以て拭ひ取るが可い、彼の結膜炎即ち「眼くされ」或は「たゞれ眼」なども空氣中の塵埃からなることが往々ある、故に狹い室内に多人數居ることや暴風の吹く口などは注意せねばならぬ、事の序でにトラホームの話も一寸しておきませう、本病は顆粒性結膜炎と譯して、結膜面に粟粒程の小さい物が澤山生ずるのである、これも誘因は多人數の同居・手巾の不潔、爪の垢、手洗水の屢々取換ぬなどである、此の病の始めは殆ど氣附かぬ程であるが、漸々痛み出し、遂には睫毛が内方に折れ曲るやうになる、事玆に至れば角膜面を刺戟し非常に惱んで仲々治らぬやうになる、早く治療を施さねばならぬ、治療法は眼科專門の醫者に賴むより外に仕方は無い、何の病でもさうであるが、殊けて眼病は賣藥を點けてはならぬ、頓でも無い異物が這入つて、非常に重症となることがある、斯うなつてから如何に泣いたとて涙が出るばかりである、兎に角結膜炎になつたら藍色の眼鏡をかけて、物を見ぬやうにして居らねばならぬ、眼鏡は斯樣な場合には必要なれど健康な眼には有害である、殊に度のあるのを用ゐると、遂には其の度の通りになる然るに近來近眼を衒ふ馬鹿者がある、其の心を分析して見ると、『學問に熱心する者に近眼が多い、我は學問に熱心す、故に我は近眼なり』といふ愚なる三段論法を以て人を釣らうといふのである愚といふよりも寧ろ惡むべしである。先づ眼の話は此の位にしておいて次は鼻に移らう。

鼻の生理衞生は前號に畧説いたから、今回は鼻の主た

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る病を二つ述べませう。

▲酒　鼻

〔原因〕第一に酒類の飲み過ぎ、第二は慢性の腸加太兒或は胃加太兒、第三は屢々寒冷の空氣に觸るゝこと、第四は女子生殖器である。

〔病状〕初めの中は何か飲食したり、或は寒冷に觸れたり或は温暖な室に居たり、或は精神感動例へば驚いたとか愧ぢたとかすると其の時だけ鼻の外部が紅くなり間も無く消えて了ふ、斯ういふ事が度々ある毎に、其の消え方が遲くなり遂には消え無いで常に紅色を呈はす、斯うなれば立派な肩書附の赤鼻である、これで何事も無ければ唯醜いだけの事であるが、極重いのになると、益々赤くなつて脂が流れ出で、惡臭を放ち、鼻の上に結節が出來ることがある、のみならず灼ける様な熱い感じを發し、或は痒くて堪らぬことがある。

〔療法〕初めの中なら早く治るけれど、慢性の者は仲々治り難い、令ひ治つても再發し易いものである、先づ第一の原因ならば酒類や酢の類を嚴禁し、第二の原因ならば胃腸を丈夫にすれば隨つて治る、第三ならば鼻上にフラテル様の物を纏ひ冷えぬやうにするが可い、第四ならば無論生殖器の療治を眞先にするが肝要である、何れにしても原因療法を施さねばならぬ、泉源濁れり何ぞ河流の清きを見んやである。が併し其の原因不明である場合には左の療法を行つて試るが可い。

硫黄乳　二〇、〇　倔里設林　一〇、〇
酒精　五、〇　醋酸　一〇、〇
右一日數回塗布

これを塗布すると、却つて紅くなり或は痛みを來すことがある、然る時は一時止めて又試み三回度繰り返へすのである、それでも治らぬ時は今度は

イヒチオール　五、〇　酒精と水各五〇、〇
右一日數回塗布

これでも毅然として動かぬ時は、右の水の代りに依的兒二〇、〇を用ゐてみるべし、それでも矢張功無き時は

イヒチオール四、〇　甘草末適宜
右三十丸となし毎日三回食後二丸宛内服してみる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が可い、斯樣に攻めても猶尙頑强なる時は專門名醫の大砲を以て打碎かねばならぬ。

◆鼻加太兒

〔原因〕感冒、瓦斯吸入、塵埃、淋疾、毒物の竄入等である。

〔病狀〕鼻中の粘膜が乾くやうに感ぜられ、嚔が出でそれから鼻孔が塞り、鼻の呼吸が困難となり、嗅感が減り、續いて鼻汁が泄れ頭痛流涙或は耳鳴或は飲食物の嚥下困難などの苦痛を來すものである。

〔療法〕强く鼻をかむことを避け、小さな海綿を以て鼻中を拭ひ、常に溫室に居り、時々溫脚浴を行ひ、依的兒を嗅ぎ或は「イヒチオール」を外用するが可い、この外劇藥ならば色々の方法もあれど右にて治らぬ時は素人細工を行らずに醫者に依賴するが肝要である、さうで無いと慢性に陷り、敵は曠日彌久容易に降參せぬやうになる。

次に耳口及び顏全體に就いて述ぶべき筈であるが、餘り紙數を費すことになるから、次回に讓りませう。次回には、耳口の話は言ふに及ばす、ソバカスニキビボクロ、アザ等の療法から尙附錄として白髮赤毛の療治禿頭禿毛の事に就いて研究した限りを財布の底叩いて教授申さん樂しんでお待ち下さらば、私も亦樂しんで書きませう。此頃書を寄せて何が何でも「一日醫者」だけは欠かさず書けと注文せらるゝ方がある。私如き者をそれ程までにと思へば誠に嬉しくありますが、今回は右の樣に、病氣の話がありますから附錄の話が終るまで休みます。

秋の郊外

小萩女

天高く、氣澄みわたる秋の期節になりますと、野邊山邊には、種々樣々の草が、おひ茂り。胡枝子、敗醬蘭草など、時を得顏に咲き揃ひ、千紫萬紅とはゆきませんが、唐錦を織りなせる狀は、春の花にも劣りなく其清灑たる色香は、一層ゆかしく感じられます。

白露のをくとみしより咲く花の
　色の千種に野はなりにけり　　大納言師賢

眞萩原千種のいとをくるす野に
　日をへて織るや錦なるらん　　中納言雅緣

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

織りいだす錦とやみむ秋の野に　　郡　忠
　とりとり咲ける花の千種は

併かも涼風徐ろに吹き去れば、尾花はまねき、葛葉は飜へり、萩はさはぎ、敗醬は舞ひ、随分と面白い見物です。

秋の野の花見るほどの心をば　　赤染衛門
　ゆくとやいはんとまるとやいはん

千草八千草多けれど、特に勝れて愛でられるのは、七草であります。萬葉集に

秋の野に咲きたる花を指折り
　掻きかぞふれば七くさの花

抑も秋の七草とは、如何なるものでありませうか。古歌に

芽子の花。尾花。葛花。瞿麥の花
　姫部志また藤袴。朝貌の花。

とありますが、世俗唱ふる所によれば桔梗、苅萱、女郎花、藤袴、尾花、葛、萩の七種としてある。そうして苅萱の代りに吾亦紅を加へ、朝貌をば通例省いてあります。更に角七草から、秋の主なる野草を擧げてみませう。

「桔　梗」

は、莖の高さ三尺許り、葉は四枚づゝ對生し。花は單重と八重があります。色は所謂桔梗色とて、普通は藍紫色でありますが、栽培種には、白色、淡黄色或は紫白の雜色などもあるのです。又紋桔梗の花は、平くて淡紅色である。根は牛蒡の根の樣に、太くて眞直です桔梗とは、根が結實で、そうして硬直であるから名けられたといふことです。根や芽を折ると眞白な汁が出る、此汁は毒であります。桔梗は秋の七草の一であります。庭園に培養してある種類は、夏の中に咲き揃ひ、秋にいたると、僅かに殘花を止むるのであります

「苅　萱」

は、禾本科に屬し、芒と同じ種類で二種類あります。そのうち最もよく芒に似て、細かい毛の生へてるのを、メカルカヤといひ、穗は麥の穗に等しくて、長い鬚があります。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

裏枯る丶淺茅が原のかるかやの　坂上是則
亂れて物を思ふころかな

ふみしだき朝ゆく鹿やすどぬらん　詠人不知
しとろに見ゆる野ぢのかるかや

とありますが、秋刈りとりたる茅のことをも「カルカヤ」といふから、苅萱とは、實にまぎらはしいのです

「敗醬」

は、女郎花といひ。敗醬とは、醬の腐ッた樣な臭があるから名けられたといふこと。高さ四尺以上に達し、葉は二枚づ丶對生し、花は甚だ小さく、五瓣であつて其色黃く、そうして蕾の狀は、恰も粟粒の如くです。莖は冬になると、枯れてしまふが、春になると、舊根から嫩葉を發し、再び數本の莖を出すのです。此嫩葉は、俗に親葉或は大根葉と稱へ、煠で丶食用に供します。敗醬は、到る所の山野に簇生し、多くある所では菜畑の如く見え、物寂しき秋の野に、一趣の色を添へ飾ります。それ故敗醬を詠んだ歌は、非常に多くあるのです。こ丶には古歌十種だけを選びました。

白妙の衣かたしき女郎花　紀貫之
咲ける野べにぞ今夜ねにけり

名にしおはゞしゐてたのまん女郎花　紀貫之
花のこ丶ろの秋はうくとも

かりにとてわれはきつれど女郎花　紀貫之
見るに心ぞ思ひつきぬる

日くらしに見れどもあかぬ女郎花　藤原長能
野べにや今夜旅ねしなまじ

かく水のきしに匂へる女郎花　源重之
しのびに波やおもひかくらん

女郎花匂ふあたりにむつるれば　清愼公
あやなく露や心置くらん

夕されば玉ちる野べの女郎花　左近中將良平
枕さだめぬ秋風ぞ吹く

秋風に折れじとすまふ女郎花　僧眞還
いくたび野べにおきふしぬらん

おるからに我名はたちぬ女郎花　藤原興風
いざ同じくば花々に見ん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「蘭草」

は、菊科に屬し、高さ三四尺に達し、葉細長くて、特に香氣を含んで居ります。花は小さくて、敗醬の如く多く集り、其色は淡紫であります。春になると、舊根から芽を出し、其嫩葉は食用になります。古の人は此草の葉を腰の間に狹み、其香氣を愛してゐたといふことです。

此草は、花の色が藤の如く淡紫で、そうして花瓣に袴の如き鞘が附けられてあるから、藤袴と名けたといふ說である。又支那の昔噺に、或る女が野原へ行ッて死んだが、其女は藤で織ッた袴を着けて居ッた、所が其中から此草が生へた故、藤袴と名けられたのだとしてあります。が何れも如何がですか。

蘭草ぬしは誰とも白露の
　こぼれて匂ふ野邊の秋風　　公猷法師

ぬしやたれきる人なしに藤袴
　みれば野ごとにほころびにけり　　詠人不知

藤袴きる人なみやたちながら
　しぐれの雨にぬらし染ぬる　　圓信

秋の野にむら／＼立る眞蘭
　紫深く誰が染めにけん　　詠人不知

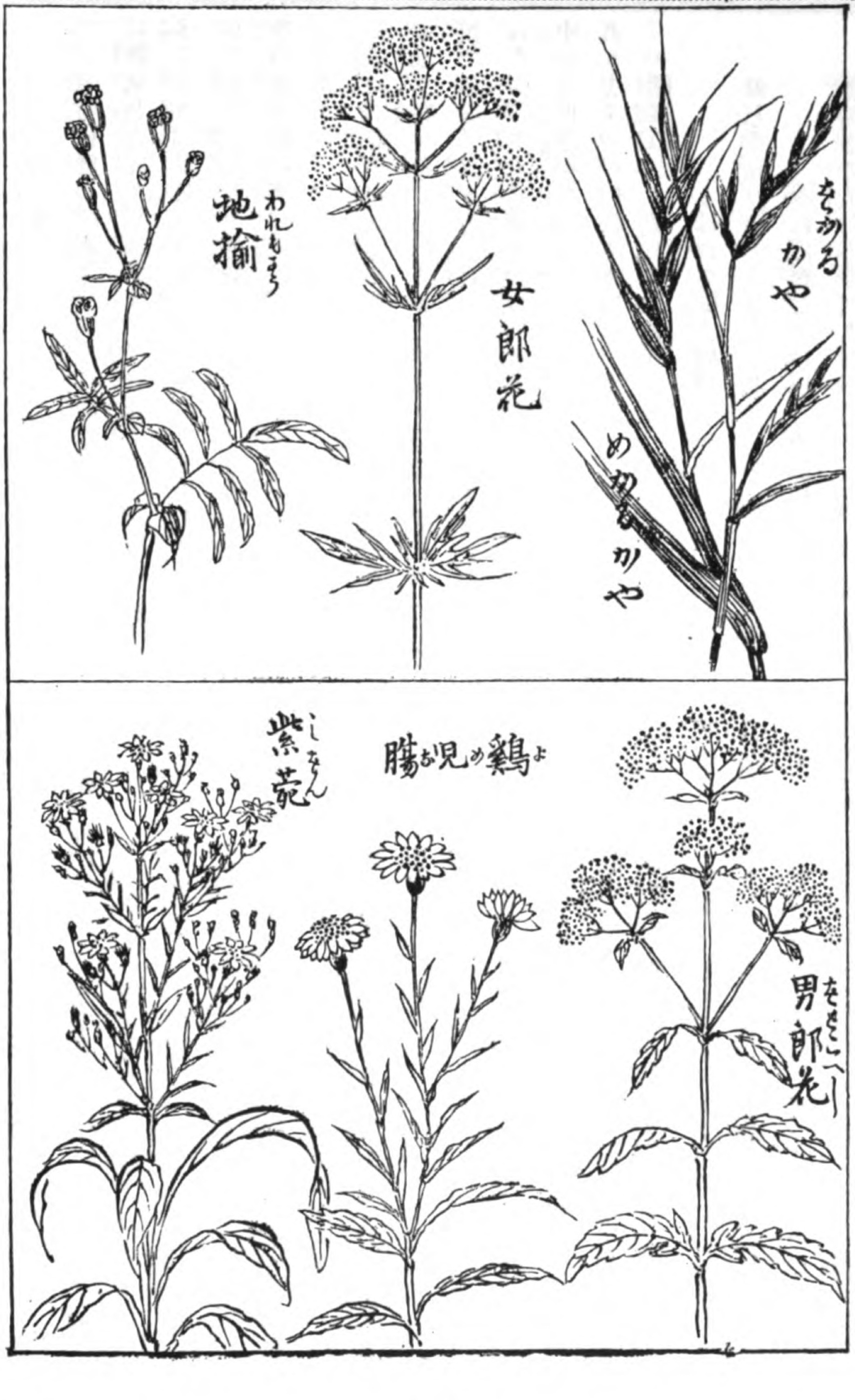
花の色は露のまがきの藤袴
　匂ひのみこれやつれざりける　　詠人不知

山蘭は一にイツベクサといひ、蘭草の一種でこれに最もよく似てゐるが、葉と莖に細い毛が生へてて、香氣がない。そうして花が白色であるから、白藤袴ともいはれてるのです。

「尾花」

は、即ち芒のことで、一にカヤといひ。高さ五尺許りに達し、葉剛くて線銳く、觸れると往々傷けられる。此草は山野に繁茂し、冬苅取りて屋根を葺くに用ゐてゐます。で變種多く鷹羽芒、鬼芒等があります。十寸穗芒とは、穗が長くて一尺許りもあるから、十寸穗と名けられたといふことです。それから尾花とは穗が獸の尾に似てるから名けられたので、篠芒とは、穗の出ぬ芒、旗芒とは、穗が旗の如く、動くから、稱へたの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN







Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

であるといふことです。紅葉の頃東京の近在でこしらへる角鴟はこれから造られたのです。

さをしかの入野の薄はつおばな　柿本人麿
いつしかいもがたまくらにせん

秋風にあひとしあへば花薄　讀人不知
いづれともなくほにぞ出ぬる

花薄そよともすれば秋風の　在原棟梁
吹くかとぞ聞くひとりぬる夜は

ほのかにも風は吹かなん花薄　女御徽子女王
むすほゝれつゝ露にぬるとも

野邊ごとに音づれわたる秋風を　入道院大僕
あだにもなびく花薄かな

さらでだに心にとまる秋の野に　源師賢
いとゝもまねく花薄かな

女郎花おほかる野邊の花薄　讀人不知
いづれをさしてまねぐなるらん

行く人をまねくか野邊の花薄　平[illegible]
今夜もこゝにたびねせよとや

花薄まそほの糸をくりかけて　俊頼
絶へずも人をおもほゆるかな

日にそへていとゞます穗の花薄　鴨長明
たもとゆたかに人まねくらし

荻は、尾花に近き種類で、葉と花は尾花に似てゐますが、莖太くて、寧ろ蘆の如くである。此草は主に河の邊に茂ッてて、尾花と同じく、一種の趣があるから、多く歌人に詠まれてあります。

『葛』

は、荳科に屬し、莖は蔓となッて、一丈も二丈も長く延び、花は赤紫色で、藤の如く四寸許りの花穗となッてをりますが多く仰向いてゐます。荳科であるから、實は勿論莢に包まれるのです。此草は効能多く、第一根を碎いて汁を取り除き、日に曝らして葛粉に製え、大和の吉野では、有名な産物となッて居ります。それから蔓は繩の代用となり、又其皮を絲として、カタビラに織られるのです。藤衣といふものは、矢張り葛の皮で織ッたのであるといふことです。併かも葉は、馬

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の食料には、最も適當の品であります。」

葛の葉は鵲豆の葉に似て、遙に廣く、三枚一組となつてゐます。此廣い葉が風に吹かれると、翩々と飜へるので、歌人などは、葛葉の裏見と稱へ、人の恨みにたとへてゐるのです。葛の歌に

かみなひの御室の山の葛かつら　中納言家持
　裏吹きかへす秋は來にけり

葉がくれに匂ふ眞葛の花もみん　詠人不知
　裏吹きかへせつきのした風

わが戀はまつを時雨の染めかねて　慈鎭和尚
　眞葛か原に風さはぐなり

『胡枝子』

は、荳科に屬する灌木で、秋の花のうち最も著しいから萩と書かれ。天竺花、觀音菊、隨軍茶、芽子花、鹿鳴草、古枝草等多くの名があります。で種類も多く普通山野にあるのを野萩或は山萩といひ、高く生長します。春舊莖より芽を出すのを、特に木萩或は眞芽子と呼び。夏萩、圓葉萩、小葉萩、糸萩等は、何れも庭園に栽培される種類であります。

胡枝子の花は、小さくて多く集り、色は淡紫であるが栽培種には、白色、黄色、紫白の雜色などあります。葉も悉く小さいですが、荳科の植物であるから、必ず三枚一組となつてゐます。

胡枝子の葉は、葛の葉と同じく、牛馬の食料となり。又煎じて茶の代用となり。莖は籬墻或は薪となつて、少なからぬ能があります。陸中宮城野にては、二里四方一面に、山萩が生ひ茂つてゐたので、古來有名であります。

昔清涼殿の西に、種々の秋草を植へられた御所がありましたが、特に萩殿(萩戸)と稱へられました程で、胡枝子は、なか〳〵持はやされたのです。で胡枝子を詠んだ歌は非常に多くあります。

このころのあかつき露にわが宿の　柿本人麿
　萩の下葉は色づきにけり

風さむきわがから衣うつときに　紀貫之
　萩の下葉も色まさりける

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮城野につまこふ鹿ぞさけぶなる　藤原長能
　もとあらの萩ぞ露やさむけき

白露にねりまぬきなん山城の　衣笠内大臣
　宇治の都の秋萩の花

あさな〳〵露をもげなる萩の枝に　周防内侍
　心をさへもかけて見るかな

人しれず物をや思ふ秋萩の　中納言女王
　ねたるがほにて露ぞこぼるゝ

白露も心をきくや思ふらん　筑前乳母
　ぬしもたづねぬやどの秋萩

をく露もしづ心なく秋風に　紀伊
　みだれて咲ける眞野の萩原

秋萩の古枝に咲ける花みれば　讀人不知
　もとの心はわすれざりけり

宮城野の露も色ある古枝草　西行法師
　ことしの秋も花は咲きけり

「地楡」

は薔薇科に屬し、高さ四尺許りに達し、葉の狀が楡に似てゐまして、緣は鋸齒の如く、ギザ〳〵になつてゐます。年々一株から數本の莖を出し、花は極めて小さく、數多相集り、宛から桑の果實の如き形となつてるから、花とは思はれません。で毬の樣であるといふ所から、一に玉毬と稱へ、色は普通紫黑色であるが、紅色のものもある、此草は敗醬、蘭草などと同じく、多く山野に生じ、品がよくて、なか〳〵愛嬌があります地方によつて、蘭草のことをワレモカウといひ。又芒の一種をワレモカウといふ所もあります。

「男郎花」

は、高さ四尺許りに達し、形狀はちよツと敗醬に似てゐますが、葉が廣くて、花の色は白いのです。敗醬と同じく、嫩葉は煠でゝ食べられるそうです。

「鷄兒腸」

は、菊科に屬し、古はオハギ、ヨメガハギと稱へました。高さ二尺許りに達し、花は單重で野菊の花に似て淡紫色です。此草は、多く田の邊や野原に生じ、春の摘草を以て其名知られて居ります。嫩葉は勿論煠でゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

食用となるのです。

「紺　菊」

は、一に馬蘭といひ、高さ二尺許りで、莖も葉も、最もよく雞兒腸に似てゐますが、少し大きくて黑みがゝり、花も雞兒腸に似て、やゝ靑みを帶びてゐます。けれども淡紅色、白色などもあるそうです。若いうちは雞兒腸と、ちよつと區別し難い草です。

「紫　苑」

菊科に屬し、一にオニノシコグサといひ、古はまたノシと呼んだそうです。高さ六七尺に達し、莖も葉も大きく、花は雞兒腸に似て少し靑みがかつてゐます。此草はよく庭園に栽培され。姬紫苑(小紫苑)黃菀などは此近種であります。

　　萱草わが下紐につくれども　　家持
　　　鬼のしこ草ことにしありけり

「野　菊」

は、一にアブラギクといひ、高さ一尺許りで、いたる所の山野に生じ、花黃色にて小さく、多くは單重です

花には香氣があるから、乾燥して枕の中に入れ、樂む者もあります。

「龍　膽」

高さ一尺以上に達し、葉の味は頗る苦くて、恰も膽の如くであるから、龍膽と名けられ。花は桔梗に似て紫色であります、けれども白色のもあり、其葉は笹に似てゐる故、世に笹龍膽といひ、紋の形に畫かれます。花は茶の湯を行ふ時など、床に飾られ、根は專ら藥用となります。山龍膽、蔓龍膽など此種族です。それからセンブリも、龍膽に近き一種であります。龍膽の歌に

　　龍膽の花を手向くるぎ法師の　　基俊
　　　經よむ聲はたふとかりけり

「河原撫子」

石竹科に屬し、一に大和撫子或は夏常ともいひ、形石竹(韓撫子)に似て、やゝ細長く、花は單重で、瓣の端は細かに裂けて、色淡紅く、頗る優しい姿であります此草は山野路傍に生じ、夏中盛に咲きますが、秋にい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たるも猶美しい色で咲いて居ります。秋の草は、猶此他尠くありませんが、紙數に限りがありますから、此位にして置きます。（完）

庖厨の化學

紫苑女史

人間以外の鳥獸は食物を調理して食すると云ふことなし、獨人間は然らず、熱帶地方未開の民は多く木の實を食ひ、歐米の文明國の人民は精製したるものを食ふ換言すれば高等なる人類に至れば至るほど高尙なる食物を食す、即人民の食物調理の如何を調ぶれば其國の文野の度を推測する事を得るなり、故に食物の調理は決して等閑に附すべからざるものにして我が日本も東洋第一流の文明國として大に誇り居れど、而も日常吾人の輕蔑せる支那の食物調理法を以て我國のものに比すれば、遙に勝りたる點少なからず、されば宜しく以來は機械的に又化學的に大に改良を要すべき事ならん只滋養分の多量を以て主眼とすべきものにもあらず、只外見のみに重きを置くべきにもあらず、之に伴ふ適當の調理と風味外見等皆完備して初めて完全なる食物となりて吾人の食慾を增進し、消化を全からしむるものなり。

植物性食物の調理

食物調理法の根源は西洋も東洋も大差なく、先水と一所に熱する即煮ること、火を以て直に熱する即燒くこと、次は油と共に煮ること、煎ること、其他酢或は鹽に漬ける事もあれ共、先普通は煮る事最多し、故に今日本に於て最多く行はるゝ米を煮る、即炊く事に付て云はんに、米の性分は已に云へる如く其主性分は澱粉にして、之が米の内に如何なる有樣にて存在するかと云ふて、凡て植物の澱粉は澱粉球となりて細胞內にあり、此細胞と細胞とは連絡する爲に其間に細胞間質と云ふ酸性の膠質のものあり、先此ものを煮ると

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第一に澱粉球が水を吸收して細胞中に膨張す、其內に細胞間質は水に溶解して細胞は一ツづゝ離れて終に破裂す、之と同時に澱粉は水に溶解するなり、天然の澱粉は水に溶解せざれども一度煑たるものは容易に解くる物質となる、即異狀態のものとなりしなり、是全く煑へたる時の變化にして澱粉のよく煑えたるものと否とは大に我々の消化に關係を有するものなり、溶解したる澱粉はプスチアリン(唾液中に存する一性分)に逢へば忽砂糖に變化す米を猶水を加へて永く煑ると澱粉質が水を吸收して破裂し細胞を破りて分るゝのみならず、蛋白質も亦變化して窒素質に分解し、脂肪を分解してグリセリン、エステルとなる、是等の酸が澱粉に變化を及ぼして澱粉糖デキストリン等になる、此出來たるものは皆水中に溶出す、溶解せざる澱粉の皮膜、細胞膜(共に木纖維質)を漉し去れば下には殆透明なる液體のもの出づ、之は老人、小兒のよく食するおも湯と同じものなり。

是等の變化が全部に行き渡る樣にするには、初より強き熱を與へずして漸次にするを宜しとす、即細胞の處々には內部に通ずる孔ありて、此小孔より內に水が浸入して柔になるものなるに、若し初より強き熱を與ふる時は其孔が早く塞がりて變化は只細胞の外部のみに止まり、全部に行はるゝこと難し、斯る時は所謂心のある飯にして之を食したる人は多く酸敗を起すなり

又野菜類の內には多少澱粉のなきものなし、即葉とか莖とかの中にまた豆類等の實の中にも多くあれ共、皆通米の中にあるものとは少しく其性を異にす、之等の營養分は決して人間の爲に造られたるものにあらずして、植物自身に必要なるもの故、即子孫繁榮を計る爲のものなる故に、大抵のものには存するなり。葛片栗を煑る時は今迄水に解けざりしものが只解くる樣になりたるに過ぎざれども、野菜を煑る時は其中の澱粉は只水に解くるのみならず、之等の中には種々の酸類即ち凡ての植物に通じて有する所のリンキン酸、酒石酸、苦櫞酸、醋酸、(之は何れのものにも有ると云ふ事なし) 等のある爲に水と澱粉との變化のみならず、酸

類と化合して澱粉デキストリンに變ずるなり又ある作用によりて砂糖に變せしむる場合もあり、此時には七十度以上の熱を與ふれば其作用は止まるものなり、之に反して酸は何時迄も作きて砂糖に變するなり。

茹ると云ふ事も澱粉に對する作用は前と同じ事にて、只其時間短きのみなり、凡て十字科の植物は食したる後に腹中に於て一種の瓦斯を出す、之は水に溶け易き性分なる故に一寸ゆでゝ取る事を得るなり、併し余り永くゆでると吾人に大切なる鹽類も澱粉も出でゝ仕舞ふ故に、成る可く短時間にして終るべし、然る後は直に冷水に入るべし、菜類などは此方法によりて青色を失はざるなり。

灰を入れて茹ると云ふは水中の石灰、マグチシアが植物中の蛋白質と一所になりて、水に溶けざる固きものとなると、灰の中の炭酸加里の爲に石灰や、マグチシアと抱合して水の中より除き去る事になる故に、豆などは軟になるなり。植物の中にも固有に石灰マグチシアなどを含みたるものあり、之に炭酸アルカリを入れると前と同じく軟になるなり、又細胞間質の内の酸類と抱合して溶け易きものとなして細胞を離れ〳〵になすの效あり。

又植物中には何れも脂肪を多少含めり、大豆の如きは三割以上あり、之は普通の温度にては只細胞より離れて出る位の事なり。

凡て植物性のものを煮るには一方には機械的に細にする事、一方には化學的に消化し易き樣に變化せしむるとあり、然れども茹ると云ふが如き時には元ありたる滋養性分を多少失ふ恐ある故に、其汁も共に食する樣にせざれば充分の效はなきなり。

動物性食物の調理

植物性食物と動物性食物との差異は、前者は澱粉が主にして後者には蛋白質其大部分を占め、之に加ふるに脂肪あり植物性の内にも脂肪は有れ其割合に消化しにくきものなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

肉類を煮ると肉の結締組織などが次第に變化を受けて膠質となりて水に溶け、肉纎維が次第に離れる、之は機械的の作用なり、併之も余り永く煮ると蛋白質が變化して乳酸、酸性の鹽などの爲に次第に變じてペプトン以上に變ずる時は、もはや人体に効なきものとなる。肉を煮たる汁の中にはクレアチンカルミンなどの性分が溶出せるのみならず、燐酸鹽酸カリ等の大切なる鹽類が皆有る故に、共に食する時は滋養分の悉くは体中に入るなり、肉其者を食する場合には成る可く汁を少なくして煮るを宜しとす、スープとか又他のものに味を付けるとか云ふ場合には、成るたけ少さく切りて水より徐々に煮るべし、鰹節のだしと肉汁とは殆ど同一の性分にして只香の異るのみ、肉を食するを目的とする場合には、なるたけ水を少なくして餘り永く煮るべからず、此時は結締組織が半分膠になりて、肉が軟になるなり、肉の煮えたるや否を試むるにホークなどにて突きさすは宜しからず、其孔より滋養ある汁を瞬出せしめては悪し。

又肉の内の汁にて煮ると云ふ法もあり、密閉したる器に入れて火にかけるなり、斯くすると肉中の水分が熱せられて其爲に肉が煮へるなり、此の時は勿論温度は百度より高し、故に結締組織は短時間にて膠に變するなり。

ロースはなるたけ高温度にて結締組織を變化せしむるにあり、此時には只水蒸氣だけ出す樣にして他の性分は何も出さない樣にするなり、脂肪を溶かし置て其中にて燒く故に、温度非常に高く表面の蛋白質が固まるのみならず、非常に堅くなる故に内部の水分も性分も容易に出でず肉片が大になるほど熱は一樣に傳はらずして中心に至るほど半煮位になる、此調理法にては中心の處即肉の猶もゝ色位になりたる處を最賞翫するなり、故に肉塊は大なる程宜し、外に流れ出でたる汁は主に鹽類なる故に之も共に食ふべきなり何れの肉にても皆然り。

燒くとは前と餘り異らざれ共、之は一番肉類の水を少なくする手段なり之と同時に肉汁はなるたけ無くさな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いと云ふ目的なり、故に一度は強き火にて外部の蛋白質をかたまらせ、次に火を弱くして内部に火の通る樣にし水蒸氣はなるたけ飛散せしむるなり。

干物と云ふは前によく似たるものにして、中に含まれたる蛋白質結締組織はまだ變化せざれ共、一度燒けば同じ樣なものになる、され共水分少なき故に結締組織は充分に膠に變ずる事少なし、畢竟其肉は硬くして不消化なるを免れば何れの調理法にても皆其性分の一部を失ふ樣なれ共滋養分かいくらありても吾人の消化器が夫を吸收するの力なければ、其結果宜しからさる故に、少しは滋養分が減少しても体内に入りて充分の効用をなさしむる樣に調理すべきなり。

調理には數百の法あり、其中にて最消化宜しき法を一つ擇ひですれば宜しき樣なれ共、如何に消化し易きものにても、同じものゝみを日々食すれば直に飽く、著しき味のもの程早く飽き淡白なるもの程永く續いて食せらるゝものなり、故に種々形狀とか種類を代へ風味をかへて胃の好みて之を受け入れ消化せしむる樣にする事必要なり、之が複雜になる程消化よくなる此點のみならず經濟上にも調理法及材料の變化は誠に大切なる事なり。(完)

通俗科學　石炭の話（下）

淺野松琴

▲採掘の順序

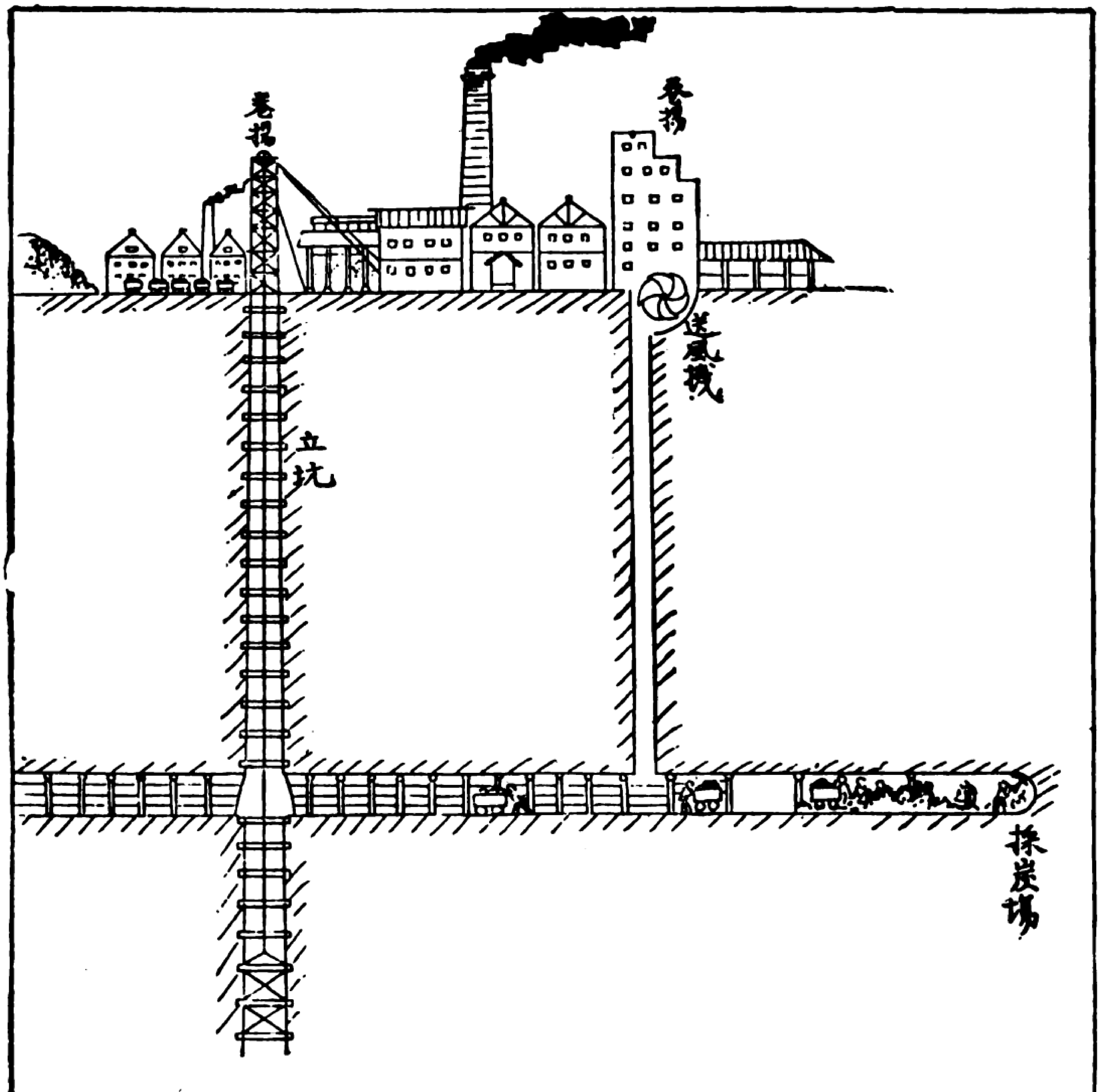
石炭と云ふものは、如何して地中から掘り出される物かと申しますに、炭田地方には石炭の露頭と云つて、炭層の一部分の地表に露はれて居る所があります、此露頭を見付て、夫から炭層がドチラに傾いて居るか、ドノ位廣がつて居るかを見定めます、炭田が昔の林であつた時には、水平の地面であつたかも知れませんが其後の地殼變動で、炭層は大抵斜になつて居るものであります、此傾きは露頭の所で知れますから、此邊迄炭層は擴がつて居るだらうと思つた所へ、錐を入れて見るのです、錐と云ひましても鐵製の太い長い棒で、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夫を地面の中へモミ込ので、三百尺でも四百尺でも地下へ届かせる事が出來ます、此方法で地下何尺の處に厚さ何尺の炭層が何枚あつたと云ふ事が知れますと、今回は其所に長方形の深い井戸を掘るのです、其深さは通例五六百尺から千尺位もあります、炭層に届くと夫から横に炭層に沿ふて掘り進むのです。

此深い井戸の事を立坑と云ひます、立坑の上には丁度井戸の滑車の様なものがあつて、之に針金製の縄がかゝつて居り、釣瓶のある所に、人や車を載せる框が吊げてあります、此仕掛を巻揚器械と申します、巻揚器械の運轉は蒸汽力を用ひたり又電力を用ひます、是から坑内の模様を御話し致しませう。此圖は石炭坑の平面圖で御座います、

炭坑の構造



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(イ)(ロ)と書いてある所は立坑で此二つの井戸で地表と坑内とが連絡して居るので御座います。此圖は炭坑の模範の形を示しましたので、何れの炭山も此通りであるのではありません。時には斜坑と云つて炭層の露頭の所から層に沿ふて斜に掘つて居るのもあります。さて立坑の二つあるのは一方から空氣を送り込んで、一方から坑内の悪い瓦斯や人の呼吸した穢氣を拔く爲めであります、

白い所は炭層内に掘つてある長いトンネル即ち坑道で黒い所は炭層で御座います。炭層が箭で示しました方に傾斜して居ますので、坑内から湧き出す水は、凡て(イハ)と云ふ坑道へ落ち合ひますから、(イ)の立坑には大喞筒が据えてありまして、二六時中間斷なく水を地表へ汲み出して居ます。

▲坑内の景狀(其一)

是から讀者諸君と坑内に入りませう。先づ着物を脱いで、坑内着と云ふ左官屋の仕事着の樣なのを着て、鞋が御嫌いならば藁草履を履いて、頭には帽子を冠り手には安全燈と云ふカンテラを金網の函の内に入れた樣なものを携えて、腰か頸に手拭一筋を結ひ付けて、夫れで用意が出來ました、妙な風だと云はれる方もありませうが嫌なら入坑を御止めなさい。夫から一同卷揚器械で昇つて來る框を待つて居ますと、突然立坑の蓋が開いて石炭を一杯積んだ車が框の上に載つて顯はれまして、夫が地表より數尺高く引き上げられ、蓋が閉ぢられると框は再び降つて蓋の上に載せられて止まりました、そうすると運搬夫がレールの上を滑べらせ乍ら炭車を押し去りました、其跡へ吾々が案内人と一所に乘る。

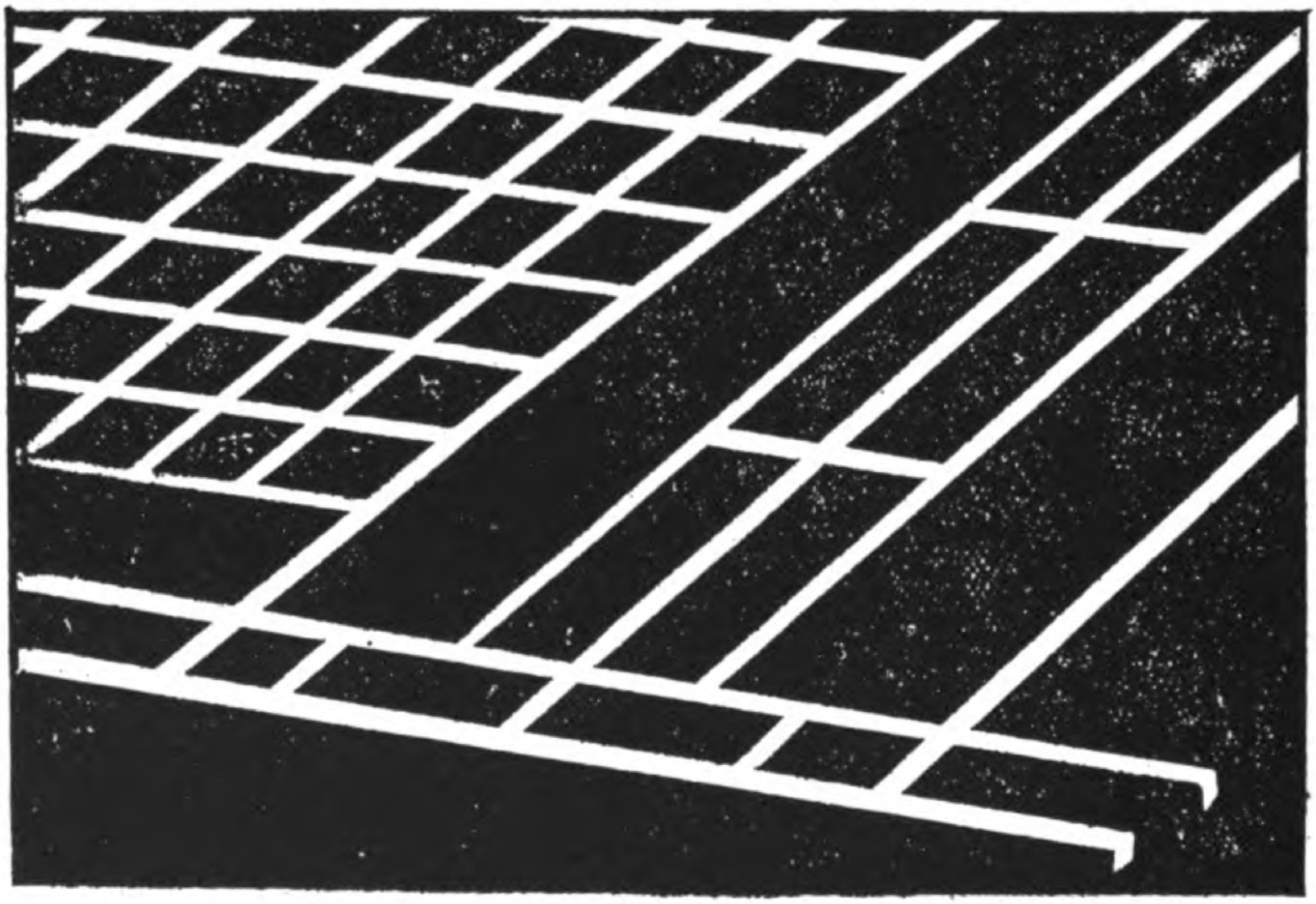
框の廣さは疊一疊敷の餘りもあつて、炭車が二臺前後に一列に載せられるのですから、人間ならば十人は乘れるが坑夫ならもつと多人數乘るでせう。

先第一に驚くのは其狹い事と汚ない事である、框は左右に鐵の柱が取り附けてあつて、夫が頭の上で一本の綱に結び付けてある、コンナ事を見て居る間に、カンカンと合圖の鈴が鳴つた、框は數尺卷き揚げられた、蓋が開いて框は垂直に立坑内に降つて行く、吾々は今は地表より以下の旅行を始める所なのです。俗に舟乘は板一枚下は地獄と云ひますが、是は又繩一本で地獄に吊られて居るとでも申しませうか、繩は鋼鐵製である、又よし切れても安全機があるから坑の中途で止ま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて落ちる氣遣はない、等云つて見た所で安全機が都合よく働いてくれなかつたら致方がない、其時には人間でも框でも引力の法則に從つて、一秒時間に三十二尺宛の加速度で坑底迄落ちるのである、皆々心の中で心配の眞最中框は段々速力を增して降つて行く、一秒時間に十尺位は降る、勿論上下四方共は眞暗、光と云ふものは安全燈から漏れてくるの丈けである、框と坑の緣の鐵材と磨れ合ふ響が寂寞中の一音です、加之空氣は濕つて土臭くそして生温い、坑口の處少しは煉瓦で坑壁が卷いてあつたが降るに從て夫もなくなり木や鐵の框が組み入れてあ

炭坑の坑道



つて、其間から炭石が見えて居る、水は浸み出して滴となつて落る、幸に帽子を冠つて居るので襟には入らないが、手足は一面に濕めりました、嗚呼コンナ所ならば來なければよかつたと思つても仕方がない。

シュッと音がしたと思ふと立坑の中仕切を隔て、向ふに他の框が、すれ違ひに昇つて行く、夫には石炭車が二つ乘せてあつて、其炭の上に坑夫が蹲んで居る、其昇り方の速いのを見ても此方の速く降つて行のが分ります。

微かに器械の運轉して居る響がする、案內人に聞ふとあれば第二坑にある喞筒の音であるとの事、排水管は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

坑の側壁を傳ふて坑口に達して居るのである。

▲坑内の景狀(其二)

段々速さが減じたと思ふと、俄かに側面から光が射られた、之は第一番坑に達したのです、そこで框は停止して吾々は框から下りて歩るく、合圖の鈴が鳴る、針金を引いて坑口へ合圖を送ると框は其儘再び降つて行きます。是迄の闇に引き代えて明るい事其筈です此邊は電氣燈が點じてあるのです、案内人に聞くと地下八百尺であるとの事、下を見るとレールが縱横に布かれて居る其レールを傳つて一方の坑道へ進むと、此所は道幅は一間餘もあつてレールは複線である、其上を石炭を滿載した車が、雷の樣な響をさせて走つて來ます、上を見ても下を見ても石炭計りであるから眞黑、水は天井から滴つて居る所々小さな瀧をなして居るのもある、是等の水は坑道の脇の溝に落ち合ひ、第二番坑に流れ落ちるのです。暫くたつて一方へ折れて行くと、レールは一筋になつて道幅も狹く爪先上りとなつて居て眞暗である上下とも炭で之が濕つて居るので、安全燈の光に映じて輝いて居る、地面の下であるから寒からろと思つたが、豫想に反して汗が出る程暑いのである、時々炭車が下りて來るので傍へよけねばならぬそれから暫く行きまして又曲つて程なく石炭を採掘して居る所へ出た、夫は圖



炭坑降下

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に（ホ）と書てある處で、此部分の石炭を掘り取る爲めに、三十尺毎に碁盤目に坑道が通つて居る、石炭の層の厚みが六尺であるから、此六尺丈の炭を取出すので、坑道の高さが六尺であるから、歩くには頭をぶつける患はないのですが、四尺の厚さの炭坑では嘸歩行が困難でせう。

案内者は話しました、皆樣が立坑から降りて歩いて御出でになつた道も、是から先の道も炭層の内にあるので、石炭を掘り出す爲めに此通りに道を切つたのです、道を切らずとも

石炭の採掘



片端から取つて行つたらよい樣にも考へられますが、御覽の通り上には厚さ八百尺の天井が載せてあるのですもの、此所に急に大きな穴洞を造つては陷落の危險があります。それですから奧の方から石炭を取り出して、段々坑口の方へ退き、採炭を終つた所へは再び人の行く必要のない事として置くのです、此處は其採炭場で、先づ三十尺毎に坑道を切つて石炭を取出してしまい、殘るのは此三十尺四方の柱です、此柱で天井を支えて居るのです、夫から奧の方の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

柱を削つて其石炭を取出します、そして木材を井桁に組んで天井から土石の落ちるのを支えます、夫から段段入口に近い方の柱を削ツて、しまいには出來る丈けの石炭を取り去り、跡へ詰石を致して天井を支えさせます。

▲坑内の作業

仕事して居る所を御覧に入れませう、と云はれて尚も進むと、道には石炭の小山が何個もある、運搬夫がシヨベルで夫を車に入れて居る、一杯になるとレールの上を押して行く、空車が來ると云ふ風で中々忙はしい其先へ行くと坑夫が鶴嘴で、勢よく石炭を切つて居るのが安全燈の薄光に見える、其身裝はと云ふと、半身以上裸體であるもあるし、ヒドイのは、素裸である、空氣の流通の十分でない坑内で勞働するのであるから全く暑いに違いない、炭の粉が四方に飛散するので、顔となく手となく眞黒で、光るものは目許り、亞非利加から今日歸朝と云ふ顔付である。

案内者は口を開いて、石炭を掘り出すのは、徒らに一方から打碎く計りではいけないのです、あの通りに適宜の處に細い溝を切つて、其溝へ楔を打ち込んで石炭を塊にして落しますので、夫は石炭は粉末になると、こ粉炭と云つて直段が易いから掘り出しても引合ひません、夫ですから成丈塊炭で取ります、市場にある石炭は、脆いものですが、坑内にある時には隨分硬いです。

▲瓦斯の破裂

何故火藥を使はないかと、諸君は問かれませう、御覧なさい炭層の新らしく缺かれゝば面を、此通りに水が泡になつて吹き出されて居ませう、之は石炭層の裂け目に沿ふて、火氣と云ふ瓦斯が吹き出して居るのです火氣と云ふのは炭坑での名で、實に沼氣と云つて、沼や溝の樣な泥深い汚物の澤山ある處を、棒で突く泡になつて出てきます、これはあの瓦斯と同一のものです、此瓦斯が始終炭層から吹き出で、坑内の空氣と混して居ますから、若し空氣の流通が惡くなつたり、又不時に瓦斯が多量に湧き出したりして、一定の割合以上に瓦斯が空氣に混じますと、火に觸るゝや否や、恐しい勢で爆發します、夫ですから坑内では裸火は一切禁物で、喫烟すらも許しません、火藥の用ゐられぬのも其爲めです、電氣燈はグローランプならは、空氣と交通を絶つてあるから、よい樣に考へられますが、導

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

線から時々火花の出る事がありますから、やはり、危險で用ゐられません、今降りて來ました立坑の傍では點燈してありましたが、あすこは空氣が十分に流通して居りますから、構はないのであります、實に案內人の說明の通りであるのです、沼氣と云ふものは、水素四分と炭素一分とで出來て居るので、之が空氣と混して居るのに、火か電氣の火花を觸れしめると、水素と酸素とは御提則通りに化合して、其際爆裂して恐ろしい響を出すのである、出來るものは水と遊離炭素である、併し沼氣の分量が少なく空氣の分量が多ければ、危險な事はないのです。



選坑所の勞働婦

安全燈と云ふものは、其名の示めす通りに、火氣の多い所へ持つて行きましても、安全であるものです、夫は丁度カンテラを目の細かな金網で包んだ樣なもので空氣は金網を通してゝなければ、炎に觸れない樣に出來て居ます、此者でありますれば火氣がある所に置いてありましても、火氣は金網の內で燃えても、金網が熱を吸ひ取つて、外部の火氣に熱を傳えませんゆゑに、安心して使えます。

坑內で瓦斯か破裂しますと、どう云ふ結果になります

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かとの問に對して案内者は次の通り答えました。
此瓦斯つまり火氣は、何れも炭山にもあると云ふのではないのです、筑豐の炭山には、火氣が出ますが三池炭山にはありません。それで瓦斯が破裂しますと、幸に其局部のみで損害が止まる事もありますが、若し破裂瓦斯が多量にありますと、瓦斯のある丈けの區域が火になりましてそして其中に居る人は勿論周圍に居る人も、生命を奪はれます、そして瓦斯燃燒の結果として、酸化炭素や、炭酸瓦斯か出來ますが、是が一齊に排氣の立坑の方へ進んで、地表に出樣としますから、其途に居る人は悉く窒息して死んでしまいます、其上に火か石炭に燃え移りますと、炭山の火事となりますから、手の附け樣はなくなります、其時には送風を止めて其局部を煉化石や泥で仕切を作つて、空氣の通はぬ樣に封鎖してしまいます、外から空氣の供給がないから、火は自然に消える筈てすが、夫でも消えない時には、密閉してある所を少しあけて、水を注き込んで一杯になる迄にして、夫でやつと消すのです、夫ですから全く消火する迄は、一月や二月もかゝり、其上に再び仕事を始めるには、注ぎ込んだ水を排出せねばならず、鑛業人に取つては、大なる損害となるのです、

次に天井は落ちませんかとの問に對して。

▲坑内の危險

案内者。夫は度々落ちます、御覽の通りに柱を段々に少なくするのですから、支がたくなるので、上から、土石が落ちて怪我人がありますが、坑夫は見て人に危險を及ぼす樣な所が落ち相になつて居ると、捧で突き落してしまいます。しかし夫よりも素人の方に意外なのは、天井が段々下つて來る事です、夫は一寸人目には入りませんが、一年二年とたつ間に天井が低くなるので、柱を削つて小さくする程早く降つてきます、夫ですから天井の支に太い木を建てゝ置きますと、メリメリと音がして一月二月の後には眞中から折れてしまいます、其筈です上には何百尺と云ふ地盤が載つて居て其の重量といふものは何億萬貫目か知れませんのでせう。木や何かで支えられぬのは當然の事です。

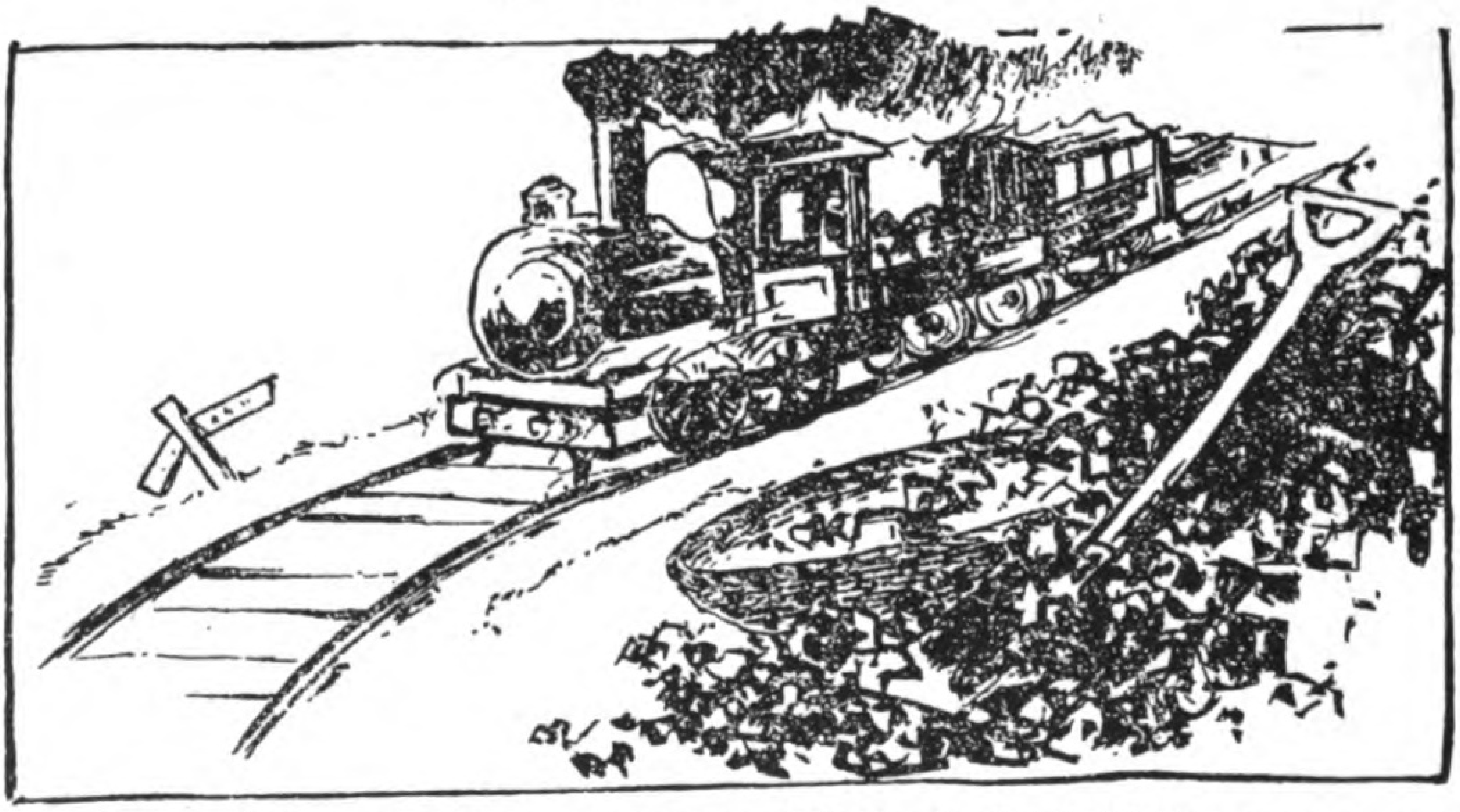
つまりはドーなりませう。

夫は石炭の掘跡へは石をつめて置きますが、すつかり炭を掘り出して仕まうと、モー入坑の必要はないのですから、構はないのですが、つまりは天井か下に落付く迄、沈降して止まないのです。それでは地表は落込

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

みませうネ。夫は落込みます、地面に裂目が出來たり、井戸の水や池の水が涸れたりします。そうすると炭層の上に住つて居る人は、迷惑なものですネ。案内人は苦笑して居る。採炭せられた石炭は、櫛歯形の鍬でかいて、粉炭と塊炭とを別けて、細末の粉末は坑内に殘して、塊炭丈けを車に積み、立坑の口迄運んで其所から地表へ卷き揚げられるのである。吾々は又歩いて、今度は(ロ)と書てある立坑の所に來た、坑内の温度は是迄と反對で冷やかである、そして風通りが非常によい、是は(ロ)の立坑の頭に送風機と云つて、風を坑内に吸ひ込む風車の様なものがある、此器械を間断なく回はして、新鮮な空氣を

石炭の運搬



坑内に供給するのです。

こゝで吾々は再び前と同じ手續で框に載せられて無事に地表へ引き上げられました。

僅々一時間か二時間坑内に、而も見物にはいつた者でさへ、坑外に出ると蘇生した様な氣がするのですもの毎日午前六時と午後六時の交代で、日となく夜となく坑内に勞働して居る者は、如何に難儀でせう、日の短かい冬中は、晝業の人も日の光を拜まぬ位です。

何男の仕事だものと、云はれる人もありませうが、坑内の仕事は男許りではないです、筑豐地方の炭山では夫婦で炭坑に出稼ぎして居るものが多い、夫は坑夫で石炭を掘つて居る、家内は炭を撰り分けたり、又車に積み入れたり、運搬夫の手傳位をする、其回りに小供が遊んで居ると云ふ風で、夫の事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を先山と云ひ、家内の事を後山と方言で呼んで居ます此通り同じ手足の揃つた人間であり乍ら、毎日〳〵暗い所で働いて僅かな賃錢を貰つて、其日を送つて居る人もあるのに、一日家の留守番をして居ながら、仕事は裁縫かおサンへの小言か或は臺所の働き位、夫で花見に行けないとか、流行の衣服が出來ないとか、ソンナ不平を云つて居る人は何と爾當ではありませんか。憎まれ口はよしにしまして、立坑の口に卷き揚げられました、石炭は、撰炭所に送られまして、そこで是を廣い机の上にあげて、其中から泥ざり物石や土を取り除けて、撰りましたのを市場に送ります、撰炭をせずに市場に出される事もありますが、之は切込炭と云つて下等になつて居ます。

石炭は其多寡を重さで云ふ事になつて居ます、通例一萬斤か一噸が單位で、一噸と云いますと二百七十貫に當ります、其價格は品の良非と時によつて變化しますが、大見當は一萬斤三十圓内外であります。

因にいふ日本に於ける石炭の產地は重に九州で、筑前、豐前、肥前唐津、天草、中國では長州、東北では岩城、北海道空地等であります。而して日本全國の產額は一ケ年九百萬噸此の價格三千萬圓なりと。

●陣中生活

○陸軍では海軍の様に一戦毎に引揚げて、身體を休養し材料を補給することが出來ぬ從て中秋の飯一服の煙草にも楽を盡らすと云ふ境遇にも我慢せねば成らぬ相です

○酒は陣中第一の品物だがソンナ贅澤を望むことは出來ぬから我慢もするが煙草と來ては傍らで吹かされてはたまつたものでない甚しきは敵が打出す鐵砲の煙を見ても咽喉のなる事がある、從て本國では紙屑拾ひも拾はぬ位の吹殻迄を拾つて吸ふこともある相です

○夫れから清潔好きの日本人が戦地では入浴は勿論、着物洗濯は出來ず雨露は防げず、着のみ着のまゝ露營の夢を結ぶのだから汗と垢の調合で虱がわく、サア其の痒さと來たらタマツタものでナイ殊に詰襟の軍服にサーベルを帶び脚絆を穿ち背嚢を負ひながら内から攻めらるゝときなどはサスガの日本軍人殆んど閉口の體であるコンナ時には孫の手などが頻る重寳がられて居る相です

○陣中の樂は本國の通信を得るのが一番愉快だ手紙や新聞を見るの樂あれば之に優るものはない、併し軍事郵便等の制限があるから親族朋友などは端紙細字にてやるが一番よい相です

○菓子などを篤志の人より贈らるゝは何分一時の樂で煙草等の如く長く樂むことが出來ぬから折角の厚意は早くも消え失せるの憾がある相です

○時計や眼鏡は豫備を持つて居らぬ者はソレが破損すると一方ならぬ困難を感じるから將校の家族杯は其發行の際に輸送して置くが良い相です

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

聯隊長の死と御紋章

遼陽大戦の時中央軍左翼部隊の岡谷聯隊は、三十一日午前四時半首山堡の敵塁を占領せんと前後の泥澤を冒して、高粱畑を進行したるに行進頗る困難を極め、且敵の知る處となり非常に射撃を受けたるも屈せず、遼陽街道上に出でたるが、縦隊行進のことゝて敵丸に負傷するもの續々出で、此行進途中に於て多少の損害を蒙るに至りたり、斯くて全兵突撃の姿勢に轉じ、吶喊又た吶喊、傾斜急なる山脚を馳せ登る、中腹に達する頃は、敵丸急霰の如く、面を向くべくもあらず、聯隊長は刀を振ひ叱咤部下を指揮し居たるに命なる哉一丸飛來りて其右足を貫通す、こゝに於て聯隊長死を決し。墓地に身を隱蔽し軍旗を守護して安全の地位に導くべきことを命せり、敵は我が軍旗の御紋章の光燦然たるを以て之を目標とし猛烈なる銃火を加へしかば聯隊旗手中山少尉三丸を受けて仆れ和田少尉代りて又負傷すこゝに於て下士四名來りて和田少尉を負ひ退却中今江中尉來り和田少尉に代りて聯隊旗手となり、御紋章は下士に旗は自身の腹部に巻き、高粱中を潜行退却せり、此時に至り軍旗衛兵三名聯隊副官の從卒二名來り加はり、軍旗を奉護して退却せり聯隊長は副官と從卒とに擁護せられ三十米突餘退却せしに從卒先づ敵弾に仆れ、次で聯隊長も胸部に一弾を受けて即死せり、斯の如き猛烈なる銃火を受けつゝも第一大隊は遂に敵の第一塁に肉薄し銃劍突撃をなし、堅壕中の敵を撃退したるに、敵は左右両側より逆襲し來り、石を投じ爆裂弾を投付けこゝに大活劇は演せられぬ、橘少佐は敵塁に迫り軍刀を揮ふて突撃し來たる敵を斬ること三人銃丸飛來りて右腕を貫通す、こゝに於て軍刀を左手に取直し再び敵を斬ること二人銃丸又腹を貫通す、豪膽無比の少佐も腹部貫通銃傷のために遂に立つ能はず大隊書記軍曹内田清一氏少佐を負ひ後方に退却し墓地の間に於て繃帶を施し已が體温を以て少佐を暖む、少佐咯血し軍曹に示して曰く「余既に咯血す死期迫る」と内田軍曹少佐を慰めんとして百方力を盡し、己が痰を少佐に示して「少佐の咯痰斯の如く咯血にあらず」と少佐又便通を催し大便血液を混じたることを軍曹に告ぐるや、軍曹再び血液を混せざる大便を掌に上せ「少しも血液を混ぜず、少佐殿大に御安心あれ」と、百方慰藉しつゝある間に敵弾一發軍曹の腹部より少佐の腹部をも併せて貫通す少佐終に最後の一弾のために絶命せり、少佐は死　皇太子殿下の侍從武官たりしことあり、死に至るまで殿下の御誕生日に、斯く多數の兵をして死傷せしめたるは實に恐れ多しと口にし居れりと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時局雜俎

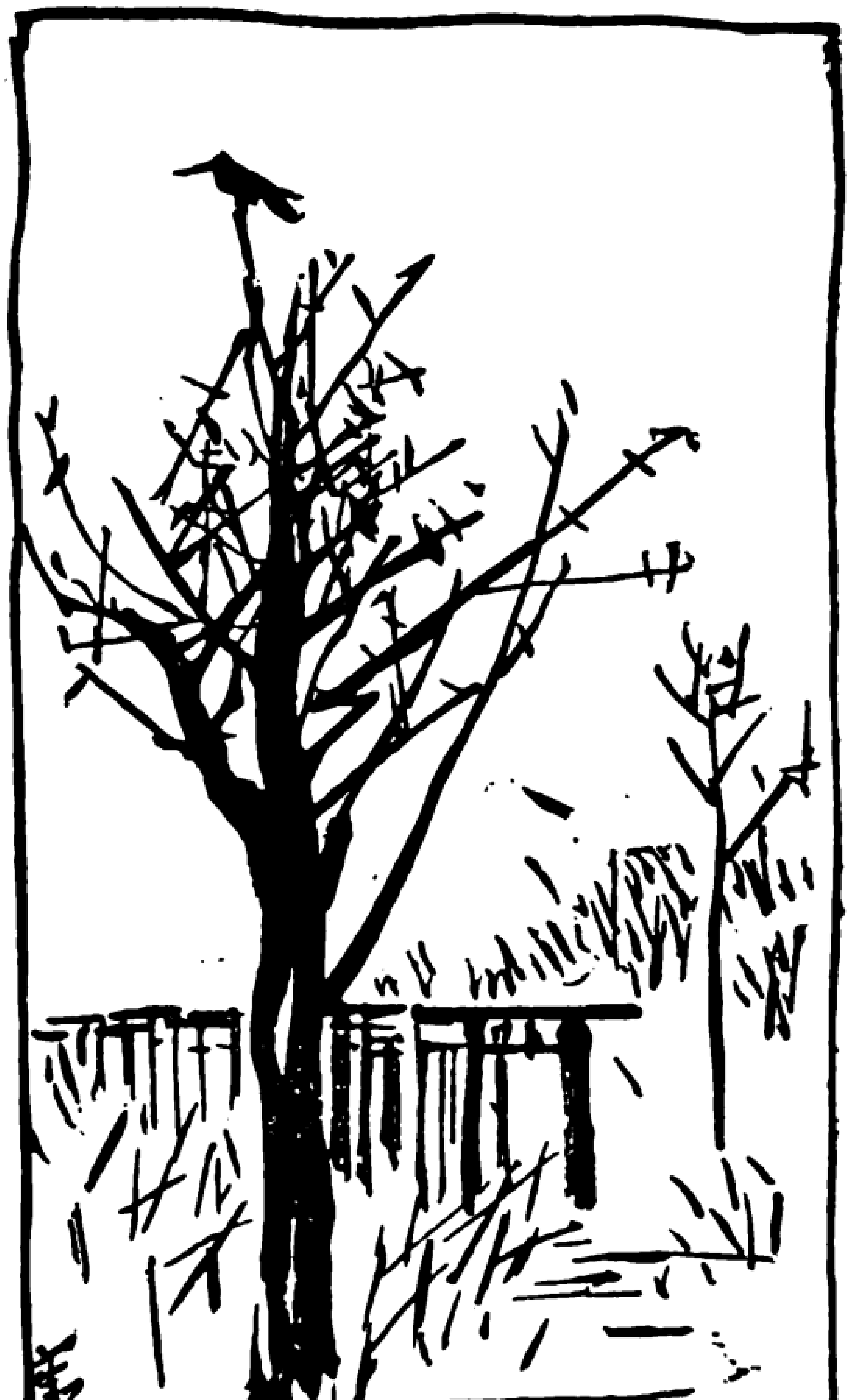
日本水兵の母マクレーン孃の事

「日本水兵の母」と慕はれ「日本海軍の知己」と呼ばれて無上の敬愛を我が軍人社會より受け居たる英國の奇媼マクレーン孃は今夏重き病に陷り、ポーツマウスの居邸に靜養中なりしも、藥石看護の効なくして、遂に去九月十三日白玉樓中の人となり玉ひければ、英國民といはず日本人といはず、知る知らぬ等しく感動なる吊意を表して、其の月の十八日といふにいと叮重なる葬儀を營みたる由、孃や博愛の化身ともいふべく、殊に我が水兵に對して與へたる慈愛的感化は、實に我が國民の感謝する所今我國の露と戰ひて、猛烈勇敢、陸に勝ち海に勝つ所以のもの、この奇特なる慈母の德化に負ふ所少からざるを思ふ此時忽ちにして此の訃を聞く、吁哀しい哉。

孃は高齡七十二才、父は牧師の聖職にありたる人なるを以て、孃も長じて宣教師となり、今を去んぬる四十年前英國傳道會社より派遣せられて淸國に赴き、布敎に從事し居る內、或夏日本に來遊して風光の明媚愛すべきを見てより「東洋の樂土」と叫びて、急に日本好となり、「斯の如き樂土に留つて神の道を傳へ得るは誠なるべし」と言ひて、日本に派遣されんことを本國の會社に乞ひしかど、都合あつて許されず、再び淸國に渡つて傳道に從事することゝはなりたり、然れども孃の日本を愛する心は漸く熱し來りて、いかで東洋の樂園に赴きて、思ふまゝなる快き生活をなさばやと決心し、遂に傳道會社を辭職して自由の身となり九年の久しき間住み馴れし淸國を去つて日本に渡來せられたるが、此の時は實に明治五年十一月なりき、かくて橫濱に着きたる時には懷中餘す所僅か四五圓程にて、如何とも爲難きに、或宣敎師の紹介に依つて、英語の敎授をなし、其の報酬に因つて生活する事とはなりぬ、是れ實に孃の我國を知る初めにして、爾來孃は我國民の氣質に感じ、我國を第二の故鄕とまでに思ひ込むに至

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れり嬢は其の后故國に歸りてからも日夕同情を我國に寄せて曾に我が海軍々人のみならず、渡英せる郵船會社の船員其他本邦人の幾多の便宜を與へたりき嬢は英人中に於ても評判の信仰家、慈善家にしてたとへば其婦人社會にて一の慈善事業を起さんとするものあれば、嬢の力を假るもの中々多く、嬢も亦一度かゝる善事を依頼さるゝや、喜んで之を快諾し自ら寄進帳を造りて公園乃至停車場など多衆の集まる場所に赴き、其の知ると知らざるとを問はず、苟くも紳士と見受けたる上は容赦なく進み出で、諄々之れを說き多少とも寄附を請ひて其の同志を助くるを無上の樂みとせりとかや、此の一事、嬢が慈善事業に對する熱誠を知るに足らん。



別けても我が海軍々人が英國に新造軍艦を受取の爲め差遣せられたる時の如き、必ず嬢は奔せ來りて、自ら倫敦の見物さては土產物の周旋など何呉れ尠からぬ便宜を圖るを常とせり、曾てヴヰクトリヤ女皇陛下御在世の砌、某新造軍艦回航の爲め、多くの我が海軍々人が彼の地に渡航したる時の如き、恰も倫敦に名高き某博物館の開館式に當りければ我兵員は此の盛況を見物せんものと嬢に伴はれ其場に赴きたるに、折よく其の日は女皇陛下の臨幸あらせらるゝ事とて、同館附近の雑沓は一方ならず、已に儀仗兵まで列を正しく並び居たるに嬢は之にも頓着なく、群集を押分けて我が兵員を凡べ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て厳めしき儀仗兵の前面に連れ出し、其場に並列せしめぬ、日頃孃の人となりを知れるものから、流石の儀仗兵士官も強ゐては之れを咎めざりしが、軈てGod save the Queenの國歌徐ろに鳴り響きて鳳輦此處に近づけるとき、孃は遽かにツカ〳〵と間近く進み、侍從に向ひて我が兵員を指しながら、彼處に控え居れるは我が大英國とは最も親密なる日本の兵員なりと奏上しければ、女皇陛下も御笑みを湛へさせられ、我が兵員に對して畏れ多くも御會釋を賜ひたりとぞ、當時彼國の新聞紙が日本水兵の名譽と題して此の顛末を書き記したるも偏に孃が盡力によれりといふべし。

又一昨年我が淺間、高砂の二艦が英皇戴冠式に參列の爲め、プリマウスに到るや、孃は二百哩の長途を物ともせず、即時倫敦より馳せ來り、而かも殆んど千個に餘れるいと麗はしき提げ鞄を携へ、我艦長を訪れて是は妾よりの土產にあらず、英國上流社會の貴婦人令孃が進る〳〵我國に來られし同盟國軍人に差上げたしとて背手づから遣られし紀念の鞄なり、妾は只た之を取次ぎ參らするものゝみ願くば貴艦の兵員に一々頒たれよと云ひ扨て又一同に向ひ覺束なき日本語もて「神樣と云ふものは凡べての人類をお愛しになります妾の國の者だから、又他國の者だからとて愛に差別を付けないのが神樣のお心だろうと思ひます、貴君方は大層遠ひ國からコチラへ御出になつたのだから、凡べての事が御不自由だらうと思ふ、妾は少しでも貴君方に不自由を掛けず、樂しく英國にお出のある事を望みますから何んでも遠慮なく言つて頂けば夫れ丈けの事は出來る限り致します、是れが神樣の御心なのです」云々と語られしとか、之れ實に孃の親切なる心の花の匂ひ出でしなりけり。

斯くて又我淺間、高砂の二艦は程經てポウツマウスよりシアチスの軍港に回航したるにマクレーン孃は更に同處に赴き扨て是よりは乘組の兵員等に倫敦市中の見物を爲さしむべしとて、夫れも日頃の親切より自ら鐵道局にも申入れて、シアチスより倫敦まで往復の汽車賃をば凡べて半額となさしめ、尙ほも晝の食事は何處

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

土產物は何處と豫め取極め、一々自ら其の店主に語りて、尠からざる割引を爲さしむるなど、恰かも痒き處に手の屆きたらん如く、殘りなく準備を濟ませて夫より我二艦の兵員千餘名をば五組に分ち、毎日二百名許づゝを伴ひていよ／＼見物を爲す事となりぬ、されど賑やかなる倫敦の市中を、僅か一日の中に見物せん事とて、一同の忙しさ一方ならず、さるを孃は年頃の老体にもめげず、未明より起きて早くもシアチスの停車場に來り、我兵員を待合せて倫敦に連れ行き、名だゝる場所は殆んど殘す隅なく見物せしむること、前後五日に亘りたる由。



何樣廣き市中の事とて迚ても短き一日に廻り切るべくもあらざるより、孃は自ら一統の眞先に立ち、掛け聲も勇ましく逸足出して驅け廻る樣の中々、壯者を凌ぐ程なり扨其の大通りの辻々は流石に馬車の來往夥しく、一一立留まりて之を待たんには、多くの時間を費すべきに付き、孃は其の四ッ角の只眞中に立ち跨がり、手を擴げて馬車を止め斯くしては我兵員を急ぎ驅拔けしむるなど、一風變りし案内の仕方に、毎時も雪の中にはシアチスまで送らるゝを常とせし程なりしが、或日の事奇らしき驅足の市中見物も意外に捗り、まだ日の脚も高く、折柄金曜日の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事とて名にし負ふ彼のクリスターパレス（水晶宮の事にて例へば是處は我が東京の淺草の如く而かも一体に硝子に蔽はれて幾多の賣店幾多の觀物此の中にあり壯美を極む）には、毎週の例により煙火の揚げられて、殊更に賑へる夜なりしかば、孃は疲れたる身を忘れて二百餘名の兵員を更に同處に伴ひて、一同を喜ばしめぬ倫敦よりは途も近けれど、輿に乘して夜も漸く更闌け遂には歸へる事叶はずなりたれば、流石の孃も、やゝ打困じたる色ありしが、忽ち何事か心に浮びしもの、如く、直ちに何處よりか多くの毛布をば搬ばせ來り、此の水晶宮中の中に一同を心安く寢らしめたりとぞ。かくする中にボーアの戰ひ終り、名譽あるキチナー將軍の凱旋式は行はれたり、此の將軍の爲めに、さしも頑强なりしボーアをも美事征服したる事とて、其の凱旋式の盛なること皇太子殿下の親しく馬車を驅らせられ停車場に出迎はれたるにても知らるゝ程なりしが孃は恰かも其日引連れたる兵員の一隊をば例の如く臆面もなく、バッキンハム宮殿に近き最好の場所を選み儀仗兵の側面に並ばしめて之を見物せしめたるが、孃は尙ほ是のみにては滿足を與へたりと思はざりけん、夫より孃自らチヤムバレーン卿の許に赴き同卿を說きて、我兵員の爲めに特にウヰンザー　カッスル離宮（テームス河畔にありて英國皇室の寶物を藏めたる處）の拜觀を許されんことを奏聞せしめたれば、皇帝陛下も之を嘉納し、直接に許可の恩命を下し給ひければ、孃は此上なく喜びて、又もや日每々々に一同を連れ行きたり、是等の行ひを見ても如何に孃の我が兵員に對して懇ろなりしかを知るに足るべし、其の初め淺間、高砂の渡英せんとするや、我が士卒中にも豫て此の孃を知るもの尠からず、且つは又必ず孃の親切に浴すべしと想ひて、兎も角も土產にとて態々京都の川島にて花模樣の美しき卓子掛を織らしめ、白縮緬と共に携へ行きて贈りたるに、孃は早速其の縮緬をば眞黑に染めさせ、夫れを着て常に我が艦に來り居たれば、我が兵員一同も深く孃の意氣に感じ居たりとなん。

去る五月三日我が征露の艦隊が第三四の旅順口閉塞の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

壯擧ありし時なりき、軍艦千代田より選拔されし兵員は殊功を奏して遂に一人も歸還するものなかりしが、程經て其一水兵の死體漂ひて某艦に引上げられしに、奇らしくも其の濡れたるポケットの中に、曾てマクレーン孃より贈られし花形の中に訓誡の文句記したる飾り物をば携へ居たるを發見せしかば、其の孃に對する至情、譽れある最後まで其の紀念を離さゞりしより、孃の聞かば嘸や喜悅に餘まるべしとて、千代田艦長は遙かに其壯烈の物語を記して、孃の許に送りたるに、其の未だ到着せざる中に痛はしや訃を聞くに至りぬ、殘り惜しき限りにこそ。

あゝ、孃の住處ポーツマウスの田園を洗ふ所のテームス河はとこしへに流るゝといへど、其處に住まはれし孃は今やなき數に入り玉ひぬ、されど、されど、我等に與へし大なる德化は永く永く盡きる時なかるべし、幸に冥せられよ。

出征軍人 幼兒保育所を觀る

記者は新橋停車場に某師團補充部隊の出征を見送りました其の足で、築地本願寺境內なる出征軍人幼兒保育所を見に參りました、同所は開戰匆々、京橋區長長谷川壽太郎及同區鳥海小學校長笹野豐美二氏に依つて企畫せられた救護事業で御在まして、創立以來着々進步し來り、昨今は幼兒の數も多くなる、保育の成績も大層御宜しいといふ事を聞いて居りましたので、其に歐米には旣に有之と聞く許で我國には未だ無かつた此の幼兒保育所なるものが、今此の戰爭といふ非常の時勢に促されて、其の萠芽を見るに至つたのは、實に喜ばしき現象であると思ふものから、いかで其の實況を視察致したいと思ふ心を禁じ得ませんかつた。

行いて本願寺境內に這入りますと、目指す出征軍人幼兒保育所の標札は本堂に向つて左側の長屋の表に揭けられて御在ます、而して其の前面の廣場には、天幕が張つて在りましたが、時恰も遊戯時間と見え、年の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

頃三十二三の婦人の保姆が、看護服みた樣な黑色の着衣に、同じ色の袴を穿ち、懐には今年生れた許と思はる小さな乳呑兒を抱いて、其の周圍に三四歳より五六歳までの年長の幼兒十二三人を集めて、蓮華の唱歌を敎へつゝ、面白さうに遊ばせて居りました、保姆の聲に連れて彼等の歌ふを聞けば

「開いた開いた、蓮華の花が開いた、……蓮華の花は萎む時もあろが、心の花は八千年の後までも萎む時あらじ」

言ふので御在ました、而して彼等は記者の入り來るを見るや、直ちに唱歌を止め、記者の前に來て揃つてお辭儀する其の有樣が何とも言へず可愛らしいので御在ます、あゝ、可憐なる平和の子よ、爾の父は今いづこ！先程新橋にていかめしく武裝せる丈夫の出陣を見た記者は今茲に此の愛らしい幼兒を見て、一層感懐を深からしめたので御在ます。

斯くて記者は刺を通じて事務員に御面會を乞ひ、現今の情况に就て種々御話を伺ふと、同所にて目下兒童の保育所に充てたる室は、八疊、三疊、二疊二間の四間で、茲に收容せられた幼兒の數は總計二十三人だ相で、内に男兒が十四人、女兒か八人あり、年齡は六才を頭と致して本年四月生の嬰兒までをも含んで居ります、而して是等の幼兒は毎朝六時までに父兄が連來つて預け置き、午后六時になれば亦た來りて伴ひ歸る規定でありますが、最初の中は父兄も危みて手離すを好まず、幼兒も亦た父兄の側を戀ひ慕つて泣き出す有樣でしたが、日を經るに從ひ親達にも漸く本所の性質が分るやうになり、兒童も次第に馴付いて來て、殊に保姆が獻身的に身を忘れての手厚い世話に感じては流石の幼兒も親の如く親しみて、今は自宅よりも却て此所に居たがるやうになり、父兄よりも寧ろ保姆の側を離るゝを嫌ふやうな有樣ださうです。

食事は毎日午餐一回丈を給する規定ださうですが、其の食事の際は八疊の部屋に三脚の食卓を並べ、是に二十二人の幼兒の食べる茶碗、箸が置かれるといふ事です、而して食料には嚴重なる注意を加へ、大概隔日

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に牛肉といふものか馬肉といふものが魚肉といふものか、何か肉類を與へ、其他は野菜豆腐等を給する由ですが、幼兒の中には自宅に於けるよりも却つて美味だと言つて舌皷を打つ可憐のもある相です、尙ほ此の食卓に連り得ざる本年四月生れの嬰兒丈は保姆が時を見計らつて乳を哺ませて遣る相です。其柄食事の外毎日午后二時と三時の二回を期して幼兒を集め菓子を、與ふる規定ですから幼兒は此の時刻を非常に樂しみに爲て居ると云ふ事です、菓子は悉く特志家の寄附に待つのでありますから、其の種類は固より色々で一定しては居りませんが、其を同所にては巧みに選り分け、毎日違つたものを與るやうにし、幼兒の食味の單調に流れざらんやうに注意し居るといふことです、幼兒には總て餡氣は不良



ない相で、可成ビスケットや軍用パンを與る様にして居る相ですが、是等は最も衛生上に宜しいと云ふ事です。

衣服も亦た同所にある間は同所より仕給する規定で毎朝幼兒が親に連れられて來まする と、直ぐに自宅より着て來たのを脫がして、同所に備へあるものと着替えさせ、之を三日目毎に取易ゆる事にしてありますが是等の衣服も矢張一般特志家の寄附であつて、思もひ〳〵の心持より製したる事とていろんな種類の物があります。故に赤いのや、靑いのや、紫のや、色さま〴〵の衣裳の美しさに、兒童の眼を喜ばして殊に女の子なぞは袖打ち返し眺めつゝ、嬉し相に打笑むさまは仲々に無邪氣であります尙ほ是等の衣服には寄附者の厚意を無にせぬ爲に、袖裏に其の人名を記してあります、ソレデ一ッ着物を永

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く着せて徧かす三日目毎に脱ぎ易へさして、其の脱ぎ棄てたのを洗濯する事にして居るさうですが、今日までの所にて衣服の數は東京横濱兩市に於ける特志家より寄附されたもの既に二百餘點に達し、多くは中古にて十歳位より一歳までの分悉く揃つて居るといふ事です。

記者が是等の御話を伺つて、そこを辭し室外に出た時、赫々たる驕陽の光を浴びた天幕の下に、保姆は幼兒を整列させて、訓話をなし

「皆さんも今に強く成るのですよ」と言聞かすと、幼兒は之に對して唯々として首肯いて居るので御在ました。（舟人記す）

露西亞の母心

旅順要塞の籠城は軍事上の分別なき露國人民をして堪へざるの思あらしむるものと見へ此程露國の半官報ともいふべきノウオ、ウレミヤ新聞に一人の母親と名乘りて露國政府に宛て下の如き投書を爲せる者ありといふ

妾は露國のすべての妻母に代りて足下に求む有体に申せば妾等はわが子等が打たれ我等の愛する者が殺されつゝある事實を見て平氣にて居る能はず故に彼等を救ふ爲めにあらゆる方法を講せられんことを求む。

足下にして若し妾等がわが子を生み之を育つるに幾何の苦勞を重ね犧牲を爲したるかを知らば妾等が斯く求むるの決して不當ならざるを認めらるべく妾等はわが子の生命の今日の如く賣安せられずして貴重に取扱るべきを要求するの權利あり世の人々は妾等の子等の勇敢なるを賞賛すれども妾等は斯の如き賞賛を喜ぶ者にあらず目下旅順に在りて包圍せられ居る兵士の母たり妻たる妾等は彼等の救はれんことを要求するの權利あり足下等は多數の人が其兄弟と死別するを見て心臓の鼓動を感せざるか國家とは人間の集りたるものに非ざるか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

是故に妾等は我が子の救はれんことを求むるの權利を得ん爲めに足下の助けを求む彼等が旅順に於てまさに死しつゝあるは足下の知る所の如し然かも妾等は猶嘿せざるべからざるか否な妾等は何時迄も緘嘿する能はざる也妾はこの四十日間妾等の子たり夫たる者が如何に不幸を嘗めつゝあるかを知りて氣を落さんとしつゝあり彼等を救ふは今日を措て他に求むべからず足下等記せよ足下等に人民を與へ彼等の精神を啓育したる妾等はこれを足下等に要求するの權利あり國家は須らく妾等の要求を聞かざるべからず妾等跪ついて懇願す。

而してノウオ、ウレミヤの記者はこの手紙には筆者が墜したる涙痕の斑々たるものありと附記したり。



軍隊の糧食

軍隊に糧食の給養を十分にするは最も重大なる任務にして、今假りに五十萬の兵士が駐屯しをるとせば米ばかりにても一日に平均三千石、牛肉を一度食はうとすれば五百頭だけ屠殺せざるべからず、而して此糧食の運搬は中々費用を要することにて日清戰役の當時元山より平壤迄米を送りしに向ふへ着きし時は一石の實價が八百圓に當りしといふ、幸ひ今回の戰役に於ては總ての機關整頓し殊に我第三軍の方面は青泥窪迄汽船の便あり夫より駐軍地迄は汽車の便あるを以て比較的費用もかゝらず時間も早く到着するなり、扨て其糧食品として目下内地より如何なる物品を輸送しをるかといふに、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

精米、挽割麥、糒、重燒麵麭
鑵詰類（牛肉、鮭、鰯、松魚、牛肉野菜混煮、味付鯖）
生牛　鹽魚　干魚　鯣　鰹節
割菜、干瓢、切昆布、干蓮根、干薩摩芋、甘藷、紫蕨、切干大根、若布、高野麩、漬物類（福神漬、梅干、ラツキヤウ漬、味噌漬）
砂糖、茶、粉味噌、醬油エキス、食鹽、清酒、煙草
薪、木炭
（外に馬糧として大麥、燕麥、麩、干草、藁、葛葉、豆粕、玉蜀黍、黍等）あり

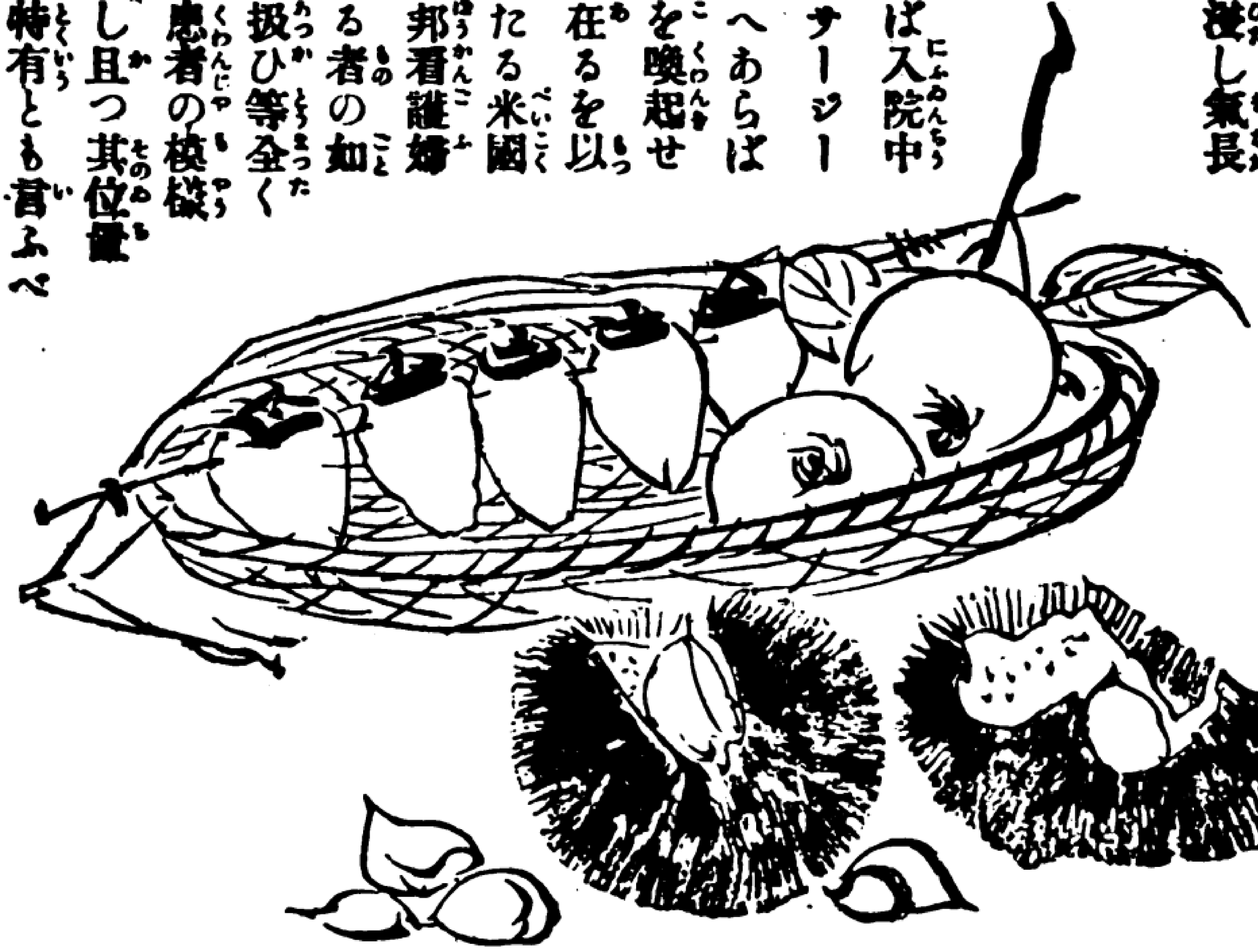
此外に戰地にて徵發し得るものは
生牛、豚、生魚（重に鯛、さはらの如きもの）鷄、鷄卵、乾魚、野菜、麵麭、食鹽、麥粉、食パン、薪、木炭、砂糖、味噌、豆腐、醬油、豆類、玉蜀黍、黍等にて是等が即ち兵士の口に入る御馳走なり、内地より來るものは重に商人より買上げるもの故此前の戰爭では隨分ひどい鑵詰抔もありしが今度は其筋の注意行屆きて斯る事なけれど途中拔取るものありて品物の數量の減ずるには閉口なりと。

マッギー婦人看護の狀況

此程親しくマッギー夫人の動作を視て歸來したる長崎調度局長の談に余は御用を以て兵庫廣島に出張し既に其御用を濟したる頃目下廣島に滯在して晝夜看護に從事しつゝある米國篤志看護婦人ドクリルマッギー夫人は余に病院内の實況及び看護の模樣並に夫人一行生活の有樣等の一覽を求めたるに付余は一日病院に赴きたり夫人一行は非常の熱心を以て余を歡迎し且つ院長の許可を得て余を各病室に導けり一行は我が看護婦と共に晝夜多數の傷病兵を看護し寸毫も疲勞の態無し特に熱心忠實に立働ける樣一見人をして感動せしめたり一行中のコックス孃は恰も某傷兵の到着したるに際し服裝を解き親しく足部の洗滌に從事しつゝありしが其有樣を見るに數日間戰地に在りて入浴の便も無かりし者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と見へ脛部全く垢塵を以て上皮を作りたる如く刷毛を以て微温湯に浸し氣長く徐々として一皮宛を剝ぎて遂に白き皮膚を出したるの手際は余をして一層感動せしめたり夫人の言に依れば入院中の各傷病兵は何れもマッサージーを喜び一行晝夜と無く暇さへあらば按摩を行ひて入院患者の歡を喚起せると又患者は何れも寢臺に在るを以て比較的性來寢臺に起臥したる米國人のマッギー夫人一行は本邦看護婦よりは其呼吸を飲み込み居る者の如く寢臺、寢具、其起居の取扱ひ等全く痒き所に手の屆く有樣なり患者の模樣嗜好に依り寢臺寢具を上下し且つ其位置高下等を變更する等殆んど特有とも言ふべき取扱振りあり夫人一行が如何に患者を慰安しつゝあ



るかを知るに足るべし其他食餌藥料氷嚢等の處辨悉く秩序整然一點の間然する所あるを見ず云々と吾人は是等外人の手に依りて其病傷の苦を慰せらるゝの我將士の幸福多きを思ひ女子一行の徳に感せざるを得ざるなり。

感すべき特志夫人

日露戰爭開始以來神戸驛を通過するものは四十格好の肥太れる洋裝の日本婦人が十歳ばかりなる可憐の女兒と十五六の凜凜しき男兒をも伴ふてプラットホームを左右し居るを瞥見せるならんこの婦人こそ神戸の裁縫商にて愛國婦人會員澤野いと子が出征軍人を歡迎し彼等の世話をなすべ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く二人の實子を引連れ日々停車場を見舞へるものならんとは糸子が通過の軍隊に與へし自製の金巾小旗のみにても既に一萬本に上りし由なるがなほ糸子が軍資金獻納に或は陸海軍恤兵部に義捐せる外絹張團扇、扇子眞綿、草鞋、靴足袋、皮足袋、タオル、卷煙草、手拭、半紙、塵紙、歯磨、楊枝、狀袋、葉書、郵便切手等を獻納せし員數實に夥しくこれ等を金錢に換ふれば尠なくも二千圓を下らざるべしとなりされば糸子の親切を身にしめて戰地に着せる軍人より感謝狀を送り來るもの引も切らず就中東鄕司令長官より懇篤なる感謝狀を送られし程にて其他海陸將校の挨拶狀頗る多く某方面出征渡邊少尉が糸子の令嬢民子に宛たるものに

千萬人の輕薄なる紳士の萬歳はさのみ嬉しくも思ひませんが溢るゝ許りの同情と熱誠とをもて花の如き頰より賜はりたる優しき言葉は死すとも忘るゝ事能はずあの時の事を思ひ出しますと胸が一杯になりまして何も書けません

とあり以て糸子母子が心盡しの一端を窺ふに足らん殊に感ずべきは糸子が出征軍人の家族に對して熱誠なる同情を寄せ居る事にて金錢上の救助は夫々團体にて途は立ち居るも苟くも軍人の家族にして金錢上の救助を受るは心苦しかるべくまた金錢にての救助は生產上風はしき事にもあらざるべしとて自家の裁縫店なるを幸ひ出征軍人の家族には無料にてミシンの教授をなしその上にて仕事を與へ自活の方法を授くる等義俠の心がけ如何にも感ずべき節あるより、服部知事も頗る感嘆し今回蒲團三千枚の調達を糸子に命せしかば糸子は大いに喜び神戸における窮困の軍人家族七十名を使用し自家の手數利益等は悉く奉公の爲とて被傭者に與へすべて賃錢として算入するにぞ彼等の中には涙を溢して感謝するものもありと。

冬營軍人へ毛布の寄贈

開戰以來我遠征軍に對し深厚の同情を表して種々の計畫をなしつゝありし彼の國民後援會の人々は今や時嚴寒に向ひ冬營の艱苦一層大なるものあるを思ひ今回廣く世の篤志者に訴へ各自所有の毛布を出し、之を戰地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に送り聊か慰藉の一端に供せんとて此程左の趣旨書を公けにせり右は季節も切迫の折柄最も急速の運びを要するを以て東京市内には本月十日を締切となす筈にて各區長も深く此擧を贊し現品受附の手續等は各區役所に於て行ふよしなるが尙ほ千家東京府知事も發企者の一人として近日各郡長等へも夫れ〴〵協議に及ぶよし又後援會に於ては全國各地方に於ても同時に同樣の企てあらん事を希望し既に夫れ〴〵各地方有力者に移牒し府下聯合新聞記者後援會よりは各地方新聞にも協議に及びたり。

趣意書

我忠勇の軍人が滿洲の野に健鬪して連りに露軍を破るは國民の感謝して措かざる所其勁敵と戰ひ又苦熱と鬪ふの艱難辛苦は吾等國民の同情に堪へざる所なり今や既に冷秋の候に入れり滿洲の地は忽に冬季に移るべし前途遼遠なり久しく炎熱に戰へる軍人は更に氷雪の裏に苦寒と鬪はざるべからず其困難蓋し炎天熱地に間に立つに超えんクリミヤの役英佛の軍冬營の準備不充分なりしが爲め寒威に斃れたる者敵の劍火に死せる者より多く其慘毒今に至るまで人を震慄せしむ我當局の冬營に對する必ず充分なるべきは吾等の信ずる所なり然れども國民は之を以て自ら足れりとすると能はず且つ遠征の勞に服する軍人に對し吾等國民當局の爲す所を助け以て其及ばざる所を補はゞ同胞の軍人に對し誠精を表すべく又以て有益の功果を收めん蓋し冬季の準備は多々益々可なるべきが故なり其方案種々あるべしと雖も差向き我等の急要を感ずるは毛布の供給なり國民各自所有の毛布を出し之を陣營に寄贈せば慰藉實用兩ながら目的を達すべし五枚を所持するもの二三枚を出し二枚を所有するもの一枚を出し全國通じて之を行はゞ一擧して數百萬を得んこと敢て難きにあらず母其子の出征に際し手づから縫うて贈る所の襯衣は拙なりと雖も縫工が巧みに製する美麗の衣服に優るべし吾等同胞の心を籠めて集めたる家々の毛布は軍人を慰藉する點に於て固より新舊の別あることとなし吾等前記の趣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

意に因り廣く全國の同胞に告げ其所有の毛布を集め當局に依賴して之を陣營に寄贈せんとす全國の有志此意を諒とし吾等の運動を助け以て此目的を達せしめんことを切望に堪へず謹で全國忠愛の諸君に告ぐ

實行手續

一東京市に於ては實行の手續を擧げて各區役所に依賴し其快諾を得たり毛布を寄贈せんとする有志者は區役所と御打合せあらんことを乞ふ

毛布募集勸誘手續

一、毛布には凡そ立五寸横三寸の白布を縫付け寄贈者の住所氏名を記入すること
二、寄贈者へは領收證を交付すること
三、募集期限は東京市は十月十日を以て締切とす

滿州滯陣 兵士の冬服

遼陽を陥れても北の方哈爾賓に旭旗を樹つるまでは猶ほ數ケ月の日時を費して百五十餘里の惡路を進まねばならぬ、併し時日の經つのは案外に早いもので、先頃まで滿州の炎熱に燬かれつゝあつた我が將士が鼻も落ちると云ふ酷寒に苦しめられる時節は瞬く間に來るであらう、滿洲の冬營てふ一語は彼等將士に對して敵の砲火よりも恐る可き大敵となるべく私かに憂慮して居るのであるが、然らば我外征軍人は如何にして此恐るべき無形の敵を防ぐべきか、此用意を明らかにするのは今の場合決して無用の業ではない。

◎被服廠の現況　昨年の十月頃から今日に至るまで種々の職工が殆んど晝夜打通しの働き詰めで何れも血眼になつて働いて居ると云ふ事だ三十五年度迄は被服を始め靴や、背嚢や、其他の細かな附屬品まで大抵各師團若しくは御用商人の手で製造したものであつたが、種々なる弊害が起るので同年經理制度に改正を施して大抵本廠に於て處辨する事となつた、此處にて取扱はるゝ軍用品は被服、靴、背嚢、飯盒の四類であるが、其等を細かに別けて見ると百二十餘種の品目があるさうで、夫が何十萬人と云ふ多勢の分を製造せねばならぬのだから、何れ程繁忙であるかと云ふ事は自ら想像されるのである、先づ目下製造しつゝある冬營用の品は、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎兵士人の体を裹む品々は羅紗の正服一着紀州ネル(ママ)の襯衣筒袴下各二着、羊毛莫大小の防寒襯衣一枚、防寒外套一枚、ネルの腹巻一本、毛皮胴服一枚、羊毛製の手袋一組、覆面布一揃、毛織の捲脚袢一足、靴下二足、靴一足等であるが、

▲防寒外套　は特別の仕立様で肩まで垂れる長頭巾が附き絨製の手袋が肩から紐で下げられてある、絨は一見甚だ粗末な目の疎らな物であるが、之は特に疎い織方をしたのださうな、織目が細いのに雪が凍りついた時には多く折れ切れて仕舞ふ為だと云ふ事だ

▲羊毛の手袋靴下　も特別の製法で、何れも左右の差別がない、之は急進をする場合などに左右があつては餘分な暇を費させる虞れがあり、又經濟上から言つても片方紛失した場合に直ちに何處からでも補ふ事が出來るなどの得がある、衛兵哨兵等の立番をする者には別に半靴下一足を與へる。

▲靴は五種で、徒歩用、乘馬用、半長工兵靴、要塞靴等だが、之等は悉く牝牛の皮で製造する、普通に用ふれば短かくも三年は保てるさうだが、外征軍では長くも四ヶ月と支へぬと云ふ事だ、此一事から考へても彼等は如何に惡路嶮道を踏み、如何に過激の働きをして居るかが判明るでないか、(大きさは十文より十二文半までの三種)

▲脚袢も、特別の使用法を有して居る、從來用ひた麻製では少しも暖氣を與へぬのみか、凍へた時に曲折すれば折り切れる缺點があつたので、此度は雪にも堪へ、寒氣も防げる毛織製に改めたのだ、特別の目的に使用せらるゝと云ふのは解けば繩の代用にもなり、又夜襲の時などには索繩の代用にともなると云ふ事である。

又帽子の心を脫つて積量を小さくして輸送に便にし、袴は下に括紐をつけて寒さの入らぬやうにしたなども冬營用としては申分なしと云ふものだ、其他携帶テント(雨衣兼用)となるアミルニユーム製の飯盒、背嚢なども皆被服廠の手で製造されるのだ以上の諸品で身を裹むのだから、如何な寒威に襲はれやうとも十分の防

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぎが出來るものと信じて可い。

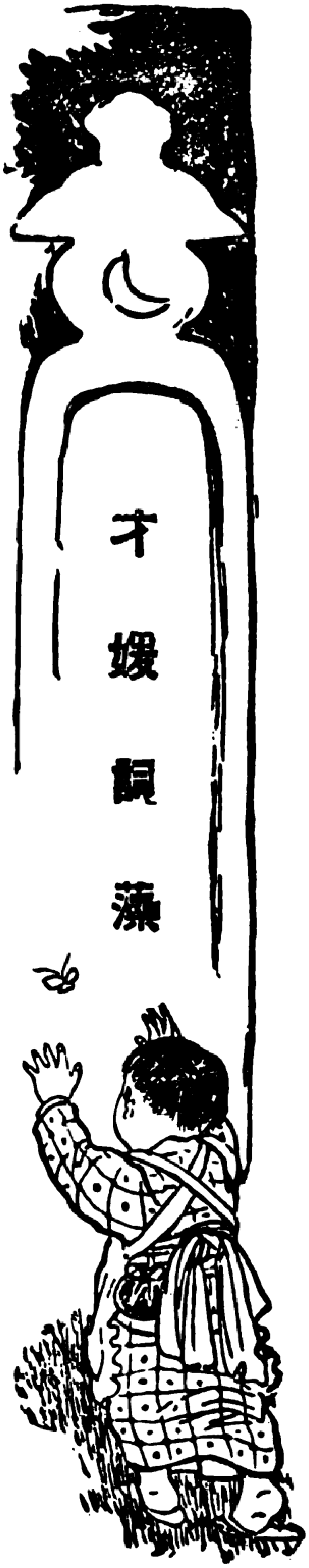
陸軍の被服廠

日清戰役の於ては、不正なる御用商人が種々の奸策を行ひし爲、軍需品の納入に關し、不都合の廉尠からず隨て外征軍人及び其家族に不快の念を抱かしめたることありしに依り、陸軍省糧秣、被服の兩廠にては大抵の軍需品は直管事業となし、現に糧秣廠は其作業の一班を公にして、大に世人に安心を與へたるが、今被服廠の作業に就て傳聞する所に依れば、同廠は目下軍服及靴蚊帳等の作業中にて職工は午前六時より、午後の九時に至る迄操業し、矢野廠長親しく、各工場を巡視して、嚴重の監督を爲し、一々檢査の上之が荷造をなして輸送し、秩序整然、不正なる御用商人も好手段を弄せしむるの餘地なし、今其の作業の概要を擧ぐれば、防寒の準備の如きは、實に能く行屆きて、襯衣は厚き毛の莫大小防寒外套は襟に獸毛を附し、頭巾又之に稱ひ、手袋の如き、メリヤスの上に、厚地絨製のものを襲用し、脚絆の如き、在來の硬澁なるものに依らず、厚地の絨を幅細き帶に縫ひ、紐にて結び、屈伸自由ならしめ、腹卷はフランネルを用ひ、靴も革質の強くして、久しきに耐ふるものを用ひたり又た夏時蚊軍の來襲を防ぐ爲め、頭部に冠る蚊帳を製し居りしが、普通の萌黃色蚊帳地を以て、方柱形若くは圓柱形に仕立て、針金にて枠を作り、紐を以て咽喉部に緊着せしめ、起臥とも自在なるものなりと、聞く露國に在りては、將校の着用する被服は、贅澤を極むるも、下士卒に至りては、給養非薄にして、之を我下士卒の被服の寒暑の手當行屆きたるに比しては、殆んど霄壤の差ありと、外征軍人の家族たるもの、聊か以て心を安んずるに足るべし。

秋の夜を白菊多き野の小路　　郭　文子
　窗ふきて來るみやびをや誰

なく虫の聲もあはれにすみ行きて　　下谷　幹子
　いよゝ淋しき秋の夜中かな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



佐々木信綱君撰

（天）秋夜　　信濃露子

糸車ひく手とゞめて秋の夜を
思ひは長し遼東の野に

評曰。つかれたる野營の夢はた故郷の軒端をめぐるべし。

（地）旅順口　　信濃國下水内郡飯田町字上町　松山照子

こゝだくの屍にむれし鴉さりて
旅順の巷夕日淋しき

評曰、光景凄惨。

（人）秋夜　　麻布區霞町六番地　山村くら子

江を下る舟のともし火かすかにて
風そよ〳〵と葦の花散る

評曰。美くしき畫を見ながら優れし音樂を聞らむやうなり

秀逸

秋夜　　長門　美亞子

うれひある胸を抱きておばしまに
ひとりさびしき秋の夜ふけぬ

秋夜　　日本橋區濱町二丁目十一　吉川ひで

秋の夜の寒さふしどに稚兒抱きて
君の訣別の文に泣く哉

旅順口　　陸中　花輪華子

三萬の敵兵いづこ寂として
黄金山下月靑く照る

秋夜　　美濃武儀郡東武藝村　山田愛子

月白きテントの野營夢さめて

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夜風身にしむかりかねの聲

評曰。征衣いかにつめたからむ。

名所月　備後沼隈郡今津村　神原英子

五十鈴川清き流れの水上に
神代ながらの月澄み渡る

評曰。ながむる心はた清かるべし。

秋夜　伊勢松阪町本町　龜井篤登子

月に虫におもひで深き秋の夜は
つま子戀ふらむますら武夫も

原作三句ながき夜は

秋夜　和歌山市丸之内十三番町七　湯川倭文子

吹き渡る秋の夜風のさむきにも
我ますらをはいかにとぞおもふ

秋夜　信濃小縣郡東内村　竹舟あけぼの

月清みふくるも知らず乳子負ひて
くにの我妻きぬたうつらむ

評曰。征人の心げにさもあらむ

旅順口　京都寺の内大宮西　三の宮つゆ子

天翔る翼も折れていたづらに
死をまつ鷲のなく音悲しき

秋夜　神戸榮町五丁目六十一番地　中村喜久子

溫泉の宿の思出多き夕月夜
病める兵士のいくさ語りする

評曰。思出多き夕月夜下句と調和せず再考せられよ

秋夜　岐阜伊奈波神社々務所内　縣ひで子

病む乳子をさむき臥床にかい抱き
思鄕の夫を思ふ夜半かな

評曰。下句趣あるべし

秋夜　大阪府泉北郡北上神村　井上登美子

永き夜をひとり物編む手をやめて
月にぞ語る深き思ひを

秋夜　香川縣善通寺町　影山たつ子

病院のまどによりつゝ兵士の
戰がたりする秋の夜半かな

評曰。着想を採る。いひさまは幼なし。

旅順口　和歌山縣立高等女學校　郭文一

破られしあた艦ひそむ旅順口
三日月ほそう夜は更けわたる

秋夜　水戸市吉田　榊泰子

病む母のみどりに秋の夜はふけて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

窓洩る月の影ひやゝけき

評日。病に痩たる母、みとりに痩たる少女、悲多き秋の夜や

秋夜　　下野下都賀郡小山町　新井琴子

宵は征きて更けゆく秋の淋し夜を
何ゆめむらむこの子ほゝ笑む

秋夜　　駿河大宮　菊池武子

ゆきまし丶母の帰夢に見て
秋の長夜のそゞろさびしき

下句原作そゞろさびしき秋の夜かな

名所月　　駿河大宮東町　龍野波子

絵たくみの筆の運を其まゝよ
千島もゝ島月の松島

評日。曹遊の景も偲び浮べられて

名所月　　備後福山高等女学校　立神峰子

露しげき千草のもすそ引きはへて
武蔵野のはてや月さしのぼる

評日。下句嗣あらばや

秋夜　　岩代伊達郡小島村　菅野和子

夫の乗る駒嘶くと目さむれば
枕に近くくつわ虫なく

評日。かしましき聲はた胸の底にしみとほるべし

佳　調

（秋夜、名所月、旅順口）

● 芝区　草間愛子

胡笳の聲とほく聞ねて草まくらゆめなりがたき秋の夜半かな

● 長崎　飯塚暁子

こほろぎのなく音寂しく小夜ふけて漫に思ふ遠征の君

● 宮城　小山田みどり

満洲の宵子に送ると秋の夜の長き一夜を文かきそへす

● 備中　武道静枝

敵味方同じ心に眺むらん霜にさえたるヘルビンの月

● 大阪　田中千枝子

由良の門のうしほの音も更けゆきて淡島が磯に月傾きぬ

● 陸前　渡邊しげ子

月の夜を老いたるとぢもうちまじり戦がたりの興つきやらぬ

● 信州　織錦幸子

勇ましき戦かたりに夜はふけて秋風寒くくつわむしなく

● 陸前　芳賀ふみ子

同胞の千々の苦の身にしみて夢結ばれぬ秋の夜なく〳〵

● 信濃　あけぼの

山寺の読経のこゑも更ゆきて秋雨くらしともし火のかげ

● 山城　今村しやう子

御旗守夫やいかにと思ひねのまくらつめたく秋の夜ふけぬ

● 越後　矢部満子

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なにとなう想亂るゝ秋の夜の小窓にひゞく笛の音哀れ ● 長門 杉山きくの子

ますらをが血しほにかへし旅順口うれしくもまた涙こぼるゝ ● 安藝 高橋俊子

籠居して網を繕ふ漁士もありすまの浦わの秋のよの月 ● 長崎 塗谷すみ子

分捕の砲五十門更に摘みて旅順も飛べとみ軍の撃つ ● 埼玉 木村汀柳

旅順口一壘又も一壘と攻め行く先に秋雨けぶる ● 香町 茅原よし子

屋に餘り思ひに沈むよもすがら倚欄へとや虫の音しげき ● 和歌山 桑原圖子

鋤鍬は納屋に殘りて徒らに主なき畑の秋の夜哀れ ● 栃木 木村みすね

殘燈に文讀む夜半の闇になりて虫の音ほそし淺茅生の庭 ● 長野 静石小夜子

戰友の屍燒く火のほそりつゝ月に更けゆく旅順口かな ● 香川 長谷川すゞゑ

秋山をゆすりし砲の音絶ねて旅順港頭月只しろき ● 栃木 若松鶴子

ますらをが滿洲の野のゆめやいかに永き思ひの秋のよなく ● 新潟 小川有子

虫の音に針たゆたひの秋の宵旅順の空か西に星とぶ ● 淡路 喜田晴江

暮ゆふのへだてばかりのくもゝなし浦風すめる三熊野の月 ● 岩代 齋藤翠子

晴るゝかと思へば又も曇りつゝ其夜に似たる秋の夜の月 ● 山梨 いほり

虫もよし月も亦よしこの夜半に我がおもふ人のともにゐまさば ● 兵庫 柳月女史

鹽がまの浦の浦濱靜まりて月すみのぼる浮島の松 ● 京都 櫻木菫子

淋しさは秋のならひと知りながらたへぬは雁のなく夜なりけり ● 宮城 狩野つる子

十重廿重かためは如何に堅くともますら武夫の腕にくだけん ● 三重 山本藤子

大砲榴彈にさしもにかたき旅順さへ遂にやぶれて我旗なびく ● 丹波 玉島季子

夫の君はわだつみ遠き唐土の旅順の夢に何見ますらむ ● 和歌山 木本かよ

吹く風に四つのたもとをなぶらせててる月かげに歌思ふ夜や ● 越後 土田やす

夕月夜おげに霧る須磨の浦天つ女神も下りますらむ ● 越後 武曾枝子

鶴に乘りて秋姫下る須磨の浦の松影清し夕月の岸 ● 上毛 戸柳子

なにとなく戀しさうかぶ秋の夜のうたゝれさむき秋の夜の風 ● 高知 田村政

さやかなる明石の浦の此月を我せ何處の野邊に見るらむ ● 伊豫 鮎賀たかば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋の夜のなが き思ひにたへかれてひらきし地圖に涙こぼるゝ　和州　英　子

●

月見てもなくさめかれし此夜中に鹿さへ鳴きて物思はする　栃木　木村つゆ子

●

うたひ行く馬子の鄙歌遠くなりていよゝ冴ゆゆく武藏野の月　神戸　岩松まさ子

●

なく稚兒に乳ふくませてつくぐくと征露の夫を忍ぶ秋の夜　山梨　小林まつ子

●

地圖をひらき滿洲の地に新らしく月の名所を月に撰ばむ　新潟　清水久子

●

草枕露營の月は身にしみて砧聲する秋の夜牛哉　名古屋　中西杏花女

●

さよ更けてあたり淋しき草の原心ありげに啼くきりぐくす　駿河　森津奈子

●

君は今遼東の野に眠れるに誰をまつむしよもすがらなく　三重　太田さかへ

●

矢叫びの野に臥す背子のありぐくと襲られぬ夜牛を鹿の聲きく　越後　武歆子

●

一人居の獣思興なき秋の夜に歌一つ給へ月姫星姫　越後　大戸川久滿子

●

なつかしき昔かたりの妹はあらでひとりさびしき秋の夜牛かな　宮城　阿部ひさし

●

風あれて枕邊さむき秋の夜に垣根へだてゝ鈴虫のなく　東京　鈴木ゆかり

●

征きましゝ君のたよりも今は早やたねて淋しきあきの夜牛かな

ますらをが眠ふ御舟の甲板は如何に照るらん旅順港の月　靜岡　伴野もゝ子

●

しとぐくと雨そぼ降りて灯影暗き出湯の宿のこほろぎの聲　越後　土田ますチ

●

秋の夜にすだく虫の音さそふかととりてひもとくすゞ虫の聲　宇都宮　千代子

●

旅順口浪風さへも靜まりて更け行く夜牛に魚の飛ぶなり　名古屋　中西つれ子

●

血に染みし戎衣に月の影うすれ露にあけ行く旅順口頭　滋賀　田中とみ子

●

去りかれて君と明石の浦つたひ月にふかしゝ夜牛もありしな　和歌山　木本かよ子

●

ほのかにも聞ゆる夜牛のかれの音にいとゞわかれし君の戀しき　和歌山　木本かよ子

●

秋の夜のねざめの軒にふくろふの聲ものすごき山の下いほ　大阪　英子

●

いすゝ川岩こす水にかけ更て神代のまゝにめくる月かな　和歌山　山村順子

●

泣きて寢ぬ孔子をすかして衣縫燈火ほそりこほろぎのなく　秋田　竹内かれ子

●

さらでだにつゆけき秋の小夜ふけて降る村雨に蟋蟀の鳴く　靜岡　中里美子

●

桐の葉のこぼるゝ音に驚きて糸くりそむるともし火のもと　信州　根羽圖子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋の夜半庭の萩原吹く風にそへてかなしき虫のこゑ〳〵
● 大阪 山中ます子

むさしのをわけつくしぬと見し夢もなほうたゝねの秋のよはかな
● 和歌山 木本かよ子

夜をふかみわしへのたつの聲すみて月かげ清し和歌の浦波
● 和歌山 芙蓉女史

こほろぎのなく音さびしく夜は更けてすぎの木高く月すみ渡る
● 大阪 好井一枝

一しきり芭蕉にそゝぐ村雨によむ文やめて夜は更れなり
● 伊勢 中村綾子

長き夜をせこの戰死の夢さめて四圍寂寞たゞむしの聲
● 飛驒 紅葉

血に染みし草を枕にゆめむすぶ勇士を思ふ秋の夜半かな
● 神戸 清水露

風寒み更け行く夜半に夢さめて秋の長夜をわび明しつゝ
● 東京 田中千賀子

秋の夜は靜かに更けて花園にねぶれる萩の露もうごかず
● 埼玉 早船そめ子

さらぬだに秋としいへばさびしきを知らでや蟲の終夜なく
● 靜岡 高畠ふさ子

よなく〳〵につゞれさせてふ虫の音にいそがれけりなたちぬひのわざ
● 日本橋 生方あや

いつとせのみ山かくれの乳母訪ひて昔語りに秋の夜あかす
● 加賀 宮本しづね

東なる背子の衣ましゝ夢さめて妻呼ぶ鹿の聲ぞ身にしむ
● 本所 田淵とめ

そよ風に露の白玉ゆらめきつ何をか悲ふ虫の聲々
● 伏見 秋草

くしき石あまたならべるその上に立ちてながむる石山の月
● 姫路 田淵藤子

黄金の山のへ高く旭旗みねて旅順口頭高歌のこゑ
● 周防 やちよ

虫の音におどろかされて見あぐればあたり靜かに秋風ぞふく
● 津市 永田かず子

いつら川かはきりとほくやまの名のあらしにはるゝ秋の夜の月
● 津市 永田いづ子

風さむみねざめがちなる秋の夜の枕にひゞくさを鹿の聲
● 兵庫 柳田よし子

つゞれさせとなくこほろぎの聲きゝて心細くも思ふ夜半かな
● 名古屋 鈴木かく子

山風の更けゆくまゝにはださむくゆめむすばれぬ秋の夜半かな
● 兵庫 柳田とし子

なきわたる雁の一つら夢見ねて石山寺に月白うてる
● 兵庫 柳岡春枝

さらでだに物かなしきを月に虫に思ひで多き秋の夜半かな
● 兵庫 柳岡綾子

捕虜運ぶ看護の兵士夢たねて旅順口頭月おちんとす
● 大阪 近藤とも子

亡き君をしのぶにあまる虫の夜半を誰がみやびなの音のすさびぞ
● 東京 森戸菊子

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夕月夜萩が花ちる丸窓に歌よみゐます君うつくしき　●　東京　中村綾子

幾度か雁の鳴く音に目をさまし思ひに沈む秋のまよなか　●　東京　中村よし子

ねざめしてひとり物思ふ秋の夜を枕に近くこほろぎのこゑ　●　埼玉　木村てきすい

賤かやの小萩みだるゝ夕風に松が枝さむく月すみのぼる　●　長門　木村いく

思ふまし思ふましとていよゝなほ行末偲ふ秋の夜中哉　●　江州　北村しづ

鳴の浦や秋風そよぐ蘆の上に光さやけく宿る月かげ　●　徳島　ふじ子

何となう物思ひつゝねられぬなかれのれひゞくあきのよはかな　●　岡山　妹尾鐵江

此處こそとたのみきりたる旅順口も今はしばしの命なりけり　●　八王子　山上愛子

播磨灘よせてはかへす白浪の月影くだく須磨の浦風　●　伊豆　飯田菊子

あしからや坂田なのこの斧ならでみかけるごとき秋の夜の月　●　芝　澤井米子

病む母の身の上思ふ折からに虫の音かなし秋の眞夜中　●　駿河　菊池武子

荒はてし旅順の市街見下ろしてしばし高嶺に萬歳の聲　●　大阪　田中常子

せみの音なり〳〵もれて秋寒き長屋のまどに月傾きぬ

病める身の哀れさ深き秋の夜に聞くにね堪へぬこほろぎの聲　●　下野　木村かほる

凉き風一陣の今朝たねて順旅口上波しづかなり　●　長野　ゆう子

きらぬだに淋しきものをなき友の夢驚かすこほろぎの聲　●　長野　宮澤まさみ

しきしまの大和男子のほこさきに旅順いつまで堪へ得べきかは　●　讃岐　野根山[illegible]

月に虫に思出多き秋の夜に風のつたふる琴の音やいづこ　●　熊本　羽田豐子

去年までは樂しく聞きし鈴虫のなどで今年はかくきこゆらむ　●　土佐　松本けい子

敵兵は今やいづちをまよふらむ旅順港上たゞ波の音　●　備前　神谷千鶴子

今ははや心にかゝる雲もなく渤海灣頭月すみわたる　●　本所　天沼ますね

駒とめし大宮人の影もなし嵯峨のあたりの秋の夜の月　●　和歌山　木本かよ子

衣うつ音はとたねてみよし野の山のあなたに月ふけにけり　●　東京　大橋八重子

ふみよむにこよなき時とひもとけばつゝれさせてふ虫のこゑ〳〵　●　島根　よしの

寡婦しる少女二十を何となく涙がちなる雨の秋の夜　●　群馬　武藤すみ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

行きくれし旅舘一人淋しげに秋の野原に虫の聲きく
● 京都　織田幸子

なき母と語りし事は夢にして枕に近くきりぎりすなく
● 武藏　伊東しげ

戰國の餘火絶えたる野の夕旅順の空に神鳩の舞ふ
● 京都　葉山みさを

縫ふ糸の心も細きカンテラに秋の夜寒をなくおとゞ哉
● 備後　佐藤篤子

ほゝゑみて別れし朝のさま見えてわが子戀ひしき秋の夜の月
● 和歌山　釘貫繁子

斥候の落葉ふみ分くる音たえて秋雨しきる秋の夜哉
● 麹町　熱田逸枝

旅順落敵とし云へど國の爲め守る心はあはれなりけり
● 兵庫　柳田艶子

さをしかのなく音さびしくさよ更けて三笠の山に月落ちんとす
● 奈良市　稲村うめ

あなあはれ旅順の砦寂として折れしマストに夕日さすなり
● 安藝　松阪梅子

艦隊の行へやいづこ黄紫渦蒼海万里月さやかなり
● 美濃　建部鈴子

すさまじき砲の音止めて日の御旗旅順口頭高くひらめく
● 安藝　松阪梅子

月かげは黄金山に小夜ふけて旅順のとりて雁の聲寒し
● 函館　村上たか子

月澄みて虫の聲高き秋の夜は心のくまもはれわたりけり
● 横濱　木村つれ

暑熱にやつれし肩しのばるゝ嵯峨の野邊なる秋の夜の月
● 横濱　安永つる子

さらでだに思ひで多き秋の夜にみだれ〳〵し虫の聲々
● 横濱　木村つれ

うちしめり野菊ぞかなる庭の面に只さびしげに鈴虫のなく
● 宮城　木村つる子

ほつれ髮口にくはへて野に立てる妻戀すがたや秋の夜の月
● 名古屋　原田學

さを鹿のなく音かなしき秋の夜は物おもひこそいやまさりけれ
● 栃木　野澤水江

月見むと思ふ心も消え失せて二千里外の君ぞ戀しき
● 陸奥　一戸學子

天廣く星は草葉に輝きて遠く嘶く武藏野の里
● 安藝　松阪梅子

思ふ時に親はいまさでかりがねのなくれ悲しき秋のよはかな
● 岩代　菅野ひろ子

月白う萩の上露霜にして絶えむいまわの虫の音あはれ
● 山城　加藤しう

ますらをの草の枕をよもすがらさやかにてらす遼陽の月
● 横濱　安永つる

秋の夜の神のしらべの樂ならん舞ひし落葉にすゞ虫のなく
● 松山　越智信子

さらぬだに思出多き秋の夜を征旅の人の心はいかに
● 埼玉　小林はじめ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

月もいではおもかげやどせ故郷の旅衣の袖にかゝる白露
● 滋賀　馬淵波子

要塞より放つ砲の音一つきえふたつ消えつゝ日はくれにけり
● 神戸　島谷たき子

須磨の浦松ふく風の音たえて濱にたゞよふ弓張の月
● 東京　松木美枝子

さらぬだに病の夕はかなしきを露と消えにし背子を思ひて
● 足利町　ゆり子

よもすがらなく虫の音の身にしみぬあすはみやこに一人と思へば
● 四谷　中田花子

花と散りし背子が姿を夢に見てさむればさびし秋の夜の雨
● 上毛　露子

寂として風も涼しき秋の夜に遠く聞ゆる虫のこゑ〳〵
● 前橋　宮内りき子

さらてたにいとゝ淋しき秋の夜に物思ふ園の月斜なり
● 名古屋　志村すみ子

祭する宵も闇ねて秋の夜の小村しつかに月ふけにけり
● 岐阜　しらつゆ

旅路のともしびほそくなりゆきてむしなきしきる蓬生のやど
● 埼玉　澤田仲子

身の哀れ家の哀れといひし宵を祭るも悲し秋の長夜に
● 伊勢　吉村靜枝

金城も秋なりけるよ吹く風にさびれさびるゝ旅順口内
● きみ子

虫の音もながむる月もなかしきなと此秋のしのびかぬらん

河内　福井喜子

白萩の露に歌口濡して笛ふきすさぶ月の夜半哉
● 金澤　隅田はつ

月の夜はいたく哀れもまさるなり鹿の啼く音に虫の聲々
● 神戸　路屋とみ

ものゝふの風流は今ものこるらむ足柄山の秋の夜の月
● 大阪　山田雪子

なげゝとて秋こそきしかよもすがら心なき身も物思はるゝ
● 備後　鈴木武子

糸車ひく手止めて繰り返す賤の小田巻長き秋の夜
● 美濃　武部鈴子

胸とめて手網が濱を見渡せば濱にたゞよふ弓張の月
● 山形　金村きう子

高麗の原にいねぬる人の忍はるゝいかに露けき夢ぞ結ぶと
● 群馬　小内梅枝

虫の音を聞くにつけても思ふかな君と語りし去年のこよひを
● 下野　瀬上ちか子

さつ〳〵と吹くる風に夢さめてともしび寒き秋の夜半かな
● 青森　棚田まち子

花もよし露もあかれど隅田河月のながめぞなほまさりける
● 丹波　梅子

背子よりの文を手にして幼児に軍語らふ秋の夜半かな
● 姫路　三俣千代子

一しきりまた一し[illegible]、虫のこゑにやう〳〵更くる秋の夜
● 京都　中野ゆかり子

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

爽そゞろそゝろ心地に秋の夜を來るとしもなく友訪つれぬ　石見　宮内豐美子

●書も見あき眠られもせずいたづらに惱まされる秋の夜半かな　滋賀　峯子

●來て見ればそゞろ昔のしのばるゝ虫の音しげき石山の月　茨城　古澤楓子

●栗の實の折り〳〵落つる音のして小雨そぼふる秋の眞夜中　群馬　黒岩露山女史

●夕もやに舞子の濱の松も見えで夢より淡く月さしのぼる　本郷　井上桂子

●風にいたむ怨みの魂か星くづの雲行きあやしアーサーの水門　周防　矢田部芳子

●我が夫はいかに荒野に臥すならんあきの長夜の寢られぬものを　萩原道子

●むしなきてさをじかなきてかりなきて果ゝは悲しき秋の夜半かな　横濱　すて子

●さらぬだにさびしき秋の夜もすがら病の床にかりを聞くかな　安藝　松阪梅子

●月かげを敵將いかに眺むらん旅順のとりて胡歌あはれなり　大阪　桐田眞子

●秋の夜を御苑の闇にぬけ出でゝ桐の一葉に積敵ひ見る　河内　竹内敬子

●箒星橿原の上にまたゝきてうぶすなの森只秋の風　名古屋　淺野露子

●霧こめてあはれも深き秋の夜に雲井はるかに雁なきわたる

和歌兼題

菊
秋行路
天長節

（〆切十月十五日）
（披露十一月五日）

◎賞品天、地、人、の外秀逸二十種に呈す

▲消息文
▲寫生文

（〆切十月十五日）

懸賞文規程

投稿用紙　又は罫紙二つ折（和歌は端書に限る）にして▲題目の下には必ず住所姓名を明　すべし▲文字は必ず楷書又は行書にして叮嚀鮮明なるを要す一揮にして數葉に亘るものは必ず右方の上部一ヶ所を紙撚にて綴るべし▲原稿は博文館編輯局女學世界とせらるべし▲投書原稿は一切返却せず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

古都の秋

和歌山市　森　繁尾

旅の宿の夢さめやすくて、朝とく起き出でぬ、よべより心つかひしたる空はよく晴れ渡りて、秋の空ともおもほえずいとうらゝかなり、いでや奈良の都の名所舊蹟とぶらひて、懐古の秋綴らばやと、旅宿を出でゝ行く、名もなつかしき三條の大路を、とざまに物賣る家のはした女どもの何やらむ高らかに呼びさけぶをも、よそにきゝなし、興福寺の五重の塔を左に眺めて、猿澤の池のほとりに出でぬ、池中に赤き鯉、黒き龜のここら集ひ遊べるいとをかし、そのかみ奈良の帝につかうまつりて、ならびなく時めかしたるさる釆女の一たび君の御覺え衰ふるや、それをはかなむあまりに身をこの池に投げて、底の藻屑と失せにける所なりと聞きては、すゞろにいたはしさの催さるゝに、釆女が衣を掛けたりてふ衣掛柳の糸より細き枝たれて、池水にまゝやける、何をか語るらむと一入あはれなり、釆女をいつき祭れる祠に詣で歩をかへして、興福寺にいたる、こゝは藤原氏の勢と共に衰へたる古寺なれど、南圓堂、東金堂、五重塔など今はた結構いとめでたし、これより春日のみ社まではいはゆる春日野にして、一の鳥居はかすかに木の間がくれに見え、こゝかしこ愛らしき牡鹿、牝鹿のさまよひありきて、行き交ふ人々の袖にすがりて、食を乞ふ様のいとあはれなり。

若菜つむ少女も見ねぬ春日野に
　つまよぶ鹿のなく音かなしも

道を左に折れて、やゝすゝめば奈良博物館ありて、煉瓦もて築てたる高殿いかめしく聳び立てり、内に入りて見るに石器、土器、繪畫までは佛の御像などめでたきものゝいと多くて、ひとつ〳〵は筆にもとめがたし、いつまで見むもあかれど、なほ行くさきの遠かなればとて、心を殘してぞ出でゝ行く、一の鳥居を過ぎて、萬世經ぬらむ木立ものふりたる間を立ち並ぶ石燈籠の多きに、神府の心を偲ばれつゝ歩みて、春日大宮ををろがみまつるに、朱けの玉垣きらゆきわたり老松、古杉いやが上に茂りに茂りて、晝なほ小暗くいと神々し。

春日山みたらし川の水清み
　むすぶ心もすみわたるらむ

若宮には巫子の神樂を奏づる様、千早振神代の昔ぞ偲ひ出でらるゝ、

はふり子か神のみ前に鈴とりて
　立ち舞ふ袖に神風ぞ吹く

宮を出でゝこゝかしこ見めぐりありくうちに、とある瀧つ瀬のほとりに迫りつきつ、見あぐれば絶壁けづりなしたるこゞしき岩が根より、瀧の白糸くりためつゝとゞろき落つるその響、千よろづの雷神の一時に鳴りわたるにかと、すさまじともすさまじく、おちくる水の砕けては玉をころばし、ちりては霰をとばし、みだれては霧と降る様の面白さ、あはれ何にかたとへつべくや、白藤の瀧となん呼ぶときゝて

おちたぎつ水のひゞきにとめくれば
　浮世のことも白藤の瀧

ゆふしでのなびくと見しは春日山
　岩根にかゝる白ふぢの瀧

もと來し道を經て、二の鳥居より北に折れて、若草山を右に眺めつゝ行くに、このあたり奈良漬、角細工、墨などひさぐ家の多くて、皆々御會釋ふりまきて、客足をとめむとするいとをかしけれど、こもまた商人の常なるよ、己れもまたとある店さきに立ちよりて、家苞にとて角細工など一つ二つあがなひ求めつ、なほ行きゆきて、手向山八幡宮を拜しまつり東大寺のみ境に入りて、三昧堂、法華堂など見めぐりつ、高き石段を攀ぢて、二月堂に登るに、四方の見わたしことによく、奈良の町は一目に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見え、昔ながらの三笠山はうるはしう霧にそばだてり、あはれこのうるはしき山、いかにか遠き千年の昔、海山千里の外にさすらへたる歌人の心をひきしことよ、などよしなき思にふけりては、奈良の朝の往にし昔の忍ばるゝなり、小野の老が咲く花の匂ふが如く今盛りなり、と歌ひけむ都の名残あはれいまいづちにかある、百敷の大宮人が櫻かざして、春日野の花にあくがれ、三笠山の月にうそぶきたる昔の俤あはれ今いづこにかある、奈良の町はづれ遙か西にあたりて、稲葉そよぎて秋風吹く田畑のあたり、ふるき都の跡とし聞かば、あはれひとり情にもろき詩人の腸をたつのみかは、心なき身にもあはれは知らるゝなり、淵瀬定まらぬ飛鳥の川、昨日の淵は今日ぞ瀬となる習にしあれど、さても移ろひ易きは人の世、變れば變る世なりかしなど思ひ浮べては、しかすがに物がなしくて、思はそれよりそれへと遙遠き千とせの昔に走りぬ、さてしもあるべきにあられねばとて、下りて大佛殿を音なふに、御堂の内には五丈三尺の盧舎那佛いかめしく立たせおはします、思ひしにたがはずその大きさその尊さ、げに肝をつぶし目を驚かすばかりなり。

大君と親の惠の露におひて
み佛をがむ今日ぞうれしき

古さとにまつらむ父に母君に
つとに語らむ大きみ佛

景清門を出で北に行きて奈良の町のつくるあたりに九重雲深き處、黄金の高殿、玉の臺に日頃は玉だれの小すもる風さへ、いとはせ給ひし御身をもて、かしこくも畏くも光明皇后の、親しく千人の身を流させ給ひしといふ浴室の跡を訪ひては、嬉し涙に秋の袖をしぼりけり。

民おもふ大み情けのあふれては
青人草のいかにあびけむ

まだ見まくほしき所々のいとさはなれど、足の疲もとみに加はり、釣瓶おとしの秋の日もはや西に傾きければ、見殘したるは明日にと契りおき友をうながして、旅宿にかへりぬ。

秋の夜

岡山　小山松枝

咲きそろひたる萩はらくまなき月の光をうけて笑はしともうつくしく、千草をゆする虫のこゑ／＼はたあはれに、身まづ嵯峨野あたりにあるやうに、思はれて、机によりかの書ひもとけば心もすゞろ遂に涙ながらに卷を掩ひぬ。

仰げば頭上にはさやけき月の鏡をいたゞきて、ゆかりの色濃き藤袴もほにいでしすゝきも霜のごとく白く、地上におとせる種々なる陰影をふみつゝそこばかとなくさまよひぬ。わが袖にふれてほろ／＼とこぼるゝ露のをしさよ、生ひ繁りたる野路をわけ行けば、ふとゆくてに古木の松のくねり／＼たる枝さへをかしきに、かすかに聞ゆるは松風ならぬ箏の音なほ近うよれば賤しからぬ家の前栽もあきらかに、わざと燈火をけして、彈ずるは折もをりとてかの小督の曲なり。月と共に箏さへ聲さへすみ渡りて、げに天にも通ずらん「世をしのぶすみかもあすは大原にかへんすがたのなごりとて」のところに至りては、おもひなしにや聲もいささかふるひぬ、すだく虫は一層悲しさそへてけり、むかしにかへるもゝしきや千代をちぎりの松のことのはとをさめたる後は聲も音もなし、秋をはらふ夜來の風、身にしむ折しも、空なきわたる雁の二つら三つら、あゝ箏のぬしよこよひの月にうかれてのみのすさひにはあらざるか、おもふことのありてにか、側にうち招く尾花に問へど何とも答へはなく、たゞ遠方にひゞきぬたの音のみ。月も傾きぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そゞろあるき

番町　茅原ふじ

まがき

露のひぬ間と、いとも短き命も、此處は日に育ちたるにや、朝貌の實ばみたる葉がくれに濃き淡き紅の二つ三つ、ふくよかに色も香も、今を盛りと咲き出でたるよりは、しほらしう見ゆ。

糸瓜

名ばかりの竹垣を、這ひつくし、一本の梧桐に、遠慮なうはびこり、尺に餘る長き實の、あやしげなる蔓にすがるは、人の上にも似て一陣の嵐吹かば、うしやあのつると、此の實永久のねにしは絶たるべきものと、見ねてあはれふかし。

夕貌

里はなれたる、小川のかたほとり、小さき草屋に、今しも田より歸へり來る、夫を迎ふべく、妻は夕貌棚をたてに、行水を汲む、幼兒は裸體にて、蚊遣の側をはひ廻る、あゝ夕貌棚の下涼み、これ人生の眞樂かや。

虫の音

同じ虫の音ながらも、高殿のおはしまに、聞けば、其の音や如何に美しからんも、屋まばらなる夜、咲き殘りたる野菊を、露の命と、虫の音しげきは、秋の哀を此處に、集めたる様にて、悲きになくかやまつむし、稲垣より洩るゝつま琴の音、思ひは深き盛夫觀、主のむや如何ならん。

紹介

裁縫教科全書

本書は斯界に一實教授てふ一新機軸を出して成功せる戸板裁縫女學校主戸板關子女史の著す所、簡潔明瞭の筆を以て、複雜なる斯術の要訣を解明し、而もよく組織的に編まれたれば、一讀直ちに要領を首肯し得らるゝの便あり、本書の内容を見るに先づ各衣服の名稱より始めて積り方、裁方を說き、次に各部分に就て分解縫を示し、其より之を總合して實地の縫付方縫方に及び、一々之に挿圖を加へて親切に說明しあれば、修學者の教科書となし教授者の參考書となして資益あるは無論、又た家庭に備へて主婦坐右の寶典となすに適す、記者は曾て見たる裁縫書中最も卓越したる良書なることを信じ、之を江湖の讀者諸姉に紹介す（上下二冊、定價各々三十五錢、發行所芝三田四國町二番地戸板裁縫女學校）

▲瑠璃草

新派和歌の大家、服部躬治、内海月杖氏等の訓陶せる女子國文研究會員の手に成りたる歌文の集なり體裁内容共に瀟洒にして鮮麗、編者久保おりえ女史の作を初めとして濟々たる才媛諸姉の見事なる筆致、何いづれも〳〵瑠璃草の名に協ひて麗しきものゝみにこそ。（價金五十五錢、發賣元文友館）

少年を導くに熱心なる父兄の爲に、小波氏の新著四種を左に紹介す。

▲南山の卷　（少年日露戰爭史第四編）

▲病魔降服　（世界お伽噺第六十一編）

▲文福茶釜　（校訂日本昔噺十二編英譯を附す）

▲物臭太郎　（校訂日本昔噺十一編英譯を附す）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△活ける修辭學

オヤまアよく入らしッたねへ、エ何に電車オヤそう、サアまア此方へ、何うぞマア茲へ、アラまア本とに、サアお敷なさいヨ、斯んな穢ない蒲團、疊がよごれて居升から、オヤまア、日が短かく成たものですからね、斯んな襤褸を一ぱい廣げて、貴女の處なんか斯んな穢ない物はお在んなさるまいから、お驚き遊ばすでせう、今直に片附升ヨ、生憎マアお湯がぬるくて、ちよいとまア彼方向いてお見せ遊ばせマお髮がよく出來た事、アノ何んですか、毎度の髮結さん、ほんとうにイヽお髮だこと、アノーお裁縫は、最う重さねたものがずん／＼お出來遊ばすから、イヽエ、此間だ拜見致しましたヨ、此のお召物はお獨で、ごめん遊ばせ、マア／＼よく出來ましたねへ、おッ母樣にお似遊ばして、お巧手で入ッしやるから、お縞柄もいゝと、何うもお見立がお上手ですヨ、へ、マア此れをお持遊ばして、和主が、アー嘘言でご在ましやう、へ、本たうに、ヲヤマ亞ひと、よくねへ和主のおきやしやなお手で、よくねへ、不生のお仕付がいゝから、別段ですよ、ヲヤ美しい、お服紗アーいゝお色ですと、ヲヤお珍らしいお重のいゝことねへ、お道具が澤山で入ッしやるから、ヲヤ此れはマア／＼何うも／＼ホホお酢もじ、へエーお彼岸の、マ難有うご在升、只今明升ヨ、本とに惜いやうだ、斯して取て置て、拜見して居たいやうでご在升ヨ良人で居ましたら、獨でポッポへ抱へ込ましやうツレハ／＼可笑うご在升ヨ丸るで子供、大好物、其れに貴女、お宅樣のは別段で昨年下すッた時なぞは、良人で大抵戴てしまひましたヨ、貴女、ホッホッ／＼、只今お包み申升ヨ、是はヲヤ杵屋の配り風呂敷、お安くないのだ、サお松ちん、今お茶を入れ升ヨ、マアサいゝぢや御在ませんか、また外へ貴女がいらつしやる處があるの、アラマア嘘言をおつき遊ばせ。（編者曰く本文何人の作たるを知らねど快舌滔々瀑の落つるが如く真に活たる修辭學といふべし）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

男女の交際（鳩山春子）

歐米では母親が留守の時には、大抵姉に代理をさせる、姉も男親の氣に入る樣にと務める、一体女の子は愛らしいもの故、男親は可愛がる、又女の子はそれを喜ぶと共に、愛したいと云ふ思があるから、何でも男親の氣に入る樣につとめる、衣服でも・頭髪の飾りでも男親に見て貰うのを喜び、男親も其奇麗なのを見て喜ぶといふ風ですから、女の子はどうすれば男が喜ぶかと云ふ事を自然に覺わる、即ち男の性質を知るのです、ソレ故男女の兄弟がある家では、男の兄の世話は大抵女子がします、例へば女二人男二人なれば、姉さんは弟に、妹は兄に、それぞれ互に受持つて萬事の世話をいたします、一寸廻ひに行くのでも、各々受持で行きます、そこで男の子は姉さんを第二の母と思つて居る、殊に親と子との間は、年が大層違いますから、自然話が合はぬ、けれども兄弟姉妹は、年齢が同じで、教育も同程度ですから氣心も自然に合ふ、隨つて何事も互に相談する、學校で運動會があると弟の方には姉が見に行き、妹には兄が行くといふ風で、女は女同志より寧ろ男女の方が便利が宜い。

然るに我邦では、お父さんは恐しいもの、八ヶ間敷いものとして居るから、成るべく男親の前へ出る事を避けて、朝夕の世話などは致さず只母親の手傳より外に知りません、隨て男の心事を知らずに直ぐ嫁に行きますから、タトヱ其精神は善くとも、平生の練習が足りんから、何うしても男の氣に入らない、夫れが爲めに種々と苦勞をする樣になる、若しこれが西洋の如く、平生の練習が積んで、男の心事を知つて居れば、直ちに妻として、主婦として、圓滿なる家庭が、形造くれるのです、又男にしても平生女子と交際をして居れば、女子の心事を知るとが出來るから、互に和樂が保たれる、されば男女の交際はわざわざ面倒な事をせずとも、先づ家庭の間から發達させた方がよろしい。（記者筆記）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界冬季增刊

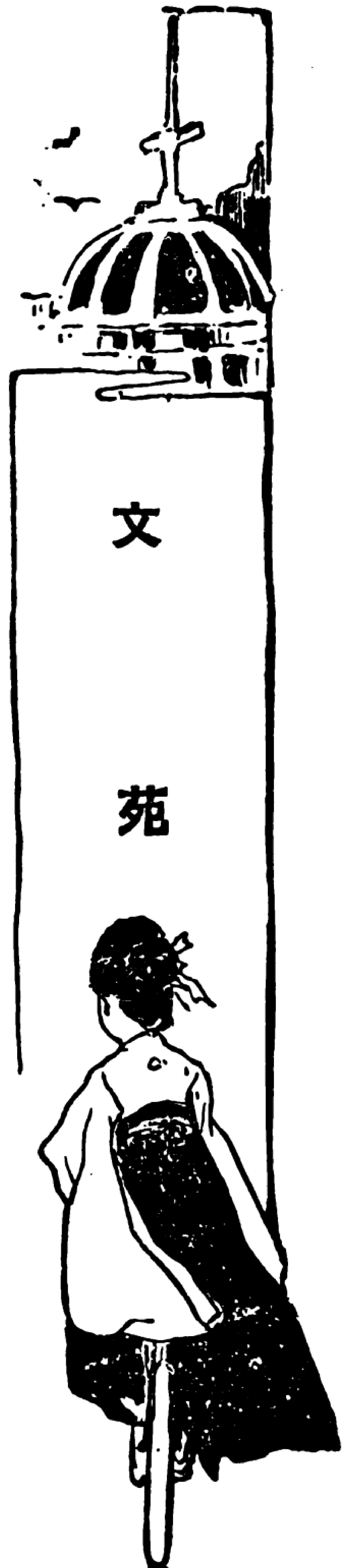
家庭十二ヶ月

十一月十五日發行

人間社會は實利の世界、勞働の世界、多忙の世界たると同時に又た遊散の世界、娛樂の世界、閑日月の世界たり、活動の裏面には休息あり、社會百生活の反面には家庭十二ヶ月の慰樂あり、吾人は殺風景なる生活境裡以外にこの閑天地の樂趣を得て讀者と共に樂まんと欲す、懸り合ふたる日露の戰爭は前途頗る遼遠なり、彌久なり、外征の後援に務めらるゝの諸君、請ふ少しく襟を寛げて此の樂境に逍遙し玉はんことを。

目次概要

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



支那小說　三孝廉

久保天隨

紫荊枝下還家日。花萼樓中合被時。
同氣從來兄與弟。千秋羞詠豆箕詩。

こゝに掲げし一首の詩は、人の兄弟に對して和順ならむを勸むるがために作りしものなるが、その中には三の故事を藉けたり。第一句「紫荊枝下還家日」といへるは、田氏の事に係れり。むかし田氏といへるに、兄弟三人ありけるが、幼きより、同じ家に住み、いとも睦じくて居たりしを、やがて、いづれも年長じければ、第一の兄、先づ妻を娶りけるこれを田大嫂といひ、次なるもの又娶れりこれを田二嫂と呼べり。この嫁同士も、互に親しみ合ひて、かりそめにも爭の言葉を出さず、殘れる弟は、久しく兄嫂に養はれて、年月を過ぐしけるが、これも、いつしか人となりければ、妻を娶り、田三嫂と呼びたり。この田三嫂のみは、さばかり賢からず、おのが生家のやゝ豐かにして、些の支度などありしを常に鼻にかけ、兎角に人を蔑み視るの氣色、物ごとに就けてほの見ゆることあり、家中の人々一つの鍋にて煮、一つの机にて食ひ、私錢を用ひず、私秤を動かさず、おのが居間にて隱し食する方便さへ無かりけるを、田三嫂はいとゞ慨きことに思ひ、夜ご

と、寐物語の折ふし、それとなく、夫に壁訴訟して云ひけるは、この家の財産は、すべて御身の兄なる人の管理せらるゝものにして、御身は露も與かり知らぬことゝ見ゆれど、誰しも我が田へ水を引くの習、正直に見えしとて恃とはならず、一といひて十を取り、十といひて百を取らるゝも、いかで知る由あらむ。たとひ今は同居すとも、生涯この儘に打つゞくべきにあらず御身の年の若きにつけて、善き樣にしてやられ、それを知らずして、ひとり佛顏に打濟ますも、あまりに褒めた話にあらず、なるべくは、今の内に財産を分配し、さるべき樣に、おの〳〵分れて業務を營む方、宜しかるべしと、さも道理らしく口說ければ、さしもの田三、年若きものゝ常とて、いつしかその氣になり、妻の申條、いかにも道理至極なりとて、やがて親戚の人をかたらひ、兄どもに說き聞かせ、その話を持ちかけしが兄なる田大、田二は、たやすく承け引かざりしを、田三夫婦、言葉巧に、内外より催促しければ、さらばとて、ありとある倉穀の類、物の見事に三分し、一毫も多からず、一毫も少からぬ樣にしつらへしが、こゝに奈何ともし難きもの、唯だ一つぞありける。そは何ぞといふに、庭前に在る一株の紫荊樹、祖先の遺愛とやらむにて、幾その年輪を經たりけむ、いみじく高く生ひ繁り、折しも花さく時にてありけるが、田大、至公無私の心なりければ、とてもの事に、この樹をも切り倒し、先づ幹を三つに切り、各その一を取り、餘すところの枝葉は、秤にかけて等分すること然るべけれとやがて評議一決し、明日を契りて、一先づ別れつ。さて明けぬれば、田大、二人の弟どもを呼びあつめ、樹を斫らむとて庭前に出でゝ見るに、こはそも如何に、昨日までは見事に榮えたりし樹の、一夜の中に枯れ果てゝ、枝はたわみ、葉は艶もなく萎み、見る影もなくなりけるが、試に其樹を推せば、その儘に打倒れ、地に蟠まりし根までが、あらはに地面に出でたりける。田大、あまりの事に、おもはず手を止め、樹に向ひ、大聲あげて泣き叫びければ、二人の弟ども、傍によりて、慰め顏に、この樹、いかなれば、吾が兄をして、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かくは歎き悲ましむるぞと問ひけるに、田大、落つる涙を拂つて云ひけるやう、おもひ見れば、我等三人一つ家に生れ、宿世の縁、いとも深く、繼父繼母の隔ある間柄といふにもあらず、たとへば、この樹の枝葉、根を連ねて生ひ繁り、分ち植うべきすべ無きが如し。根あればこそ幹も出づれ、幹あればこそ枝も出づれ、枝あればこそ葉も出づれ、かくて見事に榮へつるならむを、昨日この樹を斫り倒し、三つに截らむといひければ、さりとては活ける甲斐なしとて、一夜の中に自ら枯れはてけむ、我等兄弟三人、おのがじゝ分れ住みなば、やがて又この樹の如くに枯れはてゝ、再び榮ゆる折もあらじと、今しも思ひ付きたればこそかくは悲むなれといひければ、田二、田三、兄の言葉の末、深き情の籠りて、我等は人にして樹にも及ばぬことよと感じければ、これも堪らず、互に抱き合ひて、もろともに涙を流しけるが、かくて分れ住むに忍び難く覺えければ、元のまゝにてあらむと評議一決しける折、三處の部屋に住みし各の妻ども、泣き悲む聲を聞きつけて出で來り、事の由を聞いていづれも、大に喜びけるを、唯だ例の三娌ひとりは、おのが計りしこと、いさゝかの嘴と違ひしを面白からず、何やらむ、怨がましきことゞも言ひ續けたれば、田三今はえ堪へず、妻を逐はむと罵りけるを、兄なる二人、再三なだめ、その場だけは事なくて濟みけれども、三娌も、さすがに、うら羞かしくや思ひけむ、その夜、おのが部屋の中にて自ら縊りてぞ死にたりける。とは自ら作せる孽なれば、今さら詮なしとぞ言ひ合へりし。かくて、田大は、かの紫荊樹、いかにも惜しきことをしてけりとて再び往いて看るに、誰も培ひしにはあらねど、枯れし枝ども、いつしか再び活き、萎みし花は重ねて新に咲き滿ち、前にくらべて、一しほ爛爛熳熳として見えたりければ、田大大に喜び、二人の弟を呼びて見せしめけるに、いづれも感じ入りて、感應の理、爭はれずとて、しばし言も出でぬまでなりける。これより、田氏の家は、子孫後世、末長く同居したりけるとなむ。げに聽くまじきは、腹黑き婦人の言なるかな。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

次の句は、「花蕚樓中合被時」といへり。その花蕚樓といふは、長安の都に在り、大唐の玄宗皇帝建てさせ玉ひしなりける。そも玄宗皇帝と聞こえしは、世に謂ふ明皇の御事にして、もとは唐家の宗室にておはしけるが、韋氏政を亂し、武三思權を專にするを見るに忍びずして、義兵を起して之を誅し、遂に帝位に即かせ玉ひしなり。そのはじめ、五人の兄弟おはしけるが皆王爵を授けて、五王と呼びしを、明皇友愛の情、いとも篤かりければ、やがて一大樓を起し、詩經に見えし棠棣の義に取りて、名を花蕚と命じ、暇ある折どもに、五王を召し寄せ、この樓に登り、宴を開かれけるとぞ。又大なる幔を造らしめ玉ひ、五王帳と名づけ、帳中には、長枕大被を設け、五王と同じく、寢ねさせ玉ふこともありけり。

第四句、「千秋差詠豆箕詩」といへるは、曹子建の事なり。むかし、後漢の末、魏王曹操の長子曹丕、漢を簒して帝と稱しけるが、その弟に曹植といふがあり、字を子建といひ、聰明世にも稀なりければ、操が在世の程、いたく之を鍾愛し、是非に我が跡となさばやとおもひつゝ果さゞりけるを、曹丕心に恨めしく、事につけて、之を殺さばやとおもひ、ある日、子建を呼び寄せて云ひけるは、先帝つねに汝が才の敏捷なるを誇り玉ひしが、朕未だ試みず、汝今七步を限りて詩一首を作りてむや、若し成らざりせば、乾度上を欺くの罪に當てむといへり。かくて、子建仰をかしこみ、やがて七步に及ばざるに、早くも成りたりとて、あはたゞしく認めて見せたりけるが、その詩の中には、規諷の意を含ませて、なか〳〵に哀れなりけり。

煑豆燃豆箕。　豆在釜中泣。
本是同根生。　相煎何太急。

さしもの曹丕、これを觀て、いたく感泣し、遂に前恨を棄てゝ睦び合へりきとなむ。

山鳥の尾のなが〳〵しくも、かく說き來りしは、何の爲ぞ、この三つの故事を講せしは、こゝに三孝廉が產を讓りて高名を立てし目出たき話を引き出でむの用意なり。この話は、曹丕が急刻に比ぶべくもあらず、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

また子建の風流は無けれど、紫荊花下の三田、花萼樓中の諸李には、おさ〳〵劣らず、もし世に仲善からぬ兄弟などありたらむには、次に語り出づるを聞きし後自らも、そを擧ばむと心がけさせ玉へかし、かの「天下の事を知らむと要せば、須らく古人の書を讀むべし」といへるも、亦た此意なるべし。

そも此事の起りしは、東漢和帝の御代なり、その折はしも、天下ことに善く治まり、萬民業を樂み、朝には梧鳳の鳴くがありて、野には谷駒の嘆もなき目出たき世の樣なりしとなむ聞こえける。この漢の世にては士を取るの法、今とはいたく事かはり、科目を以て試むることは爲さず、たゞ州郡の選擧に任かしけるが、博學宏詞、賢良方正などいふものゝ外に、孝廉といへるもの、ならびなく重きものに定められつ。孝は孝弟廉は廉潔、孝なれば君に忠、廉なれば民を愛すること、言ふまでもなく、一たび孝廉に擧げらるれば、次第に立身して、高き官位に登ることいと易し。もし今日の有樣に就いて言はむには、州縣に於て童生を試驗し、幾千封の書狀をつけて、彼方此方に頼み廻るなれば、富貴の子弟のみ取り上げらるゝことゝなり、貧しき家に生れしものどもは、たとひ曾參の孝、伯夷の廉あるも、名を揚げ姓を顯はすこと、思ひも寄らぬなり。されば、漢朝の法度、世に類なきものといふべく、州の太守たるもの、若し或る一人を孝廉に擧げしとき、その人、果して才德ありて、資格足らぬことなく、追々に登庸さるれば、その初、之を擧げし人も、ともに賞を受くべく、之に反して、擧げられし人、財を貪りこ法を犯しなどすることあらむ折、輕ければ、官を罷めしめ、重ければ遠地に配流せしめ、これを擧げし人も連坐して罪を免れぬ定なり。されば、擧ぐる人も擧げらるゝ人と、休戚深く相關するは、言ふまでもなく、妄りに私意を以てすること無かりければ、臣道甚だ明かにして、朝班淸肅なりしも理にこそ。それは扨て置き、會稽郡陽羨縣といへるに、一人の男あり、姓を許名を武、字を長文といひけるが、十五歳の時、父母ともに身まかり、跡には少しばかりの田產童僕を殘し、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

これぞと力を添ゆる親戚もなく、その上、二人の弟ありける。一は許晏といひ、その時九歳、一は許晋と名づけ、七歳なりければ、まだ物心分かぬ幼き身の、世の哀を知るよしもなく、ひねもす兄を呼びて泣き叫ぶのみなり。かの許武、これにては濟まじと、漸く弱る心を取り直し、自ら僮僕を引き廻し、田を耕し、畑を種ゑ、夜は消え細る燈火をかき立てゝ、讀書を事とし耕種の折々、幼き弟ども、まだ土を鋤きかへすことゝはならねど、必ず傍に引き据えて、辛苦の程を見せしめつ、その物學ぶ折は、おのが机の邊に坐せしめ、句讀を敎へ、事こまやかに理義を解き聞かせ、禮讓の節、成人の道を以て說き示し、もし敎ふるまゝにならぬときは、祖先の位牌の前にぬかづき、おのが身の德行足らずして、弟だに敎へ得られぬ甲斐なさ、あはれ、亡き父母の靈にして、天つ御空にましまさば、いかで、まざまざと現れ玉へとぞ祈りけるを、傍に在りて聞き居たる弟ども、その悲しさに堪へかねて、おのが罪をさとり、その後は、かりそめにも暴き音を吐かず、傲れる顏をなさず、いとも殊勝に行ひ澄ましけるとかや。

かくて又、臥戶の中には、一枚の大蒲團をしつらへ、兄弟三人、枕をならべて寐ねしとぞ。かくすること幾年なりけむ、二弟ともに長じ、家道漸く豐かになりければ、許武に妻を娶りて、家の固となし玉へと勸むるものありけれども、承け引かず、吾もし妻を娶りたらむには、二弟と別れ居らでは叶はず、夫婦の愛を篤くして、手足の情を忘るゝは、いかで堪へめやとて拒みける。かゝる後、晝は同じく耕し、夜は同じく讀み、食するときは必ず器を同うし、寢ぬる折は必ず床を同うしけるを、一鄕の人々聞き傳へて、孝弟許武といひ次の如き詩を作りて、もろともに歌ひ囃しけり。

陽羨許孝武、　耕讀晝夜忙、
敎誨二弟俱成行、　不是長兄是父娘

その時の州牧郡守ども、許武の名を聞き、朝廷に奏聞し、議郞に任じて然るべきよし申しければ、やがて詔を會稽の太守に下し、急ぎて都に上れと傳へさせける。許武は、さすがに君命重く、いなみ難しと覺えければ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二人の弟どもに言ひふくめ、不在の間、躬ら耕し、且つ學問を勵むこと、おのが在りし日に異るべからず、もし之に違へば、亡せにし父君の遺訓に負くことゝなりぬべしなど、懇々と說き聞かせ、又奴僕どもに向ひ、いづれも謹みて、若き二人の主の命に負かず、朝は早く起き、夜は遲く寢ね、ともに家業を勵むべきよし說き示しつ。あはたゞしく支度を整へ、官より命せられし車輛に乘るは恐れありとて、飛脚など雇うて車を牽かしめ、一人の童を召し連れ、長安を望んで進發し、やがて朝廷に參りけるが、郡城中ありとあるもの、孝弟許武の名を聞き傳へ、我先にと訪ひ來り、終日しばしの暇もあらせず、かくて、名望いつしか朝班に重く聲譽遠く田野に聞こえければ、朝中の大臣ども、許武が未だ妻あらざる身なるを探り、是非におのが娘をと申し入るゝもの、引きも切らず。その時、許武心ひそかに思ひけるは、我等兄弟三人、いづれも年壯にして定まれる妻もなきを、吾のみ先つて娶るは、聊か道に違へり、ましてや、我が家は、世々耕し且つ讀み、さりげなき身分のものなるに、こたび、ゆくりなくも、貴き朝廷の員に備はりしことなれば、若し搢紳大家と婚を爲したらむには、必ず生家のすぐれしを恃み、驕り高ぶる氣色、いかで無からずやは、かくすれば、我が貴も儒素の家風を破るのみならず、他日我が弟ども定る緣の如何ともし難くて、貧家の女を娶りたらむ折睦び合ふこと、覺束なかるべく、世にありふれし兄弟の睦しからぬは、常に婦人の爲に起るものぞといふなるを、こゝ吾先づ第一に其心せではあるべからずとおもひ定めしものから、あからさまには、說き出です、こ人に向ひては、まことは、家に振分髮のその昔定めし妻のあるなるを、若し重ねて娶りたらむには、あはれ、宋弘の笑を如何にすべきといひければ、みな人、あつと感じ、いよ〳〵敬重を加へけるとぞ。（完）

事を爲さんと欲せばまづその資格を作れ、然らずして事をなし得るなど〻思ふ勿れ
ナイチンゲール

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

みやこの秋

荷葉

▲朝

兩國川の流に近く、矢の倉の邊に住馴れて、早五年の星霜を經て居る。花に月に雪に深き眺は彼方の墨堤に讓る所はないでもあるまいが、住めば都の塵の中に埋れながら、朝に夕なにこの洋々たる大河を見ては、常に心悠々として、浮世の苦をも忘れ勝に、四季の風情は時毎に變つて、飽かぬ景色の濱町の河岸や、折にふれたれば玆にこのわたりの風物を紹介する。

行德通ひの滊船の客を呼ぶ鈴の音繁く、今しも遲れ走せに車を飛ばして、万千樓の方から來た出替りの婢らしい二十一二の島田髷。車の轍の下りぬ先から膝掛を退けて、丸めて、赤い指に掴み上げてゐたが、其所に下りれば車夫が出す淺黃の大風呂敷をば、布袋のやうに抱へながら、

「可ござんすよ、もう。大きに御苦勞樣でしたね。」言ふもせか〳〵と、發着所の搆ひに入らうとするのを呼止める車夫。「姉さん、まだ……代を、頂きません。」

朝まだ早きながら秋近き汗の、彼が肌を潤してゐるのを、古手拭に拭ひもあへず。「あゝ、さうだつけ。」はたと想出して振返つた女は、「御免なさいよ、急いでたもんだから。」「へえどうもお氣の毒樣。」

言ひながら片方の肩を聳かすと見れば、それは紫繻子の帶の間に手を挾入れるので、彼は紙に拈つた錢を其儘車夫に與ふる所。

「どうも、濟みません、難有う。」

車夫が紙の中を改むる間も、此方は急がれて、一歩二歩と踏みながら、「ねえ、あつたでせう？」車夫は悠然と銅貨を數へ了つて、「へえ、確にありました。」けたましく鳴る鈴に、婢は反射的に中に飛込む。

後に車夫はかの錢を確に納めて、又例の汗を拭つて、その、手拭を腰に下げながら、曙の天を後に空を絞つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て行く。正面の新大橋は早人通り繁く、往來を警戒する巡査より、仕事場へ行くらしき大工の一群、欠伸交りに語りながら來れば、某の工場へ通ふらしき職工の一人二人、彼等はこの一日を鋸屑と煤とに塗れるのであらう。

牛乳屋で新聞を讀んで、歸りを水天宮にお參りしてのふらねる姿の男は、六つばかりの男の兒の手を牽いて來る。

「まだ、日が強く射さないから、川端から歸らうね。」口付の烟草を薰らしながら、「どうだい正ちやん、あのお天道様の奇麗な事。」

指す彼方の天は紅に、横雲の棚引く間から美しき旭の影の、川面に映じて、このあたり冬は一面の朝霧深く、かの製鐵會社の山脈の如き烟突も、時には見え分かぬ位。この朝は特に明かにそれらの望まれて、橋の袂の自動電話室の硝子の反射も花やかに。

「阿父様、お天道様つていふもんぢやないつてよ。」

事の意外に父は驚き顔で。「何ていふんだ、それぢや。」

子は殊更にしたり顔。「阿父様、あれや太陽つてもんだよ。」

只見れば、尻切半纏を着た船の上の人は、水中に垂れてある綱を頻に手繰つてゐるので。その手繰り〳〵行く程に、數尺を離して黒い筒のやうなものを上げて、これを船の上に乘せる。その黒い筒のやうなものは。漸く手繰り上げて數限りなく、さしもに狹い船の上に山をなす。「何？あれは、阿父様。」「見てお居で〳〵。あれはね、あゝいふ工合にして鰻を取るので、あの筒を水の中へ入れて置くと、いつか中へ鰻が入つて居て入るともう出る事が出來ないやうになつてゐるから、澤山取れるのさ。」「鰻？鰻を取るの、面白いなあ。」其所に川の面には二三の鰻取りが舟を泛べて、同じ様に綱を手繰るのを見て、子はさも樂しげに、「ねえ、阿父さん、鰻も動物なんだねえ。」「あゝ、さうだよ。」

早起の門は旣に姉などの箒持つがあつて、某別莊の二階に白き窓布の時ならぬ雪と見え、川を越して安宅町の火の見櫓より、洲のある方の水翠に、此方は細川侯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の別邸に、常盤木の森の繁り合へる、また來鳴かぬ蟬の今は靜に、上げ汐の岸は灣曲になつて、果は日本橋倶樂部の庭の新緑の影消し。

さすが睡げに見える派出所の巡査より、十一二の男女の子が、砂利置場に打群れて、頻にダックスエンドドレエクスを試みて居る。

「兄樣、今度私やるは。」「みいちやんはお轉婆だなあ。」「出來るもんかい。」と罵るは最も年長の兄。「みいちんがやるんなら、石を拾つてやらあ。」

他の一人が深切に砂利の中を探り〳〵て、「何でも何だ、水を切るのには、かう平つたい、薄い奴でなくつちや、甘く行けないんだ。甘い〳〵、是が可や、與らう、みいちやんに。」「難有う又こゝにもあつた。」

三つ四つを彼に與ふれば、妹は嬉しげに腕まくりして川面に、力一杯に石を投げたが、さて女の甲斐なさに一つ二つだに石は水の上を切らぬ。

「やあい駄目だ〳〵。だからお轉婆だつていふのだ。」「拙いや、みいちやんのは。」「かういふ鹽梅にやらなくつちや。」

歎ふる子もあつたが、とても小女の痩腕に出來得べきことにあらで、徒に兄等のする所を眺むるより詮もなし。

まだ若き人の妻の、乳母車にまだ產れて間もなき嬰兒を乘せて行くもあれば、食を求めかねて朝露に濡れたる乞食の悄然として、彼方の辻に出るもあり。

横雲の漸く晴れ氣味に、ほの〴〵と旭の影の照り添へば、川は一面に金を流して、漕ぎ行く船の人も金の冠を着たかの如く。

一つ目の橋下を出た渡し舟の、また朝も早ければ多くの人を乘せては居ず、三五の客を坐らせて、この大河を横切らんとする。この時大橋の方より、烟を吐き響をなして走り來る大川滊船の、傲慢なる滊鑵の樣して、彼方の兩國に消ゆる程、立つ波の俄に强く、今しも漕ぎ寄らんとする汀に近く、かの渡しの舟はすさまじく水上に躍る。乘る人の膽や冷えて。

靑物市場の人旣に起きて、この未起に着きたる物揚げ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

場の上の、大傳馬より下す筍の一荷。之に係るは數人、等しき印半纏に身輕の出立して、一心になつて物を揚ぐる樣。

▲夜

東京の名物として迎へらるゝ砂塵、而かも今日はこの黄昏るゝ頃まで、强い西風であつた爲め、正午近き空は晴れ渡つて雲もないのに、砂が天を蔽ひて、日も爲めにその神々しい光を汚す樣。

此の時に到つて漸く凪ぎ口になれど、川の上はなほ風立つと見えて、南より、漕ぎ上る五大力、傳馬、千石積の數々は列を造つたやうになつて、その間を數間と置かず、悉く充分に張つたる帆は、かのこちたき風を孕んで、矢を射るやうに上つて來る。折節の浪はまた强く、而かも引汐。

西北の空は夕映の光淸く、兩國の架橋工事はなほ蜘蛛手の足場の中にあつて、電燈會社の對の烟突は今しも盛に烟を吹き立つて居る。

この白江東伊勢平樓には、何かの音曲會のあつたらしく、川に響く琴の音は、なほ名殘に聞こえて、ちらほらと見える燈の、それは靑灯提燈に灯したるぞと見えて。

戸田邸の前なるおでん屋の店には、時しも十二ばかりの小僧が立つてゐる所。「小母さん、矢張筋にするよ。」汚れ切つた暖簾の内に頭を隱し、大名縞、洗晒した單衣に、小倉の耳の擦れた帶の後を見せてゐる。「小僧さんは、お芋嫌ひかえ。」と中にゐるおでん屋の婆の聲。

「うゝむ、嫌ひぢやないけれどもね今店で御膳を喰べて來たばかりなんだもの、だけど是から龜井戸まで行くんだから、遲くなるとお腹が空くから、それで今喰べて置くのさ。」

「さうかい。而してまあ、今から龜井戸の近邊までぢや、夜が短いから十時頃でなくちや歸れまいねえ。」

「あゝ歸れないよ。」

「まあ、而して、今の内精出して奉公してゐれば、直

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぐ盆だね、お前さんは、盆の宿下樂みだらう。」
「いゝえ。」「だつて何所の小僧さんでも、盆や正月の宿りといふと、前から樂みにしてゐて、その日は暗い内から起きて、阿父樣や阿母樣の所へ行くものぢやないか。」
「そりや他の小僧は樂みだらうけども己等は些も樂しみぢやない。」
「何故さね。」「己等にはね阿父さんも、阿母樣もないんだよ。」
「さうかい、まあ可哀想に。而して、お前さんの阿父さんや阿母さんは、亡りでもしたのかえ。」
無雜作に暖簾を退けて、かの丁稚少し涙汲んだ星のやうな眼を拭いて、小さな風呂敷包を抱へたなりに、兩國の方へ駈け出して行く。
早暮れ〱の空に、足元も餘程暗くなつて來る程、花屋敷の方から二人道を列ねて、對の海老茶の袴を穿いた十七八が、道を釣棹屋の角から南へと折れて行く電燈の光はさつと二人の束髪のリボンを照す。

「まあ涼しい風ね。」と一人が言ふ。「涼しい風は可けども、もう直に別れるんだわ。」「さうね、もう直ね。」
「貴女ん所へ行くのに、彼方の久松町から入つちや損?」「いゝえ、損ぢやないけども、路が單調で面白くないんですもの。」
言ひながら、二人は語り合はしたやうに、風に亂るゝ髪を搔き撫づる。振の袂は又その風に煽られて。「いつ通つても、川の景色は可いはね」「隨分お友達が山の手の方にあつて、花の頃や新綠の頃に、面白い景色見に行くけども、私やかういふ大きな河が横はつてゐて……まあ御覧なさいよ。大きな船が小さな青い燈を點けて行くわ。何所からか琴が聞こえるは。可はねえ。だから私、兄樣にさう言つて此所が去れないのよ。」
「私やまあ、深川つ子だけども、朝夕に新大橋を渡つて通ふのに、この河を視ると、心の結ぼれてゐる時なんか、氣が清々するわ。」「本當だはね」「本當よ」「貴女山は好?。」「私や山の中で產れたんだけども、山は嫌ひよ。」「私も大嫌ひ。何といふ理由もなく嫌ひなんで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せう。」「さうなの。」「私も。」「可笑いわねえ。」一人は後を振返つて、「ねえ、隨分、だがこの市場の人は人が惡いわね。」「あら、貴女も人の惡い事知つて丶？」「それや知つてるわ。」「それぢや何か言はれた事があるんでせう。」「あるのよ。」「私も。」「さう。」「憎らしいのだつて、かうなのよ、聽いて頂戴。朝は此所ん所は市が立つて大變な混雜なんでせう。だからね、私やいつも怖いから、通るには駈け拔けるやうにするのに、さうさう、あむまりだから日まで覺えて居るわ。十二日の日よ。少しから雨が降つて、お負けに吹き降りなんだから、傘を前にして、駈け拔けやうとすると、運惡く、丁度薑の荷を擔いで行く人に打付かつたの。さうするとね、その薑が笊の外へ轉り落ちたわ。それからねえ、私ねえ、かねぐ\此所の人の善くないのを知つてゐるから、逃げるよりは謝つた方が可と思ふもんだから、濟みませんでした御免なすつて下さいといふと、どうでせう、その返事もしないで、大勢周圍へ集つて、盲目の女書生！　つて怒鳴つたのよ。私やもう、顏から火が出さうになつて、逃げ出したわ。それつ限、此所は晝間は通らないの。」

「まあ、さう。私はそれほどの目には逢はなかつたけども、いつも私達が通ると、彼所の女が出てゐて、人の顏を見ちや、妙に嘲るやうに笑つてゐるもんだから失敬な奴だと思ふけども、又何だから、默つて知らん顏して通るのよ。」「さうですか。」と言ふ内に「もうお別れね。」「心細いわねえ。」「それじや。」「左樣なら。」互に禮して、袴を風に飜へしながら、一人は二丁目の角を曲つて行く。大橋の方から横笛を、さも樂しげに吹きすさみながら來る人。かと思ふと後から、何とも知らせなく夢の如く打過ぐる自轉車。　（をはり）

朝鮮婦人と賣藥

朝鮮は其國風として婦人が男子に對し言語を交ふる如きは社會の嚴禁する如き姿なれば行商人たるものは最も其風彩と動作に注意するを行商上の最必要件とす、朝鮮にては其主人の不在中其家を訪問する等のときあるときは其婦女たるものは門扉を鎖したる儘其內部に在て云ふに（本日は主人不在に付其旨を申上げよ云々）と云ふ如くにして、夫人は决して他男子と直話せざると云ふを示したるものなり、右の如き國柄なれば萬一行商人たるものが本邦流に大聲を發し賣藥の要否を無暗に問ひ廻る如き擧動を示すときは、必要なる賣藥も爲めに需要せざるのみならず多くは之を避けて房裏に遁走し恰も惡魔の襲來を彷過せんとするの有樣に至るべしと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人界彙報

▲愛國婦人會の近事　愛國婦人會にては其目的たる軍人家族救護に從事しつゝある傍ら軍人慰問にも種々盡力する所あり現に各師團出征の際は其都度特に慰問使を派遣し又昨今は各豫備病院に就て傷病軍人軍屬の慰問中なるが尙ほ不日奥村五百子女史は健康回復次第慰問の物品を携へて滿韓各地を巡廻し親しく出征軍人軍屬を慰問せしむることに内定したりと又た同會にては會員其他の功績を公にせんがために今般左の事實につき調査すと

一、篤志を以て本會へ金品の寄附等をなし奇特の行爲ある人々の事實談

一、本會に關せざるも軍國女子たるの本分を盡しつゝある婦女の事實若くは出生軍人家族にして能く閨門を守る令聞ある者

一、本會の爲に熱心盡瘁せられたる形跡ある人若くはせられつゝある人の事實其の他

一、支部長以下幹事の寫眞送付のこと

▲篤志看護婦人會の慰籍　同會にては去九月十一日傷病兵の繃帶交換のため會長鍋島侯夫人幹事松平伯夫人土屋徑子、阪井[illegible]子の四氏新橋患者休養所に出張し將校には名刺入及び扇子を下士卒には帽子一個づゝを贈與したり又十四日には會長鍋島侯夫人幹事山上伊集院高松三夫人及び米國ヲエスト孃等同所に到り其日着せし傷病兵の創口洗滌、繃帶交換等をなしたりといふ

▲帝國軍人援護會の寄附金　帝國軍人援護會の寄附申込總額は、金百十四萬九千二百四十圓に達し、其内一萬圓以上の地方は、東京の八二七九七六圓、大阪の八八二六三圓、神奈川の三九一〇〇圓、兵庫の二四三四八圓、福岡の一〇、〇〇〇圓及在海外本邦人の一五四一圓等にして、外國人の六一三、三一九圓、其申込の皆無なるは長崎、栃木、奈良、靜岡、宮城、福島、福井鳥取、島根、和歌山、高知、大分、佐賀、宮崎鹿兒島、沖繩の各縣なりといふ

▲婦風會の慰問袋　婦人婦風會にては開戰以來慰問袋といふを調製して之を出征軍隊に送り來りしが、征旅にあるものゝ多き到底會員間に募集するのみにては廣く行き渡らざるより汎く社會に訴へ觀櫻會の蠟燭代を節して此袋を寄附せられんを乞ふ事としまづ神田方面より勸誘を初めたるに忽ち五六千個の申込あり中には非常にこの擧を贊成し特に其店員を以て慰問袋係として盡力せしめたる篤志家さへありと有志の諸姉は當つてこの趣味ある擧に贊せらるべし

届先は麹町區上二番町女子學院矢島楫子橫須賀中里七十一番地淸水富喜子の兩所（袋は巾六寸長一尺位の小袋なり）見本入用の人には直に送る可く又自ら製作の暇なき人には一個六錢の實費を以て讓る由なり

▲日本力行會慈善演藝會　日本力行會は學資なき有爲の青年に獨立力學の便宜を與ふる爲數年前島貫兵太夫氏の設立せしものにて、其渡米部の如きは既に二百五十餘名の渡航者を出し、尙今般渡韓部をも設け韓國にわが新勢力を扶殖して戰爭の効果を永遠に強固ならしめんとする事を贊助して、鳩山岡部高木山脇三輪田等の各有力婦人發起となり、九月廿四廿五の兩日午後一時より歌舞伎座にて慈善演藝會（活人畫、活動寫眞）等を開き其所得を仝會に寄附したりと。

▲濠國婦人の特志　濠國婦人アンナガーメリー孃は同國駐剳牧野公使の紹介を以て一昨日松方日本赤十字社長に面會し自費にて本邦傷病兵の救護に盡すべく切に從軍の許可を得たき旨申出でたるに付同社にては戰地救護は其準備充分なるが故に詮議の上内地看護に從事せしめんとの意向を傳へたる由尙ほ孃は目下築地メトロポールホテルに投宿し居れりと云ふ

▲英國少女の美擧　橫濱市山手町三十八番居住山下町二十一番ハント商會支配人セー、シー、ハーランド氏の長女ジチーン孃といふは十六才なるが殊勝にも我が傷病兵士の澁ヶ原に療養し居る無聊を慰めんとて豫て父より貰ひ與へられたるスクラップブック二帖に各種の繪畫を切抜き貼付せるものを寄送せんとて先頃橫濱奬兵義會に其手續を依賴したりと

教育界彙報

▲芝公園女學校の移轉　芝公園舊能樂堂前なる戸板裁縫女學校は校長戸板關子女史の熱心なる教授の下に校運頓に揚りて校舍の狹隘を告げ現在の生徒を收容する能はずなりしより今夏七月以來同區三田四國町二番地に新校舍建築中なりしが去月上旬に至り落成を告げたるを以て其の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

月十六日新校舍に移轉開校式を擧行したり

▲東亞女學校の特例　神田雉子町なる同校にては今回戰爭中は入學料を要せず月謝を半額とし且つ出征軍人遺族の子女にして中途學業を廢せしものに對しては特に無月謝にて教授する等の特例を設けたりと

▲濟美音樂學校　音樂家赤星國淸氏は明治三十五年家庭音樂研究の目的を以て、麻布幼稚園にオルガンの教授を開始し、翌年ピアノヴイオリンの科を加へて濟美會なる者を設けしに、事業頗に發達し來れるを以て、今度濟美音樂學校と改稱し、江原素六氏を校長として、教場を芝三田四國町東京高等女學校内に移し、上記の三科の外マンドリン、唱歌、樂典、薩摩琵琶(西幸吉氏擔任)等、舞踊、樂器修繕の諸科を教授する由、尙ほ教授時間は女子部午后二時より五時まで、男子部午后六時より八時までとし、入學金五十錢授業料一ヶ月一科五十錢の規定なりと。

▲女子哲學講話會　大日本女子教育會にては女子哲學講話會なるものを新設し今十月中の各日曜日午後一時より凡二時間宛教授する由、講師は桑木博士にして、其の講話題目は眞理とは何ぞや、宇宙とは何ぞや、絕對とは何ぞや等なりと

▲日本女子大學校秋季運動會　同校にては來る十七日(神嘗祭)同校構内にて第四回秋季運動會を催さるゝ由、當日演技の重なるものは左の十數種にして猶は此他アルサート體操自轉車及び數十番の競技ある由委細は次號

且暮鈴(西班牙遊戲)　ザオトル、サンテ、(佛國遊戲)　星月夜(葡國遊戲)　水神舞(米國遊戲)　化装兵式(日耳曼遊戲)　カーメン(西班牙遊戲)　鐘の響(米國遊戲)　結合體操(英國式)　調和體操(佛國式)　プリンセス、ガボット(英國遊戲)　初瀨の最後、木環體操(英國式)　第二あまぞん(羅馬式)　種輪體操(米國式)　第二虹霓舞(佛國遊戲)　衡秤運動(英國式)

職業界彙報

▲新橋驛女子職員募集　鐵道作業局にては本春來新橋驛に女子職員を採用し、出札事務を擔當せしめつゝありしが、其成績は頗る良好にして、從來の如く乘客に對する應接も頗る圓滿にして、衝突することなく事務も敏活に運ぶを以て、更らに女子職員を增員することとなり、高等小學卒業以上の學力を有し、年齡十六歲以上廿五六歲迄の容姿普通なる者を採用すると云ふ、志望者は自身履歷書携帶の上同驛長迄申出べしとなり

▲東電の女子計算方採用　曩に市街鐵道にては乘用切符及び賃錢計算方に女子を採用して成績良好なりしを以て今回東京電車鐵道にても同樣女子を採用する事に決し十六歲以上の女子若干名募集中なるが其の事務の女子に適切なる職業柄とて希望者も非常に多數なる由右採用の上は一ヶ月見習の後任務に就かしむる筈なりと

▲軍人遺族の授產　京橋區長及び同區名譽議員等は農商務省商品陳列館に出願し、遺族婦女子に適當なる工業を實習せし結果、經木眞田の製造業が最も有望なりと判りし故、追て此種の授產工場を興すべしといふ。

▲軍人家族救護方針　出征並に應召軍人家族遺族の救護上に對する當局者の方針は左の如し

一、出征並應召軍人家族遺族の救護は時局の如何に依り長期に涉るを以て該家族遺族をして可成獨立自營の途を採らしむるが爲め生業補助を目的とする事

一、濫りに他の救助濫施を爲さしめず自己の資產勞役等に依り自活の途なき者と雖も相當の扶養義務者ある時は之れをなして扶養せしむる事

一、惰民助長の弊を生ずる處の施與的救助をば爲さゞる事

一、市街地に於ては資料を給し生業の途を立てしめ又農業地方に於ては勞力を供し耕耘に助力する事

▲赤堀峯吉氏の訃　明治割烹界の泰斗赤堀峯吉氏は假性胃癌に罹り去月十四日遂に平松町の家に永眠したり、氏は近代治庖家の白眉赤堀峯翁の長男にして幼名を熊右衛門と稱し父に隨ふて斯業を擴進し明治十年來令姉赤堀菊子と共に女子教育に盡し女子大學を初め六校三千餘人の門弟を教授して宮内大膳庖士の多數を出だせるの盛運に達したり、氏や性至孝最も交際に長じ議論確實價に昭代の斯界に覇たりしに、不幸天之に壽を假さず、享年五十一歲を以て卒す惜しい哉、因に氏の遺著には「家庭十二ヶ月料理書」「家庭料理教科書」「家庭和洋料理法」等あり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界第十四號 記事豫告

十一月五日發行

▲家庭の賞罰	寺田勇吉
▲嫁の選ばれ方	嘉悦孝子
▲戀愛神聖説	黒岩周六
▲和歌と戰爭	大隈伯爵
▲模範家庭	庭芝來
▲模範家庭	中村鈴子
▲家政二十四時	河西璞
▲貴婦人の嗜好	中村鈴子
▲姙婦健全法	女醫者
▲少女の家庭觀	白井俊三
▲支那史上の婦人	大町桂月
▲熱の話(科學)	高田濱子
▲鹽の話(科學)	SM生
▲離縁の娘の一生	堀內新泉
▲女演説家	小田花子
▲女子と職業	△△△
▲社會百生活	△△△

每月五日發行

定價表

一冊(紙數二百八頁)…金二十錢
四冊(三ヶ月分)…前金七十五錢
八冊(半ヶ年分)…前金一圓四十五錢
十六冊(一ヶ年分)…前金二圓八十錢
内{定刊數…十二冊 增刊四回…三、六、九、十一月價格同一}

郵税 一冊 二錢

廣告料

二十四字詰	一行	半頁(卅二行)	一頁(六十四行)
特等	四十四錢	十四圓〇八錢	割引三十三圓
一等	三十六錢	十一圓五十二錢	割引二十七圓
二等	二十九錢	九圓二十八錢	割引二十二圓
三等			割引十八圓

▲等級の位置ノ切日等御照會次第御報可致候

注文規畧

●本館發行の圖書は都て前金の外送本せず
●御拂込の前金相切れ候節は送本を停止す
●郵劵代用は一割增にて五厘一錢の切手に限る
●總目錄御入用の方は二錢劵相添申込あれ

不許複製

明治卅七年十月五日發行 第四卷第拾參號

編輯兼發行人　松原岩五郎
印刷人　水谷景長
印刷所　東京市小石川區久堅町百〇八番地　合資會社博進社工塲
發行所　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

電話本局
三百三番　二千六百二十番
千十八番　三千二百二十九番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醫學士　近藤常次郎君著

仰臥三年

正價三十五錢　郵稅八錢

▲讀賣新聞評　醫學士たる著者が病蓐に仰臥する三年具さに疾病者の苦痛懊惱を經驗し得之を醫術と哲學とに照して大に悟る處あり大に悟つて以て世人に警告せるもの則ち之なり其の「病を苦慮することゆめ〳〵尤めんとにあらず汝の生命は唯汝一人のみ眞價を知ればなり然れ共汝は又如何なる聖者も心配を以て病を平癒せしめたる奇蹟を有せざることを察せざる可らず」と言ふが如き頗る味ふべきものなり

續仰臥三年

正價三十五錢　郵稅六錢

本書は近藤先生仰臥三年の續編にして一名養病讀本と稱す蓋し本書は二卷五章より成り、而して養病大意一章は本書の原理論にして病牀隨筆、俳句記抄、枕頭玩占、の三章は合して之れが方法論をなし、仰臥禪話一章は先生の經歴なり、是れ首章と相照應して一理を構成す寔に文壇新奇の佳編にして讀者の是非一讀せざるべからざる珍册なり、前者仰臥三年は出版早々讀書界の歡賞を博し版を重ぬる數次、今亦此編成らんとす、讀者競ふて先鞭を着けよ

發兌元　東京博文館發行

發兌元　**哲學雜書**　博文館

鐵禪日毅居士著

●活ける法華經（全一册）

正價金三十錢　郵稅四錢

人間問題の解決、宇宙問題の解決、宗教問題の解決は刻下思想界の求需せる所にして、之が供給に出でたる新著近來尠からずと雖、多くは皆龍を畵て睛を點せざるの憾みなくんはあらず
著者茲に慨するあり、二十年來研鑽の結果、獨得造詣の意見を發表し、如上の問題を決すると快刀亂麻を斷つが如し、佛陀再ひ世に出つるも、復一語を加ふる所なからんか
特に其論斷の明快にして、筆法の靈活なる、縱橫自在天馬空を駈り蛟龍濵を蹴るの槪あり、眞に是れ近來稀有の快文字、思想界の太陽なり、既刊の論著恐らく顔色なからん

櫻井駿君著

●酒量大觀（全一册）

正價金三十錢　郵稅四錢

酒量觀解釋の由來、酒量觀傳道法の攻究、廣島に於ける酒量の勝利、選擧區の紀念としての酒量、信越の大雪と酒量、九州に於ける酒量の大勝利、露都に於ける酒量觀の大氣焔、亞米利加盤若湯、米國に於ける紀念として酒量論と蓄音機、日本人の酒量、英人の酒量通覽、歐米に於ける禁酒論の贊否、内外各種酒類精分對照及分析表

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

修養圖書

文學博士中村正直先生譯述

改正 西國立志編

全壹冊 洋裝

▲正價金二十七錢……………郵稅金八錢

故中村先生の西國立志編は明治三大出版の隨一として其譯語の精緻なるは古今飜譯書中の巨擘と稱せられ其文章の雄健明快なるは、スマイルス氏の原文に優ると鮮等なりと稱せらるのみならず事皆精神の修養と德性の涵養とに繫り、人生の大勇猛大健德を發揮して餘蘊なし、弊館先年其版權を讓受け、紙質を撰み印刷を鮮明にし以て刊行せしに今や第拾參版を發行するに至れり、請ふ愛讀を給へ。

東京女學館教授西田敬止先生編

益軒十訓

全壹冊 洋裝

▲正價金壹圓……………小包料十五錢

此書は本邦教育家の泰斗たる益軒貝原先生の通俗訓蒙書類十種を編次じて丁寧に校訂を加へ詳密に標註を施したるものなり其目を擧ぐれば

目次

●五常訓 ●文訓 ●君子訓
●大和俗訓 ●武訓 ●養生訓
●童子訓 ●道家訓
●初學訓 ●勇訓
以上

發兌元

修身立

米國 ジョン、トツト氏譯著
日本 吉田己之助氏譯述

●成功遂志 勸學要訣

正價金二十八錢 郵稅六錢

米國ジョン、トツト氏の原著にして該國に於ては數十版を累刊せし近來の大文字と稱す、吉田氏之を譯述して倘原著の我邦に通せざる所を折衷又は敷延し以て錦上に花を添ふの盛觀を呈せり我國の學生たらんもの請ふ一讀して成功遂志の實を全ふすべし

法學士丸山昌雄君著

●日常行爲法則

正價金二十五錢 郵稅六錢

人間の此世に處する、其日常の行爲に就て、豈一定の法則の之を律するなかるべけんや。丸尾法學士本編を說述して極めて詳密。寢食起臥、坐起進退、出處行動、一目瞭然たり、讀者以て坐右の銘と爲すべし、

（後付の二）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文學士　荻原朝之助君著

帝國脩身軌範

全四冊
和　装

▲賣價　一冊拾錢……郵税　一冊四錢

本書は教育勅語を以て全篇の骨子として學生をして倫理道義の大本を知らしめ我四民に必須なる德性を涵養すべき目的を以て編纂せしものなり故に其擇ぶ所の事實は悉く本邦人士の事蹟にして且極端に偏せず勉めて中正の要を得たる儀範を以てせり江湖の學生諸彥是非購讀あれ

風間禮助君著

偉人修養錄

全壹冊
洋　装

▲正價四十錢…………郵税拾八錢

巨匠先哲が難局苦境に處りて智識の脩養に志せし動機と之を成効せし經路とを論述例證せしもの、即ち偉人脩養錄なり、その脩養を志すに至りし心機轉轉の微を發きその成効に至りし苦心經營の狀を叙する恰も古今東西の先賢を紙上に喚び集めて之をして親しくその經歷を口演せしむるの概あり、譯者流麗の筆を着けて、之を譯述するや、一部死然たる四百餘頁の書、趣味津々全巻に溢れ來る是れ學者の好侶伴にして非學者の嚴師父なり

發兌元　東京本町　博文館

志　雜　書　　博　文　館

法學士　桐生政次君著

●勤學と處世

正價金二十五錢　郵税六錢

學問は難し、去れど學校を出でゝ學びたる所を實地に用ひ、一身を世に立てゝ社會風波を凌ぎ進むこと最も難し、本書は勤學と處世の方法捷徑を最も適切に最も平易に叙しなるもの、青年男女及び子弟を有する父母兄姉の方々之を一讀し玉はば、補益少なからざるべし。

澁江保君著

●世界格言大全

正價金四十錢　郵税四錢

寸鐵能く人を殺して鞭の長馬腹に及ばず要するに至言は瞥々の辨を須ゐず至理は零々の言に寓せり唯其零言雙辭故を以て記するに易く一咀嚼して之を事に施すべし是に於てか格言俚諺百世にして磨せず論せず千歳猶新なるが如きもの萬國皆然り以て誡むべく以て興ろべく言々成な實用に施して汎應あるなし宛も金剛鑽の一粒にして萬金に値するが如く零言雙辭の効或は充棟の載籍に勝るものあらん澁江君の此編用意既に齊博綜儕採亦勉といふべしとは岸上質軒君本書に序せらるゝ所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦女必讀書

吉田調子君著
裁縫と編物
全壹册
洋装

▲正價金二十五錢——郵税六錢

女子の尊き天職は母として子女を育成し妻として一家を齊整するを主とす特に家族の衣服類は一として女子の手に繫からざるなく裁縫及び編物は實に女子として尊卑に論無く最も必要の手藝なり本書に於て懇切叮嚀其順序方法を解明し一讀其術に精通すべからしむ。

博文館編輯局編纂
衣服と流行
全壹册
洋装

▲正價金二十五錢——郵税六錢

衣服は體を蔽ひ寒を防ぐ實用の外又美を添へ氣品を加ふ故に社會の進歩に隨て衣服彌よ美に流行益よ盛なり本書は和洋流行嗜好の變遷及び今時の流行等を詳叙し文の足らざる所は優麗精緻の畵を用ゐ懇切叮嚀に之を説明す紳士貴女等若し本書を身邊裝飾の參考に資せば風采彌よ優美高尙なるべし

發兌元　家庭教育

落合直文池邊義象兩先生合著
●家庭教育歴史讀本 花の白雪

▲正價金拾八錢——郵税四錢

● 能褒野の露……日本武尊の事蹟
● 裾野の嵐……曾我兄弟の復讐
● 御船の浪……神功皇后の事蹟
● 土のむろや……護良親王の事蹟
● 宇佐の御使……和氣清麿の事蹟
● 恩賜の御衣……菅原道眞の事蹟

落合直文池邊義象兩先生合著
●家庭教育歴史讀本 卯花月夜

▲正價金拾八錢——郵税四錢

● 名古曾の關……源 義家の事蹟
● 宇治川……佐々木高綱事蹟
● 屋島浦……那須與一の事蹟
● 小松の雪……俊寛僧都の事蹟
● 鬼界ヶ島……平 重盛の事蹟
● 鳥羽の戀塚……袈裟御前の事蹟
● 鶴ヶ岡……靜 御前の事蹟
● 館の血烟……忠興夫人の事蹟

(後付の四)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鈴木光次郎君著

明治閨秀美譚

▲正價金拾貳錢――郵稅貳錢

浸潤膚受の力は、實に驚く可きものありて存す。古來哲人傑士の、其母より受る感化の大なるは、史傳之を示して炳焉たり。婦人は實に社會の潛勢力、賢母良妻の國家に裨補する所誠に測る可らざるものあり。本書は明治閨秀の言行實錄にして、實に社會の龜鑑たり。

全壹冊　洋裝

關如來君著

明治の令孃

▲正價金三十五錢――郵稅四錢

明治の令孃は、上は貴顯縉紳の令孃より下は貧困苦樂の女學生に至る、才學絕群超凡、德行端嚴貞淑、採て以て明治の令孃の摸範となり規矩となるものは擧げて之を一卷の中に收めたり、以て世人が知らんとする高貴の家庭の如何を推知するを得べく現今令孃の如何なる學校及び家庭敎育の下に生長して他日の良妻賢母となるべきを觀察するを得べし。況んや著者が文の筆力穩健、縱橫變化、其人に因りて其筆を運び、刻畫精緻、活畫生くるが如し、以て家庭の好讀本とすべくまた以て令孃の好侶伴たり。

全壹冊　洋裝

發兌元　東京本町　博文館

史談圖書　博文館

落合直文池邊義象兩先生合著

家庭敎育歷史讀本　紅葉の錦

▲正價金拾八錢――郵稅四錢

- ●青葉の笛……平　敦盛の事蹟
- ●日野の若草……阿新丸の事蹟
- ●森のあらし……森　蘭丸の事蹟
- ●尋わぬ虫……藤原師賢の事蹟
- ●行宮の櫻……兒島高德の事蹟
- ●菊の下水……楠　正成の事蹟
- ●八道の野分……加藤清正の事蹟

落合直文池邊義象兩先生合著

家庭敎育歷史讀本　枯野の雪

▲正價金拾八錢――郵稅四錢

- ●關城の雨……北畠親房の事蹟
- ●越路の雪……新田義貞の事蹟
- ●如意輪堂……楠　正行の事蹟
- ●泉岳寺……赤穗義士の事蹟
- ●六無齋……林　子平の事蹟
- ●玉の御聲……高山彥九郎事蹟

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

國語字典類

大和田建樹先生著

日本大辭典

全壹冊　洋裝

▲正價貳圓貳拾錢——小包送拾五錢

●日本新聞評　編者は大和田建樹氏也、今言海等に比較するに此書の特色は平易にして通俗的なる所にあるが如し其言語の順序從來の如く五十音を用ゐずして「いろは」に從ひ言語の分類を假名遣ひによらずして發音に任せしが如き其傾向を見るべし云々故に言海等に比すれば通俗に向つては却つて便宜を與ふること大なるべし。

大和田建樹先生著

日本小辭典

全壹冊　洋裝

▲正價七拾五錢——郵稅八錢

本書の特色は解說の簡約なるに在り、雅俗其中を得るに在り、搜索其宜しきに適するに在り、携帶の至便なるに在り、紙質善美にして印刷の鮮明なるに在り、著者は嘗て日本大辭典を編して世の好評を博したる大和田先生なるを以て、其文學社會に、教育社會に、專門社會に、普通社會に、如何に歡迎せらるゝ良書なるかを知るに足らん。

發兌元　俳諧圖

三宅青軒君著

●俳諧獨學

正價金二十五錢——郵稅六錢

僅かに十七字中に物象情懷を咏じて、限りなき餘韻風趣あるは俳諧なり、今や斯道に志すもの都鄙に多く俳運の盛なる將さに元祿時代に迫らんとす、本書は斯道の栞として丁寧懇切に句作の方法式例を擧げて初步より堂奧に至るまで殆んど漏す所なし。

竹村秋竹君序

●明治俳句

正價金三拾五錢——郵稅六錢

維新王政の復興は明治文學の勃興となり俳句の革新を促し以て今日の盛況を見るに至れり、故に國內の新聞雜誌にして此等俳家の句作を載せざるもの殆んど稀なり編者別に審美眼を以て方今作家中好句と認めたるもの二萬以上を採り更に其中より七千餘を撰擇して本書となす春夏秋冬此本なかるべけんや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

佐々木弘綱君　岡野伊平君共著

假名遣 枕詞字典

全壹册　洋裝

▲正價三拾錢――郵稅六錢

我古文書を讀むや枕詞の多き其出所淵源を審にせずして終に一文の葩屆美妙の意味を掬するに由なく或は文意の存する所を誤る蓋し少しとせず本書は皇學に精通の聞へ高き佐々木先生岡野先生が初學の便を計りて編纂せられしものにして斯學研究者必携の字典なり。

棚橋廣君著

日本新(はいろ)字典

全一册　和裝

▲正價三拾錢――郵稅四錢

世に節用集多しと雖或は略に過ぎて用字少なく或は多きに過きて不用の言辭を輯む此書は舊辭の迂遠を省き當今專用の字音を採り假名を正し日用の要語を多く收むるが故に其實用上の至便なる到底他書の及ぶものにあらざるなり。

發兌元　東京本町　博文館

書廣告　博文館

雪中庵雀志宗匠校閱五乳人釣雪君編

●俳諧提要

正價五十錢――郵稅八錢

懷を物外に述べ心を風月に養ふもの、詩歌あり俳諧あり、而して平民一般に適して部鄙到る處に吟賞するもの實に俳諧にあらずや、五乳人釣雪氏は斯道に最も熱心なる人、本書を編輯する爲め丹誠を盡す事二十有餘年遂に此提要を大成せり、其揭ぐる所明心居士の御傘、新重入道のはなび草等を初め、故人大家の垂戒示敎せしもの多くは之を納む皆是れ斯道の奥義に關する珍書なれば世間又容易に得易からざるべし請ふ一部を机上に備へて淸賞の伴侶とせられよ。

老鼠堂永機君編

●俳諧自在

正價壹　圓――郵稅拾二錢

有情無情天地の森羅萬象を捉へて、之を十七字の內に收むるもの是れ我俳句にあらずや、此平民的文學を解釋して其起原沿革及び作法等を精細に敍述し以て初學者の指南車たるものは此書なりとす、俳家の泰斗永機宗匠の心血を灑がれしもの請ふ一本を購ふて斯道の妙趣を味ひ給ふべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

西川政憲先生著
育兒體育 健康要訣
正價金三十錢　郵稅四錢

●第一章　結婚の注意＝（一）結婚の時機（二）配偶者の撰擇法（三）血族結婚の利害●第二章　嬰兒の體育＝（一）睡眠（二）入浴（三）空氣（四）光線（五）四肢（六）發音（七）衣服（八）飲食（九）嬰兒取扱●第三章　幼時の體育＝（一）衣服と組合（二）起居の規則（三）玩具の撰擇（四）冷水養生（五）室內遊戲（六）戶外遊戲●第四章　少年者の體育＝（一）室內體育（二）戶外運動（三）衣食住の注意●第五章　靑年者の體育＝（一）戶外運動（二）養生法●第六章　少女の體育＝（一）室內體育（二）戶外體育（三）衣服（四）談話

血達磨鵜飼貞君編
夢判斷
附夢占法
正價金貳拾錢　郵稅四錢

●天成部…… ●建物及住所の部……
●地の部…… ●家具及日用品の部……
●草木の部…… ●文武用具の部……
●禽獸虫魚の部…… ●婦人用具の部……
●人事の部…… ●鬼神仙佛の部……
●飲食物の部…… ●雜の部……
●衣類の部…… ●附錄……

發兌元　東京本町　博文館

發兌元　**家庭の讀み物**　博文館

櫻井鷗村君著
●現代女氣質
▲正價金三十五錢――郵稅四錢

多大の魔力を有し知り易きが如くにして而も大に覺り難きものは女性なり。本書はこれ特殊の眼光を以て婦情及家政の微を穿ち幽を極めんとするもの優に當代の異彩文字たり。女流は之を見て首肯する處あるべく、男性は以て大に學ふ處あるべし。

西田敬止先生著
●育兒と衛生
▲正價金二十五錢――郵稅六錢

能く健全なる小兒を生育し、又家族の健康を保つは、是れ人間第一の幸福の基なり、著者親切に、平易明暸に、其の次第を詳叙し、文字の足らざる處は鮮明美麗の畫を以て之を補ひ、懇篤至らざる所なし。世の文字を解する人々之を讀みて育兒衛生に注意し玉ふべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

遼陽大戰紀念寫眞帖

東京 博文館發行

正價 貳拾錢
郵稅 貳錢

日露戰爭
寫眞畫報臨時增刊
第九卷 第三十六編
十月十五日發行

日露兩國の輸贏利鈍は繋りて遼陽の一戰にありたり。乃ち邦家千歳の紀念にして、當に古今の史上に赫耀炳焉すべき者にあらずや。而して今に於て資料を具備して、後世史氏の採摭に供するにあらずんば、何を以て斯の旋乾轉坤の偉績をして、永く不朽ならしむるを得んや。本館茲に於て空泛なる繪畫と、關繋遠き寫眞畫とを除きて、特派寫眞班の緊切なる撮影數百圖を蒐め、此無前の大戰を活躍現出せしめて、精巧なる五十頁の寫眞版となし、本館特派記者諸氏の實踐目擊せる所と、各方面に從軍せる新聞社特派記者の實視熟記せる所とを採拾して、戰況の眞面目を詳悉せしめ、以て一部の遼陽占領紀念寫眞帖を發行し、永く後世の紀念に供せんと欲す。軍國有志の諸彥必す一本を備ふべきの要あり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界

（明治卅七年十月五日發行 毎月一回五日發行）第四卷第拾參號（明治卅参年拾貳月廿五日 第参種郵便物認可）

花のよふに
美しくなる
王さまも此の
しやぼんを
おつかいなさる
石のよふに固くて
そをして能く落る
鹸やくするなら
此しやぼんに限る

色白くきめをよくする二八水



本品は皮膚に有効なる最新薬を選擇し又香氣は上流社會に專ら流行の「ローズ」「バイオレット」を配合せり

中壜一本 拾五錢



（定價金貳拾錢）

發賣本舗

長瀬富郎商店

東京馬喰町二丁目

（特電話浪花三番）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN